

平成26年度 終了直後調査票（企業）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 □

Q2. 現時点における貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1)}の作製。実用化に向けた課題を把握。
応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2)}の作製。量産化技術の確立。
工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	-基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3 Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」を選択した場合、想定される上市・製品化の時期はいつ頃でしょうか。

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定は立っていない

Q4 Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」「4 上市段階」を選択した場合、社内の研究テーマ名についてご記入ください。

記述欄

Q5. Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」「4 上市段階」を選択した場合、今後の取り組みについて伺います。

<今後新たに取り組む項目> 【複数回答可】

- 1 要素技術の探索 2 生産技術（収率・設備等）の向上
3 開発技術のパッケージ化 4 長期信頼性に関わる実績づくり 5 ユーザー評価
6 技術競争力の強化 7 コスト競争力の強化 8 市場性を見極め
9 既存事業の強化を狙った応用展開
10 既存事業周辺での新製品開発 11 新規事業開発
12 知財の取得 13 法規制への対応 14 戦略的な標準化への取組み
15 事業部門への移管 16 グローバルな展開を進めうる製造・販売体制の構築
17 共同研究先の意向に基づく開発 18 その他

その他記述欄

<開発計画の進め方>

- 1 プロジェクトメンバーでコンソーシアムを作って推進
2 プロジェクトメンバー（大学・公的研究機関）との共同開発を推進
3 プロジェクトメンバー（企業）との共同開発を推進
4 プロジェクトメンバー外の大学・企業と共同開発を推進
5 独自開発を推進

Q6 現段階で、NEDOのサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要 2 不要

<「必要」を選択した場合、その内容はどれですか> 【複数回答可】

- 1 実用化の際の資金助成
2 標準化活動への支援
3 法規制に係る対応支援
4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供

- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他

その他記述欄

【プロジェクトに応募された時期の状況について伺います】

Q7. プロジェクトに参加した目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認）
- 2 技術・ノウハウの獲得
- 3 実用化の可能性の見極め
- 4 終了後5年以内の上市・製品化
- 5 終了後10年以内の上市・製品化
- 6 その他

その他記述欄

Q8. プロジェクト参加の経緯について伺います。

<経営層（技術系役員を除く）の指示によるプロジェクト参加>

- 1 あった
- 2 なかった

<外部(大学、経済産業省、他)からの勧めによるプロジェクト参加>

- 1 あった
- 2 なかった

Q9. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。（各段階の定義はQ2をご参照下さい）

- 1 研究段階（基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階（開発用サンプルの作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階（顧客評価（認定用）サンプルの作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階（カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止（社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断（社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

Q10 貴社の開発・事業に係る戦略における当該プロジェクトの位置付けは、次のうちどちらでしたか。

【複数回答可】

- 1 現有事業の競争力強化（生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他）

2 現有事業周辺（生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能）で会社として新規な市場への参入

3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入

4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

【プロジェクト期間中の活動について伺います】

Q11. 当該プロジェクトに対する、経営層の関与について伺います。

<関与のタイミングは、次のうちどれですか>

1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応

3 開発成果が見え始めてから 4 実用化の可能性が見え始めてから

5 ほとんど関与していない

<関与の内容>

記述欄

Q12. 当該プロジェクトに対する、事業部門（新規事業開発部門含む）の関与について伺います。

<関与のタイミングは、次のうちどれですか>

1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応

3 開発成果が見え始めてから 4 実用化の可能性が見え始めてから

5 ほとんど関与していない

<関与の内容>

記述欄

Q13 当該プロジェクトの成果を生かす製品化・上市の事業化シナリオ検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

6 検討していない

<事業化シナリオの検討内容> 【複数回答可】

1. 企業戦略との整合性 2. 技術の発展性

3. 市場の魅力度のチェック 4. 目標仕様の確定

5. 市場性テストのスケジュール策定 6. 事業トライアルのための製品化レベルの確定

7. 事業開始時の販売先の特定 8. 事業化後の技術レベル向上のスケジュール策定

9. 採算性評価 10. その他

その他の記述欄 □

Q14. コスト目標の設定を行ったタイミング（見直し含む）は次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 設定していない

Q15. リスク検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 検討していない

<リスク検討の内容は何でしたか> 【複数回答可】

- 1 研究開発リスク
- 2 製品リスク（原料等の調達先確保、市場優位性など）
- 3 情報リスク（情報漏洩など）
- 4 自然災害リスク
- 5 カントリーリスク（輸出入先など対象国の政治・法律などの変化）
- 6 財務リスク（為替レートの変化など）
- 7 経営リスク（買収・事業承継など）
- 8 法務リスク（規格・規制変更、関連法令等の改廃など）
- 9 市場動向の変化
- 10 その他

その他の記述欄 □

<実際に発生したリスクは何ですか> 【複数回答可】

- 1 予定していた技術課題の解決が未達成
- 2 予定していた技術獲得が不調
- 3 予想外の課題が発生
- 4 原料調達が困難
- 5 情報漏洩
- 6 自然災害
- 7 カントリーリスク
- 8 為替変動
- 9 財務状況の悪化
- 10 経営方針の転換
- 11 法令、規制の壁
- 12 競合他社の出現
- 13 市場価格の下落
- 14 景気変動
- 15 マーケットの縮小
- 16 ユーザーニーズの変化
- 17 ユーザーニーズが存在しなかった
- 18 NEDO 予算の縮小
- 19 キーパーソンの離脱
- 20 リスクは発生しなかった
- 21 その他

その他の記述欄 □

Q16 調査の状況について伺います。

Q16-1. 競争力のポジショニング調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後
6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄□

<主に、何について調査をしましたか>

記述欄 □

Q16-2. 市場動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後
6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄□

Q16-3. 特許動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後
6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄□

Q16-3. 論文、雑誌、業界紙他による技術動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後
6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄□

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q17. 当該プロジェクトの開始時点及び終了時点における、貴社の本プロジェクトに係る主体はどちらの部門ですか。次のどちらですか。

＜開始時点＞

1 研究開発部門 2 事業部門

＜終了時点＞

1 研究開発部門 2 事業部門

Q18. 当該プロジェクトで設定した目標値に対する達成度は何点になりますか。

1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q19. 実用化（製品化・上市段階）までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度ですか。残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮してお選びください。

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q20. プロジェクト参加時に、下記の項目に対する期待度はどれくらいでしたか。

＜技術課題の克服＞

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

＜コスト課題の克服＞

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

＜他機関との連携による有用技術の獲得（キャッチアップ）＞

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

＜異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果＞

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

＜技術開発・製品開発のスピードアップ＞

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

＜他機関との人的・組織的ネットワークの形成＞

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

＜研究開発リスクの分散・回避＞

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

＜研究開発資金の確保＞

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

＜人材育成（研究者の質的向上）＞

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

＜社内・外でのプレゼンス向上＞

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q21. 上記質問での期待度に対して、以下の項目はどの程度達成されましたか。その要因や内容などについてもお答えください。

Q21-1-1. 技術課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-1-2. 技術課題の克服に寄与した要因

<新規アイデアの貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<メカニズムの解明の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<連携先からのアイデアの貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った） 6 自社単独で実施したため他機関との連携はなかった

<連携先の先端技術の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った） 6 自社単独で実施したため他機関との連携はなかった

<その他の技術課題の克服に寄与した要因について、ご記述下さい>

記述欄

Q21-2-1. コスト課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-2-2. コスト課題の克服に寄与した要因

<キー技術の進展の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<製造プロセスの改良・量産化技術構築の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<新規機能の付与の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<その他のコスト課題の克服に寄与した要因について、ご記述下さい>

記述欄

Q21-3. 他機関との連携による有用技術の獲得（キャッチアップ）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-4. 異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-5-1. 技術開発・製品開発のスピードアップについての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-5-2. 技術開発・製品開発のスピードアップに寄与した要因

<新規アイデアの貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<分析・評価技術・解析技術の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<メカニズムの解明の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<連携先の先端技術の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った） 6 自社単独で実施したため他機関との連携はなかった

<NEDO 加速資金の獲得の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った） 6 NEDO 加速資金は利用していない

<その他のスピードアップに寄与した要因について、ご記述下さい>

記述欄

Q21-6. 他機関との人的・組織的ネットワークの形成についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-7. 研究開発リスクの分散・回避についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-8. 社内における研究開発資金の確保についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-9. 人材育成（研究者の質的向上）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-10-1. 社内・外でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

<実際に得られたメリット>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-10-2. 社内外でのプレゼンス向上に寄与した要因

<技術力の向上の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<プロジェクトを通じたユーザー企業との連携の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った） 6 ユーザー企業との連携はなかった

<プロジェクト参加企業との連携の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った） 6 自社単独で実施したため他機関との連携はなかった

<プロジェクトを通じた学（公的研究機関を含む）との連携の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った） 6 学との連携はなかった

<対外発表（学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表）の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）

- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<その他のプレゼンス向上に寄与した要因について、ご記述下さい>
記述欄 □

Q22. プロジェクト実施期間中に取得できた実験データについて伺います。

Q22-1. 取得できた実験データの量は、通常の企業における研究開発活動と比較するとどの程度でしたか

- 1 非常に多くのデータを取得できた
2 多くのデータを取得できた
3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた
4 少なめのデータしか取得できなかった

Q22-2. 以下のデータ取得目的に対して、データ取得の達成度はどの程度でしたか。

<技術の可能性を探る>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<機能発現に関するメカニズムの解明>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<品質（性能・機能）の向上>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<スケールアップに必要な設計基礎データの取得>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<コスト課題の解決>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q23. 当該プロジェクトで得た成果は、貴社の資源投入にどのような影響を与えましたか。プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答え下さい。

<R&Dの規模（予算や人員）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した
5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅰ（プロジェクトで目指した技術分野）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した
5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅱ（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した

5 縮小した

Q24. 貴社の競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）は、当該プロジェクトへの参加により変化しましたか。プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答え下さい。

<競争力ポジション>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

不明の理由

<世界における現在の競争力ポジション>

- 1 世界で1位 2 世界で2～3位 3 世界で4～10位 4 世界で11位以下
4 不明

不明の理由

<国内における現在の競争力ポジション>

- 1 日本で1位 2 日本で2～3位 3 日本で4～10位 4 日本で11位以下
4 不明

不明の理由

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q25. どのような体制のプロジェクトでしたか。

<プロジェクト体制>

- 1 集中研（特定の場所に複数の実施者が集まって研究開発を実施）
2 分散研（それぞれの場所で、それぞれが研究開発を実施）
3 集中研と分散研の複合型
4 単独で実施（コンソーシアムを組んだプロジェクトではない）
5 体制の全体像は把握していない

<貴社が担った役割> 【複数回答可】

- 1 川上（材料など） 2 川中（部材・部品など） 3 川下（最終製品）
4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など） 5 標準化や知的基盤整備
6 その他

その他記述欄

Q26 最終的な貴社における研究開発の出口は次のうちどれですか。

- 1 プロセス開発 2 システム開発 3 材料開発 4 部材・部品開発
5 機械装置開発 6 分析・評価 7 特に限定していない 8 その他

その他記述欄

Q27. 当該プロジェクト実施期間中に要した研究開発費（自己負担分も含む総額）のうち、NEDO から供給された資金の占めた割合はどの程度でしたか。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q28. 当該プロジェクトにおける、知的財産及び秘密情報等の取扱いについて伺います。

<ルール策定や検討の有無>

1 取扱いに係るルール等があった。（協議による合意、あるいは、リーダー等からの指示のいずれかを問わず）

2 一般的なルールはなく、個別に対応した。

3 規則の必要性すら検討されなかった。

<知的財産等の取り扱い内容> 【複数回答可】

1 バックグラウンド IP（プロジェクトに参加する前から保有していた特許）の取り扱い

2 フォアグラウンド IP（プロジェクトの成果により得られた特許）の取り扱い

3 研究ノートの方法 4 発明（ノウハウも含む）等の報告方法

5 権利者の決定方法 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法

7 秘密保持契約 8 知財規程の整備や知財委員会の設置

9 外部有識者の参加 10 その他

その他記述欄

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q29. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマについて伺います。

Q29-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった（ズレていた）

不適切であった理由

Q29-2. プロジェクト期間中にテーマの見直しは行われましたか

1 見直しを行った 2 見直しの必要はなかった。

3 見直しの必要はあったが、見直しは行わなかった。

Q30. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマの目標値について伺います。

Q30-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由

Q30-2. プロジェクト期間中に目標値の見直しは行われましたか

- 1 見直しを行った 2 見直しの必要はなかった。
3 見直しの必要はあったが、見直しは行わなかった。

Q31. 大学や企業との連携は、貴社における当該プロジェクトの推進に役立ちましたか。

<大学との連携>

- 1 大いに役立った 2 役立った 3 やや役立った 4 役立たなかった
5 大学との連携はなかった

<企業との連携>

- 1 大いに役立った 2 役立った 3 やや役立った 4 役立たなかった
5 他企業との連携はなかった

Q32. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)
2 社内のリーダーやキーパーソン
3 外部有識者 (プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む)
4 NEDO 担当部署 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<参画機関間の意見調整> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)
2 社内のリーダーやキーパーソン
3 外部有識者 (プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む)
4 NEDO 担当部署 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<研究開発の工程管理や推進> 【複数回答可】

- 1 自ら自律的に管理した
2 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー) が管理した
3 社内のリーダーやキーパーソン 4 NEDO 担当者
5 管理法人の担当者 6 進捗管理は行われなかった

<進捗管理の具体的な方法（評価ツール・指標等）があった場合は、以下に具体的な方法をご記述下さい>

記述欄 □

Q33. 協議等の頻度について伺います。

<当該プロジェクトで連携していた他機関との協議>

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

<プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）との協議>

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

<社内の他研究部門との協議>

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

<社内の事業部門との協議>

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

<顧客との協議>

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q34 NEDO 担当部署との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

Q35. NEDO 担当部署との協議について、普段どのような協議をされていましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応
5 各種提出書類に係る対応 6 他機関との利害調整

- 7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で主要な項目）

その他記述欄

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で重要な項目）

その他記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q36. NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」

おかげさまで、6年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 27 年度 終了直後調査票（企業）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 □

Q2. 現時点における貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1)}の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2)}の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進捗性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3 Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」を選択した場合、想定される上市・製品化の時期はいつ頃でしょうか。

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定は立っていない

Q4 Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」「4 上市段階」を選択した場合、社内の研究

テーマ名についてご記入ください。

記述欄

Q5. Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」「4 上市段階」を選択した場合、今後の取り組みについて伺います。

<今後新たにに取り組む項目> 【複数回答可】

- 1 要素技術の探索
- 2 生産技術（収率・エネルギー原単位等）の向上
- 3 開発技術のパッケージ化
- 4 長期信頼性に関わる実績づくり
- 5 ユーザー評価
- 6 技術競争力の強化
- 7 コスト競争力の強化
- 8 市場性の見極め
- 9 既存事業の強化を狙った応用展開
- 10 既存事業周辺での新製品開発
- 11 新規事業開発
- 12 知財の取得
- 13 法規制への対応
- 14 戦略的な標準化への取組み
- 15 事業部門への移管
- 16 グローバルな展開を進めうる製造・販売体制の構築
- 17 共同研究先の意向に基づく開発
- 18 その他

その他記述欄

<今後の進め方>

- 1 プロジェクトメンバーでコンソーシアムを作って推進
- 2 プロジェクトメンバー（大学・公的研究機関）との共同開発を推進
- 3 プロジェクトメンバー（企業）との共同開発を推進
- 4 プロジェクトメンバー外の大学・企業と共同開発を推進
- 5 独自開発を推進

Q6. 当該プロジェクトの開始時点及び終了時点における、貴社の本プロジェクトに係る主体はどちらの部門ですか。

<開始時点>

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

<終了時点>

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

Q7 現段階で、NEDO のサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要
- 2 不要

<「必要」を選択した場合、その内容はどれですか> 【複数回答可】

- 1 実用化（製品化・上市段階）への資金助成
- 2 標準化活動への支援
- 3 法規制に係る対応支援
- 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供

- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他

その他記述欄

【プロジェクトに応募された時期の状況について伺います】

Q8. プロジェクトに参加した目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認）
- 2 技術・ノウハウの獲得
- 3 実用化の可能性の見極め
- 4 終了後5年以内の上市・製品化
- 5 終了後10年以内の上市・製品化
- 6 その他

その他記述欄

Q9. プロジェクトにおいて貴社が担った役割はどれですか【複数回答可】

- 1 川上（材料など）
- 2 川中（部材・部品など）
- 3 川下（最終製品）
- 4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など）
- 5 標準化や知的基盤整備
- 6 その他

その他記述欄

Q10. 最終的な貴社における研究開発の出口は次のうちどれですか。

- 1 プロセス開発
- 2 システム開発
- 3 材料開発
- 4 部材・部品開発
- 5 機械装置開発
- 6 分析・評価
- 7 特に限定していない
- 8 その他

その他記述欄

Q11. プロジェクト参加の経緯は、次のうちどれでしたか。

- 1 経営層の指示（トップダウン）によりプロジェクトに参加した
- 2 外部（大学、経済産業省、他）からの勧めによりプロジェクトに参加した
- 3 研究者からの提案（ボトムアップ）によりプロジェクトに参加した
- 4 その他

その他記述欄

Q12. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。（各段階の定義はQ2をご参照下さい）

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプルの作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプルの作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）

- 4 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。)
- 5 中止 (社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。)
- 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。)
- 7 未着手

Q13 貴社の開発・事業に係る戦略における当該プロジェクトの位置付けは、次のうちどちらでしたか。

【複数回答可】

- 1 現有事業の競争力強化(生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他)
- 2 現有事業周辺(生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能)で会社として新規な市場への参入
- 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入
- 4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

Q14 当該プロジェクトに参加された際の技術シーズは、どのように開発されたものですか 【複数回答可】

- 1. 自社費用にて開発した
- 2. 過去の NEDO プロジェクトで開発した
- 3. 文部科学省プロジェクトにて開発した
- 4. 大学・研究機関等の共同研究費にて開発した
- 5. 当該 NEDO プロジェクト実施期間中に初めて開発した
- 6. その他

その他記述欄

【プロジェクト期間中の活動について伺います】

Q15. 当該プロジェクト実施期間中に要した研究開発費(自己負担分も含む総額)のうち、NEDO から供給された資金の占める割合はどの程度でしたか。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q16. 当該プロジェクトに対する、関与のタイミングについて伺います。

<経営層の関与>

- 1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応 3 開発成果が見え始めてから
- 4 実用化の可能性が見え始めてから 5 ほとんど関与していない

<事業部門(新規事業開発部門含む)の関与>

- 1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応 3 開発成果が見え始めてから
- 4 実用化の可能性が見え始めてから 5 ほとんど関与していない

Q17. 当該プロジェクトの成果を生かす製品化・上市の事業化シナリオ検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

<事業化シナリオの検討内容> 【複数回答可】

- 1 企業戦略との整合性 2 技術の発展性 3 市場の魅力度のチェック 4 目標仕様の確定
5 市場性テストのスケジュール策定 6. 事業トライアルのための製品化レベルの確定
7 事業開始時の販売先の特定 8 事業化後の技術レベル向上のスケジュール策定
9 採算性評価 10 その他

その他の記述欄

Q18. コスト目標の設定を行ったタイミング（見直し含む）は次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 設定していない

Q19. リスク検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

<リスク検討の内容は何でしたか> 【複数回答可】

- 1 研究開発リスク 2 製品リスク（原料等の調達先確保、市場優位性など）
3 自然災害リスク 4 カントリーリスク（輸出入先など対象国の政治・法律などの変化）
7 市場動向の変化 8 その他

その他の記述欄

<実際に発生したリスクは何ですか> 【複数回答可】

- 1 予定していた技術課題の解決が未達成 2 他機関からの技術獲得が不調
3 予想外の課題が発生 4 原料調達が困難 5 自然災害 6 カントリーリスク
7 経営方針の転換 8 法令、規制の壁 9 競合他社の出現 10 市場価格の下落
11 景気変動 12 対象市場規模の縮小 13 ユーザーニーズの変化
14 ユーザーニーズが存在しなかった 15 キーパーソンの離脱
16 リスクは発生しなかった 17 その他

その他の記述欄

Q20 調査の状況について伺います。

Q20-1. 競争力のポジショニング調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄

<主に、何について調査をしましたか>

記述欄

Q20-2. 市場動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄

Q20-3. 特許動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄

Q20-4. 論文、雑誌、業界紙他による技術動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q21. 当該プロジェクトで設定した目標値に対する達成度は何点になりますか。

- 1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q22. 実用化（製品化・上市段階）までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度ですか。

残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮してお選びください。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q23. プロジェクト参加時に、下記の項目に対する期待度はどれくらいでしたか。

	100%～	80%～	60%～	40%～	20%～
<技術課題の克服>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<コスト課題の克服>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との連携による有用技術の獲得(キャッチアップ)>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<異分野、異業種、他機関との連携/融合によるシナジー効果>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<技術開発・製品開発のスピードアップ>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との人的・組織的ネットワークの形成>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発リスクの分散・回避>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発資金の確保>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<人材育成（研究者の質的向上）>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内・外でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q24. 上記質問での期待度に対して、以下の項目はどの程度達成されましたか。その要因や内容などについてもお答えください。

Q24-1-1. 技術課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q24-1-2. 技術課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 メカニズムの解明 3 連携先からのアイデア
4 連携先の先端技術 5 新規設備の導入 6 その他

その他記述欄□

Q24-2-1. コスト課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q24-2-2. コスト課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 キー技術の進展 2 製造プロセスの改良・変更 3 量産化技術の構築

4 新規機能の付与 5 市場の拡大 6 連携先からの技術提供 7 その他

その他記述欄□

Q24-3. 他機関との連携による有用技術の獲得（キャッチアップ）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q24-4. 異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q24-5-1. 技術開発・製品開発のスピードアップについての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q24-5-2. 技術開発・製品開発のスピードアップに寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 分析・評価技術・解析技術 3 メカニズムの解明
4 連携先の先端技術 5 NEDO加速資金の獲得 6 新規設備の導入 7 その他

その他記述欄□

Q24-6. 他機関との人的・組織的ネットワークの形成についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q24-7. 研究開発リスクの分散・回避についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q24-8. 社内における研究開発資金の確保についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q24-9. 人材育成（研究者の質的向上）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q24-10-1. 社内・外でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q24-10-2. 社内外でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上
- 2 プロジェクト参加企業との連携
- 3 プロジェクトを通じた学 (公的研究機関を含む) との連携
- 4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
- 5 対外発表 (学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表)
- 6 その他

その他記述欄□

Q25. プロジェクト実施期間中に取得できた実験データについて伺います。

Q25-1. プロジェクト参加時には、どのような種類の実験データ取得を目的としましたか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る
- 2 機能発現に関するメカニズムの解明
- 3 品質 (性能・機能) の向上
- 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
- 5 コスト課題の解決
- 6 安全性の検証
- 7 再現性の検証
- 8 その他

その他記述欄□

Q25-2. 実際に取得できた実験データの量は、通常の企業における研究開発活動と比較するとどの程度でしたか

- 1 非常に多くのデータを取得できた
- 2 多くのデータを取得できた
- 3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた
- 4 少なめのデータしか取得できなかった

Q25-3. 上記で回答頂いた、実際に取得できた実験データの種類は次のうちどれですか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る
- 2 機能発現に関するメカニズムの解明
- 3 品質 (性能・機能) の向上
- 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
5. コスト課題の解決
6. 安全性の検証
7. 再現性の検証
8. その他

その他記述欄 □

Q25-4. プロジェクトに参加している他機関との間でやり取りされた情報量 (実験データ・結果) はどの程度でしたか

- 1 非常に多くの情報 (実験データ・結果) をやり取りした
- 2 多くの情報 (実験データ・結果) をやり取りした

- 3 情報（実験データ・結果）のやり取りはあったが、情報量は少なかった
- 4 単独で情報（実験データ・結果）を取得した

Q26. 当該プロジェクトで得た成果は、貴社の資源投入にどのような影響を与えましたか。プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答え下さい。

<R&Dの規模（予算や人員）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－I（プロジェクトで目指した技術分野）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－II（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

Q27. 貴社の競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）は、当該プロジェクトへの参加により変化しましたか。プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答え下さい。

<競争力ポジション>

- 1 上がった
- 2 変わらない
- 3 下がった
- 4 不明

不明の理由

<世界における現在の競争力ポジション>

- 1 世界で1位
- 2 世界で2～3位
- 3 世界で4～10位
- 4 世界で11位以下
- 5 不明

不明の理由

<国内における現在の競争力ポジション>

- 1 日本で1位
- 2 日本で2～3位
- 3 日本で4～10位
- 4 日本で11位以下
- 5 不明

不明の理由

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q28. 当該プロジェクトにおける、知的財産及び秘密情報等の取扱いについて伺います。

<ルール策定や検討の有無>

- 1 取扱いに係るルール等があった。（協議による合意、あるいは、リーダー等からの指示のいずれかを問わず）
- 2 一般的なルールはなく、個別に対応した。

3 規則の必要性すら検討されなかった。

<知的財産等の取り扱い内容> 【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP (プロジェクトに参加する前から保有していた特許) の取り扱い
- 2 フォアグラウンド IP (プロジェクトの成果により得られた特許) の取り扱い
- 3 研究ノートの方法 4 発明 (ノウハウも含む) 等の報告方法 5 権利者の決定方法
- 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法 7 秘密保持契約
- 8 知財規程の整備や知財委員会の設置 9 外部有識者の参加 10 その他

その他記述欄

<検討したタイミング (見直し含む) > 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q29. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマについて伺います。

Q29-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由

Q29-2. プロジェクト期間中にテーマの見直しは行われましたか

- 1 見直しを行った 2 見直しの必要はなかった
- 3 見直しの必要はあったが、見直しは行わなかった

Q30. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマの目標値について伺います。

Q30-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由

Q30-2. プロジェクト期間中に目標値の見直しは行われましたか

- 1 見直しを行った 2 見直しの必要はなかった
- 3 見直しの必要はあったが、見直しは行わなかった

Q31. 大学や企業との連携は、貴社における当該プロジェクトの推進に役立ちましたか。

<大学との連携>

- 1 大いに役立った 2 役立った 3 やや役立った 4 役立たなかった
- 5 大学との連携はなかった

<企業との連携>

- 1 大いに役立った 2 役立った 3 やや役立った 4 役立たなかった

5 他企業との連携はなかった

Q32. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
- 2 社内のリーダーやキーパーソン
- 3 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
- 4 NEDO 担当部署 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<参画機関間の意見調整> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
- 2 社内のリーダーやキーパーソン
- 3 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
- 4 NEDO 担当部署 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<研究開発の工程管理や推進> 【複数回答可】

- 1 自ら自律的に管理した
- 2 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）が管理した
- 3 社内のリーダーやキーパーソン 4 NEDO 担当者
- 5 管理法人の担当者 6 進捗管理は行われなかった

<進捗管理の具体的な方法（評価ツール・指標等）があった場合は、以下に具体的な方法をご記述下さい>

記述欄 □

Q33. 協議等の頻度について伺います。

	週1回以上	月1回以上	3ヶ月に1回以上	半年に1回以上	1年に1回以上	ほとんど無し
<当該プロジェクトで連携していた他機関>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の他研究部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の事業部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<顧客>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q34 プロジェクト実施期間中の所属するプロジェクトグループの士気（情熱・意欲・積極性など）はどの程度でしたか

- 1 非常に士気が高かった 2 士気は高かった 3 やや士気は低かった 4 士気は低かった

<上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、どのような創発効果が得られたかお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 新たな研究課題、活動につながった

- 2 外部の研究集会への自発的な参加が増えた
- 3 文献などの情報収集活動が増えた
- 4 グループ内提案が増えた
- 5 その他

その他記述欄

<上記で「3 やや士気は低かった」「4 士気は低かった」を選択した方は、その理由についてご記述下さい>

記述欄

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q35. NEDO 担当部署との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

Q36. NEDO 担当部署との協議について、普段どのような協議をされていましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> **【複数回答可】**

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 13 市場に関するアドバイス
- 14 宣伝・広報
- 15 その他（上記以外で主要な項目）

その他記述欄

<やって欲しかったこと> **【複数回答可】**

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 13 市場に関するアドバイス
- 14 宣伝・広報
- 15 その他（上記以外で重要な項目）

その他記述欄

<上記「やって欲しかったこと」で、「13 市場に関するアドバイス」を選択された方は、具体的な内容をご記載下さい。>

その他記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q37. NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 -NEDO プロジェクト実用化ドキュメント-

おかげさまで、7年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 28 年度 終了直後調査票（企業）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した全ての知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 _____

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。【必須】

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル*1) の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル*2) の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3 Q2 で「1 研究段階」「2 開発段階」を選択した場合、想定される上市・製品化の時期はいつ頃でしょうか。

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定は立っていない

Q4 Q2 で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」「4 上市段階」を選択した場合、現在の社内での研究テーマ名についてご記入ください。

記述欄 _____

Q5. Q2 で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」「4 上市段階」を選択した場合、今後の取り組みについて伺います。

<今後新たに取り組む項目> 【複数回答可】

- 1 要素技術の探索 2 生産技術(収率・エネルギー原単位等)の向上 3 開発技術のパッケージ化

- 4 長期信頼性に関わる実績づくり
- 5 ユーザー評価
- 6 技術競争力の強化
- 7 コスト競争力の強化
- 8 市場性を見極め
- 9 既存事業の強化を狙った応用展開
- 10 既存事業周辺での新製品開発
- 11 新規事業開発
- 12 知財の取得
- 13 法規制への対応
- 14 戦略的な標準化への取組み
- 15 事業部門への移管
- 16 グローバルな展開を進めうる製造・販売体制の構築
- 17 共同研究先の意向に基づく開発
- 18 その他 _____

<今後の進め方>

- 1 プロジェクトメンバーでコンソーシアムを作って推進
- 2 プロジェクトメンバー（大学・公的研究機関）との共同開発を推進
- 3 プロジェクトメンバー（企業）との共同開発を推進
- 4 プロジェクトメンバー外の大学・企業と共同開発を推進
- 5 独自開発を推進

Q6. 当該プロジェクトの開始時点及び終了時点における、貴社の本プロジェクトに係る主体はどちらの部門ですか。

<開始時点>

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

<終了時点>

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

Q7. 研究開発データ(論文や特許として公開されない実験データやノウハウの記録)についてお伺いします。

<保管状況>

- 1 すべて保管している
- 2 一部保管している
- 3 破棄した

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管方法についてご教示ください。>

- 1 全社的なサーバーに保管され、自社内で広く活用できる仕組みとなっている
- 2 部門ごとのサーバーに保管され、自部門内で活用できる仕組みとなっている
- 3 専用サーバーに保管され、特定の者のみが活用できる仕組みとなっている
- 4 研究者(技術者)が個人で保管している
- 5 詳細は把握していない
- 6 その他

<その他記述欄>

<上記で「2 一部保管している」「3 破棄した」と回答した方に伺います。破棄理由についてご教示ください。>

- 1 契約で、終了時に委託元に全部、または、一部譲渡することになっていた
- 2 データ量が多かったため、重要なデータのみを残した
- 3 重要なデータがないため破棄した
- 4 活用されないまま一定期間を経過したため、破棄した。

- 5 自社内に保管方法に関するルールが無く、一部しか保管していない、または、全部部破棄した
- 6 適助な引継ぎがなされなかったため、所在が不明である。
- 7 その他

<その他記述欄> □

Q8. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。

- 1 着手されなかった
- 2 人員や設備投資が縮小されていた
- 3 予定通りに実施されていた

Q9 現段階で、NEDO のサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要
- 2 不要

<「必要」を選択した場合、その内容はどれですか> 【複数回答可】

- 1 実用化（製品化・上市段階）への資金助成
- 2 標準化活動への支援
- 3 法規制に係る対応支援
- 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他 _____

【プロジェクトに応募された時期の状況について伺います】

Q10. プロジェクトに参加した目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認）
- 2 技術・ノウハウの獲得
- 3 実用化の可能性の見極め
- 4 終了後5年以内の上市・製品化
- 5 終了後10年以内の上市・製品化
- 6 その他 _____

Q11. プロジェクトにおいて貴社が担った役割はどれですか【複数回答可】

- 1 川上（材料など）
- 2 川中（部材・部品など）
- 3 川下（最終製品）
- 4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など）
- 5 標準化や知的基盤整備
- 6 その他 _____

Q12. 最終的な貴社における研究開発の出口は次のうちどれですか。

- 1 プロセス開発
- 2 システム開発
- 3 材料開発
- 4 部材・部品開発
- 5 機械装置開発
- 6 分析・評価
- 7 特に限定していない
- 8 その他 _____

Q13. プロジェクト参加の経緯は、次のうちどれでしたか。

- 1 経営層の指示（トップダウン）によりプロジェクトに参加した
- 2 外部（大学、経済産業省、他）からの勧めによりプロジェクトに参加した
- 3 研究者からの提案（ボトムアップ）によりプロジェクトに参加した
- 4 その他 _____

Q14. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。（各段階の定義はQ2をご参照下さい）

- 1 研究段階 (基礎的・要素的な基礎探索段階。)
- 2 開発段階 (開発用サンプルの作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。)
- 3 製品化段階 (顧客評価(認定用)サンプルの作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。)
- 4 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。)
- 5 中止 (社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。)
- 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。)
- 7 未着手

Q15 貴社の開発・事業に係る戦略における当該プロジェクトの位置付けは、次のうちどちらでしたか。

【複数回答可】

- 1 現有事業の競争力強化(生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他)
- 1 現有事業周辺(生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能)で会社として新規な市場への参入
- 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入
- 4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

Q16 当該プロジェクトに参加された際の技術シーズは、どのように開発されたものですか。【複数回答可】

- 1 自社費用にて開発した
- 2 過去のNEDOプロジェクトで開発した
- 3 文部科学省プロジェクトにて開発した
- 4 大学・研究機関等の共同研究費にて開発した
- 5 当該NEDOプロジェクト実施期間中に初めて開発した
- 6 その他 _____

Q17. プロジェクト参加時に、下記の項目に対する期待度はどれくらいでしたか。

	100%～	80%～	60%～	40%～	20%～
<技術課題の克服>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<コスト課題の克服>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との連携による有用技術の獲得(キャッチアップ)>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<異分野、異業種、他機関との連携/融合によるシナジー効果>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<技術開発・製品開発のスピードアップ>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との人的・組織的ネットワークの形成>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発リスクの分散・回避>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発資金の確保>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<人材育成(研究者の質的向上)>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社外でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【プロジェクト期間中の活動について伺います】

Q18 当該プロジェクト実施期間中に要した研究開発費(自己負担分も含む総額)のうち、NEDOから供給された資金の占める割合はどの程度でしたか。

- 1 100%～
- 2 80%～
- 3 60%～
- 4 40%～
- 5 20%～

Q19 当該プロジェクトに対する、関与のタイミングについて伺います。

<経営層の関与>

- 1 提案時から密接に対応
- 2 採択直後から対応
- 3 開発成果が見え始めてから
- 4 実用化の可能性が見え始めてから
- 5 ほとんど関与していない

<事業部門（新規事業開発部門含む）の関与>

- 1 提案時から密接に対応
- 2 採択直後から対応
- 3 開発成果が見え始めてから
- 4 実用化の可能性が見え始めてから
- 5 ほとんど関与していない

Q20 当該プロジェクトの成果を生かす製品化・上市の事業化シナリオ検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）>【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 検討していない

<事業化シナリオの検討内容>【複数回答可】

- 1 企業戦略との整合性
- 2 技術の発展性
- 3 市場の魅力度のチェック
- 4 目標仕様の確定
- 5 市場性テストのスケジュール策定
- 6 事業トライアルのための製品化レベルの確定
- 7 事業開始時の販売先の特定
- 8 事業化後の技術レベル向上のスケジュール策定
- 9 採算性評価
- 10 その他 _____

Q21. コスト目標の設定を行ったタイミング（見直し含む）は次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 検討していない

<上記で「6 検討していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

Q22 リスク検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）>【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 検討していない

<リスク検討の内容は何でしたか>【複数回答可】

- 1 研究開発リスク
- 2 製品リスク（原料等の調達先確保、市場優位性など）
- 3 自然災害リスク
- 4 カントリーリスク（輸出入先など対象国の政治・法律などの変化）
- 5 経営リスク（買収・事業承継など）
- 6 法務リスク（規格・規制変更、関連法令等の改廃など）
- 7 市場動向の変化
- 8 その他 _____

<実際に発生したリスクは何ですか>【複数回答可】

- 1 予定していた技術課題の解決が未達成
- 2 他機関からの技術獲得が不調
- 3 予想外の課題が発生
- 4 原料調達が困難
- 5 自然災害
- 6 カントリーリスク
- 7 経営方針の転換
- 8 法令、規制の壁
- 9 競合他社の出現
- 10 市場価格の下落
- 11 景気変動
- 12 対象市場規模の縮小
- 13 ユーザーニーズの変化
- 14 ユーザーニーズが存在しなかった
- 15 キーパーソンの離脱
- 16 リスクは発生しなかった
- 17 その他 _____

Q23 調査の状況について伺います。

Q23-1 競争力のポジショニング調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）>【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

Q23-2 市場動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）>【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

Q23-3 特許動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）>【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

Q23-4 論文、雑誌、業界紙他による技術動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）>【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q24. 当該プロジェクトで設定した目標値に対する達成度は何点になりますか。

- 1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q25. 実用化（製品化・上市段階）までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度ですか。

残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮してお選びください。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q26. 下記項目の達成度を伺います。

Q26-1-1. 技術課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-1-2. 技術課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 メカニズムの解明 3 連携先からのアイデア
4 連携先の先端技術 5 新規設備の導入 6 その他 _____

Q26-2-1. コスト課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）

3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-2-2. コスト課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 キー技術の進展 2 製造プロセスの改良・変更 3 量産化技術の構築
4 新規機能の付与 5 市場の拡大 6 連携先からの技術提供 7 その他 _____

Q26-3. 他機関との連携による有用技術の獲得（キャッチアップ）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-4. 異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-5-1. 技術開発・製品開発のスピードアップについての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-5-2. 技術開発・製品開発のスピードアップに寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 分析・評価技術・解析技術 3 メカニズムの解明
4 連携先の先端技術 5 NEDO加速資金の獲得 6 新規設備の導入 7 その他 _____

Q26-6. 他機関との人的・組織的ネットワークの形成についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-7. 研究開発リスクの分散・回避についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-8. 社内における研究開発資金の確保についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-9. 人材育成（研究者の質的向上）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-10-1. 社内でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）

- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-10-2. 社内でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上
- 2 プロジェクト参加企業との連携
- 3 プロジェクトを通じた学（公的研究機関を含む）との連携
- 4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
- 5 対外発表（学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表）
- 6 その他 _____

Q26-11-1. 社外でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-11-2. 社外でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上
- 2 プロジェクト参加企業との連携
- 3 プロジェクトを通じた学（公的研究機関を含む）との連携
- 4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
- 5 対外発表（学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表）
- 6 その他 _____

Q27. プロジェクト実施期間中に取得できた実験データについて伺います。

Q27-1. プロジェクトではどのような種類の実験データ取得を目的としましたか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る 2 機能発現に関するメカニズムの解明
3 品質（性能・機能）の向上 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
5 コスト課題の解決 6 安全性の検証 7 再現性の検証 8 その他 _____

Q27-2. 実際に取得できた実験データの量は、通常の企業における研究開発活動と比較するとどの程度でしたか

- 1 非常に多くのデータを取得できた 2 多くのデータを取得できた
3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた 4 少なめのデータしか取得できなかった

Q27-3. 上記で回答頂いた、実際に取得できた実験データの種類は次のうちどれですか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る 2 機能発現に関するメカニズムの解明
3 品質（性能・機能）の向上 4 スケールアップに必要な設計基礎データ 5 コスト課題の解決
6 安全性の検証 7 再現性の検証 8 その他 _____

Q27-4. プロジェクトに参加している他機関との間でやり取りされた情報量（実験データ・結果）はどの程度でしたか

- 1 非常に多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした

- 2 多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした
- 3 情報（実験データ・結果）のやり取りはあったが、情報量は少なかった
- 4 単独で情報（実験データ・結果）を取得した

Q28. 下記項目について、プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答え下さい。

<R&Dの規模（予算や人員）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅰ（プロジェクトで目指した技術分野）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅱ（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった
- 2 変わらない
- 3 下がった
- 4 不明

不明の理由 _____

<世界における現在の競争力ポジション>

- 1 世界で1位
- 2 世界で2～3位
- 3 世界で4～10位
- 4 世界で11位以下
- 5 不明

不明の理由 _____

<国内における現在の競争力ポジション>

- 1 日本で1位
- 2 日本で2～3位
- 3 日本で4～10位
- 4 日本で11位以下
- 5 不明

不明の理由 _____

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q29. 当該プロジェクトにおける、知的財産及び秘密情報等の取扱いについて伺います。

<ルール策定や検討の有無>

- 1 取扱いに係るルール等があった。（協議による合意、あるいは、リーダー等からの指示のいずれかを問わず）
- 2 一般的なルールはなく、個別に対応した。
- 3 規則の必要性すら検討されなかった。

<知的財産等の取り扱い内容> 【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP（プロジェクトに参加する前から保有していた特許）の取り扱い
- 2 フォアグラウンド IP（プロジェクトの成果により得られた特許）の取り扱い
- 3 研究ノートの管理方法
- 4 発明（ノウハウも含む）等の報告方法
- 5 権利者の決定方法
- 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法
- 7 秘密保持契約
- 8 知財規程の整備や知財委員会の設置
- 9 外部有識者の参加
- 10 その他 _____

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後

Q30. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマについて伺います。

Q30-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった
- 2 適切であった
- 3 不適切であった（ズレていた）

不適切であった理由 _____

Q30-2. プロジェクト期間中にテーマの見直しを行ったタイミングは次のうちどれですか。

- 1 前半 2 中盤 3 後半 4 見直しは行っていない

Q31. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマの目標値について伺います。

Q31-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由 _____

Q31-2. プロジェクト期間中に目標値の見直しを行ったタイミングは次のうちどれですか。

- 1 前半 2 中盤 3 後半 4 見直しは行っていない

Q32. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)
2 社内のリーダーやキーパーソン 3 外部有識者 (プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む)
4 NEDO 担当部署 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<参画機関間の意見調整> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)
2 社内のリーダーやキーパーソン 3 外部有識者 (プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む)
4 NEDO 担当部署 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<研究開発の工程管理や推進> 【複数回答可】

- 1 自ら自律的に管理した 2 プロジェクトリーダー(含むサブリーダー、テーマリーダー)が管理した
3 社内のリーダーやキーパーソン 4 NEDO 担当者
5 管理法人の担当者 6 進捗管理は行われなかった

<進捗管理の具体的な方法(評価ツール・指標等)があった場合は、以下に具体的な方法をご記述下さい>
記述欄 _____

Q33. 協議等の頻度について伺います。

	週1回以上	月1回以上	3ヶ月に1回以上	半年に1回以上	1年に1回以上	ほとんど無し
<プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の他研究部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<顧客>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の事業部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<経営層>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q34 プロジェクト実施期間中の所属するプロジェクトグループの士気(情熱・意欲・積極性など)はどの程度でしたか

- 1 非常に士気が高かった 2 士気は高かった 3 やや士気は低かった 4 士気は低かった

<上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、その要因について当てはまるものをお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 プロジェクト開始前から既知の関係であったため
- 2 各研究員の目的意識が明確であったため
- 3 プロジェクト（グループ）リーダーによる働きかけ
- 4 NEDO 担当者による働きかけ
- 5 成果が出てきたため
- 6 外部（委員会、プレス発表等）からの評価
- 7 その他 _____

<上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、どのような創発効果が得られたかお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 新たな研究課題、活動につながった
- 2 外部の研究集会への自発的な参加が増えた
- 3 文献などの情報収集活動が増えた
- 4 グループ内提案が増えた
- 5 その他 _____

<上記で「3 やや士気は低かった」「4 士気は低かった」を選択した方は、その理由についてご記述下さい>

記述欄 _____

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q35. NEDO 担当部署との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

Q36. NEDO 担当部署との協議について、普段どのような協議をされていましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 13 市場に関するアドバイス
- 14 宣伝・広報
- 15 その他（上記以外で主要な項目） _____

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 13 市場に関するアドバイス
- 14 宣伝・広報
- 15 その他（上記以外で重要な項目） _____

<上記「やって欲しかったこと」で、「13 市場に関するアドバイス」を選択された方は、具体的な内容をご記載下さい。>

【NEDO への要望について伺います】

Q37. NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」

おかげさまで、8年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 29 年度 終了直後調査票（企業）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した全ての知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）のうち全てを三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 _____

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。【必須】

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル*1) の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル*2) の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われぬ。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3 Q2 で「1 研究段階」「2 開発段階」を選択した場合、想定される上市・製品化の時期はいつ頃でしょうか。

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定は立っていない

Q4 Q2 で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」「4 上市段階」を選択した場合、現在の社内での研究テーマ名についてご記入ください。

記述欄 _____

Q5. Q2 で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」「4 上市段階」を選択した場合、現在の取り組みについて伺います。

<新たに取り組んでいる項目> 【複数回答可】

- 1 要素技術の探索
- 2 生産技術(収率・エネルギー原単位等)の向上
- 3 開発技術のパッケージ化
- 4 長期信頼性に関わる実績づくり
- 5 ユーザー評価
- 6 技術競争力の強化
- 7 コスト競争力の強化
- 8 市場性を見極め
- 9 既存事業の強化を狙った応用展開
- 10 既存事業周辺での新製品開発
- 11 新規事業開発
- 12 知財の取得
- 13 法規制への対応
- 14 戦略的な標準化への取組み
- 15 事業部門への移管
- 16 グローバルな展開を進めうる製造・販売体制の構築
- 17 共同研究先の意向に基づく開発
- 18 その他 _____

<開発体制> 【複数回答可】

- 1 研究部門を主体とした開発
- 2 事業部門を主体とした開発
- 3 社内に当該研究開発に対応する新たなプロジェクトチームを設置して推進
- 4 社内に当該研究開発に対応する新たな部署を設置して推進
- 5 社内ベンチャーを創出し推進
- 6 他社との合弁会社を設立して推進
- 7 NEDO プロジェクトメンバー（大学・公的研究機関）との共同開発を推進
- 8 NEDO プロジェクトメンバー（企業）との共同開発を推進
- 9 NEDO プロジェクトメンバー外の企業・大学・公的研究機関と共同開発を推進
- 10 海外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 11 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進
- 12 既設のコンソーシアムに参加して推進

上記で、「11 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進」「12 既設のコンソーシアムに参加して推進」を選択した場合、コンソーシアムの名称をご記入ください。

記述欄 _____

<上記、「開発体制」で推進するにあたり、貴社が拠出もしくは外部から獲得した資金及び人員数について概数でご回答ください。>

資金額記述欄（例：〇百万円） _____

人員数記述欄（例：〇名） _____

Q6. 当該プロジェクトの開始時点及び終了時点における、貴社の本プロジェクトに係る主体はどちらの部門ですか。最もあてはまるものをご回答ください。

<開始時点>

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

<終了時点>

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

Q7. 研究開発データ(論文や特許として公開されない実験データやノウハウの記録)についてお伺いします。

<保管状況>

- 1 すべて保管している
- 2 一部保管している
- 3 破棄した

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管目的についてご教示ください。> 【複数回答可】

- 1 事業承継、譲渡、売却を想定して保管
- 2 他機関との共同研究で利用するために保管
- 3 ユーザーに開示するために保管
- 4 自社横断的に蓄積・分析する（次のアイデア発掘等）ために保管
- 5 自社内の別部門で利用するために保管
- 6 論文や特許の直接のエビデンスではないが、関連するため保管
- 7 研究を継続するために保管
- 8 目的・用途はないが保管

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管方法についてご教示ください。>

- 1 全社的なサーバーに保管され、自社内で広く活用できる仕組みとなっている
- 2 部門ごとのサーバーに保管され、自部門内で活用できる仕組みとなっている
- 3 専用サーバーに保管され、特定の者のみが活用できる仕組みとなっている
- 4 研究者(技術者)が個人で保管している
- 5 詳細は把握していない

<上記で保管されたデータが社内で活用された事例があれば具体的にご記入下さい。>

記述欄

<上記で「2 一部保管している」「3 破棄した」と回答した方に伺います。破棄理由についてご教示ください。>

- 1 契約で、終了時に委託元に全部、または、一部譲渡することになっていた
- 2 データ量が多かったため、重要なデータのみを残した
- 3 重要なデータがないため破棄した
- 4 活用されないまま一定期間を経過したため、破棄した。
- 5 自社内に保管方法に関するルールが無く、一部しか保管していない、または、全部破棄した
- 6 適助な引継ぎがなされなかったため、所在が不明である。
- 7 その他

<その他記述欄>

Q8. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。

- 1 着手されなかった
- 2 中止・中断されていた
- 3 3年以上遅れて着手されていた
- 4 1年～2年程度遅れて着手されていた
- 5 人員や設備投資が縮小されていた
- 6 NEDO 以外の外部研究開発資金で実施されていた
- 7 予定通りに実施されていた

Q9 現段階で、NEDO のサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要 2 不要

<「必要」を選択した場合、その内容はどれですか> 【複数回答可】

- 1 実用化（製品化・上市段階）への資金助成 2 標準化活動への支援
3 法規制に係る対応支援 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
5 マスコミを活用した広報活動支援 6 技術課題克服の支援
7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
9 その他 _____

【プロジェクトに応募された時期の状況について伺います】

Q10. プロジェクトに参加した主たる目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認） 2 技術・ノウハウの獲得 3 実用化の可能性の見極め
4 終了後 10 年以内の上市・製品化 5 終了後 5 年以内の上市・製品化 6 その他 _____

Q11. プロジェクトにおいて貴社が担った役割はどれですか 【複数回答可】

- 1 川上（材料など） 2 川中（部材・部品など） 3 川下（最終製品）
4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など） 5 標準化や知的基盤整備
6 その他 _____

その他記述欄

Q12. 最終的な貴社における研究開発の出口は次のうちどれですか。

- 1 プロセス開発 2 システム開発 3 材料開発 4 部材・部品開発
5 機械装置開発 6 分析・評価 7 特に限定していない 8 その他 _____

その他記述欄

Q13. プロジェクト参加の経緯として最もよく当てはまるものは、次のうちどれでしたか。

- 1 経営層の指示（トップダウン）によりプロジェクトに参加した
2 外部（大学、経済産業省、他）からの勧めによりプロジェクトに参加した
3 研究者からの提案（ボトムアップ）によりプロジェクトに参加した

Q14. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。（各段階の定義は Q2 をご参照下さい）

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
2 開発段階 （開発用サンプルの作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプルの作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）

- 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。)
- 7 未着手

Q15 貴社の開発・事業に係る戦略における当該プロジェクトの位置付けは、次のうちどちらでしたか。

< 貴社事業との関係 >

- 1 現有事業の延長 (生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他)
- 2 現有事業の周辺 (生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能) で会社として新規な市場への参入
- 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入
- 4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

< 貴社戦略 (経営戦略、事業戦略) との関係 >

- 1 貴社の戦略上、不可欠と判断された技術開発
- 2 貴社の戦略上、重要と判断された技術開発
- 3 貴社の戦略上、特に重要とは判断されていなかった技術開発
- 4 貴社の戦略上、ほとんど注目されていなかった技術開発
- 5 貴社の戦略上、不必要と判断されていた技術開発

Q16 貴社から NEDO プロジェクトに参加した研究員は、社内でどのように選出されましたか。【複数回答可】

- 1 経営層による指名
- 2 事業部門による指名
- 3 研究部門長による指名
- 4 研究リーダーによる指名
- 5 社内公募などに基づく自主的参加
- 6 社内の開発チームがそのまま参加したため特に選出はない
- 7 その他

その他記述欄 _____

Q17 当該プロジェクトに参加された際の技術シーズは、どのように開発されたものですか。【複数回答可】

- 1 自社費用にて開発した
- 2 過去の NEDO プロジェクトで開発した
- 3 文部科学省プロジェクトにて開発した
- 4 大学・研究機関等の共同研究費にて開発した
- 5 当該 NEDO プロジェクト実施期間中に初めて開発した
- 6 その他 _____

Q18. プロジェクト参加時に、下記の項目に対する期待度はどれくらいでしたか。

	100%~	80%~	60%~	40%~	20%~
< 技術課題の克服 >	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
< コスト課題の克服 >	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
< 他機関との連携による有用技術の獲得 (キャッチアップ) >	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
< 異分野、異業種、他機関との連携/融合によるシナジー効果 >	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

<技術開発・製品開発のスピードアップ>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との人的・組織的ネットワークの形成>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発リスクの分散・回避>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発資金の確保>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<人材育成（研究者の質的向上）>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社外でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【プロジェクト期間中の活動について伺います】

Q19 当該プロジェクト実施期間中に要した研究開発費（自己負担分も含む総額）のうち、NEDO から供給された資金の占める割合はどの程度でしたか。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q20 当該プロジェクトに対する、関与のタイミングについて伺います。

<経営層の関与>

- 1 提案時から密接に関与 2 採択直後から関与 3 開発成果が見え始めてから関与
4 実用化の可能性が見え始めてから関与 5 ほとんど関与していない

<事業部門（新規事業開発部門含む）の関与>

- 1 提案時から密接に関与 2 採択直後から関与 3 開発成果が見え始めてから関与
4 実用化の可能性が見え始めてから関与 5 ほとんど関与していない

Q21 貴社の開発成果の受け手となる想定ユーザー・顧客は、当該 NEDO プロジェクトにどのように関与していましたか。【複数回答可】

- 1 全く関与していなかった
2 NEDO プロジェクトには関与していないが、NEDO プロジェクト開始前から自社と取引関係にあった。
3 NEDO プロジェクト実施体制に参加
4 NEDO プロジェクト内部に設置された有識者委員会（アドバイザーボード、ユーザー委員会等）に有識者として参加
5 NEDO が設置した採択審査委員会に審査委員として参加
6 NEDO が設置した技術推進委員会に委員として参加
7 NEDO が設置した中間・事後評価分科会に評価委員として参加
8 NEDO プロジェクト実施期間中にサンプル提供を実施し評価頂いた
9 NEDO プロジェクト実施期間中にマッチング会を開催し参加頂いた
10 その他

その他記述欄

Q22 当該プロジェクトの成果を生かす製品化・上市の事業化シナリオ検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

<事業化シナリオの検討内容> 【複数回答可】

- 1 企業戦略との整合性 2 技術の発展性 3 市場の魅力度のチェック 4 目標仕様の確定
5 市場性テストのスケジュール策定 6 事業トライアルのための製品化レベルの確定
7 事業開始時の販売先の特定 8 事業化後の技術レベル向上のスケジュール策定
9 採算性評価 10 その他 _____

Q23. コスト目標の設定を行ったタイミング（見直し含む）は次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

<上記で「6 検討していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q24 リスク検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

<リスク検討の内容は何でしたか> 【複数回答可】

- 1 研究開発リスク 2 製品リスク（原料等の調達先確保、市場優位性など）
3 自然災害リスク 4 カントリーリスク（輸出入先など対象国の政治・法律などの変化）
5 経営リスク（買収・事業承継など） 6 法務リスク（規格・規制変更、関連法令等の改廃など）
7 市場動向の変化 8 その他 _____

<実際に発生したリスクは何ですか> 【複数回答可】

- 1 予定していた技術課題の解決が未達成 2 他機関からの技術獲得が不調 3 予想外の課題が発生
4 原料調達が困難 5 自然災害 6 カントリーリスク 7 経営方針の転換
8 法令、規制の壁 9 競合他社の出現 10 市場価格の下落 11 景気変動
12 対象市場規模の縮小 13 ユーザーニーズの変化 14 ユーザーニーズが存在しなかった
15 キーパーソンの離脱 16 リスクは発生しなかった 17 その他 _____

Q25 調査の状況について伺います。

Q25-1 競争力のポジショニング調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q25-2 市場動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q25-3 特許動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q25-4 論文、雑誌、業界紙他による技術動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q26. 当該プロジェクトで設定した目標値に対する達成度は何点になりますか。

- 1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q27. 実用化（製品化・上市段階）までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度ですか。

残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮してお選びください。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q28. 目標値の達成度と実用化目標の達成度との点差の理由は、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 技術的課題 2 コスト的課題 3 組織的問題 4 時間的問題 5 法律・規制の問題
6 社会受容性の問題

Q29. 下記項目の達成度を伺います。

Q29-1-1. 技術課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q29-1-2. 技術課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 メカニズムの解明 3 連携先からのアイデア
4 連携先の先端技術 5 新規設備の導入 6 その他 _____

Q29-2-1. コスト課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った） 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q29-2-2. コスト課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 キー技術の進展 2 製造プロセスの改良・変更 3 量産化技術の構築
4 新規機能の付与 5 市場の拡大 6 連携先からの技術提供 7 その他 _____

Q29-3. 他機関との連携による有用技術の獲得（キャッチアップ）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った） 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q29-4. 異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った） 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q29-5-1. 技術開発・製品開発のスピードアップについての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った） 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q29-5-2. 技術開発・製品開発のスピードアップに寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 分析・評価技術・解析技術 3 メカニズムの解明
4 連携先の先端技術 5 NEDO 加速資金の獲得 6 新規設備の導入 7 その他 _____

Q29-6. 他機関との人的・組織的ネットワークの形成についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った） 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q29-7. 研究開発リスクの分散・回避についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った） 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q29-8. 社内における研究開発資金の確保についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った） 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q29-9. 人材育成（研究者の質的向上）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った） 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q29-10-1. 社内でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q29-10-2. 社内でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上
2 プロジェクト参加企業との連携
3 プロジェクトを通じた大学・公的研究機関との連携
4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
5 対外発表（学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表）
6 その他 _____

Q29-11-1. 社外でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q29-11-2. 社外でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上
2 プロジェクト参加企業との連携
3 プロジェクトを通じた学（公的研究機関を含む）との連携
4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
5 対外発表（学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表）
6 その他 _____

Q30. プロジェクト実施期間中に取得できた実験データについて伺います。

Q30-1. プロジェクトではどのような種類の実験データ取得を目的としましたか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る 2 機能発現に関するメカニズムの解明
3 品質（性能・機能）の向上 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
5 コスト課題の解決 6 安全性の検証 7 再現性の検証 8 その他 _____

Q30-2. 実際に取得できた実験データの量は、通常の企業における研究開発活動と比較するとどの程度でしたか

- 1 非常に多くのデータを取得できた 2 多くのデータを取得できた
3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた 4 少なめのデータしか取得できなかった

Q30-3. 上記で回答頂いた、実際に取得できた実験データの種類は次のうちどれですか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る 2 機能発現に関するメカニズムの解明
3 品質（性能・機能）の向上 4 スケールアップに必要な設計基礎データ 5 コスト課題の解決
6 安全性の検証 7 再現性の検証 8 その他 _____

Q30-4. プロジェクトに参加している他機関との間でやり取りされた情報量（実験データ・結果）はどの程

度でしたか

- 1 非常に多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした
- 2 多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした
- 3 情報（実験データ・結果）のやり取りはあったが、情報量は少なかった
- 4 単独で情報（実験データ・結果）を取得した

Q31. 下記項目について、プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答え下さい。

<R&Dの規模（予算や人員）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅰ（プロジェクトで目指した技術分野）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅱ（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった
- 2 変わらない
- 3 下がった
- 4 不明

不明の理由 _____

<世界における現在の競争力ポジション>

- 1 世界で1位
- 2 世界で2～3位
- 3 世界で4～10位
- 4 世界で11位以下
- 5 不明

不明の理由 _____

<国内における現在の競争力ポジション>

- 1 日本で1位
- 2 日本で2～3位
- 3 日本で4～10位
- 4 日本で11位以下
- 5 不明

不明の理由 _____

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q32. 当該プロジェクトにおける、参加機関間での知的財産及び秘密情報等の取扱いについて伺います。

<ルール策定や検討の有無>

- 1 取扱いに係るルール等があった。（協議による合意、あるいは、リーダー等からの指示のいずれかを問わず）
- 2 一般的なルールはなく、個別に対応した。
- 3 規則の必要性すら検討されなかった。

<知的財産等の取り扱い内容> 【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP（プロジェクトに参加する前から保有していた特許）の取り扱い
- 2 フォアグラウンド IP（プロジェクトの成果により得られた特許）の取り扱い
- 3 研究ノートの管理方法
- 4 発明（ノウハウも含む）等の報告方法
- 5 権利者の決定方法

6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法 7 秘密保持契約

8 知財規程の整備や知財委員会の設置 9 外部有識者の参加 10 その他 _____

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q33. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマについて伺います。

Q33-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった（ズレていた）

不適切であった理由 _____

Q33-2. プロジェクト期間中にテーマの見直しを行ったタイミングは次のうちどれですか。

1 前半 2 中盤 3 後半 4 見直しは行っていない

Q34. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマの目標値について伺います。

Q34-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった（ズレていた）

不適切であった理由 _____

Q34-2. プロジェクト期間中に目標値の見直しを行ったタイミングは次のうちどれですか。

1 前半 2 中盤 3 後半 4 見直しは行っていない

Q35. 当該プロジェクトにおける貴社の役割分担は明確でしたか。

1 明確であった 2 ある程度は明確であった 3 不明確であった

Q36. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定> 【複数回答可】

1 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）

2 社内のリーダーやキーパーソン 3 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）

4 NEDO 担当者 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<参画機関間の意見調整> 【複数回答可】

1 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）

2 社内のリーダーやキーパーソン 3 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）

4 NEDO 担当者 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<研究開発の工程管理や推進> 【複数回答可】

1 自ら自律的に管理した 2 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）が管理した

3 社内のリーダーやキーパーソン 4 NEDO 担当者

5 管理法人の担当者 6 進捗管理は行われなかった

<進捗管理の具体的な方法（評価ツール・指標等）があった場合は、以下に具体的な方法をご記述下さい>

Q37. 当該 NEDO プロジェクト期間中における下記関係者との協議等の頻度について伺います。

	週 1 回以上	月 1 回以上	3 ヶ月に 1 回以上	半年に 1 回以上	1 年に 1 回以上	ほとんど無し
<プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テマリーダー）>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の他研究部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<顧客>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の事業部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<経営層>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q38 プロジェクト実施期間中の所属するプロジェクトグループの士気（情熱・意欲・積極性など）はどの程度でしたか。通常の社内プロジェクトと比較してお答えください。

- 1 非常に士気が高かった 2 士気は高かった 3 やや士気は低かった 4 士気は低かった

<上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、その要因について当てはまるものをお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 プロジェクト開始前から既知の関係であったため
- 2 各研究員の目的意識が明確であったため
- 3 プロジェクト（グループ）リーダーによる働きかけ
- 4 NEDO 担当者による働きかけ
- 5 成果が出てきたため
- 6 外部（委員会、プレス発表等）からの評価
- 7 その他 _____

<上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、どのような創発効果が得られたかお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 新たな研究課題、活動につながった
- 2 外部の研究集会への自発的な参加が増えた
- 3 文献などの情報収集活動が増えた
- 4 グループ内提案が増えた
- 5 その他 _____

<上記で「3 やや士気は低かった」「4 士気は低かった」を選択した方は、その理由についてご記述下さい>

記述欄 _____

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q39. NEDO 担当者のマネジメントに対する満足度はどれくらいでしたか。

- 1 100 点 2 80 点 3 60 点 4 40 点 5 20 点以下

具体的な理由 _____

Q40. NEDO 担当者との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

Q41. NEDO 担当者との協議について、普段どのような協議をされておりましたか。また、何をやって欲しかったですか。

< 普段の協議内容 > 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応 5 各種提出書類に係る対応
6 他機関との利害調整 7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で主要な項目） _____

< 上記、協議のうち、特に有益であった事項について具体的にご記載ください。 >

記述欄 _____

< やって欲しかったこと > 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応 5 各種提出書類に係る対応
6 他機関との利害調整 7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で重要な項目） _____

【NEDO への要望について伺います】

Q42. NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄 _____

【NEDO からのお知らせ】

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画

「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

おかげさまで、9年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしてまいりますので、是非、ご覧下さい。

また、NEDOプロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について取り纏めた

「NEDO インサイド製品 2017 ～身近なところに NEDO 技術～」

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

も公開しておりますので、是非、ご覧ください。

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 30 年度 終了直後調査票（制度，企業版）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合には、「具体的な状況」、「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入ください。

記述欄 _____

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。【必須】

- 1 研究段階 (基礎的・要素的な基礎探索段階)
- 2 開発段階 (開発用サンプル^{*1)}の作製，実用化に向けた課題を把握，応用開発段階)
- 3 製品化段階 (顧客評価(認定用)サンプル^{*2)}の作製，量産化技術の確立，工業化開発段階)
- 4 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始，工場での運転を開始)
- 5 中止 (社内での研究開発活動は停止され，それ以上の開発は行われぬ。)
- 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが，将来再開する可能性がある。)

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究(現象の新規性や性能の進歩性等について把握)	社内レポート，特許，論文等
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発(開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握)	製品化/上市の判断材料となる結果等
製品化段階	製品化、量産化技術の確立(製品化への社内承認，試作機の製造，所管省庁/監督団体による販売承認/検査，製品を市場に投入するための設備投資の実施等)	顧客評価(認定用)サンプルの作成や量産試作の実施，製造ライン設置，原価計算等
上市段階	市場での取引	製品ラインアップ化(カタログ掲載)，継続的な売上発生等

Q3 Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」を選択した場合、想定される上市・製品化の時期はいつ頃でしょうか。

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定は立っていない

Q4 Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」「4 上市段階」を選択された方は、現在の社内での研究テーマ名についてご記入ください。

記述欄 _____

Q5. 当該プロジェクト終了後における、貴社内での研究開発活動の継続可否判断について伺います。

<継続可否判断が行われた時期>

- 1 提案時 2 採択直後 3 中盤 4 最終年度

<継続可否判断の意思決定者>

- 1 経営陣（役員以上） 2 事業部門の長 3 研究部門の長 4 その他 _____

Q6. Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」「4 上市段階」を選択した場合、現在の取り組みについて伺います。

<現在の開発体制>【複数回答可】

- 1 研究部門を主体とした開発
- 2 事業部門を主体とした開発
- 3 社内に当該研究開発に対応する新たなプロジェクトチームを設置して推進
- 4 社内に当該研究開発に対応する新たな部署を設置して推進
- 5 社内ベンチャーを創出し推進
- 6 カーブアウトベンチャーとして独立して推進
- 7 スピンオフ、スピンアウトして独立して推進
- 8 他社との合弁会社を設立して推進
- 9 NEDO プロジェクトメンバー（大学・公的研究機関）との共同開発を推進
- 10 NEDO プロジェクトメンバー（企業）との共同開発を推進
- 11 NEDO プロジェクトメンバー外の企業・大学・公的研究機関と共同開発を推進
- 12 海外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 13 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進
- 14 既設のコンソーシアムに参加して推進
- 15 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進

<上記で、「13 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進」「14 既設のコンソーシアムに参加して推進」「15 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進」を選択された方は、コンソーシアム・プロジェクトの名称をご記入ください。>

記述欄 _____

Q7. 当該プロジェクトの開始時点及び終了時点における、貴社の本プロジェクトに係る主体はどちらの部門ですか。最もあてはまるものをご回答ください。

<開始時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

<終了時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

Q8. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。【複数回答可】

- 1 着手されなかった。
- 2 中止・中断されていた。

- 3 3年以上遅れて着手されていた。
- 4 1年～2年程度遅れて着手されていた。
- 5 人員や設備投資が縮小されていた。
- 6 NEDO以外の外部研究開発資金で実施されていた。
- 7 予定通りに実施されていた。

Q9. 現段階で、NEDOのサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要
- 2 不要

<上記で、「1 必要」を選択した場合、その内容はどれですか。> 【複数回答可】

- 1 実用化（製品化・上市段階）への資金助成
- 2 標準化活動への支援
- 3 法規制に係る対応支援
- 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他 _____

【参加頂いたプロジェクトの制度設計について伺います】

Q10. 本制度の公募情報はどのように知りましたか。当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 NEDO ホームページ
- 2 NEDO メール配信サービス
- 3 NEDO 主催の展示会・イベント
- 4 NEDO 担当者からの連絡
- 5 経済産業省や地域の経済産業局による広報（ホームページ、メールマガジン等）
- 6 業界団体等からの紹介
- 7 経営層の指示（トップダウン）
- 8 外部（大学、経済産業省、他）からの紹介
- 9 もともと知っていた
- 10 その他 _____

Q11. 本制度の下記項目について、最も当てはまるものをご回答ください。

	適切であった	一部、不適切であった	不適切であった
申請書の作成に係る負荷			●
採択審査プロセス			

経費執行に係る負荷、融通性			
研究開発期間			
研究開発費用（規模、負担率）			○
計画変更に係る柔軟性			
中間評価・ステージゲート評価			
事務手続きの量			

Q12. 上記を踏まえたうえで、本制度に対する総合的な満足度として、最もあてはまるものをご回答ください。

- 1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q13. 本制度の改善に繋がるご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

記述欄 _____

【プロジェクトに応募された時期の状況について伺います】

Q14. プロジェクトに参加した主たる目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認） 2 技術・ノウハウの獲得 3 実用化の可能性の見極め
4 終了後10年以内の上市・製品化 5 終了後5年以内の上市・製品化 6 その他 _____

Q15. プロジェクトにおいて貴社が担った役割はどれですか。【複数回答可】

- 1 川上（材料など）
2 川中（部材・部品など）
3 川下（最終製品）
4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など）
5 標準化や知的基盤整備
6 その他 _____

Q16. 最終的な貴社における研究開発の主たる出口は次のうちどれですか。

- 1 プロセス開発 2 システム開発 3 材料開発 4 部材・部品開発
5 機械装置開発 6 分析・評価 7 特に限定していない 8 その他 _____

Q17. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。（各段階の定義はQ2をご参照下さい）

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階）
2 開発段階 （開発用サンプルの作製、実用化に向けた課題を把握、応用開発段階）
3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプルの作製、量産化技術の確立、工業化開発段階）
4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始、工場での運転を開始）
5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われぬ。）

- 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。)
- 7 未着手

Q18. 当該プロジェクトの開始時点での、貴社事業及び戦略における当該プロジェクトの位置付けは、次のうちどれでしたか。

<貴社事業との関係>

- 1 現有事業の延長 (生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他)
- 2 現有事業の周辺 (生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能) で会社として新規な市場への参入
- 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入
- 4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

<貴社戦略 (経営戦略、事業戦略) との関係>

- 1 貴社の戦略上、不可欠と判断された研究開発
- 2 貴社の戦略上、重要と判断された研究開発
- 3 貴社の戦略上、特に重要とは判断されていなかった研究開発
- 4 貴社の戦略上、ほとんど注目されていなかった研究開発
- 5 貴社の戦略上、不必要と判断されていた研究開発

Q19. 当該プロジェクトに参加された際の技術シーズは、どのように開発されたものですか。【複数回答可】

- 1 自社費用にて開発
- 2 過去の NEDO プロジェクトで開発
- 3 文部科学省プロジェクトにて開発
- 4 大学・研究機関等の共同研究費にて開発
- 5 当該 NEDO プロジェクト実施期間中に初めて開発
- 6 他機関・他社から購入もしくはライセンスを受けたもの
- 7 その他 _____

【プロジェクト期間中の活動について伺います】

Q20. 当該プロジェクト実施期間中に要した研究開発費 (自己負担分も含む総額) のうち、NEDO から供給された資金の占める割合はどの程度でしたか。

- 1 100%～
- 2 80%～
- 3 60%～
- 4 40%～
- 5 20%～

Q21. 当該プロジェクトに対する、関与のタイミングについて伺います。

<経営層の関与>

- 1 提案時から密接に関与
- 2 採択直後から関与
- 3 開発成果が見え始めてから関与
- 4 実用化の可能性が見え始めてから関与
- 5 ほとんど関与していない

<事業部門（新規事業開発部門含む）の関与>

- 1 提案時から密接に関与 2 採択直後から関与 3 開発成果が見え始めてから関与
4 実用化の可能性が見え始めてから関与 5 ほとんど関与していない

Q22. 貴社の開発成果の受け手となる想定ユーザー・顧客は、当該 NEDO プロジェクトにどのように関与していましたか。【複数回答可】

- 1 全く関与していなかった
2 NEDO プロジェクトには関与していないが、NEDO プロジェクト開始前から自社と取引関係にあった。
3 NEDO プロジェクト実施体制に参加
4 NEDO プロジェクト内部に設置された有識者委員会（アドバイザリーボード、ユーザー委員会等）に有識者として参加
5 NEDO が設置した採択審査委員会に審査委員として参加
6 NEDO が設置した技術推進委員会に委員として参加
7 NEDO が設置した中間・事後評価分科会に評価委員として参加
8 NEDO プロジェクト実施期間中にサンプル提供を実施し評価頂いた
9 NEDO プロジェクト実施期間中にマッチング会を開催し参加頂いた
10 その他 _____

Q23. 想定ユーザー・顧客との協議頻度はどの程度でしたか。

- 1 週 1 回以上 2 月 1 回以上 3 3 ヶ月に 1 回以上 4 半年に 1 回以上
5 1 年に 1 回以上 6 ほとんど無し

Q24. 下記調査・検討の実施状況について、最初に検討・実施した時期についてご回答ください。

	提案前	採択直後	中盤	後半	検討・実施 していな い
製品化・上市の事業化シナリオ検討	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
コスト目標の設定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
リスク検討	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
競争力のポジショニング調査	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
市場動向調査	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
特許動向調査	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
論文、雑誌、業界紙他による技術動向調査	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q25. 当該プロジェクトで設定した目標値に対する達成度は何点になりますか。

- 1 150 点以上（目標値を遥かに上回る達成） 2 120 点（目標値を上回る達成）
3 100 点（目標値を達成） 4 70 点（目標値を下回った） 5 40 点以下（目標値を遥かに下回った）

Q26. 実用化（製品化・上市段階）までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度ですか。
残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮してお選びください。
1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q27. 目標値の達成度と実用化目標の達成度との点差の理由は、次のうちどれですか。【複数回答可】
1 技術的課題 2 コスト的課題 3 組織的問題 4 時間的問題 5 法律・規制の問題
6 社会受容性の問題

Q28. 当該プロジェクトに参加した研究員に対する人材育成効果について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】
1 当該プロジェクトの成果をもとに博士号を取得した人材を輩出した。
2 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、新たな研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）を企画した。
3 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）でリーダーを務めた。
4 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）で事業化を成し遂げた。
5 特になし
6 その他 _____

Q29. 当該研究開発に関する下記項目の状況について、プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答えください。

<研究開発の規模（予算や人員）>

1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅰ（プロジェクトで目指した技術分野）>

1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅱ（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開）>

1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<国内における競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

<世界における競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q30. NEDOにおける下記支援制度の内、利用頂いた制度を全て選択してください。【複数回答可】

- 1 知財プロデューサー派遣制度
- 2 技術経営アドバイザー派遣制度
- 3 NEDO と共同でのプレスリリース・記者会見
- 4 NEDO 出展展示会でのサンプル展示
- 5 NEDO サンプルマッチング制度
- 6 NEDO ピッチへの参加
- 7 オープンイノベーション協議会への参加
- 8 NEDO 事業化支援人材（カタライザー）による指導・助言
- 9 NEDO ビジネスマッチング会への参加
- 10 その他（具体的に記述） _____

Q31. NEDO 担当者のマネジメントに対する満足度はどれくらいでしたか。

- 1 100 点
- 2 80 点
- 3 60 点
- 4 40 点
- 5 20 点以下

Q32. NEDO 担当者との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週 1 回以上
- 2 月 1 回以上
- 3 3 ヶ月に 1 回以上
- 4 半年に 1 回以上
- 5 1 年に 1 回以上
- 6 ほとんど無し

Q33. NEDO 担当者との協議について、普段どのような協議をされていましたか。また、何をやって欲しかったですか。

< 普段の協議内容 > 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 国内外の技術開発動向
- 13 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 14 市場に関するアドバイス
- 15 宣伝・広報
- 16 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 17 経営に関するアドバイス

18 その他（上記以外で主要な項目） _____

<当該プロジェクト終了後の協議内容> 【複数回答可】

- 1 各種提出書類に係る対応
- 2 法規制に係る協議
- 3 事業化シナリオの方向性検討
- 4 研究開発の方向性検討
- 5 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 6 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 7 国内外の技術開発動向
- 8 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 9 市場に関するアドバイス
- 10 宣伝・広報
- 11 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 12 経営に関するアドバイス
- 13 その他（上記以外で重要な項目） _____

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 国内外の技術開発動向
- 13 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 14 市場に関するアドバイス
- 15 宣伝・広報
- 16 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 17 経営に関するアドバイス
- 18 その他（上記以外で重要な項目） _____

Q34. 本追跡アンケート調査及びNEDOにおける評価活動についてのご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2018」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

2019年度 終了直後調査票（制度，企業版）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合には、「具体的な状況」、「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入ください。

記述欄 _____

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。【必須】

- 1 研究段階 (基礎的・要素的な基礎探索段階)
- 2 開発段階 (開発用サンプル*1) の作製，実用化に向けた課題を把握，応用開発段階)
- 3 製品化段階 (顧客評価(認定用)サンプル*2) の作製，量産化技術の確立，工業化開発段階)
- 4 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始，工場での運転を開始)
- 5 中止 (社内での研究開発活動は停止され，それ以上の開発は行われない。)
- 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが，将来再開する可能性がある。)

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究(現象の新規性や性能の進歩性等について把握)	社内レポート，特許，論文等
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発(開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握)	製品化/上市の判断材料となる結果等
製品化段階	製品化、量産化技術の確立(製品化への社内承認，試作機の製造，所管省庁/監督団体による販売承認/検査，製品を市場に投入するための設備投資の実施等)	顧客評価(認定用)サンプルの作成や量産試作の実施，製造ライン設置，原価計算等
上市段階	市場での取引	製品ラインアップ化(カタログ掲載)，継続的な売上発生等

Q3 Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」を選択した場合、想定される上市・製品化の時期はいつ頃でしょうか。

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定は立っていない

Q4 Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」「4 上市段階」を選択された方は、現在の社内での研究テーマ名についてご記入ください。

記述欄 _____

Q5. 当該プロジェクト終了後における、貴社内での研究開発活動の継続可否判断について伺います。

<継続可否判断が行われた時期>

- 1 提案時 2 採択直後 3 中盤 4 最終年度

<継続可否判断の意思決定者>

- 1 経営陣（役員以上） 2 事業部門の長 3 研究部門の長 4 その他 _____

Q6. Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」「4 上市段階」を選択した場合、現在の取り組みについて伺います。

<現在の開発体制>【複数回答可】

- 1 研究部門を主体とした開発
- 2 事業部門を主体とした開発
- 3 社内に当該研究開発に対応する新たなプロジェクトチームを設置して推進
- 4 社内に当該研究開発に対応する新たな部署を設置して推進
- 5 社内ベンチャーを創出し推進
- 6 カーブアウトベンチャーとして独立して推進
- 7 スピンオフ、スピンアウトして独立して推進
- 8 他社との合弁会社を設立して推進
- 9 NEDO プロジェクトメンバー（大学・公的研究機関）との共同開発を推進
- 10 NEDO プロジェクトメンバー（企業）との共同開発を推進
- 11 NEDO プロジェクトメンバー外の企業・大学・公的研究機関と共同開発を推進
- 12 海外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 13 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進
- 14 既設のコンソーシアムに参加して推進
- 15 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進

<上記で、「13 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進」「14 既設のコンソーシアムに参加して推進」「15 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進」を選択された方は、コンソーシアム・プロジェクトの名称をご記入ください。>

記述欄 _____

Q7. 当該プロジェクトの開始時点及び終了時点における、貴社の本プロジェクトに係る主体はどちらの部門ですか。最もあてはまるものをご回答ください。

<開始時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

<終了時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

Q8. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。【複数回答可】

- 1 着手されなかった。
- 2 中止・中断されていた。

- 3 3年以上遅れて着手されていた。
- 4 1年～2年程度遅れて着手されていた。
- 5 人員や設備投資が縮小されていた。
- 6 NEDO以外の外部研究開発資金で実施されていた。
- 7 予定通りに実施されていた。

Q9. 現段階で、NEDOのサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要
- 2 不要

<上記で、「1 必要」を選択した場合、その内容はどれですか。> 【複数回答可】

- 1 実用化（製品化・上市段階）への資金助成
- 2 標準化活動への支援
- 3 法規制に係る対応支援
- 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他 _____

【参加頂いたプロジェクトの制度設計について伺います】

Q10. 本制度の公募情報はどのように知りましたか。当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 NEDO ホームページ
- 2 NEDO メール配信サービス
- 3 NEDO 主催の展示会・イベント
- 4 NEDO 担当者からの連絡
- 5 経済産業省や地域の経済産業局による広報（ホームページ、メールマガジン等）
- 6 業界団体等からの紹介
- 7 経営層の指示（トップダウン）
- 8 外部（大学、経済産業省、他）からの紹介
- 9 もともと知っていた
- 10 その他 _____

Q11. 本制度の下記項目について、最も当てはまるものをご回答ください。

	適切であった	一部、不適切であった	不適切であった
申請書の作成に係る負荷			<input checked="" type="radio"/>
採択審査プロセス			

経費執行に係る負荷、融通性			
研究開発期間			
研究開発費用（規模、負担率）			■
計画変更に係る柔軟性			
中間評価・ステージゲート評価			
事務手続きの量			

Q12. 上記を踏まえたうえで、本制度に対する総合的な満足度として、最もあてはまるものをご回答ください。

- 1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q13. 本制度の改善に繋がるご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

記述欄 _____

【プロジェクトに応募された時期の状況について伺います】

Q14. プロジェクトに参加した主たる目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認） 2 技術・ノウハウの獲得 3 実用化の可能性の見極め
4 終了後10年以内の上市・製品化 5 終了後5年以内の上市・製品化 6 その他 _____

Q15. プロジェクトにおいて貴社が担った役割はどれですか。【複数回答可】

- 1 川上（材料など）
2 川中（部材・部品など）
3 川下（最終製品）
4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など）
5 標準化や知的基盤整備
6 その他 _____

Q16. 最終的な貴社における研究開発の主たる出口は次のうちどれですか。

- 1 プロセス開発 2 システム開発 3 材料開発 4 部材・部品開発
5 機械装置開発 6 分析・評価 7 特に限定していない 8 その他 _____

Q17. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。（各段階の定義はQ2をご参照下さい）

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階）
2 開発段階 （開発用サンプルの作製、実用化に向けた課題を把握、応用開発段階）
3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプルの作製、量産化技術の確立、工業化開発段階）
4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始、工場での運転を開始）
5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われぬ。）

- 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。)
- 7 未着手

Q18. 当該プロジェクトの開始時点での、貴社事業及び戦略における当該プロジェクトの位置付けは、次のうちどれでしたか。

<貴社事業との関係>

- 1 現有事業の延長 (生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他)
- 2 現有事業の周辺 (生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能) で会社として新規な市場への参入
- 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入
- 4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

<貴社戦略 (経営戦略、事業戦略) との関係>

- 1 貴社の戦略上、不可欠と判断された研究開発
- 2 貴社の戦略上、重要と判断された研究開発
- 3 貴社の戦略上、特に重要とは判断されていなかった研究開発
- 4 貴社の戦略上、ほとんど注目されていなかった研究開発
- 5 貴社の戦略上、不必要と判断されていた研究開発

Q19. 当該プロジェクトに参加された際の技術シーズは、どのように開発されたものですか。【複数回答可】

- 1 自社費用にて開発
- 2 過去の NEDO プロジェクトで開発
- 3 文部科学省プロジェクトにて開発
- 4 大学・研究機関等の共同研究費にて開発
- 5 当該 NEDO プロジェクト実施期間中に初めて開発
- 6 他機関・他社から購入もしくはライセンスを受けたもの
- 7 その他 _____

【プロジェクト期間中の活動について伺います】

Q20. 当該プロジェクト実施期間中に要した研究開発費 (自己負担分も含む総額) のうち、NEDO から供給された資金の占める割合はどの程度でしたか。

- 1 100%~ 2 80%~ 3 60%~ 4 40%~ 5 20%~

Q21. 当該プロジェクトに対する、関与のタイミングについて伺います。

<経営層の関与>

- 1 提案時から密接に関与 2 採択直後から関与 3 開発成果が見え始めてから関与
- 4 実用化の可能性が見え始めてから関与 5 ほとんど関与していない

<事業部門（新規事業開発部門含む）の関与>

- 1 提案時から密接に関与 2 採択直後から関与 3 開発成果が見え始めてから関与
4 実用化の可能性が見え始めてから関与 5 ほとんど関与していない

Q22. 貴社の開発成果の受け手となる想定ユーザー・顧客は、当該 NEDO プロジェクトにどのように関与していましたか。【複数回答可】

- 1 全く関与していなかった
2 NEDO プロジェクトには関与していないが、NEDO プロジェクト開始前から自社と取引関係にあった。
3 NEDO プロジェクト実施体制に参加
4 NEDO プロジェクト内部に設置された有識者委員会（アドバイザリーボード、ユーザー委員会等）に有識者として参加
5 NEDO が設置した採択審査委員会に審査委員として参加
6 NEDO が設置した技術推進委員会に委員として参加
7 NEDO が設置した中間・事後評価分科会に評価委員として参加
8 NEDO プロジェクト実施期間中にサンプル提供を実施し評価頂いた
9 NEDO プロジェクト実施期間中にマッチング会を開催し参加頂いた
10 その他 _____

Q23. 想定ユーザー・顧客との協議頻度はどの程度でしたか。

- 1 週 1 回以上 2 月 1 回以上 3 3 ヶ月に 1 回以上 4 半年に 1 回以上
5 1 年に 1 回以上 6 ほとんど無し

Q24. 下記調査・検討の実施状況について、最初に検討・実施した時期についてご回答ください。

	提案前	採択直後	中盤	後半	検討・実施 していない
製品化・上市の事業化シナリオ検討	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
コスト目標の設定	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
リスク検討	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
競争力のポジショニング調査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
市場動向調査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
特許動向調査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
論文、雑誌、業界紙他による技術動向調査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q25. 当該プロジェクトで設定した目標値に対する達成度は何点になりますか。

- 1 150 点以上（目標値を遥かに上回る達成） 2 120 点（目標値を上回る達成）
3 100 点（目標値を達成） 4 70 点（目標値を下回った） 5 40 点以下（目標値を遥かに下回った）

Q26. 実用化（製品化・上市段階）までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度ですか。
残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮してお選びください。
1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q27. 目標値の達成度と実用化目標の達成度との点差の理由は、次のうちどれですか。【複数回答可】
1 技術的課題 2 コスト的課題 3 組織的問題 4 時間的問題 5 法律・規制の問題
6 社会受容性の問題

Q28. 当該プロジェクトに参加した研究員に対する人材育成効果について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、新たな研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）を企画した。
- 2 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）でリーダーを務めた。
- 3 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）で事業化を成し遂げた。
- 4 当該プロジェクトの成果をもとに博士号を取得した人材を輩出した。
- 5 特になし
- 6 その他 _____

Q29. 当該研究開発に関する下記項目の状況について、プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答えください。

<研究開発の規模（予算や人員）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅰ（プロジェクトで目指した技術分野）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅱ（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<国内における競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

<世界における競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q30. NEDOにおける下記支援制度の内、利用頂いた制度を全て選択してください。【複数回答可】

- 1 知財プロデューサー派遣制度
- 2 技術経営アドバイザー派遣制度
- 3 NEDO と共同でのプレスリリース・記者会見
- 4 NEDO 出展展示会でのサンプル展示
- 5 NEDO サンプルマッチング制度
- 6 NEDO ピッチへの参加
- 7 オープンイノベーション協議会への参加
- 8 NEDO 事業化支援人材（カタライザー）による指導・助言
- 9 NEDO ビジネスマッチング会への参加
- 10 その他（具体的に記述） _____

Q31. NEDO 担当者のマネジメントに対する満足度はどれくらいでしたか。

- 1 100点
- 2 80点
- 3 60点
- 4 40点
- 5 20点以下

Q32. NEDO 担当者との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

Q33. NEDO 担当者との協議について、普段どのような協議をされていましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 国内外の技術開発動向
- 13 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 14 市場に関するアドバイス
- 15 宣伝・広報
- 16 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 17 経営に関するアドバイス

18 その他（上記以外で主要な項目） _____

<当該プロジェクト終了後の協議内容> 【複数回答可】

- 1 各種提出書類に係る対応
- 2 法規制に係る協議
- 3 事業化シナリオの方向性検討
- 4 研究開発の方向性検討
- 5 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 6 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 7 国内外の技術開発動向
- 8 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 9 市場に関するアドバイス
- 10 宣伝・広報
- 11 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 12 経営に関するアドバイス
- 13 その他（上記以外で重要な項目） _____

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 国内外の技術開発動向
- 13 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 14 市場に関するアドバイス
- 15 宣伝・広報
- 16 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 17 経営に関するアドバイス
- 18 その他（上記以外で重要な項目） _____

Q34. 本追跡アンケート調査及びNEDOにおける評価活動についてのご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント（107 事例掲載）

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品（117 製品登録）

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2019」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

平成26年度 終了直後調査票（大学、法人、研究機関等）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄

Q2. プロジェクトで得られた知見や成果を利用した継続的な研究開発を実施していますか。

- 1 継続実施している 2 継続実施していない

<上記で「1 継続実施している」を選択した方は、研究開発のテーマ名についてご記入ください>

記述欄

<上記で「1 継続実施している」を選択した方は、現在の研究開発状況をお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 NEDO プロジェクト連携先企業との共同研究
2 NEDO プロジェクト外の企業との共同研究
3 他の公的資金を活用して研究開発を継続
4 独自資金で研究開発を継続
5 成果受け入れ先企業の探索中
6 その他

他の公的資金を活用されている場合、所管する国・省庁・独法名、及び制度名・プロジェクト名をご記入下さい。

記述欄

その他記述欄

<上記で「2 継続実施していない」を選択した方は、その理由をお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 研究開発目的を達成 2 技術課題の克服が困難 3 研究開発資金が確保できなかったため
4 共同研究先が研究開発を中止したため 5 その他

その他記述欄

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q3. NEDO プロジェクトで目指した研究開発以外への波及効果について

<波及効果の有無>

- 1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先>【複数回答可】

- 1 NEDO プロジェクトとは異なる既存研究テーマへの展開
2 新規研究テーマの立ち上げ
3 人材育成 4 新たなネットワークの構築 5 公的資金獲得
6 企業とのコミュニケーション円滑化 7 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q4. NEDO プロジェクトへの参加経験は何回目でしたか。

- 1 初めて 2 2回目 3 3回目 4 4回目 5 5回目以上

Q5. プロジェクトにおけるご自身の研究開発における役割は何でしたか。【複数回答可】

- 1 企業のサポート研究 2 アドバイザー 3 分析／解析／評価 4 メカニズム解明
5 技術移転元（シーズ技術やコア技術を保有） 6 材料等の探索研究 7 基礎データ取得
8 プロセス設計 9 装置開発 10 ソフト開発 11 データベース構築（データ取得）
12 標準化や知的基盤整備 13 リーダーとしての全体統括 14 その他

その他記述欄

Q6. 連携した他機関と知的財産等の取り扱いに関するルール策定や検討は行いましたか。

<ルール策定や検討の有無>

- 1 行った 2 行っていない

<知的財産等の取り扱い内容>【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP（プロジェクトに参加する前から保有していた特許）の取り扱い
2 フォアグラウンド IP（プロジェクトの成果により得られた特許）の取り扱い
3 研究ノートの管理方法 4 発明（ノウハウも含む）等の報告方法
5 権利者の決定方法 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法
7 秘密保持契約 8 知財規程の整備や知財委員会の設置

- 9 外部有識者の参加 10 その他

その他記述欄 □

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q7. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定>

- 1 先生ご自身 2 他大学 3 産総研等の研究開発独法 4 企業 5 法人・組合
6 NEDO 担当部署 7 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
8 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
9 原則としてプロジェクトに参加した機関の協議制
10 原則としてプロジェクトに参加した各機関の自主判断

<参画機関間の意見調整>

- 1 先生ご自身 2 他大学 3 産総研等の研究開発独法 4 企業 5 法人・組合
6 NEDO 担当部署 7 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
8 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
9 原則としてプロジェクトに参加した機関の協議制
10 原則としてプロジェクトに参加した各機関の自主判断

Q8. プロジェクトにおいて、企業との連携はございましたか。

- 1 あり 2 なし

Q9. Q8で「1 あり」を選択された方に伺います。

<連携先企業との関係>

- 1 プロジェクトに参加する前から交流があった企業
2 プロジェクトがきっかけとなって交流が始まった企業

<企業側のプロジェクト参加の狙いを正確に把握していましたか>

- 1 正確に把握していた 2 一部把握していた
3 一部把握していなかった 4 把握していなかった

<連携先企業の開発責任者と必要十分な意見交換ができていましたか>

プロジェクト開始時

- 1 必要十分な意見交換ができた 2 ある程度の意見交換はできていた
3 更なる意見交換が必要であった 4 ほとんど無し

プロジェクト実施中

- 1 必要十分な意見交換ができた
- 2 ある程度の意見交換はできていた
- 3 更なる意見交換が必要であった
- 4 ほとんど無し

プロジェクト終了時

- 1 必要十分な意見交換ができた
- 2 ある程度の意見交換はできていた
- 3 更なる意見交換が必要であった
- 4 ほとんど無し

<企業と連携を促すためにどのようなマネジメントを行いましたか>

記述欄

<企業と連携して良かった点、課題点について具体的にご記入下さい>

良かった点

課題点

Q10. Q8 で「2 なし」を選択された方に伺います。NEDO プロジェクト成果の製品化・上市を目的とした民間企業への技術移転を予定していますか。

- 1 1年以内に技術移転を行う予定である。
- 2 2年～5年以内に技術移転を行う予定である。
- 3 技術移転を行いたいが、移転先企業が未定である。
- 4 技術移転を行う予定はない。

Q11. JST や科研費等の他制度と比較して研究開発の進め方（経理処理は除く）に違いはありましたか。具体的な理由とともにお答え下さい。【複数回答可】

- 1 JST の A-STEP や S-イノベと同じ
- 2 JST の ERATO や CREST、さきがけと同じ
- 3 科研費と同じ
- 4 他の研究開発制度と同じ
- 5 全く異なっていた
- 6 NEDO 以外の研究開発制度を利用した経験は無い

具体的な理由

Q12. NEDO プロジェクトへの参加において重要視しているものについて教えて下さい。【複数回答可】

- 1 基礎研究の充実
- 2 研究開発成果の実用化
- 3 新たな現象の発見
- 4 予算獲得
- 5 論文発表
- 6 特許取得
- 7 メカニズム解明
- 8 分析／解析／評価手法の確立
- 9 データベース構築
- 10 企業との共同研究
- 11 他大学や研究開発独法との共同研究
- 12 企業のサポート研究
- 13 ベンチャー企業設立
- 14 技術移転
- 15 その他

その他記述欄 □

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q13. NEDO の担当者との打ち合わせ頻度について教えてください。

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

Q14. NEDO の担当者とは、普段、どのような協議をされておりましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
2 予算要求・予算配分の折衝 3 中間・事後評価に係る対応
4 資産処分に係る対応 5 各種提出書類に係る対応 6 他機関との利害調整
7 法規制に係る協議
8 事業化シナリオの方向性検討 9 研究開発の方向性検討
10 知的財産等の取り扱いに係る検討 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈） 13 市場に関するアドバイス
14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で主要な項目）

その他記述欄 □

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
2 予算要求・予算配分の折衝 3 中間・事後評価に係る対応
4 資産処分に係る対応 5 各種提出書類に係る対応 6 他機関との利害調整
7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討 9 研究開発の方向性検討
10 知的財産等の取り扱いに係る検討 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈） 13 市場に関するアドバイス
14 宣伝・広報 18 その他（上記以外で重要な項目）

その他記述欄 □

【NEDO への要望について伺います】

Q15. NEDO や国への要望がございましたら具体的にご記入下さい。

記述欄 □

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 -NEDO プロジェクト実用化ドキュメント-

おかげさまで、6年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 27 年度 終了直後調査票（大学、法人、研究機関等）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄

Q2. プロジェクトで得られた知見や成果を利用した継続的な研究開発を実施していますか。

- 1 継続実施している 2 継続実施していない

<上記で「1 継続実施している」を選択した方は、研究開発のテーマ名についてご記入ください>

記述欄

<上記で「1 継続実施している」を選択した方は、現在の研究開発状況をお答え下さい> **【複数選択可】**

- 1 NEDO プロジェクト連携先企業との共同研究 2 NEDO プロジェクト外の企業との共同研究
3 他の公的資金を活用して研究開発を継続 4 独自資金で研究開発を継続
5 成果受け入れ先企業の探索中 6 その他

他の公的資金を活用されている場合、所管する国・省庁・独法名、及び制度名・プロジェクト名をご記入下さい。

記述欄

その他記述欄

<上記で「2 継続実施していない」を選択した方は、その理由をお答え下さい> **【複数選択可】**

- 1 研究開発目的を達成 2 技術課題の克服が困難 3 研究開発資金が確保できなかったため
4 共同研究先が研究開発を中止したため 5 その他

その他記述欄

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q3. NEDO プロジェクトで目指した研究開発以外への波及効果について

<波及効果の有無>

- 1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先>【複数回答可】

- 1 NEDO プロジェクトとは異なる既存研究テーマへの展開 2 新規研究テーマの立ち上げ
3 人材育成 4 新たなネットワークの構築 5 公的資金獲得
6 企業とのコミュニケーション円滑化 7 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q4. NEDO プロジェクトへの参加経験は何回目でしたか。

- 1 初めて 2 2回目 3 3回目 4 4回目 5 5回目以上

Q5. プロジェクトにおけるご自身の研究開発における役割は何でしたか。【複数回答可】

- 1 企業のサポート研究 2 アドバイザー 3 分析／解析／評価 4 メカニズム解明
5 技術移転元（シーズ技術やコア技術を保有） 6 材料等の探索研究 7 基礎データ取得
8 プロセス設計 9 装置開発 10 ソフト開発 11 データベース構築（データ取得）
12 標準化や知的基盤整備 13 リーダーとしての全体統括 14 その他

その他記述欄

Q6. 連携した他機関と知的財産等の取り扱いに関するルール策定や検討は行いましたか。

<ルール策定や検討の有無>

- 1 行った 2 行っていない

<知的財産等の取り扱い内容>【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP（プロジェクトに参加する前から保有していた特許）の取り扱い
2 フォアグラウンド IP（プロジェクトの成果により得られた特許）の取り扱い
3 研究ノートの管理方法 4 発明（ノウハウも含む）等の報告方法
5 権利者の決定方法 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法 7 秘密保持契約
8 知財規程の整備や知財委員会の設置 9 外部有識者の参加 10 その他

その他記述欄

<検討したタイミング（見直し含む）>【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q7. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定>

- 1 先生ご自身
- 2 他大学
- 3 産総研等の研究開発独法
- 4 企業
- 5 法人・組合
- 6 NEDO 担当部署
- 7 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
- 8 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
- 9 原則としてプロジェクトに参加した機関の協議制
- 10 原則としてプロジェクトに参加した各機関の自主判断

<参画機関間の意見調整>

- 1 先生ご自身
- 2 他大学
- 3 産総研等の研究開発独法
- 4 企業
- 5 法人・組合
- 6 NEDO 担当部署
- 7 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
- 8 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
- 9 原則としてプロジェクトに参加した機関の協議制
- 10 原則としてプロジェクトに参加した各機関の自主判断

Q8. プロジェクトにおいて、企業との連携はございましたか。

- 1 あり
- 2 なし

Q9. Q8で「1 あり」を選択された方に伺います。

<連携先企業との関係>

- 1 プロジェクトに参加する前から交流があった企業
- 2 プロジェクトがきっかけとなって交流が始まった企業

<企業側のプロジェクト参加の狙いを正確に把握していましたか>

- 1 正確に把握していた
- 2 ほとんど把握していた
- 3 一部把握していた
- 4 把握していなかった

<連携先企業の開発責任者と必要十分な意見交換ができていましたか>

プロジェクト開始時

- 1 必要十分な意見交換ができた
- 2 ある程度の意見交換はできていた
- 3 更なる意見交換が必要であった
- 4 ほとんど無し

プロジェクト実施中

- 1 必要十分な意見交換ができた
- 2 ある程度の意見交換はできていた
- 3 更なる意見交換が必要であった
- 4 ほとんど無し

プロジェクト終了時

- 1 必要十分な意見交換ができた
- 2 ある程度の意見交換はできていた
- 3 更なる意見交換が必要であった
- 4 ほとんど無し

<企業と連携して良かった点、課題点について具体的にご記入下さい>

良かった点

課題点

Q10. Q8 で「2 なし」を選択された方に伺います。NEDO プロジェクト成果の製品化・上市を目的とした民間企業への技術移転を予定していますか。

- 1 1年以内に技術移転を行う予定である 2 2年～5年以内に技術移転を行う予定である
3 技術移転を行いたいが、移転先企業が未定である 4 技術移転を行う予定はない

Q11. JST や科研費等の他制度と比較して研究開発の進め方（経理処理は除く）に違いはありましたか。具体的な理由とともにお答え下さい。【複数回答可】

- 1 JST の A-STEP や S-イノベと同じ 2 JST の ERATO や CREST、さきがけと同じ
3 科研費と同じ 4 他の研究開発制度と同じ 5 全く異なっていた
6 NEDO 以外の研究開発制度を利用した経験は無い

具体的な理由

Q12. NEDO プロジェクトへの参加において重要視しているものについて教えて下さい。【複数回答可】

- 1 基礎研究の充実 2 研究開発成果の実用化 3 新たな現象の発見 4 予算獲得
5 論文発表 6 特許取得 7 メカニズム解明 8 分析／解析／評価手法の確立
9 データベース構築 10 企業との共同研究 11 他大学や研究開発独法との共同研究
12 企業のサポート研究 13 ベンチャー企業設立 14 技術移転 15 その他

その他記述欄

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q13. NEDO の担当者との打ち合わせ頻度について教えて下さい。

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

Q14. NEDO の担当者とは、普段、どのような協議をされていきましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応 5 各種提出書類に係る対応
6 他機関との利害調整 7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討

- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で主要な項目）

その他記述欄

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応 5 各種提出書類に係る対応
6 他機関との利害調整 7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で主要な項目）

その他記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q15. NEDO や国への要望がございましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 **—NEDO プロジェクト実用化ドキュメント—**

おかげさまで、7年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

平成 28 年度 終了直後調査票 (大学、法人、研究機関等)

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 当該プロジェクトで取得した全ての知的財産 (知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます) を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 _____

Q2. プロジェクトで得られた知見や成果を利用した継続的な研究開発を実施していますか。

- 1 継続実施している 2 継続実施していない

<上記で「1 継続実施している」を選択した方は、研究開発のテーマ名についてご記入ください>

記述欄 _____

<上記で「1 継続実施している」を選択した方は、現在の研究開発状況をお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 NEDO プロジェクト連携先企業との共同研究 2 NEDO プロジェクト外の企業との共同研究
3 他の公的資金を活用して研究開発を継続 4 独自資金で研究開発を継続
5 成果受け入れ先企業の探索中 6 その他 _____

<他の公的資金を活用されている場合、所管する国・省庁・独法名、及び制度名・プロジェクト名をご記入下さい。>

記述欄 _____

<上記で「2 継続実施していない」を選択した方は、その理由をお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 研究開発目的を達成 2 技術課題の克服が困難 3 研究開発資金が確保できなかったため
4 共同研究先が研究開発を中止したため 5 その他 _____

Q3. 研究開発データ (論文や特許として公開されない実験データやノウハウの記録) についてお伺いします。

<保管状況>

- 1 すべて保管している 2 一部保管している 3 破棄した

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管方法についてご教示ください。>

- 1 全組織的なサーバーに保管され、組織内で広く活用できる仕組みとなっている
2 所属部署・研究室ごとのサーバーに保管され、その範囲内で活用できる仕組みとなっている
3 専用サーバーに保管され、特定の者のみが活用できる仕組みとなっている
4 研究者 (技術者) が個人で保管している
5 詳細は把握していない
6 その他

<その他記述欄> □

<上記で「2 一部保管している」「3 破棄した」と回答した方に伺います。破棄理由についてご教示ください。>

- 1 契約で、終了時に委託元に全部、または、一部譲渡することになっていた
- 2 データ量が多かったため、重要なデータのみを残した
- 3 重要なデータがないため破棄した
- 4 活用されないまま一定期間を経過したため、破棄した。
- 5 所属機関内に保管方法に関するルールが無く、一部しか保管していない、または、全部破棄した
- 6 適切な引継ぎがなされなかったため、所在が不明である。
- 7 その他

<その他記述欄>

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q4. NEDO プロジェクトで目指した研究開発以外への波及効果について

<波及効果の有無>

- 1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 NEDO プロジェクトとは異なる既存研究テーマへの展開 2 新規研究テーマの立ち上げ
3 人材育成 4 新たなネットワークの構築 5 公的資金獲得
6 企業とのコミュニケーション円滑化 7 その他 _____

<具体的な波及効果>

記述欄 _____

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q5. NEDO プロジェクトへの参加経験は何回目でしたか。

- 1 初めて 2 2回目 3 3回目 4 4回目 5 5回目以上

Q6. プロジェクトにおけるご自身の研究開発における役割は何でしたか。【複数回答可】

- 1 企業のサポート研究 2 アドバイザー 3 分析／解析／評価 4 メカニズム解明
5 技術移転元（シーズ技術やコア技術を保有） 6 材料等の探索研究 7 基礎データ取得
8 プロセス設計 9 装置開発 10 ソフト開発 11 データベース構築（データ取得）
12 標準化や知的基盤整備 13 リーダーとしての全体統括 14 その他 _____

Q7. 連携した他機関と知的財産等の取り扱いに関するルール策定や検討は行いましたか。

<ルール策定や検討の有無>

- 1 行った 2 行っていない

<知的財産等の取り扱い内容>【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP (プロジェクトに参加する前から保有していた特許) の取り扱い
- 2 フォアグラウンド IP (プロジェクトの成果により得られた特許) の取り扱い
- 3 研究ノートの管理方法
- 4 発明 (ノウハウも含む) 等の報告方法
- 5 権利者の決定方法
- 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法
- 7 秘密保持契約
- 8 知財規程の整備や知財委員会の設置
- 9 外部有識者の参加
- 10 その他 _____

<検討したタイミング (見直し含む) >【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後

Q8. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定>

- 1 先生ご自身
- 2 他大学
- 3 産総研等の研究開発独法
- 4 企業
- 5 法人・組合
- 6 NEDO 担当部署
- 7 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)
- 8 外部有識者 (プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む)
- 9 原則としてプロジェクトに参加した機関の協議制
- 10 原則としてプロジェクトに参加した各機関の自主判断

<参画機関間の意見調整>

- 1 先生ご自身
- 2 他大学
- 3 産総研等の研究開発独法
- 4 企業
- 5 法人・組合
- 6 NEDO 担当部署
- 7 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)
- 8 外部有識者 (プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む)
- 9 原則としてプロジェクトに参加した機関の協議制
- 10 原則としてプロジェクトに参加した各機関の自主判断

Q9. プロジェクトにおいて、企業との連携はございましたか。

- 1 あり
- 2 なし

Q10. Q9で「1 あり」を選択された方に伺います。

<連携先企業との関係>

- 1 プロジェクトに参加する前から交流があった企業
- 2 プロジェクトがきっかけとなって交流が始まった企業

<企業側のプロジェクト参加の狙いを正確に把握していましたか>

- 1 正確に把握していた
- 2 ほとんど把握していた
- 3 一部把握していた
- 4 把握していなかった

<連携先企業の開発責任者と必要十分な意見交換ができていましたか>

<プロジェクト開始時>

- 1 必要十分な意見交換ができた
- 2 ある程度の意見交換はできていた
- 3 更なる意見交換が必要であった
- 4 ほとんど無し

<プロジェクト実施中>

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 必要十分な意見交換ができた | 2 ある程度の意見交換はできていた |
| 3 更なる意見交換が必要であった | 4 ほとんど無し |

<プロジェクト終了時>

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 必要十分な意見交換ができた | 2 ある程度の意見交換はできていた |
| 3 更なる意見交換が必要であった | 4 ほとんど無し |

<企業と連携して良かった点、課題点について具体的にご記入下さい>

良かった点 _____
課題点 _____

Q11. Q9 で「2 なし」を選択された方に伺います。NEDO プロジェクト成果の製品化・上市を目的とした民間企業への技術移転を予定していますか。

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 1年以内に技術移転を行う予定である | 2 2年～5年以内に技術移転を行う予定である |
| 3 技術移転を行いたい、移転先企業が未定である | 4 技術移転を行う予定はない |

Q12. JST や科研費等の他制度と比較して研究開発の進め方（経理処理は除く）に違いはありましたか。具体的な理由とともにお答え下さい。【複数回答可】

- | | | |
|----------------------------|-------------------------------|------------|
| 1 JST の A-STEP や S-イノベと同じ | 2 JST の ERATO や CREST、さきがけと同じ | |
| 3 科研費と同じ | 4 他の研究開発制度と同じ | 5 全く異なっていた |
| 6 NEDO 以外の研究開発制度を利用した経験は無い | | |

具体的な理由 _____

Q13. NEDO プロジェクトへの参加において重要視しているものについて教えて下さい。【複数回答可】

- | | | | |
|---------------------|--------------|--------------|-----------|
| 1 基礎研究の充実 | 2 研究開発成果の実用化 | 3 新たな現象の発見 | |
| 4 予算獲得 | 5 論文発表 | 6 特許取得 | 7 メカニズム解明 |
| 8 分析／解析／評価手法の確立 | 9 データベース構築 | 10 企業との共同研究 | |
| 11 他大学や研究開発独法との共同研究 | 12 企業のサポート研究 | | |
| 13 ベンチャー企業設立 | 14 技術移転 | 15 その他 _____ | |

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q14. NEDO の担当者との打ち合わせ頻度について教えて下さい。

- | | | | | |
|-----------|---------|------------|-----------|----------|
| 1 週1回以上 | 2 月1回以上 | 3 3ヶ月に1回以上 | 4 半年に1回以上 | |
| 5 1年に1回以上 | | | | 6 ほとんど無し |

Q15. NEDO の担当者とは、普段、どのような協議をされていましたか。また、何をやって欲しかったですか。

< 普段の協議内容 > 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 13 市場に関するアドバイス
- 14 宣伝・広報
- 15 その他（上記以外で主要な項目） _____

< やって欲しかったこと > 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 13 市場に関するアドバイス
- 14 宣伝・広報
- 15 その他（上記以外で主要な項目） _____

【NEDO への要望について伺います】

Q16. NEDO や国への要望がございましたら具体的にご記入下さい。

記述欄 _____

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 -NEDO プロジェクト実用化ドキュメント-

おかげさまで、8年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 29 年度 終了直後調査票（大学、法人、研究機関等）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 当該プロジェクトで取得した全ての知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）のうち全てを第三者に譲渡している場合（一部承継もしくは譲渡と除く）には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 _____

Q2. プロジェクトで得られた知見や成果を利用した継続的な研究開発を実施していますか。

- 1 継続実施している 2 継続実施していない

<上記で「1 継続実施している」を選択した方は、研究開発のテーマ名についてご記入ください>

記述欄 _____

<上記で「1 継続実施している」を選択した方は、現在の研究開発状況をお答え下さい>【複数選択可】

- 1 NEDO プロジェクト連携先企業との共同研究 2 NEDO プロジェクト外の企業との共同研究
3 他の公的資金を活用して研究開発を継続 4 独自資金で研究開発を継続
5 成果受け入れ先企業の探索中 6 その他 _____

<他の公的資金を活用されている場合、所管する国・省庁・独法名、及び制度名・プロジェクト名をご記入下さい。>

記述欄 _____

<上記で「2 継続実施していない」を選択した方は、その理由をお答え下さい>【複数選択可】

- 1 研究開発目的を達成 2 技術課題の克服が困難 3 研究開発資金が確保できなかったため
4 共同研究先が研究開発を中止したため 5 その他 _____

Q3. 研究開発データ（論文や特許として公開されない実験データやノウハウの記録）についてお伺いします。

<保管状況>

- 1 すべて保管している 2 一部保管している 3 破棄した

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管目的についてご教示ください。>【複数選択可】

- 1 事業承継、譲渡、売却を想定して保管
2 他機関との共同研究で利用するために保管
3 ユーザーに開示するために保管
4 組織横断的に蓄積・分析する（次のアイデア発掘等）ために保管

- 5 組織内の別部門で利用するために保管
- 6 論文や特許の直接のエビデンスではないが、関連するため保管
- 7 研究を継続するために保管
- 8 目的・用途はないが保管

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管方法についてご教示ください。>

- 1 全組織的なサーバーに保管され、組織内で広く活用できる仕組みとなっている
- 2 所属部署・研究室ごとのサーバーに保管され、その範囲内で活用できる仕組みとなっている
- 3 専用サーバーに保管され、特定の者のみが活用できる仕組みとなっている
- 4 研究者(技術者)が個人で保管している
- 5 詳細は把握していない

<上記で保管されたデータが組織内で活用された事例があれば具体的にご記入下さい。>

記述欄

<上記で「2 一部保管している」「3 破棄した」と回答した方に伺います。破棄理由についてご教示ください。>

- 1 契約で、終了時に委託元に全部、または、一部譲渡することになっていた
- 2 データ量が多かったため、重要なデータのみを残した
- 3 重要なデータがないため破棄した
- 4 活用されないまま一定期間を経過したため、破棄した。
- 5 所属機関内に保管方法に関するルールが無く、一部しか保管していない、または、全部破棄した
- 6 適当な引継ぎがなされなかったため、所在が不明である。
- 7 その他

<その他記述欄>

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q4. NEDO プロジェクトで目指した研究開発以外への波及効果について

<波及効果の有無>

- 1 あった
- 2 なかった

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 NEDO プロジェクトとは異なる既存研究テーマへの展開
- 2 新規研究テーマの立ち上げ
- 3 人材育成
- 4 新たなネットワークの構築
- 5 公的資金獲得
- 6 企業とのコミュニケーション円滑化
- 7 その他 _____

<具体的な波及効果>

記述欄 _____

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q5. NEDO プロジェクトへの参加経験は何回目でしたか。

- 1 初めて 2 2回目 3 3回目 4 4回目 5 5回目以上

Q6. プロジェクトにおけるご自身の研究開発における役割は何でしたか。【複数回答可】

- 1 企業のサポート研究 2 アドバイザー 3 分析／解析／評価 4 メカニズム解明
5 技術移転元（シーズ技術やコア技術を保有） 6 材料等の探索研究 7 基礎データ取得
8 プロセス設計 9 装置開発 10 ソフト開発 11 データベース構築（データ取得）
12 標準化や知的基盤整備 13 リーダーとしての全体統括 14 その他 _____

Q7. 当該 NEDO プロジェクトにおける、参加機関間での知的財産等の取り扱いについて伺います。

<ルール策定や検討の有無>

- 1 取扱いに係るルール等があった。（協議による合意、あるいは、リーダー等からの指示のいずれかを問わず）
2 一般的なルールはなく、個別に対応した。
3 規則の必要性すら検討されなかった。

<知的財産等の取り扱い内容> 【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP（プロジェクトに参加する前から保有していた特許）の取り扱い
2 フォアグラウンド IP（プロジェクトの成果により得られた特許）の取り扱い
3 研究ノートの管理方法 4 発明（ノウハウも含む）等の報告方法
5 権利者の決定方法 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法 7 秘密保持契約
8 知財規程の整備や知財委員会の設置 9 外部有識者の参加 10 その他 _____

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q8. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定>

- 1 先生ご自身 2 他大学 3 産総研等の研究開発独法 4 企業 5 法人・組合
6 NEDO 担当者 7 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
8 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
9 原則としてプロジェクトに参加した機関の協議制

10 原則としてプロジェクトに参加した各機関の自主判断

<参画機関間の意見調整>

- 1 先生ご自身
- 2 他大学
- 3 産総研等の研究開発独法
- 4 企業
- 5 法人・組合
- 6 NEDO 担当者
- 7 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
- 8 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
- 9 原則としてプロジェクトに参加した機関の協議制
- 10 原則としてプロジェクトに参加した各機関の自主判断

Q9. プロジェクトにおいて、企業との連携はございましたか。

- 1 あり
- 2 なし

Q10. Q9 で「1 あり」を選択された方に伺います。

<連携先企業との関係>

- 1 プロジェクトに参加する前から交流があった企業
- 2 プロジェクトがきっかけとなって交流が始まった企業

<企業側のプロジェクト参加の狙いを正確に把握していましたか>

- 1 正確に把握していた
- 2 ほとんど把握していた
- 3 一部把握していた
- 4 把握していなかった

<連携先企業の開発責任者と必要十分な意見交換ができていましたか>

<プロジェクト開始時>

- 1 必要十分な意見交換ができた
- 2 ある程度の意見交換はできていた
- 3 更なる意見交換が必要であった
- 4 ほとんど無し

<プロジェクト実施中>

- 1 必要十分な意見交換ができた
- 2 ある程度の意見交換はできていた
- 3 更なる意見交換が必要であった
- 4 ほとんど無し

<プロジェクト終了時>

- 1 必要十分な意見交換ができた
- 2 ある程度の意見交換はできていた
- 3 更なる意見交換が必要であった
- 4 ほとんど無し

<企業と連携して良かった点、課題点について具体的にご記入下さい>

良かった点 _____
課題点 _____

Q11. Q9 で「2 なし」を選択された方に伺います。NEDO プロジェクト成果の製品化・上市を目的とした民間企業への技術移転を予定していますか。

- 1 1年以内に技術移転を行う予定である 2 2年～5年以内に技術移転を行う予定である
 3 技術移転を行いたい、移転先企業が未定である 4 技術移転を行う予定はない

Q12. JST や科研費等の他制度と比較して研究開発の進め方（経理処理は除く）に違いはありましたか。具体的な理由とともにお答え下さい。【複数回答可】

- 1 JST の A-STEP や S-イノベと同じ 2 JST の ERATO や CREST、さきがけと同じ
 3 科研費と同じ 4 他の研究開発制度と同じ 5 全く異なっていた
 6 NEDO 以外の研究開発制度を利用した経験は無い

具体的な理由 _____

Q13. NEDO プロジェクトへの参加において重要視しているものについて教えて下さい。【複数回答可】

- 1 基礎研究の充実 2 研究開発成果の実用化 3 新たな現象の発見
 4 予算獲得 5 論文発表 6 特許取得 7 メカニズム解明
 8 分析／解析／評価手法の確立 9 データベース構築 10 企業との共同研究
 11 他大学や研究開発独法との共同研究 12 企業のサポート研究
 13 ベンチャー企業設立 14 技術移転 15 その他 _____

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q14. NEDO 担当者のマネジメントに対する満足度はどれくらいでしたか。

- 1 100点 2 80点 3 60点 4 40点 5 20点以下

具体的な理由 _____

Q15. NEDO 担当者との打合せ頻度について教えて下さい。

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
 5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

Q16. NEDO 担当者とは、普段、どのような協議をされておりましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
 3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応 5 各種提出書類に係る対応
 6 他機関との利害調整 7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
 9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
 11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
 13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で主要な項目） _____

<上記、協議のうち、特に有益であった事項について具体的にご記載ください。>

記述欄 _____

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 13 市場に関するアドバイス
- 14 宣伝・広報
- 15 その他（上記以外で主要な項目） _____

【NEDO への要望について伺います】

Q17. NEDO や国への要望がございましたら具体的にご記入下さい。

記述欄 _____

【NEDO からのお知らせ】

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画

「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

おかげさまで、9年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

また、NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について取り纏めた

「NEDO インサイド製品 2017 ～身近なところに NEDO 技術～」

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

も公開しておりますので、是非、ご覧ください。

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成30年度 終了直後調査票（制度、大学、法人、研究機関版）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に承継もしくは譲渡している場合には、「具体的な状況」、「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入ください。

記述欄 _____

Q2. プロジェクトで得られた知見や成果を利用した継続的な研究開発を実施していますか。

- 1 継続実施している 2 継続実施していない

<上記で「1 継続実施している」を選択された方は、研究開発のテーマ名についてご記入ください。

>

記述欄 _____

<上記で「1 継続実施している」を選択した場合、現在の研究開発体制をご回答ください。> 【複数回答可】

- 1 独自で研究開発を継続
- 2 ベンチャー企業を設立して推進
- 3 NEDO プロジェクトメンバー（大学・公的研究機関）との共同開発を推進
- 4 NEDO プロジェクトメンバー（企業）との共同開発を推進
- 5 NEDO プロジェクトメンバー外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 6 海外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 7 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進
- 8 既設のコンソーシアムに参加して推進
- 9 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進
- 10 成果受け入れ先企業の探索中
- 11 その他 _____

<「7 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進」「8 既設のコンソーシアムに参加して推進」「9 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進」を選択された方は、コンソーシアム・プロジェクトの名称をご記入ください。>

記述欄 _____

<上記で「2 継続実施していない」を選択した場合、その理由として当てはまるものをご回答ください。> 【複数回答可】

- 1 研究開発目的を達成
- 2 技術課題の克服が困難

- 3 研究開発資金が確保できなかったため。
- 4 共同研究先が研究開発を中止したため。
- 5 その他 _____

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q3. NEDO プロジェクトで目指した研究開発以外への波及効果について伺います。

<波及効果の有無>

- 1 あった
- 2 なかった

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 NEDO プロジェクトとは異なる既存研究テーマへの展開
- 2 新規研究テーマの立ち上げ
- 3 人材育成
- 4 新たなネットワークの構築
- 5 公的資金獲得
- 6 企業とのコミュニケーション円滑化
- 7 その他 _____

Q4. 当該プロジェクトに参加した研究員に対する人材育成効果について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 当該プロジェクトの成果をもとに博士号を取得した人材を輩出した。
- 2 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、新たな研究開発プロジェクト・テーマ（機関内外問わず）を企画した。
- 3 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト・テーマ（機関内外問わず）でリーダーを務めた。
- 4 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト・テーマ（機関内外問わず）で事業化を成し遂げた。
- 5 特になし
- 6 その他 _____

【参加頂いたプロジェクトの制度設計について伺います】

Q5. 本制度の公募情報はどのように知りましたか。当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 NEDO ホームページ
- 2 NEDO メール配信サービス
- 3 NEDO 主催の展示会・イベント
- 4 NEDO 担当者からの連絡
- 5 経済産業省や地域の経済産業局による広報（ホームページ、メールマガジン等）

- 6 業界団体等からの紹介
- 7 経営層の指示（トップダウン）
- 8 外部（大学、経済産業省、他）からの紹介
- 9 もともと知っていた
- 10 その他 _____

Q6. 本制度の下記項目について、最も当てはまるものをご回答ください。

	適切であった	一部、不適切であった	不適切であった
申請書の作成に係る負荷			<input checked="" type="radio"/>
採択審査プロセス			
経費執行に係る負荷、融通性			
研究開発期間			
研究開発費用（規模、負担率）			<input checked="" type="radio"/>
計画変更に係る柔軟性			
中間評価・ステージゲート評価			
事務手続きの量			

Q7. 上記を踏まえたうえで、本制度に対する総合的な満足度として、最も当てはまるものをご回答ください。

- 1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q8. 本制度の改善に繋がるご意見・要望等ございましたらご記入ください。

記述欄 _____

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q9. NEDO プロジェクトへの参加経験は何回目でしたか。

- 1 初めて 2 2回目 3 3回目 4 4回目 5 5回目以上

Q10. 当該プロジェクトにおけるご自身の役割について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 企業のサポート研究
- 2 アドバイザー
- 3 分析／解析／評価
- 4 メカニズム解明
- 5 技術移転元（シーズ技術やコア技術を保有）
- 6 材料等の探索研究

- 7 基礎データ取得
- 8 プロセス設計
- 9 装置開発
- 10 ソフト開発
- 11 データベース構築（データ取得）
- 12 標準化や知的基盤整備
- 13 リーダーとしての全体統括
- 14 その他 _____

Q11. NEDO プロジェクトへの参加において重要視しているものについて教えてください。【複数回答可】

- 1 基礎研究の充実
- 2 研究開発成果の実用化
- 3 新たな現象の発見
- 4 予算獲得
- 5 論文発表
- 6 特許取得
- 7 メカニズム解明
- 8 分析／解析／評価手法の確立
- 9 データベース構築
- 10 企業との共同研究
- 11 他大学や研究開発独法との共同研究
- 12 企業のサポート研究
- 13 ベンチャー企業設立
- 14 技術移転
- 15 その他 _____

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q12. NEDO 担当者のマネジメントに対する満足度はどれくらいでしたか。

- 1 100点
- 2 80点
- 3 60点
- 4 40点
- 5 20点以下

Q13. NEDO 担当者との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

Q14. NEDO 担当者とは、普段、どのような協議をされていましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）

- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 国内外の技術開発動向
- 13 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 14 市場に関するアドバイス
- 15 宣伝・広報
- 16 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 17 その他（上記以外で主要な項目） _____

<やっけて欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 国内外の技術開発動向
- 13 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 14 市場に関するアドバイス
- 15 宣伝・広報
- 16 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 17 その他（上記以外で主要な項目） _____

Q15. 本追跡アンケート調査及び NEDO における評価活動についてのご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、

「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2018」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

2019年度 終了直後調査票（制度，大学，法人，研究機関版）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に承継もしくは譲渡している場合には、「具体的な状況」、「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入ください。

記述欄 _____

Q2. プロジェクトで得られた知見や成果を利用した継続的な研究開発を実施していますか。

- 1 継続実施している 2 継続実施していない

<上記で「1 継続実施している」を選択された方は、研究開発のテーマ名についてご記入ください。

>

記述欄 _____

<上記で「1 継続実施している」を選択した場合、現在の研究開発体制をご回答ください。> 【複数回答可】

- 1 独自で研究開発を継続
- 2 ベンチャー企業を設立して推進
- 3 NEDO プロジェクトメンバー（大学・公的研究機関）との共同開発を推進
- 4 NEDO プロジェクトメンバー（企業）との共同開発を推進
- 5 NEDO プロジェクトメンバー外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 6 海外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 7 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進
- 8 既設のコンソーシアムに参加して推進
- 9 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進
- 10 成果受け入れ先企業の探索中
- 11 その他 _____

<「7 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進」「8 既設のコンソーシアムに参加して推進」「9 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進」を選択された方は、コンソーシアム・プロジェクトの名称をご記入ください。>

記述欄 _____

<上記で「2 継続実施していない」を選択した場合、その理由として当てはまるものをご回答ください。> 【複数回答可】

- 1 研究開発目的を達成
- 2 技術課題の克服が困難

- 3 研究開発資金が確保できなかったため。
- 4 共同研究先が研究開発を中止したため。
- 5 その他 _____

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q3. NEDO プロジェクトで目指した研究開発以外への波及効果について伺います。

<波及効果の有無>

- 1 あった
- 2 なかった

<波及効果の適用先>【複数回答可】

- 1 NEDO プロジェクトとは異なる既存研究テーマへの展開
- 2 新規研究テーマの立ち上げ
- 3 人材育成
- 4 新たなネットワークの構築
- 5 公的資金獲得
- 6 企業とのコミュニケーション円滑化
- 7 その他 _____

Q4. 当該プロジェクトに参加した研究員に対する人材育成効果について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、新たな研究開発プロジェクト・テーマ（機関内外問わず）を企画した。
- 2 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト・テーマ（機関内外問わず）でリーダーを務めた。
- 3 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト・テーマ（機関内外問わず）で事業化を成し遂げた。
- 4 当該プロジェクトの成果をもとに博士号を取得した人材を輩出した。
- 5 特になし
- 6 その他 _____

【参加頂いたプロジェクトの制度設計について伺います】

Q5. 本制度の公募情報はどのように知りましたか。当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 NEDO ホームページ
- 2 NEDO メール配信サービス
- 3 NEDO 主催の展示会・イベント
- 4 NEDO 担当者からの連絡
- 5 経済産業省や地域の経済産業局による広報（ホームページ、メールマガジン等）

- 6 業界団体等からの紹介
- 7 経営層の指示（トップダウン）
- 8 外部（大学、経済産業省、他）からの紹介
- 9 もともと知っていた
- 10 その他 _____

Q6. 本制度の下記項目について、最も当てはまるものをご回答ください。

	適切であった	一部、不適切であった	不適切であった
申請書の作成に係る負荷			<input checked="" type="checkbox"/>
採択審査プロセス			
経費執行に係る負荷、融通性			
研究開発期間			
研究開発費用（規模、負担率）			<input checked="" type="checkbox"/>
計画変更に係る柔軟性			
中間評価・ステージゲート評価			
事務手続きの量			

Q7. 上記を踏まえたうえで、本制度に対する総合的な満足度として、最も当てはまるものをご回答ください。

- 1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q8. 本制度の改善に繋がるご意見・要望等ございましたらご記入ください。

記述欄 _____

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q9. NEDO プロジェクトへの参加経験は何回目でしたか。

- 1 初めて 2 2回目 3 3回目 4 4回目 5 5回目以上

Q10. 当該プロジェクトにおけるご自身の役割について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 企業のサポート研究
- 2 アドバイザー
- 3 分析／解析／評価
- 4 メカニズム解明
- 5 技術移転元（シーズ技術やコア技術を保有）
- 6 材料等の探索研究

- 7 基礎データ取得
- 8 プロセス設計
- 9 装置開発
- 10 ソフト開発
- 11 データベース構築（データ取得）
- 12 標準化や知的基盤整備
- 13 リーダーとしての全体統括
- 14 その他 _____

Q11. NEDO プロジェクトへの参加において重要視しているものについて教えてください。【複数回答可】

- 1 基礎研究の充実
- 2 研究開発成果の実用化
- 3 新たな現象の発見
- 4 予算獲得
- 5 論文発表
- 6 特許取得
- 7 メカニズム解明
- 8 分析／解析／評価手法の確立
- 9 データベース構築
- 10 企業との共同研究
- 11 他大学や研究開発独法との共同研究
- 12 企業のサポート研究
- 13 ベンチャー企業設立
- 14 技術移転
- 15 その他 _____

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q12. NEDO 担当者のマネジメントに対する満足度はどれくらいでしたか。

- 1 100点
- 2 80点
- 3 60点
- 4 40点
- 5 20点以下

Q13. NEDO 担当者との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

Q14. NEDO 担当者とは、普段、どのような協議をされておりましたか。また、何をやって欲しかったですか。

< 普段の協議内容 > 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）

- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 国内外の技術開発動向
- 13 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 14 市場に関するアドバイス
- 15 宣伝・広報
- 16 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 17 その他（上記以外で主要な項目） _____

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 国内外の技術開発動向
- 13 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 14 市場に関するアドバイス
- 15 宣伝・広報
- 16 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 17 その他（上記以外で主要な項目） _____

Q15. 本追跡アンケート調査及び NEDO における評価活動についてのご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、

「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント（107 事例掲載）

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品（117 製品登録）

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2019」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

【簡易追跡調査票（制度）-企業】

NEDOプロジェクト名	
プロジェクト実施機関	

変更後の電話番号	
変更後のFAX番号	
変更後のE-mail	

【基本事項】

Q1. 貴社のプロジェクト参加期間をご記入下さい。

開始年度（西暦 ○○○○年）

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

終了年度（西暦 ○○○○年）

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

Q2. プロジェクトで得られた研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、知的財産※をライセンスもしくは譲渡している場合には、その状況と相手先の連絡先をご記入下さい。（※知的財産とは、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます。）

<状況>

1 事業継承または事業譲渡

回答欄

2 知的財産権のライセンスまたは譲渡

<ご参考>

前回のご回答

<連絡先---所属機関名/所属部署/役職/氏名/連絡先（郵便番号）/連絡先（住所）/電話番号/FAX番号/E-mail>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

【全般について】

Q3. 貴社の研究開発フェーズは、プロジェクト提案時と終了時においてどのような段階にありましたか。

<提案時点>

1 未着手
4 製品化段階

2 研究段階
5 上市段階

3 開発段階

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<終了時点>

1 未着手
4 製品化段階

2 研究段階
5 上市段階

3 開発段階

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

【参考】研究開発フェーズのイメージ

①研究段階：<活動の主体>---研究開発部門。<活動の内容>---基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）。<アウトプットイメージ>---社内レポート、特許、論文等。

②開発段階：<活動の主体>---研究開発部門。<活動の内容>---製品化/上市を視野に入れた研究（無償サンプル作成やユーザーへのマーケティング調査により、技術やコストの優位性、量産化技術の課題等について把握）。<アウトプットイメージ>---製品化/上市の判断材料となる研究結果等。

③製品化段階：<活動の主体>---事業部門。<活動の内容>---製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。<アウトプットイメージ>---有償サンプル、量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等

④上市段階：<活動の主体>---事業部門。<活動の内容>---市場での取引。<アウトプットイメージ>---製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q4. 当該研究開発の成果について、自社分のみの成果を自己評価するとすれば何点になりますか。

1 100点
4 10点以下

2 70点

3 40点

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q5. プロジェクトで得られた成果や知見を活用した継続的な研究開発を実施していますか。

1 実施している

2 実施していない

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q6. Q5の方針を決定するにあたり、最終的な意思決定者は誰ですか。

1 経営層（役員以上）
4 研究グループのリーダー

2 事業部門
5 その他

3 研究所や部門の長

<ご参考>

回答欄

前回のご回答

※Q5で「1 実施している」を選択された方はQ8へお進み下さい。

Q7. Q5で「2 実施していない」を選択した方に伺います。継続的な研究開発を実施しない旨の検討を始めた時期はいつ頃からですか。その具体的な理由や経緯とあわせてお答え下さい。

<検討を始めた時期>

- 1 プロジェクト提案前
4 プロジェクトの後半

- 2 プロジェクト開始直後
5 プロジェクト終了後

- 3 プロジェクトの中盤

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な理由や経緯>

- 1 技術課題の克服が困難
4 市場の変化・見込み違い
6 その他

- 2 コスト問題
5 経営戦略の変化

- 3 ユーザーニーズとの不一致

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

回答欄

<具体的な理由や経緯>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

※なお、理由や経緯が不明な場合は、別途、ご質問をさせて頂く場合があります。

※Q5で「2 実施していない」を選択された方はQ11へお進み下さい。

Q8. Q5で「1 実施している」を選択した方に伺います。継続実施している研究開発のテーマ名についてご記入下さい。
(例えば ○○技術を利用した○○装置の開発、○○技術の確立 など)

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q9. 貴社の研究開発フェーズは、現在どのような段階にありますか。

<現時点>

- 1 研究段階
4 上市段階

- 2 開発段階
5 中断又は中止

- 3 製品化段階

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

※Q9で「1 研究段階」または「2 開発段階」を選択された方はQ11へお進み下さい。

Q10. Q9で「3 製品化段階」または「4 上市段階」を選択した方に伺います。具体的な現在の状況についてお答え下さい。

<現在の状況>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

<出荷数量>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

<売り上げの有無>

1 あり

2 なし

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<売り上げの実績額（円）>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

<利益の有無>

1 あり

2 なし

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q11. プロジェクト終了後にNEDOから残存価格で取得した機械装置は、当該研究開発以外の用途でも有効的に活用されていますか。活用されている場合は、具体的な活用方法をご記入下さい。

<有効的な活用の有無>

1 活用している

2 活用していない

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な活用方法>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q12. 社内において、当該研究開発による技術的な波及効果はありますか。ある場合は、具体的な波及効果についてご記入下さい。

<波及効果の有無>

1 ある

2 ない

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<波及効果の基となったプロジェクトの成果（知識や経験、技術など）> 【複数回答可】

1 開発・製造技術

2 評価・試験技術

3 科学的知見・データ

4 その他

記述欄

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

1 既存事業の製品への組み込み

2 既存の生産プロセスにおける高効率化や低コスト化など

3 新規研究テーマの立ち上げ

4 その他

記述欄

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<具体的な波及効果>

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

【プロジェクトやNEDOのマネジメントに対する評価と改善点】

Q13. プロジェクトに対する満足度はどれくらいでしたか。

1 100点

2 70点

3 40点

4 10点以下

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<理由>

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

Q14. NEDOの担当者のマネジメントに対する満足度はどれくらいでしたか。

1 100点
4 10点以下

2 70点

3 40点

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<理由>

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

【最後に】

Q15. 良かった点、悪かった点、取り入れるべき点など、NEDOや国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。【複数回答可】

1 新規（後継）プロジェクトの立案
3 法的環境整備
5 事務手続きの改善
6 その他

2 導入普及補助制度の新設や見直し
4 NEDOのマネジメント改善

記述欄

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<具体例>

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

Q16. 本調査票は、ご担当者以外の方のご意見も含まれていますか。

1 はい

2 いいえ

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

以上、ご協力、誠にありがとうございました。なお、本調査票は、毎年、経済産業省とNEDOとで実施しているCTOインタビューの際に参考にさせて頂く場合がございます。

NEDO管理欄(エラー未修正の理由)

【簡易追跡調査票-企業/制度】

NEDOプロジェクト名	
プロジェクト実施機関	
プロジェクトにおけるテーマ名	
終了後のテーマ名	
NEDOとの関係	

ご担当者	所属機関名	
	所属部署	
	役職	
	氏名	
	連絡先	
	電話番号	FAX番号
	E-mail	
ポータルID	有効期限	

※上記ご担当者欄の一部に変更や訂正がある場合は、下記の該当する欄に新しい情報をご記入下さい。また、別のご担当者を登録される場合は、当該研究開発、及び貴社内・外におけるプロジェクト運営の内容や研究開発成果の利用状況について把握されている方のご登録をお願いします。

変更後の所属機関名	
変更後の所属部署	
変更後の役職	
変更後の氏名	
変更後の連絡先（郵便番号）	
変更後の連絡先（住所）	
変更後の電話番号	
変更後のFAX番号	
変更後のE-mail	

【基本事項】

Q1. 貴社のプロジェクト参加期間をご記入下さい。

開始年度（西暦 ○○○○年）

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

終了年度（西暦 ○○○○年）

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

Q2. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、知的財産※をライセンスもしくは譲渡している場合には、その状況と相手先の連絡先をご記入下さい。（※知的財産とは、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます。）

<状況>

1 事業継承または事業譲渡

回答欄

2 知的財産のライセンスまたは譲渡

<ご参考>

前回のご回答

<連絡先---所属機関名/所属部署/役職/氏名/連絡先（郵便番号）/連絡先（住所）/電話番号/FAX番号/E-mail>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

【全般について】

Q3. 下記の時点における貴社の研究開発の活動主体は、研究開発部門と事業部門のどちらになりますか。

<提案時点>

1 研究開発部門

回答欄

2 事業部門

<ご参考>
前回のご回答

<終了時点>

1 研究開発部門

回答欄

2 事業部門

<ご参考>
前回のご回答

<現時点>

1 研究開発部門

回答欄

2 事業部門

<ご参考>
前回のご回答

Q4. 下記の時点における貴社の研究開発フェーズは、どのような段階にありましたか。

<提案時点>

1 未着手

2 研究段階 (基礎的・要素的な基礎探索段階。)

3 開発段階 (開発用サンプル*1) の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。)

4 製品化段階 (顧客評価(認定用)サンプル*2) の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。)

5 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。)

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<終了時点>

1 未着手

4 製品化段階

回答欄

2 研究段階

5 上市段階

<ご参考>
前回のご回答

3 開発段階

<現時点>

1 研究段階

4 上市段階

回答欄

2 開発段階

5 中止または中断

<ご参考>
前回のご回答

3 製品化段階

<「5 中止または中断」を選択された方は、中止と中断のどちらですか>

1 中止

回答欄

2 中断

<ご参考>
前回のご回答

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル、*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発フェーズのイメージ

・研究段階：<活動の内容>---基礎的/要素的な研究(現象の新規性や性能の進歩性等について把握)。<アウトプット

イメージ>---社内レポート、特許、論文等。

・開発段階：<活動の内容>---製品化/上市を視野に入れた研究（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。<アウトプットイメージ>---製品化/上市の判断材料となる研究結果等。

・製品化段階：<活動の内容>---製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。<アウトプットイメージ>---顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。

・上市段階：<活動の内容>---市場での取引。<アウトプットイメージ>---製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q5. Q4において、<提案時点>の研究開発フェーズで「1 未着手」を選択した方は、未着手の状況についてお答え下さい。

<未着手の状況>

1 全くの未着手

回答欄

2 周辺技術を保有

<ご参考>

前回のご回答

<プロジェクト参加の目的>

1 新技術の習得

4 人材育成

5 その他

記述欄

2 情報チャンネルの拡大

3 保有技術の幅を拡大・深耕

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

プロジェクトで設定した目標値や実用化の目標に対して、プロジェクト終了時点の達成度は何点になりますか。

Q6. <目標値の達成度>

1 100点

4 40点

回答欄

2 80点

5 20点以下

<ご参考>

前回のご回答

3 60点

6 設定していない

<実用化目標の達成度>

1 100点

4 40点

回答欄

2 80点

5 20点以下

<ご参考>

前回のご回答

3 60点

6 設定していない

<目標値達成度と実用化目標達成度との点差の理由>【複数回答可】

1 技術的課題

4 時間的問題

5 その他

記述欄

2 コスト的課題

3 組織的問題

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な内容>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

<プロジェクト実施期間中に取得できた実験データの量>

- 1 プロジェクトに参画したことによって、非常に多くのデータを取得することができた
- 2 プロジェクトに参画したことによって、多めのデータを取得することができた
- 3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた
- 4 プロジェクトに参画したことによって、少なめのデータ取得となった
- 5 プロジェクトに参画したことによって、非常に少ないデータしか取得できなかった

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q7. プロジェクト実施期間中に要した研究開発費（自己負担分も含む総額）のうち、NEDOから供給された資金は概ね何パーセント程度でしたか。

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 1 100%程度 | 2 80%程度 | 3 60%程度 |
| 4 40%程度 | 5 20%以下 | |

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

※Q4において、<現時点>の研究開発フェーズで「5 中止・中断している」を選択された方はQ10へお進み下さい。

Q8. プロジェクト終了後も継続的な研究開発または事業活動を実施している方に伺います。プロジェクト終了時までにほぼ完成されている項目および、プロジェクト終了後に明らかにしなければいけなかった項目は何ですか。【複数回答可】

<ほぼ完成されている項目>

- 1 要素技術の深耕
- 2 既存事業の強化
- 3 既存事業周辺での新製品開発
- 4 新規事業開発
- 5 法規制への対応
- 6 競合他社の台頭
- 7 戦略的な標準化への取組み
- 8 知財の取得
- 9 共同研究先の意向
- 10 プロジェクトメンバー以外の機関からの依頼
- 11 事業部門の積極的な関与
- 12 市場性の見極め
- 13 コスト競争力
- 14 生産技術（収率・設備等）
- 15 技術競争力
- 16 ユーザー評価
- 17 社内で埋蔵されている未利用資源（休眠技術など）の活用
- 18 その他

記述欄

回答欄

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

<ご参考>
前回のご回答

<終了後に、明らかにしなければいけなかった項目>

- 1 要素技術の深耕
- 2 既存事業の強化
- 3 既存事業周辺での新製品開発
- 4 新規事業開発
- 5 法規制への対応
- 6 競合他社の台頭
- 7 戦略的な標準化への取組み
- 8 知財の取得
- 9 共同研究先の意向
- 10 プロジェクトメンバー以外の機関からの依頼
- 11 事業部門の積極的な関与
- 12 市場性を見極め
- 13 コスト競争力
- 14 生産技術（収率・設備等）
- 15 技術競争力
- 16 ユーザー評価
- 17 社内で埋蔵されている未利用資源（休眠技術など）の活用
- 18 その他

記述欄

回答欄

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

<ご参考>
前回のご回答

Q9. 継続実施している研究開発のテーマ名についてご記入下さい。（例えば ○○技術を利用した○○装置の開発、○○技術の確立 など）

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q10. NEDOから取得した機械装置は、有効に活用されていますか。

<有効的な活用の有無> 【複数回答可】

1 当該研究開発テーマに活用

2 他目的に活用

3 活用予定はない

回答欄

--	--	--

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な活用方法>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q11. 社内において、当該研究開発による技術的な波及効果はありましたか。

<波及効果の有無>

1 あった

2 なかった

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<波及効果の適用先>【複数回答可】

1 既存製品への組み込み

2 生産プロセスにおける高効率化や低コスト化

3 品質管理

4 新規製品の開発

5 新規研究テーマの立ち上げ

6 社内で埋蔵されている休眠技術の復活

7 その他

記述欄

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<具体的な波及効果>

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

Q12. プロジェクトで得られた成果や知見を活用した公益的な活動を実施していますか。公益的な活動を実施している場合は、具体例とあわせてお答え下さい。【複数回答可】

1 標準化活動（トレーサビリティの確立（計測標準、計量標準、標準物質など）も含む）

2 データベースの構築

3 ガイドラインの策定

4 法規制の見直し

5 ソフトウェアの開発

6 学会発表

7 特になし

8 その他

記述欄

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<具体例>

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

Q13. 当該研究開発に係る昨年度の発表、出願、受賞状況について、プロジェクトからの波及的な効果も含めてお答え下さい。

<論文発表件数>

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

<特許出願件数>

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

<社外での受賞・表彰件数>

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

<受賞・表彰名称、表彰年月>

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

Q14. 現段階で必要とされるNEDOのサポートは以下のどれですか。【複数回答可】

1 追加資金に係る情報

2 標準化活動への支援

3 法規制に係る対応支援

4 情報発信の場の提供

5 技術課題克服の支援

6 その他

記述欄

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

Q15. 当該研究開発における貴社の資源投入は昨年度と比較してどのような状況になっていますか。

<R&Dの規模（予算や人員）>

1 大幅に拡大した

2 拡大した

3 変化無し

4 縮小した

5 大幅に縮小した

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<上市・製品化の可能性（プロジェクトが目指した技術分野について）>

1 大幅に拡大した

2 拡大した

3 変化無し

4 縮小した

5 大幅に縮小した

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<上市・製品化の可能性（プロジェクトが目指した技術分野以外への応用展開について）>

1 大幅に拡大した

2 拡大した

3 変化無し

4 縮小した

5 大幅に縮小した

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<想定される上市・製品化の時期>

1 1～2年以内

2 3年以内

3 5年以内

4 6～9年以内

5 10年以上

6 予定無し

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

Q16. プロジェクトに参加していなかった場合、当該研究開発は社内でのどのような状況になっていたと思われますか。

1 着手されなかった

2 人員や設備投資が縮小されていた

3 予定通りに実施されていた

4 もっと大規模に実施されていた

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

Q17. 当該研究開発は、社内の組織戦略上どのような位置づけのものでしたか。提案書を書いた当時の位置づけについてお答え下さい。【複数回答可】

1 現有事業の競争力強化（生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発 他）

2 現有事業周辺（生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能）で、会社として新規な市場への参入

3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入

4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

Q18. 事業部の関与の度合いについて伺います。

<関与のタイミング>

1 提案時から密接に対応

2 採択直後から対応

3 開発成果が見え始めてから

4 実用化の可能性が見え始めてから

5 ほとんど関与していない

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<主体となって対応した役職>

1 経営陣（事業担当役員）

2 事業部長

3 担当部長

4 担当課長

5 担当者

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

Q19. 貴社の技術力ポジションは、プロジェクトに参加して変化しましたか。特許数や研究開発ステージ、ユーザー評価などを基に、プロジェクトに提案する前と終了後とを比較してお答え下さい。

<技術力ポジションの変化>

1 上がった

2 変わらない

3 下がった

4 不明

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<世界における技術力ポジション>

1 世界で1位

2 世界で2～3位

3 世界で4位以下

4 不明

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<国内における技術力ポジション>

1 日本で1位

2 日本で2～3位

3 日本で4位以下

4 不明

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

【プロジェクトの活動について】

Q20. 事業化シナリオの検討はいつ頃から行われましたか。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前
4 後半

2 採択直後
5 終了後

3 中盤
6 検討していない

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q21. プロジェクト実施期間中の打ち合わせ等の頻度についてお答え下さい。

<連携している他機関との協議>

1 週1回以上
4 半年に1回以上
7 連携先なし

2 月1回以上
5 1年に1回以上

3 3ヶ月に1回以上
6 ほとんど無し

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<NEDOの担当者との協議>

1 週1回以上
4 半年に1回以上

2 月1回以上
5 1年に1回以上

3 3ヶ月に1回以上
6 ほとんど無し

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<社内の他研究部門との協議>

1 週1回以上
4 半年に1回以上

2 月1回以上
5 1年に1回以上

3 3ヶ月に1回以上
6 ほとんど無し

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<社内の事業部門との協議>

1 週1回以上
4 半年に1回以上

2 月1回以上
5 1年に1回以上

3 3ヶ月に1回以上
6 ほとんど無し

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<ユーザー企業との協議>

1 週1回以上
4 半年に1回以上

2 月1回以上
5 1年に1回以上

3 3ヶ月に1回以上
6 ほとんど無し

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q22. 技術動向調査は実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前
4 後半

2 採択直後
5 終了後

3 中盤
6 実施していない

回答欄

--	--	--	--	--	--

<ご参考>
前回のご回答

--

<調査の範囲> 【複数回答可】

1 国内

2 海外

回答欄

--	--

<ご参考>
前回のご回答

--

Q23. 特許動向調査は実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前
4 後半

2 採択直後
5 終了後

3 中盤
6 実施していない

回答欄

--	--	--	--	--	--

<ご参考>
前回のご回答

--

<調査の範囲> 【複数回答可】

1 国内

2 海外

回答欄

--	--

<ご参考>
前回のご回答

--

Q24. 市場動向調査は実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前
4 後半

2 採択直後
5 終了後

3 中盤
6 実施していない

回答欄

--	--	--	--	--	--

<ご参考>
前回のご回答

--

<調査の範囲> 【複数回答可】

1 国内

2 海外

回答欄

--	--

<ご参考>
前回のご回答

--

Q25. コスト目標は設定しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前
4 後半

2 採択直後
5 終了後

3 中盤
6 実施していない

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<コスト目標設定の想定範囲> 【複数回答可】

1 国内

2 海外

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<コスト目標の設定に用いたもの> 【複数回答可】

1 外部ユーザーへのヒアリング
3 現在の技術水準から類推
5 業界の相場観
6 その他

2 代替製品と比較した場合のコスト競争力
4 市場動向調査

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q26. リスク検討は行いましたか。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前
4 後半

2 採択直後
5 終了後

3 中盤
6 検討していない

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<リスク検討の内容> 【複数回答可】

1 研究開発リスク
4 自然要因
5 その他

2 市場動向の変化

3 規格・規制変更

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<実際に起きたリスク等は何ですか>【複数回答可】

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 マーケットの拡大 | 2 マーケットの縮小 |
| 3 競合他社の離脱 | 4 競合他社の出現 |
| 5 ユーザーニーズの変化 | 6 ユーザーニーズが存在しなかった |
| 7 原料調達が困難 | 8 市場価格の下落 |
| 9 景気変動 | 10 経営方針の転換 |
| 11 財務状況の悪化 | 12 NEDO予算の拡大 |
| 13 NEDO予算の縮小 | 14 キーパーソンの離脱 |
| 15 法規制の緩和 | 16 法規制の壁 |
| 17 想定外は無かった | |
| 18 その他 | |

記述欄

回答欄

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な対応はどのようにされましたか>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q27. 戦略的な標準化取得に向けた検討は行いましたか。

<検討したタイミング（見直し含む）>【複数回答可】

- | | | |
|-------|--------|-----------|
| 1 提案前 | 2 採択直後 | 3 中盤 |
| 4 後半 | 5 終了後 | 6 検討していない |

回答欄

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

<ご参考>
前回のご回答

【プロジェクトやNEDOのマネジメントに対する評価と改善点】

Q28. プロジェクトに対する満足度はどれくらいでしたか。

- | | | |
|--------|---------|-------|
| 1 100点 | 2 80点 | 3 60点 |
| 4 40点 | 5 20点以下 | |

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な理由>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q29. NEDOの採択審査委員会について伺います。

<採択審査時のコメント内容>

- 1 有益であった 2 勘違いがあった 3 コメントは無かった
4 コメントを承知していない

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q30. NEDOの技術推進委員会（有識者委員会）またはNEDOが実施した評価について伺います。

<プロジェクトの推進に関して有効な提言や意見はありましたか>

- 1 的確な提言がもたらされた 2 満足のいく討議ができた 3 不適切な意見があった
4 役立つ提言はなかった

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<上記の提言を反映することで、どのような効果がありましたか>

- 1 技術課題の解決 2 コスト削減 3 特許取得
4 法規制の緩和 5 成果のPR 6 標準化取得やその活動
7 効果なし
8 その他

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<効果なしの具体的な理由>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

<欲しかった指摘や提言>【複数回答可】

- 1 技術の進展予想 2 計画の変更・追加
3 技術・コスト課題克服のアイデア 4 メカニズム解明のアイデア・ヒント
5 周辺技術動向の情報 6 中止の勧告
7 その他

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q31. NEDOの担当者のマネジメントに対する満足度はどれくらいでしたか。

- 1 100点 2 80点 3 60点
4 40点 5 20点以下

<ご参考>

回答欄

前回のご回答

<具体的な理由>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q32. NEDOの担当者とは、普段、どのような協議をされてきましたか。また、何をやって欲しかったですか

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 実施計画書の内容精査（契約手続きに係る対応）
- 2 予算要求または予算配分に係る対応
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 検査に係る対応
- 5 資産処分に係る対応
- 6 成果報告書の内容精査
- 7 各種提出書類に係る対応
- 8 他機関との利害調整
- 9 法規制に係る協議
- 10 事業化シナリオの方向性検討
- 11 研究開発の方向性検討
- 12 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 13 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 14 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 15 市場に関するアドバイス
- 16 委員会準備（データ・資料整理 プレゼン方法等）
- 17 宣伝・広報
- 18 その他

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 実施計画書の内容精査（契約手続きに係る対応）
- 2 予算要求または予算配分に係る対応
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 検査に係る対応
- 5 資産処分に係る対応
- 6 成果報告書の内容精査
- 7 各種提出書類に係る対応
- 8 他機関との利害調整
- 9 法規制に係る協議
- 10 事業化シナリオの方向性検討
- 11 研究開発の方向性検討
- 12 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 13 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 14 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 15 市場に関するアドバイス
- 16 委員会準備（データ・資料整理 プレゼン方法等）
- 17 宣伝・広報
- 18 その他

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

【最後に】

Q33. NEDOや国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q34. 本調査票は、ご担当者以外の方のご意見も含まれていますか。

1 はい

2 いいえ

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

以上、ご協力、誠にありがとうございました。なお、本調査票は、毎年、経済産業省とNEDOとで実施しているCTOインタビューの際に参考にさせて頂く場合がございます。

NEDO管理欄(エラー未修正の理由)

【2年目 制度（企業）】

【基本事項】

Q1. 貴社のプロジェクト参加期間をご記入下さい。

開始年度（西暦） ープルダウンー

終了年度（西暦） ープルダウンー

Q2. ご担当者のプロジェクト参加期間と参加形態をご記入下さい。

<参加期間>

開始年度（西暦） ープルダウンー

終了年度（西暦） ープルダウンー

<参加形態>

1 業務管理者 2 研究管理者 3 研究者 4 その他

Q3. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、知的財産※をライセンスもしくは譲渡している場合には、その状況と相手先の連絡先をご記入下さい。（※知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます。）

<状況>

1 事業承継または事業譲渡 2 知的財産のライセンスまたは譲渡

<連絡先ー所属機関名/所属部署/役職/氏名/連絡先（郵便番号）/連絡先（住所）/電話番号/FAX番号/E-mail>

記述欄

Q4. 継続実施している社内の研究テーマ名についてご記入ください。【必須】

記述欄

Q5. 現時点における貴社の研究開発フェーズは、次のうちどれですか。【必須】

<現時点>

1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）

2 開発段階 （開発用サンプル*1)の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）

3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル*2)の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）

4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）

5 中止・中断

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発フェーズのイメージ

- ・研究段階：＜活動の内容＞…基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）。＜アウトプットイメージ＞…社内レポート、特許、論文等。
- ・開発段階：＜活動の内容＞…製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。＜アウトプットイメージ＞…製品化/上市の判断材料となる結果等。
- ・製品化段階：＜活動の内容＞…製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。＜アウトプットイメージ＞…顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
- ・上市段階：＜活動の内容＞…市場での取引。＜アウトプットイメージ＞…製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q6. 現在、貴社における研究開発の活動状況は、次のうちどれになりますか。

＜研究開発の活動主体＞

- 1 研究開発部門 2 研究開発部門と事業部門との中間または合同 3 事業部門

＜現有事業または周辺事業に関する技術開発ですか＞

- 1 はい 2 いいえ

＜社内で関連する技術開発の実績がありますか＞

- 1 はい 2 いいえ

＜研究開発の実施状況＞

- 1 新規事業の種として実施 2 探索ステージとして実施 3 研究ステージとして実施
4 上市・製品化ステージで実施

Q7. 当該研究開発における貴社の資源投入は、昨年度と比較してどのような状況になっていますか。

＜R&Dの規模（予算や人員）＞

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した
5 縮小した

＜R&D規模が拡大した要因＞【複数回答】

- 1 技術開発目標の達成 2 コスト目標の達成
3 事業戦略の強化方針（事業部門の積極的な関与） 4 新規事業開発の強化方針
5 法規制への変化 6 競合他社の台頭 7 強力な知財の取得

- 8 共同研究先の意向 9 プロジェクトメンバー以外からの共同開発の要請
10 生産技術（収率・設備等）の蓄積 11 ユーザー評価の結果
12 顧客の出現 13 その他

< 上市・製品化の可能性－Ⅰ（プロジェクトで目指した技術分野） >

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した
5 縮小した

< 上市・製品化の可能性－Ⅱ（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開） >

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した
5 縮小した

< 上市・製品化の可能性について拡大を判断する要素 >

- 1 品質競争力（性能・機能が競合品もしくは既存技術よりも優れている）
2 コスト競争力（コストが競合品もしくは既存技術よりも優れている）
3 市場が確実に存在し、且つ成長が見込める
（生産能力強化やコストダウンで市場成長が見込める）
4 技術競争力
（海外も含めて、開発状況が先頭もしくは先頭グループに位置している）
5 知財競争力（一定期間、独占実施権が確保できている）
6 その他

< 想定される上市・製品化の時期 >

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定なし

【波及効果】

Q8. プロジェクトで得られた成果や知見を活用した公益的な活動を実施していますか。公益的な活動を実施している場合は、具体的な内容とあわせてお答え下さい。【複数回答可】

1 標準化活動（トレーサビリティの確立（計測標準、計量標準、標準物質など）も含む）

- 2 データベースの構築 3 ガイドラインの策定 4 法規制の見直し
5 ソフトウェアの開発 6 学会発表 7 特になし
8 その他

< 具体的な内容 >

記述欄

Q9. 昨年度の発表、出願、受賞状況について、プロジェクトからの波及的な効果も含めてお答え下さい。

< 論文発表件数 >

記述欄

< 特許出願件数 >

記述欄

<社外での受賞・表彰件数>

記述欄

<受賞・表彰名称、表彰年月>

記述欄

Q10. 社内において、技術的な波及効果はありましたか。

<波及効果の有無>

1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 既存製品への組み込み 2 生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
3 品質管理 4 新規製品の開発 5 新規テーマの立ち上げ
6 社内で埋蔵されている未利用資源（休眠技術など）の活用 7 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【一般アンケート】

Q11. 貴社において、実用化と事業化の定義について最も近いイメージは、次のうちどれですか。

<実用化>

- 1 顧客評価（認定用）サンプルが提供開始になった時点
2 現有事業において販売開始になった時点
3 周辺事業として販売開始になった時点
4 新規事業として販売開始になった時点
5 その他

<事業化>

- 1 顧客評価（認定用）サンプルが提供開始になった時点
2 現有事業において販売開始になった時点
3 周辺事業として販売開始になった時点
4 新規事業として販売開始になった時点
5 その他

【最後に】

Q12. NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

Q13. 本調査票は、ご担当者以外の方のご意見も含まれていますか。

1 はい 2 いいえ

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画「実用化ドキュメント」

おかげさまで、シリーズ 5 を迎えました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。また、皆様方の掲載もお待ちしております。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/jyoushi/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。本調査票は、NEDO の業務運営改善に活用させていただきます。また、経済産業省と NEDO とで実施している CTO インタビューの際に参考にさせて頂く場合もございます。

【4・6年目 簡易（企業）】

【基本事項】

Q1. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、知的財産^{*}をライセンスもしくは譲渡している場合には、その状況と相手先の連絡先をご記入下さい。（※知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます。）

<状況>

- 1 事業承継または事業譲渡 2 知的財産のライセンスまたは譲渡

<連絡先—所属機関名/所属部署/役職/氏名/連絡先（郵便番号）/連絡先（住所）/電話番号/FAX 番号/E-mail>

記述欄

【現在の状況】

Q2. 現時点における貴社の研究開発フェーズは、次のうちどれですか。【必須】

<現時点>

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1}）の作製。実用化に向けた課題を把握。
 応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2}）の作製。量産化技術の確立。
 工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止・中断

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発フェーズのイメージ

- ・研究段階：<活動の内容>---基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）。
 <アウトプットイメージ>---社内レポート、特許、論文等。
- ・開発段階：<活動の内容>---製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。
 <アウトプットイメージ>---製品化/上市の判断材料となる結果等。
- ・製品化段階：<活動の内容>---製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。<アウトプットイメージ>---顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
- ・上市段階：<活動の内容>---市場での取引。<アウトプットイメージ>---製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3. 現在、貴社における研究開発の活動状況は、次のうちどれになりますか。

<研究開発の活動主体>

- 1 研究開発部門 2 研究開発部門と事業部門との中間または合同 3 事業部門

<現有事業または周辺事業に関する技術開発ですか>

- 1 はい 2 いいえ

<社内で関連する技術開発の実績がありますか>

- 1 はい 2 いいえ

<研究開発の実施状況>

- 1 新規事業の種として実施 2 探索ステージとして実施 3 研究ステージとして実施
4 上市・製品化ステージで実施

Q4. 当該研究開発における貴社の資源投入は、昨年度と比較してどのような状況になっていますか。

<R&Dの規模(予算や人員)>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した
5 縮小した

<R&D規模が拡大した要因>【複数回答】

- 1 技術開発目標の達成 2 コスト目標の達成
3 事業戦略の強化方針(事業部門の積極的な関与) 4 新規事業開発の強化方針
5 法規制への変化 6 競合他社の台頭 7 強力な知財の取得
8 共同研究先の意向 9 プロジェクトメンバー以外からの共同開発の要請
10 生産技術(収率・設備等)の蓄積 11 ユーザー評価の結果
12 顧客の出現 13 その他

<上市・製品化の可能性-I(プロジェクトで目指した技術分野)>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した
5 縮小した

<上市・製品化の可能性-II(プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開)>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した
5 縮小した

<上市・製品化の可能性について拡大を判断する要素>

- 1 品質競争力(性能・機能が競合品もしくは既存技術よりも優れている)
2 コスト競争力(コストが競合品もしくは既存技術よりも優れている)
3 市場が確実に存在し、且つ成長が見込める
(生産能力強化やコストダウンで市場成長が見込める)
4 技術競争力
(海外も含めて、開発状況が先頭もしくは先頭グループに位置している)
5 知財競争力(一定期間、独占実施権が確保できている)
6 その他

<想定される上市・製品化の時期>

- 1 3年以内 2 3~5年 3 5~10年 4 10年以上 5 予定なし

【波及効果】

Q5. プロジェクトで得られた成果や知見を活用した公益的な活動を実施していますか。公益的な活動を実施している場合は、具体的な内容とあわせてお答え下さい。【複数回答可】

- 1 標準化活動（トレーサビリティの確立（計測標準、計量標準、標準物質など）も含む）
2 データベースの構築 3 ガイドラインの策定 4 法規制の見直し
5 ソフトウェアの開発 6 学会発表 7 特になし
8 その他

<具体的な内容>

記述欄

Q6. 昨年度の発表、出願、受賞状況について、プロジェクトからの波及的な効果も含めてお答え下さい。

<論文発表件数>

記述欄

<特許出願件数>

記述欄

<社外での受賞・表彰件数>

記述欄

<受賞・表彰名称、表彰年月>

記述欄

Q7. 社内において、技術的な波及効果はありましたか。

<波及効果の有無>

- 1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先>【複数回答可】

- 1 既存製品への組み込み 2 生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
3 品質管理 4 新規製品の開発 5 新規テーマの立ち上げ
6 社内で埋蔵されている未利用資源（休眠技術など）の活用 7 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【一般アンケート】

Q8. 貴社において、実用化と事業化の定義について最も近いイメージは、次のうちどれですか。

<実用化>

- 1 顧客評価（認定用）サンプルが提供開始になった時点
2 現有事業において販売開始になった時点

- 3 周辺事業として販売開始になった時点
- 4 新規事業として販売開始になった時点
- 5 その他

<事業化>

- 1 顧客評価（認定用）サンプルが提供開始になった時点
- 2 現有事業において販売開始になった時点
- 3 周辺事業として販売開始になった時点
- 4 新規事業として販売開始になった時点
- 5 その他

【最後に】

Q9. NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

Q10. 本調査票は、ご担当者以外の方のご意見も含まれていますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 ー実用化ドキュメントー

おかげさまで、シリーズ 5 を迎えました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。また、皆様方の掲載もお待ちしております。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/jyoushi/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。本調査票は、NEDO の業務運営改善に活用させていただきます。また、経済産業省と NEDO とで実施している CTO インタビューの際に参考にさせて頂く場合もございます。

平成26年度 簡易調査票（企業）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 □

Q2. 現時点における貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1)}の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2)}の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	-基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3. 現在、貴社における研究開発の活動主体は、次のうちどれになりますか。

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q4. 当該研究開発における貴社の資源投入は、昨年度と比較してどのような状況になっていますか。

<研究開発規模（予算や人員）の変化>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<研究開発規模が拡大した要因> 【複数回答可】

- 1 技術開発目標の達成 2 生産技術（収率・設備等）の蓄積、3 コスト目標の達成
4 事業部門の関与 5 経営層の関与 6 事業戦略の変化、7 ユーザーの評価、
8 競合他社の動向変化、9 顧客の出現、10 法規制・標準化の変化、11 強力な知財の取得
12 NEDOプロジェクトでの共同研究先の意向
13 NEDOプロジェクトメンバー以外からの共同開発の要請、14 その他

<その他記述欄>

<上市・製品化の可能性（プロジェクトで目指した技術分野）の変化>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし
4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性について拡大を判断する要素> 【複数回答可】

- 1 品質競争力（性能・機能が競合品もしくは既存技術よりも優れている）
2 コスト競争力（コストが競合品もしくは既存技術よりも優れている）
3 市場が確実に存在し、且つ成長が見込める
（生産能力強化やコストダウンで市場成長が見込める）
4 技術競争力
（海外も含めて、開発状況が先頭もしくは先頭グループに位置している）
5 知財競争力（一定期間、独占実施権が確保できている）
6 その他

<その他記述欄>

<想定される上市・製品化の時期>

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定は立っていない

Q5. NEDOプロジェクトで目指した技術分野以外への波及効果について

<波及効果の有無>

- 1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 既存製品への組み込み
- 2 生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
- 3 品質管理
- 4 評価・解析技術の横展開
- 5 新規製品の開発
- 6 新規テーマの立ち上げ
- 7 社内人材育成
- 8 新たなネットワークの構築
- 9 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q6 現状で NEDO のサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要
- 2 不要

<「必要」を選択した場合、その内容はどれですか> 【複数回答可】

- 1 実用化の際の資金助成
- 2 標準化活動への支援
- 3 法規制に係る対応支援
- 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他

<その他記述欄>

Q7. NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」

おかげさまで、6年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 27 年度 簡易調査票（企業）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 □

Q2. 現時点における貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1)} の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2)} の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	-基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進捗性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3. 現在、貴社における研究開発の活動主体は、次のうちどれになりますか。

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q4. 当該研究開発における貴社の資源投入は、昨年度と比較してどのような状況になっていますか。

<研究開発規模（予算や人員）の変化>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<研究開発規模が拡大した要因> 【複数回答可】

- 1 技術開発目標の達成 2 生産技術（収率・設備等）の蓄積 3 コスト目標の達成
4 事業部門の関与 5 経営層の関与 6 事業戦略の変化 7 ユーザーの評価
8 競合他社の動向変化 9 顧客の出現 10 法規制・標準化の変化
11 強力な知財の取得 12 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向
13 NEDO プロジェクトメンバー以外からの共同開発の要請 14 その他

<その他記述欄>

<上市・製品化の可能性（プロジェクトで目指した技術分野）の変化>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性について拡大を判断する要素> 【複数回答可】

- 1 品質競争力（性能・機能が競合品もしくは既存技術よりも優れている）
2 コスト競争力（コストが競合品もしくは既存技術よりも優れている）
3 市場が確実に存在し、且つ成長が見込める（生産能力強化やコストダウンで市場成長が見込める）
4 技術競争力（海外も含めて、開発状況が先頭もしくは先頭グループに位置している）
5 知財競争力（一定期間、独占実施権が確保できている）
6 その他

<その他記述欄>

<想定される上市・製品化の時期>

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定は立っていない

Q5. NEDO プロジェクトで目指した技術分野以外への波及効果について

<波及効果の有無>

- 1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 既存製品への組み込み 2 生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
3 品質管理 4 評価・解析技術の横展開 5 新規製品の開発 6 新規テーマの立ち上げ
7 社内人材育成 8 新たなネットワークの構築 9 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q6 現状で NEDO のサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要 2 不要

<「必要」を選択した場合、その内容はどれですか> 【複数回答可】

- 1 実用化の際の資金助成
- 2 標準化活動への支援
- 3 法規制に係る対応支援
- 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他

<その他記述欄>

Q7. NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」

おかげさまで、7年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

平成 28 年度 簡易調査票（企業）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 □

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1)} の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2)} の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	-基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3. 現在、貴社における研究開発の活動主体は、次のうちどれになりますか。

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

Q4. 研究開発データ(論文や特許として公開されない実験データやノウハウの記録)についてお伺いします。

<保管状況>

- 1 すべて保管している 2 一部保管している 3 破棄した

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管方法についてご教示ください。>

- 1 全社的なサーバーに保管され、自社内で広く活用できる仕組みとなっている
2 部門ごとのサーバーに保管され、自部門内で活用できる仕組みとなっている
3 専用サーバーに保管され、特定の者のみが活用できる仕組みとなっている
4 研究者(技術者)が個人で保管している
5 詳細は把握していない
6 その他

<その他記述欄>

<上記で「2 一部保管している」「3 破棄した」と回答した方に伺います。破棄理由についてご教示ください。>

- 1 契約で、終了時に委託元に全部、または、一部譲渡することになっていた
2 データ量が多かったため、重要なデータのみを残した
3 重要なデータがないため破棄した
4 活用されないまま一定期間を経過したため、破棄した。
5 自社内に保管方法に関するルールが無く、一部しか保管していない、または、全部破棄した
6 適当な引継ぎがなされなかったため、所在が不明である。
7 その他

<その他記述欄>

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q5. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。

- 1 着手されなかった 2 人員や設備投資が縮小されていた 3 予定通りに実施されていた

Q6. 当該研究開発における貴社の資源投入は、昨年度と比較してどのような状況になっていますか。

<研究開発規模(予算や人員)の変化>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<研究開発規模が拡大した要因> 【複数回答可】

- 1 技術開発目標の達成
- 2 生産技術（収率・設備等）の蓄積
- 3 コスト目標の達成
- 4 事業部門の関与
- 5 経営層の関与
- 6 事業戦略の変化
- 7 ユーザーの評価
- 8 競合他社の動向変化
- 9 顧客の出現
- 10 法規制・標準化の変化
- 11 強力な知財の取得
- 12 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向
- 13 NEDO プロジェクトメンバー以外からの共同開発の要請
- 14 その他

<その他記述欄>

<上市・製品化の可能性（プロジェクトで目指した技術分野）の変化>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<上市・製品化の可能性について拡大を判断する要素> 【複数回答可】

- 1 品質競争力（性能・機能が競合品もしくは既存技術よりも優れている）
- 2 コスト競争力（コストが競合品もしくは既存技術よりも優れている）
- 3 市場が確実に存在し、且つ成長が見込める（生産能力強化やコストダウンで市場成長が見込める）
- 4 技術競争力（海外も含めて、開発状況が先頭もしくは先頭グループに位置している）
- 5 知財競争力（一定期間、独占実施権が確保できている）
- 6 その他

<その他記述欄>

<想定される上市・製品化の時期>

- 1 3年以内
- 2 3～5年
- 3 5～10年
- 4 10年以上
- 5 予定は立っていない

Q7. NEDO プロジェクトで目指した技術分野以外への波及効果について

<波及効果の有無>

- 1 あった
- 2 なかった

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 既存製品への組み込み
- 2 生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
- 3 品質管理
- 4 評価・解析技術の横展開
- 5 新規製品の開発
- 6 新規テーマの立ち上げ
- 7 社内人材育成
- 8 新たなネットワークの構築
- 9 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q8 現状で NEDO のサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要 2 不要

<「必要」を選択した場合、その内容はどれですか> 【複数回答可】

- 1 実用化の際の資金助成
- 2 標準化活動への支援
- 3 法規制に係る対応支援
- 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他

<その他記述欄>

Q9. NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」

おかげさまで、8年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 29 年度 簡易調査票（企業）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）のうち全てを第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 □

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。【必須】

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1)} の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2)} の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	-基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進捗性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化(カタログ掲載)、継続的な売上発生等。

Q3. 現在、貴社における研究開発の推進体制は、次のうちどれになりますか。【複数回答可】

- 1 研究部門を主体とした開発

- 2 事業部門を主体とした開発
- 3 社内に当該研究開発に対応する新たなプロジェクトチームを設置して推進
- 4 社内に当該研究開発に対応する新たな部署を設置して推進
- 5 社内ベンチャーを創出して推進
- 6 他社との合弁会社を設立して推進
- 7 NEDO プロジェクトメンバー（大学・公的研究機関）との共同開発を推進
- 8 NEDO プロジェクトメンバー（企業）との共同開発を推進
- 9 NEDO プロジェクトメンバー外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 10 海外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 11 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進
- 12 既設のコンソーシアムに参加して推進

<上記で、「11 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進」「12 既設のコンソーシアムに参加して推進」を選択した場合、コンソーシアムの名称をご記入ください。>

記述欄 □

Q4. 研究開発データ(論文や特許として公開されない実験データやノウハウの記録)についてお伺いします。

<保管状況>

- 1 すべて保管している
- 2 一部保管している
- 3 破棄した

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管目的についてご教示ください。> 【複数回答可】

- 1 事業承継、譲渡、売却を想定して保管
- 2 他機関との共同研究で利用するために保管
- 3 ユーザーに開示するために保管
- 4 自社横断的に蓄積・分析する（次のアイデア発掘等）ために保管
- 5 自社内の別部門で利用するために保管
- 6 論文や特許の直接のエビデンスではないが、関連するため保管
- 7 研究を継続するために保管
- 8 目的・用途はないが保管

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管方法についてご教示ください。>

- 1 全社的なサーバーに保管され、自社内で広く活用できる仕組みとなっている
- 2 部門ごとのサーバーに保管され、自部門内で活用できる仕組みとなっている
- 3 専用サーバーに保管され、特定の者のみが活用できる仕組みとなっている

- 4 研究者(技術者)が個人で保管している
- 5 詳細は把握していない

<保管されたデータが社内で活用された事例があれば具体的にご記入下さい。>

記述欄

<上記で「2 一部保管している」「3 破棄した」と回答した方に伺います。破棄理由についてご教示ください。>

- 1 契約で、終了時に委託元に全部、または、一部譲渡することになっていた
- 2 データ量が多かったため、重要なデータのみを残した
- 3 重要なデータがないため破棄した
- 4 活用されないまま一定期間を経過したため、破棄した。
- 5 自社内に保管方法に関するルールが無く、一部しか保管していない、または、全部破棄した
- 6 適助な引継ぎがなされなかったため、所在が不明である。
- 7 その他

<その他記述欄>

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q5. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。

- 1 着手されなかった
- 2 中止・中断されていた
- 3 3年以上遅れて着手されていた
- 4 1年～2年程度遅れて着手されていた
- 5 人員や設備投資が縮小されていた
- 6 NEDO以外の外部研究開発資金で実施されていた
- 7 予定通りに実施されていた

Q6. 当該研究開発における貴社の資源投入は、昨年度と比較してどのような状況になっていますか。

<研究開発規模（予算や人員）の変化>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<研究開発規模が拡大した要因> 【複数回答可】

- 1 技術開発目標の達成
- 2 生産技術（収率・設備等）の蓄積
- 3 コスト目標の達成
- 4 事業部門の関与
- 5 経営層の関与
- 6 事業戦略の変化
- 7 ユーザーの評価
- 8 競合他社の動向変化
- 9 顧客の出現
- 10 法規制・標準化の変化
- 11 強力な知財の取得
- 12 NEDOプロジェクトでの共同研究先の意向
- 13 NEDOプロジェクトメンバー以外からの共同開発の要請
- 14 その他

<その他記述欄>

<上市・製品化の可能性（プロジェクトで目指した技術分野）の変化>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性について拡大を判断する要素> 【複数回答可】

- 1 品質競争力（性能・機能が競合品もしくは既存技術よりも優れている）
- 2 コスト競争力（コストが競合品もしくは既存技術よりも優れている）
- 3 市場が確実に存在し、且つ成長が見込める（生産能力強化やコストダウンで市場成長が見込める）
- 4 技術競争力（海外も含めて、開発状況が先頭もしくは先頭グループに位置している）
- 5 知財競争力（一定期間、独占実施権が確保できている）
- 6 その他

<その他記述欄>

<想定される上市・製品化の時期>

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定は立っていない

Q7. NEDO プロジェクトで目指した技術分野以外への波及効果について

<波及効果の有無>

- 1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 既存製品への組み込み
- 2 生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
- 3 品質管理
- 4 評価・解析技術の横展開
- 5 新規製品の開発
- 6 新規テーマの立ち上げ
- 7 社内人材育成
- 8 新たなネットワークの構築
- 9 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q8 現状で NEDO のサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要 2 不要

<「必要」を選択した場合、その内容はどれですか> 【複数回答可】

- 1 実用化の際の資金助成
- 2 標準化活動への支援

- 3 法規制に係る対応支援
- 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他

<その他記述欄>

Q9. NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画

「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

おかげさまで、9年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントして纏めていきますので、是非、ご覧下さい。

また、NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について取り纏めた

「NEDO インサイド製品 2017 ～身近なところに NEDO 技術～」

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

も公開しておりますので、是非、ご覧ください。

平成 30 年度 簡易調査票（制度，企業版）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入ください。

記述欄 _____

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。【必須】

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1}）の作製，実用化に向けた課題を把握，応用開発段階）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2}）の作製，量産化技術の確立，工業化開発段階）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始，工場での運転を開始）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され，それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが，将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	-基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）	社内レポート，特許，論文等
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）	製品化/上市の判断材料となる結果等
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認，試作機の製造，所管省庁/監督団体による販売承認/検査，製品を市場に投入するための設備投資の実施等）	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施，製造ライン設置，原価計算等
上市段階	市場での取引	製品ラインアップ化(カタログ掲載)，継続的な売上発生等

Q3 Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」を選択した場合、想定される上市・製品化の時期はいつ頃でしょうか。

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定は立っていない

Q4. Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」「4 上市段階」を選択した場合、現在の開発体制についてご回答ください。

＜現在の開発体制＞【複数回答可】

- 1 研究部門を主体とした開発
- 2 事業部門を主体とした開発
- 3 社内に当該研究開発に対応する新たなプロジェクトチームを設置して推進
- 4 社内に当該研究開発に対応する新たな部署を設置して推進
- 5 社内ベンチャーを創出して推進
- 6 カーブアウトベンチャーとして独立して推進
- 7 スピンオフ、スピンアウトして独立して推進
- 8 他社との合弁会社を設立して推進
- 9 NEDO プロジェクトメンバー（大学・公的研究機関）との共同開発を推進
- 10 NEDO プロジェクトメンバー（企業）との共同開発を推進
- 11 NEDO プロジェクトメンバー外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 12 海外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 13 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進
- 14 既設のコンソーシアムに参加して推進
- 15 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進

＜上記で、「13 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進」「14 既設のコンソーシアムに参加して推進」「15 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進」を選択した方は、コンソーシアム・プロジェクトの名称をご記入ください。＞

記述欄 _____

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q5. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。【複数回答可】

- 1 着手されなかった。
- 2 中止・中断されていた。
- 3 3年以上遅れて着手されていた。
- 4 1年～2年程度遅れて着手されていた。
- 5 人員や設備投資が縮小されていた。
- 6 NEDO以外の外部研究開発資金で実施されていた。
- 7 予定通りに実施されていた。

Q6. 当該研究開発に関する下記項目の状況について、前回の追跡アンケート調査時点と現在を比較して

どのような状況になっていますか。

<研究開発の規模（予算や人員）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅰ（プロジェクトで目指した技術分野）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅱ（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<国内における競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

<世界における競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

Q7. 当該プロジェクト実施による波及効果について伺います。

<当初想定していなかった派生技術の有無>

- 1 あった 2 なかった

<上記で、「1 あった」を選択した方は、派生技術の内容及び適用先について具体的にご記入ください。>

記述欄 _____

<当該プロジェクトで目指した技術分野以外への技術転用の有無>

- 1 あった 2 なかった

<上記で、「1 あった」を選択した方は、技術転用先の分野・製品についてご記入ください。>

記述欄 _____

<当該プロジェクト実施による波及効果について、当てはまるものをご回答ください>【複数回答可】

- 1 新規事業の創出
- 2 新規製品・サービスの開発
- 3 新規顧客の獲得
- 4 新規共同研究先の獲得
- 5 新たな外部資金(融資、出資含む)の獲得
- 5 中長期（5年～10年で事業化）の新規開発テーマの立ち上げ
- 6 短期（3年以内で事業化）の新規開発テーマの立ち上げ

- 7 社内における中長期研究開発に対する理解増進
- 8 既存製品への NEDO プロジェクト開発成果の組み込み
- 9 既存の生産プロセスへの適用による高効率化や低コスト化
- 10 品質管理方法の改善
- 11 評価・解析技術の横展開
- 12 企業ブランドの向上
- 13 特になし

Q8. 当該プロジェクトに参加した研究員に対する人材育成効果について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 当該プロジェクトの成果をもとに博士号を取得した人材を輩出した。
- 2 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、新たな研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）を企画した。
- 3 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）でリーダーを務めた。
- 4 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）で事業化を成し遂げた。
- 5 特になし
- 6 その他 _____

【プロジェクト終了後の活動について伺います】

Q9. 直近1年間における NEDO 担当者との協議頻度及び内容について当てはまるものをご回答ください。

<協議頻度>

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

<協議内容> 【複数回答可】

- 1 各種提出書類に係る対応
- 2 法規制に係る協議
- 3 事業化シナリオの方向性検討
- 4 研究開発の方向性検討
- 5 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 6 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 7 国内外の技術開発動向
- 8 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 9 市場に関するアドバイス
- 10 宣伝・広報

- 11 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 12 経営に関するアドバイス
- 13 その他（上記以外で重要な項目） _____

Q10. 現状で NEDO のサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要
- 2 不要

<上記で「1 必要」を選択した場合、その内容はどれですか> 【複数回答可】

- 1 実用化の際の資金助成
- 2 標準化活動への支援
- 3 法規制に係る対応支援
- 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他 _____

Q11. 本追跡アンケート調査及び NEDO における評価活動についてのご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2018」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

2019年度 簡易調査票（制度，企業版）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入ください。

記述欄 _____

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。【必須】

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階）
- 2 開発段階 （開発用サンプル*1) の作製，実用化に向けた課題を把握，応用開発段階）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル*2) の作製，量産化技術の確立，工業化開発段階）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始，工場での運転を開始）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され，それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが，将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	-基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）	社内レポート，特許，論文等
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）	製品化/上市の判断材料となる結果等
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認，試作機の製造，所管省庁/監督団体による販売承認/検査，製品を市場に投入するための設備投資の実施等）	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施，製造ライン設置，原価計算等
上市段階	市場での取引	製品ラインアップ化(カタログ掲載)，継続的な売上発生等

Q3 Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」を選択した場合、想定される上市・製品化の時期はいつ頃でしょうか。

- 1 3年以内
- 2 3～5年
- 3 5～10年
- 4 10年以上
- 5 予定は立っていない

Q4. Q2で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」「4 上市段階」を選択した場合、現在の開発体制についてご回答ください。

＜現在の開発体制＞【複数回答可】

- 1 研究部門を主体とした開発
- 2 事業部門を主体とした開発
- 3 社内に当該研究開発に対応する新たなプロジェクトチームを設置して推進
- 4 社内に当該研究開発に対応する新たな部署を設置して推進
- 5 社内ベンチャーを創出して推進
- 6 カーブアウトベンチャーとして独立して推進
- 7 スピンオフ、スピンアウトして独立して推進
- 8 他社との合弁会社を設立して推進
- 9 NEDO プロジェクトメンバー（大学・公的研究機関）との共同開発を推進
- 10 NEDO プロジェクトメンバー（企業）との共同開発を推進
- 11 NEDO プロジェクトメンバー外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 12 海外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 13 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進
- 14 既設のコンソーシアムに参加して推進
- 15 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進

＜上記で、「13 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進」「14 既設のコンソーシアムに参加して推進」「15 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進」を選択した方は、コンソーシアム・プロジェクトの名称をご記入ください。＞

記述欄 _____

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q5. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。【複数回答可】

- 1 着手されなかった。
- 2 中止・中断されていた。
- 3 3年以上遅れて着手されていた。
- 4 1年～2年程度遅れて着手されていた。
- 5 人員や設備投資が縮小されていた。
- 6 NEDO以外の外部研究開発資金で実施されていた。
- 7 予定通りに実施されていた。

Q6. 当該研究開発に関する下記項目の状況について、前回の追跡アンケート調査時点と現在を比較してどのような状況になっていますか。

<研究開発の規模（予算や人員）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅰ（プロジェクトで目指した技術分野）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅱ（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<国内における競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

<世界における競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

Q7. 当該プロジェクト実施による波及効果について伺います。

<当初想定していなかった派生技術の有無>

- 1 あった 2 なかった

<上記で、「1 あった」を選択した方は、派生技術の内容及び適用先について具体的にご記入ください。>

記述欄 _____

<当該プロジェクトで目指した技術分野以外への技術転用の有無>

- 1 あった 2 なかった

<上記で、「1 あった」を選択した方は、技術転用先の分野・製品についてご記入ください。>

記述欄 _____

<当該プロジェクト実施による波及効果について、当てはまるものをご回答ください>【複数回答可】

- 1 新規事業の創出
- 2 新規製品・サービスの開発
- 3 新規顧客の獲得
- 4 新規共同研究先の獲得
- 5 新たな外部資金（融資、出資含む）の獲得
- 5 中長期（5年～10年で事業化）の新規開発テーマの立ち上げ
- 6 短期（3年以内で事業化）の新規開発テーマの立ち上げ
- 7 社内における中長期研究開発に対する理解増進

- 8 既存製品への NEDO プロジェクト開発成果の組み込み
- 9 既存の生産プロセスへの適用による高効率化や低コスト化
- 10 品質管理方法の改善
- 11 評価・解析技術の横展開
- 12 企業ブランドの向上
- 13 特になし

Q8. 当該プロジェクトに参加した研究員に対する人材育成効果について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、新たな研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）を企画した。
- 2 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）でリーダーを務めた。
- 3 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）で事業化を成し遂げた。
- 4 当該プロジェクトの成果をもとに博士号を取得した人材を輩出した。
- 5 特になし
- 6 その他 _____

【プロジェクト終了後の活動について伺います】

Q9. 直近1年間における NEDO 担当者との協議頻度及び内容について当てはまるものをご回答ください。

<協議頻度>

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

<協議内容> 【複数回答可】

- 1 各種提出書類に係る対応
- 2 法規制に係る協議
- 3 事業化シナリオの方向性検討
- 4 研究開発の方向性検討
- 5 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 6 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 7 国内外の技術開発動向
- 8 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 9 市場に関するアドバイス
- 10 宣伝・広報
- 11 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 12 経営に関するアドバイス

13 その他（上記以外で重要な項目） _____

Q10. 現状で NEDO のサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要 2 不要

<上記で「1 必要」を選択した場合、その内容はどれですか> 【複数回答可】

- 1 実用化の際の資金助成
- 2 標準化活動への支援
- 3 法規制に係る対応支援
- 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他 _____

Q11. 本追跡アンケート調査及び NEDO における評価活動についてのご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となる

ことを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント（107 事例掲載）

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品（117 製品登録）

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2019」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

【簡易追跡調査票（制度）-大学】

NEDOプロジェクト名	
プロジェクト実施機関	

変更後の電話番号	
変更後のFAX番号	
変更後のE-mail	

【基本事項】

Q1. 貴機関のプロジェクト参加期間をご記入下さい。

開始年度（西暦 ○○○○年）

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

終了年度（西暦 ○○○○年）

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

Q2. プロジェクトで得られた知的財産※を第三者にライセンスもしくは譲渡している場合には、その状況と相手先の連絡先をご記入下さい。（※知的財産とは、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます。）

<知的財産のライセンスまたは譲渡>

1 している

2 していない

3 予定あり

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<ライセンスまたは譲渡先（ベンチャー企業立ち上げ含む）---知的財産の名称（出願番号、発明の名称など）/所属機関名/所属部署/役職/氏名/連絡先（郵便番号）/連絡先（住所）/電話番号/FAX番号/E-mail>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

【全般について】

Q3. 当該研究開発の成果について、自機関分のみの成果を自己評価するとすれば何点になりますか。

1 100点
4 10点以下

2 70点

3 40点

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q4. プロジェクトで得られた成果や知見を活用した継続的な研究開発を機関内で実施していますか。

1 実施している

2 実施していない

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

※Q4で「1 実施している」を選択された方はQ6へお進み下さい。

Q5. Q4で「2 実施していない」を選択した方に伺います。継続的な研究開発を実施しない旨の検討を始めた時期はいつ頃からですか。その具体的な理由や経緯とあわせてお答え下さい。

<検討を始めた時期>

1 プロジェクト提案前
4 プロジェクトの後半

2 プロジェクト開始直後
5 プロジェクト終了後

3 プロジェクトの中盤

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な理由や経緯>

1 研究目的を達成
3 技術課題の克服が困難
4 その他

2 研究資金が確保できなかった為

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な理由や経緯>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

※なお、理由や経緯が不明な場合は、別途、ご質問をさせて頂く場合があります。

※Q4で「2 実施していない」を選択された方はQ8へお進み下さい。

Q6. Q4で「1 実施している」を選択した方に伺います。継続実施している研究開発のテーマ名についてご記入下さい。
(例えば ○○技術を利用した○○装置の開発、○○技術の確立 など)

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q7. 継続実施している研究開発において、公的資金（海外も含む）を活用している、または活用する予定がある場合は、下記の問いにお答え下さい。

<公的資金の制度名またはプロジェクト名>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

<省庁・独法名>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

<国名または共同体名>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q8. プロジェクト実施期間中に取得した機械装置、もしくは、プロジェクト終了後にNEDOから譲渡を受けた機械装置は、現在、当該研究開発以外の用途でも有効的に活用されていますか。活用されている場合は、具体的な活用方法をご記入下さい。

<有効的な活用の有無>

1 活用する予定

2 活用の予定はない

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<具体的な活用方法>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q9. 機関内において、当該研究開発による技術的な波及効果はありますか。ある場合は、具体的な波及効果についてご記入下さい。

<波及効果の有無>

1 ある

2 ない

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<波及効果の基となったプロジェクトの成果（知識や経験、技術など）> 【複数回答可】

1 開発・製造技術

2 評価・試験技術

3 科学的知見・データ

4 その他

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

1 他の研究室への展開

2 既存の研究テーマへの展開

3 新規研究テーマの立ち上げ

4 その他

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な波及効果>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

【プロジェクトやNEDOのマネジメントに対する評価と改善点】

Q10. プロジェクトに対する満足度はどれくらいでしたか。

1 100点

2 70点

3 40点

4 10点以下

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<理由>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q11. NEDOの担当者のマネジメントに対する満足度はどれくらいでしたか。

1 100点
4 10点以下

2 70点

3 40点

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<理由>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

【最後に】

Q12.良かった点、悪かった点、取り入れるべき点など、NEDOや国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。【複数回答可】

- 1 新規（後継）プロジェクトの立案
- 3 法的環境整備
- 5 事務手続きの改善
- 6 その他

- 2 導入普及補助制度の新設や見直し
- 4 NEDOのマネジメント改善

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<具体例>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q13. 本調査票は、ご担当者以外の方のご意見も含まれていますか。

1 はい

2 いいえ

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

以上、ご協力、誠にありがとうございました。なお、本調査票は、毎年、経済産業省とNEDOとで実施しているCTOインタ

ビューの際に参考にさせて頂く場合がございます。

NEDO管理欄(エラー未修正の理由)

--

【簡易追跡調査票-大学等/制度】

NEDOプロジェクト名	
プロジェクト実施機関	
プロジェクトにおけるテーマ名	
終了後のテーマ名	
NEDOとの関係	

ご担当者	所属機関名	
	所属部署	
	役職	
	氏名	
	連絡先	
	電話番号	FAX番号
	E-mail	
	ポータルID	有効期限

※上記ご担当者欄の一部に変更や訂正がある場合は、下記の該当する欄に新しい情報をご記入下さい。また、別のご担当者を登録される場合は、当該研究開発および貴機関内・外におけるプロジェクト運営の内容や研究開発成果の利用状況について把握されている方のご登録をお願いします。

変更後の所属機関名	
変更後の所属部署	
変更後の役職	
変更後の氏名	
変更後の連絡先（郵便番号）	
変更後の連絡先（住所）	
変更後の電話番号	
変更後のFAX番号	
変更後のE-mail	

【基本事項】

Q1. 貴機関のプロジェクト参加期間をご記入下さい。

開始年度（西暦 ○○○○年）

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

終了年度（西暦 ○○○○年）

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

Q2. プロジェクトで得られた知的財産※を第三者にライセンスもしくは譲渡している場合には、その状況と相手先の連絡先をご記入下さい。（※知的財産とは、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みません。）

<知的財産のライセンスまたは譲渡>

1 している

2 していない

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<連絡先---所属機関名/所属部署/役職/氏名/連絡先（郵便番号）/連絡先（住所）/電話番号/FAX番号/E-mail>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

【全般について】

Q3. NEDOプロジェクトへの参加経験は何回目でしたか。

- | | | |
|-------|---------|-------|
| 1 初めて | 2 2回目 | 3 3回目 |
| 4 4回目 | 5 5回目以上 | |

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q4. NEDOプロジェクトへの参加において重要視しているものについて教えてください。【複数回答可】

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 基礎研究の充実 | 2 研究開発成果の実用化 |
| 3 新たな現象の発見 | 4 予算獲得 |
| 5 論文発表 | 6 特許取得 |
| 7 メカニズム解明 | 8 分析／解析／評価手法の確立 |
| 9 データベース構築 | 10 企業との共同研究 |
| 11 他大学や研究開発独法との共同研究 | 12 企業のサポート研究 |
| 13 ベンチャー企業設立 | 14 技術移転 |
| 15 その他 | |
- 記述欄

回答欄

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

<ご参考>
前回のご回答

Q5. JSTや科研費等の他制度と比較して研究開発の進め方（経理処理は除く）に違いはありましたか。具体的な理由とともにお答え下さい。【複数回答可】

- 1 JSTのA-STEPやS-イノベと同じ
- 2 JSTのERATO やCREST、さきがけと同じ
- 3 科研費と同じ
- 4 他の研究開発制度と同じ
- 5 全く異なっていた
- 6 NEDO以外の研究開発制度を利用した経験は無い

回答欄

--	--	--	--	--	--

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な理由>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q6. 研究開発を進めるにあたり、製品化に向けたコスト意識はありましたか。

- | | | |
|-------------|-------------|----------------|
| 1 大変、意識していた | 2 多少、意識していた | 3 あまり意識していなかった |
| 4 意識していない | | |

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q7. ご自身に配分された研究開発予算は適当でしたか。

- 1 多過ぎた
- 4 やや少なかった

- 2 やや多かった
- 5 少な過ぎた

- 3 適切であった

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q8. 予算の使い勝手はいかがでしたか。具体的な理由とともに答え下さい。

- 1 問題ない

- 2 問題あり

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な理由>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q9. プロジェクトにおけるご自身の役割は何でしたか。【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー (PL)
- 2 サブPL
- 3 グループリーダー
- 4 企業のサポート研究
- 5 アドバイザー
- 6 分析／解析／評価
- 7 メカニズム解明
- 8 技術移転元 (シーズ技術やコア技術を保有)
- 9 材料等の探索研究
- 10 基礎データ取得
- 11 プロセス設計
- 12 装置開発
- 13 ソフト開発
- 14 データベース構築 (データ取得)
- 15 その他

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q10. プロジェクトで設定した目標値に対して、プロジェクト終了時点の達成度は何点になりますか。

<目標値の達成度>

- 1 100点
- 4 40点

- 2 80点
- 5 20点以下

- 3 60点
- 6 設定していない

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<プロジェクト実施期間中に取得できた実験データの量>

- 1 プロジェクトに参画したことによって、非常に多くのデータを取得することができた
- 2 プロジェクトに参画したことによって、多めのデータを取得することができた
- 3 通常の研究活動と同程度のデータを取得できた
- 4 プロジェクトに参画したことによって、少なめのデータ取得となった
- 5 プロジェクトに参画したことによって、非常に少ないデータしか取得できなかった

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q11. 貴機関の技術力ポジションは、プロジェクトに参加して変化しましたか。特許や論文、研究開発ステージ、外部評価などを基に、プロジェクトに提案する前と終了後とを比較して答え下さい。

<技術力ポジションの変化>

- 1 上がった
4 不明

2 変わらない

3 下がった

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<世界における技術力ポジション>

- 1 世界で1位
4 不明

2 世界で2~3位

3 世界で4位以下

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<国内における技術力ポジション>

- 1 日本で1位
4 不明

2 日本で2~3位

3 日本で4位以下

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q12. プロジェクトで得られた成果や知見を活用した継続的な研究開発を機関内で実施していますか。

1 実施している

2 実施していない

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

※Q12で「1 実施している」を選択された方はQ14へお進み下さい。

Q13. Q12で「2 実施していない」を選択した方に伺います。継続的な研究開発を実施していない具体的な理由をお答え下さい。

- 1 研究目的を達成
3 技術課題の克服が困難
4 その他

2 研究資金が確保できなかった為

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な理由や経緯>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

※なお、理由や経緯が不明な場合は、別途、ご質問をさせて頂く場合があります。

※Q12で「2 実施していない」を選択された方はQ16へお進み下さい。

Q14. Q12で「1 実施している」を選択した方に伺います。継続実施している研究開発のテーマ名についてご記入下さい。
(例えば ○○技術を利用した○○装置の開発、○○技術の確立 など)

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q15. 当該研究開発において、公的資金（海外も含む）を活用している、または活用する予定がある場合は、下記の問いにお答え下さい。

<公的資金の制度名またはプロジェクト名>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

<省庁・独法名>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

<国名または共同体名>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

【波及効果】

Q16. NEDOから取得した機械装置は、有効に活用されていますか。

<有効的な活用の有無> 【複数回答可】

1 当該研究開発テーマに活用

2 他目的に活用

3 活用予定はない

回答欄

--	--	--

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な活用方法>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q17. 機関内において、当該研究開発による技術的な波及効果はありましたか。

<波及効果の有無>

1 あった

2 なかった

<ご参考>

回答欄

前回のご回答

<波及効果の適用先>【複数回答可】

- 1 既存研究テーマへの展開
- 2 新規研究テーマの立ち上げ
- 3 プロジェクトに参画した企業以外の企業に展開
- 4 その他

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な波及効果>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q18. プロジェクトで得られた成果や知見を活用した公益的な活動を実施していますか。公益的な活動を実施している場合は、具体例とあわせてお答え下さい。【複数回答可】

- 1 標準化活動（トレーサビリティの確立（計測標準、計量標準、標準物質など）も含む）
- 2 データベースの構築
- 3 ガイドラインの策定
- 4 法規制の見直し
- 5 ソフトウェアの開発
- 6 学会発表
- 7 特になし
- 8 その他

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<具体例>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q19. 当該研究開発に係る昨年度の発表、出願、受賞状況について、プロジェクトからの波及的な効果も含めてお答え下さい。

<論文発表件数>

<ご参考>

記述欄

前回のご回答

<ジャーナル名・表題、発行年、巻、号、第一著者>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

<特許出願件数>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

<出願番号、発明の名称>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

<機関外での受賞・表彰件数>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

<受賞・表彰名称、表彰年月>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q20. 現段階で必要とされるNEDOのサポートは以下のどれですか。【複数回答可】

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 1 追加資金に係る情報 | 2 標準化活動への支援 | 3 法規制に係る対応支援 |
| 4 情報発信の場の提供 | 5 技術課題克服の支援 | |
| 6 その他 | | |

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

【プロジェクトやNEDOのマネジメントに対する評価と改善点】

Q21. プロジェクトに対する満足度はどれくらいでしたか。

- | | | |
|--------|---------|-------|
| 1 100点 | 2 80点 | 3 60点 |
| 4 40点 | 5 20点以下 | |

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<具体的な理由>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

Q22. NEDOの採択審査委員会について伺います。

<採択審査時のコメント内容>

- 1 有益であった
4 コメントを知らない

2 勘違いがあった

3 コメントは無かった

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q23. NEDOの技術推進委員会（有識者委員会）またはNEDOが実施した評価について伺います。

<プロジェクトの推進に関して有効な提言や意見はありましたか>

- 1 的確な提言がもたらされた
4 役立つ提言はなかった

2 満足のいく討議ができた

3 不適切な意見があった

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<上記の提言を反映することで、どのような効果がありましたか>

- 1 技術課題の解決
4 法規制の緩和
7 効果なし
8 その他

2 コスト削減
5 成果のPR

3 特許取得
6 標準化取得やその活動

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<効果なしの具体的な理由>

記述欄

<ご参考>
前回のご回答

<欲しかった指摘や提言>【複数回答可】

- 1 技術の進展予想
3 技術・コスト課題克服のアイデア
5 周辺技術動向の情報
7 その他

- 2 計画の変更・追加
4 メカニズム解明のアイデア・ヒント
6 中止の勧告

記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q24. NEDOの担当者のマネジメントに対する満足度はどれくらいでしたか。

1 100点
4 40点

2 80点
5 20点以下

3 60点

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q25. NEDOの担当者とは、普段、どのような協議をされてきましたか。また、何をやって欲しかったですか

<普段の協議内容>【複数回答可】

- 1 実施計画書の内容精査（契約手続きに係る対応）
- 2 予算要求または予算配分に係る対応
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 検査に係る対応
- 5 資産処分に係る対応
- 6 成果報告書の内容精査
- 7 各種提出書類に係る対応
- 8 他機関との利害調整
- 9 法規制に係る協議
- 10 事業化シナリオの方向性検討
- 11 研究開発の方向性検討
- 12 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 13 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 14 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 15 市場に関するアドバイス
- 16 委員会準備（データ・資料整理 プレゼン方法等）
- 17 宣伝・広報
- 18 その他
記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

<やって欲しかったこと>【複数回答可】

- 1 実施計画書の内容精査（契約手続きに係る対応）
- 2 予算要求または予算配分に係る対応
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 検査に係る対応
- 5 資産処分に係る対応
- 6 成果報告書の内容精査
- 7 各種提出書類に係る対応
- 8 他機関との利害調整
- 9 法規制に係る協議
- 10 事業化シナリオの方向性検討
- 11 研究開発の方向性検討
- 12 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 13 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 14 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 15 市場に関するアドバイス
- 16 委員会準備（データ・資料整理 プレゼン方法等）
- 17 宣伝・広報
- 18 その他
記述欄

回答欄

<ご参考>
前回のご回答

Q26. NEDOの担当者与会った頻度はどれくらいでしたか。

- 1 会ったことが無い
- 3 年に数回
- 5 月に1回以上

- 2 中間・事後評価や委員会の時だけ
- 4 半年に数回

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

Q27. プロジェクトに参加している企業の方と直接お会いした頻度はどれくらいでしたか。

- 1 会ったことが無い
- 3 年に数回
- 5 月に数回

- 2 中間・事後評価や委員会の時だけ
- 4 半年に数回
- 6 連携した企業はない

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

Q28. 現在、プロジェクトで連携をした企業との交流はどのような状況になっていますか。

<連携先の企業について>

- 1 プロジェクトに参加する前から交流があった企業
- 2 プロジェクトがきっかけとなって交流が始まった企業
- 3 連携した企業はない

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<現在の状況について>

- 1 現在も交流が続いている
- 2 現在は交流がなくなった

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

<製品化に向けた進捗状況について>

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

【最後に】

Q29. NEDOや国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

<ご参考>

前回のご回答

Q30. 本調査票は、ご担当者以外の方のご意見も含まれていますか。

- 1 はい

- 2 いいえ

回答欄

<ご参考>

前回のご回答

以上、ご協力、誠にありがとうございました。なお、本調査票は、毎年、経済産業省とNEDOとで実施しているCTOインタビューの際に参考にさせて頂く場合がございます。

NEDO管理欄(エラー未修正の理由)

--

【2年目 制度（大学）】

【基本事項】

Q1. 貴機関のプロジェクト参加期間をご記入下さい。

開始年度（西暦） ープルダウンー

終了年度（西暦） ープルダウンー

Q2. ご担当者のプロジェクト参加期間と参加形態をご記入下さい。

開始年度（西暦） ープルダウンー

終了年度（西暦） ープルダウンー

<参加形態>

1 業務管理者 2 研究管理者 3 研究者 4 その他

Q3. プロジェクトで得られた知的財産※を第三者にライセンスもしくは譲渡している場合には、その具体的な状況と相手方の連絡先をご記入下さい。（※知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます。）

記述欄

Q4. プロジェクト終了後、当該プロジェクトで得られた知見や成果を利用した継続的な研究開発を実施していますか。【必須】

1 継続実施している 2 継続実施していない

Q5. 継続実施している研究開発のテーマ名についてご記入ください。なお、上記質問で、「2 継続実施していない」を選択した場合は、その理由をご記入下さい。【必須】

記述欄

Q6. 継続実施している研究開発において、公的資金（海外も含む）を活用している、または活用する予定がある場合、それは、どのようなものですか。

<公的資金の制度名またはプロジェクト名>

記述欄

<省庁・独法名>

記述欄

<国名または共同体名>

記述欄

【波及効果】

Q7. プロジェクトで得られた成果や知見を活用した公益的な活動を実施していますか。公益的な活動を実施している場合は、具体的な内容とあわせてお答え下さい。【複数回答可】

- 1 標準化活動（トレーサビリティの確立（計測標準、計量標準、標準物質など）も含む）
- 2 データベースの構築 3 ガイドラインの策定 4 法規制の見直し
- 5 ソフトウェアの開発 6 学会発表 7 特になし
- 8 その他

<具体的な内容>

記述欄

Q8. 昨年度の発表、出願、受賞状況について、プロジェクトからの波及的な効果も含めてお答え下さい。

<論文発表件数>

記述欄

<論文発表（ジャーナル名・表題、発行年、巻、号、第一著者）>

記述欄

<特許出願件数>

記述欄

<特許出願（出願番号、発明の名称）>

記述欄

<受賞・表彰件数>

記述欄

<受賞・表彰（受賞・表彰名称、表彰年月）>

記述欄

Q9. 当該研究開発による技術的な波及効果はありましたか。

<波及効果の有無>

- 1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先>【複数回答可】

- 1 既存研究テーマへの展開 2 新規研究テーマの立ち上げ
- 3 プロジェクトに参加した企業以外の企業に展開 4 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

Q10. プロジェクトで連携した企業との交流は現在どのような状況になっていますか。

<連携先の企業について>

- 1 プロジェクトに参加する前から交流があった企業
- 2 プロジェクトがきっかけとなって交流が始まった企業
- 3 連携した企業はない

<現在の状況について>

- 1 現在も交流が続いている
- 2 現在は交流がなくなった

<製品化に向けた進捗状況について>

記述欄

【最後に】

Q11. NEDO や国への要望がございましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

Q12. 本調査票は、ご担当者以外の方のご意見も含まれておりますか。

1 はい 2 いいえ

回答欄

以上、ご協力、誠にありがとうございました。本調査票は、NEDO の業務運営改善に活用させていただきます。また、経済産業省と NEDO とで実施している CTO インタビューの際に参考にさせて頂く場合もございます。

【4・6年目 簡易（大学）】

Q1. プロジェクトで得られた知的財産※を第三者にライセンスもしくは譲渡している場合には、その具体的な状況と相手方の連絡先をご記入下さい。（※知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます。）

記述欄

【現在の状況】

Q2. プロジェクトで得られた知見や成果を利用した継続的な研究開発を実施していますか。【必須】

- 1 継続実施している 2 継続実施していない

Q3. 上記質問で「2 継続実施していない」を選択した方に伺います。継続実施していない理由をお答え下さい。

- 1 研究目的を達成 2 研究資金が確保できなかった為 3 技術課題の克服が困難
4 その他

Q4. 継続実施している研究開発において、公的資金（海外も含む）を活用している、または活用する予定がある場合、それは、どのようなものですか。

<公的資金の制度名またはプロジェクト名>

記述欄

<省庁・独法名>

記述欄

<国名または共同体名>

記述欄

【波及効果】

Q5. プロジェクトで得られた成果や知見を活用した公益的な活動を実施していますか。公益的な活動を実施している場合は、具体的な内容とあわせてお答え下さい。【複数回答可】

- 1 標準化活動（トレーサビリティの確立（計測標準、計量標準、標準物質など）も含む）
2 データベースの構築 3 ガイドラインの策定 4 法規制の見直し
5 ソフトウェアの開発 6 学会発表 7 特になし
8 その他

<具体的な内容>

記述欄

Q6. 昨年度の発表、出願、受賞状況について、プロジェクトからの波及的な効果も含めてお答え下さい。

<論文発表件数>

記述欄

<論文発表（ジャーナル名・表題、発行年、巻、号、第一著者）>

記述欄

【4・6年目 簡易（大学）】

<特許出願件数>

記述欄

<特許出願（出願番号、発明の名称）>

記述欄

<受賞・表彰件数>

記述欄

<受賞・表彰（受賞・表彰名称、表彰年月）>

記述欄

Q7. 当該研究開発による技術的な波及効果はありましたか。

<波及効果の有無>

1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先>【複数回答可】

1 既存研究テーマへの展開 2 新規研究テーマの立ち上げ
3 プロジェクトに参加した企業以外の企業に展開 4 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

Q8. プロジェクトで連携した企業との交流は現在どのような状況になっていますか。

<連携先の企業について>

1 プロジェクトに参加する前から交流があった企業
2 プロジェクトがきっかけとなって交流が始まった企業
3 連携した企業はない

<現在の状況について>

1 現在も交流が続いている
2 現在は交流がなくなった

<製品化に向けた進捗状況について>

記述欄

【最後に】

Q9. NEDO や国への要望がございましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

Q10. 本調査票は、ご担当者以外の方のご意見も含まれておりますか。

1 はい 2 いいえ

回答欄

平成26年度 簡易調査票（大学、法人、研究機関等）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄

Q2. プロジェクトで得られた知見や成果を利用した継続的な研究開発を実施していますか。

- 1 継続実施している 2 継続実施していない

<上記で「1 継続実施している」を選択した方は、現在の研究開発状況をお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 NEDO プロジェクト連携先企業との共同研究
2 NEDO プロジェクト外の企業との共同研究
3 他の公的資金を活用して研究開発を継続
4 独自資金で研究開発を継続
5 成果受け入れ先企業の探索中
6 その他

その他記述欄

他の公的資金を活用されている場合、所管する国・省庁・独法名、及び制度名・プロジェクト名をご記入下さい。

記述欄

<上記で「2 継続実施していない」を選択した方は、その理由をお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 研究開発目的を達成 2 技術課題の克服が困難 3 研究開発資金が確保できなかったため
4 共同研究先が研究開発を中止したため 5 その他

その他記述欄

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q3. NEDO プロジェクトで目指した研究開発以外への波及効果について

<波及効果の有無>

- 1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先>【複数回答可】

- 1 NEDO プロジェクトとは異なる既存研究テーマへの展開
2 新規研究テーマの立ち上げ
3 人材育成 4 新たなネットワークの構築 5 公的資金獲得
6 企業とのコミュニケーション円滑化 7 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q4. NEDO や国への要望がございましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 -NEDO プロジェクト実用化ドキュメント-

おかげさまで、6年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 27 年度 簡易調査票（大学、法人、研究機関等）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄

Q2. プロジェクトで得られた知見や成果を利用した継続的な研究開発を実施していますか。

- 1 継続実施している 2 継続実施していない

<上記で「1 継続実施している」を選択した方は、現在の研究開発状況をお答え下さい> **【複数選択可】**

- 1 NEDO プロジェクト連携先企業との共同研究
2 NEDO プロジェクト外の企業との共同研究
3 他の公的資金を活用して研究開発を継続
4 独自資金で研究開発を継続
5 成果受け入れ先企業の探索中
6 その他

その他記述欄

他の公的資金を活用されている場合、所管する国・省庁・独法名、及び制度名・プロジェクト名をご記入下さい。

記述欄

<上記で「2 継続実施していない」を選択した方は、その理由をお答え下さい> **【複数選択可】**

- 1 研究開発目的を達成 2 技術課題の克服が困難 3 研究開発資金が確保できなかったため
4 共同研究先が研究開発を中止したため 5 その他

その他記述欄

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q3. NEDO プロジェクトで目指した研究開発以外への波及効果について

<波及効果の有無>

- 1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先>【複数回答可】

- 1 NEDO プロジェクトとは異なる既存研究テーマへの展開
2 新規研究テーマの立ち上げ
3 人材育成 4 新たなネットワークの構築 5 公的資金獲得
6 企業とのコミュニケーション円滑化 7 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q4. NEDO や国への要望がございましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 -NEDO プロジェクト実用化ドキュメント-

おかげさまで、7年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 28 年度 簡易調査票（大学、法人、研究機関等）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄

Q2. プロジェクトで得られた知見や成果を利用した継続的な研究開発を実施していますか。

- 1 継続実施している 2 継続実施していない

<上記で「1 継続実施している」を選択した方は、現在の研究開発状況をお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 NEDO プロジェクト連携先企業との共同研究
2 NEDO プロジェクト外の企業との共同研究
3 他の公的資金を活用して研究開発を継続
4 独自資金で研究開発を継続
5 成果受け入れ先企業の探索中
6 その他

その他記述欄

他の公的資金を活用されている場合、所管する国・省庁・独法名、及び制度名・プロジェクト名をご記入下さい。

記述欄

<上記で「2 継続実施していない」を選択した方は、その理由をお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 研究開発目的を達成 2 技術課題の克服が困難 3 研究開発資金が確保できなかったため
4 共同研究先が研究開発を中止したため 5 その他

その他記述欄

Q3. 研究開発データ（論文や特許として公開されない実験データやノウハウの記録）についてお伺いします。

<保管状況>

- 1 すべて保管している 2 一部保管している 3 破棄した

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管方法についてご教示ください。>

- 1 全組織的なサーバーに保管され、組織内で広く活用できる仕組みとなっている
- 2 所属部署・研究室ごとのサーバーに保管され、その範囲内で活用できる仕組みとなっている
- 3 専用サーバーに保管され、特定の者のみが活用できる仕組みとなっている
- 4 研究者(技術者)が個人で保管している
- 5 詳細は把握していない
- 6 その他

<その他記述欄>

<上記で「2 一部保管している」「3 破棄した」と回答した方に伺います。破棄理由についてご教示ください。>

- 1 契約で、終了時に委託元に全部、または、一部譲渡することになっていた
- 2 データ量が多かったため、重要なデータのみを残した
- 3 重要なデータがないため破棄した
- 4 活用されないまま一定期間を経過したため、破棄した。
- 5 所属機関内に保管方法に関するルールが無く、一部しか保管していない、または、全部破棄した
- 6 適切な引継ぎがなされなかったため、所在が不明である。
- 7 その他

<その他記述欄>

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q4. NEDO プロジェクトで目指した研究開発以外への波及効果について

<波及効果の有無>

- 1 あった
- 2 なかった

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 NEDO プロジェクトとは異なる既存研究テーマへの展開
- 2 新規研究テーマの立ち上げ
- 3 人材育成
- 4 新たなネットワークの構築
- 5 公的資金獲得
- 6 企業とのコミュニケーション円滑化
- 7 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q5. NEDO や国への要望がございましたら具体的にご記入下さい。

記述欄 □

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 -NEDO プロジェクト実用化ドキュメント-

おかげさまで、8年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 29 年度 簡易調査票（大学、法人、研究機関等）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）のうち全てを第三者に譲渡している場合（一部承継もしくは譲渡と除く）には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 □

Q2. プロジェクトで得られた知見や成果を利用した継続的な研究開発を実施していますか。

- 1 継続実施している 2 継続実施していない

<上記で「1 継続実施している」を選択した方は、現在の研究開発状況をお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 NEDO プロジェクト連携先企業との共同研究
2 NEDO プロジェクト外の企業との共同研究
3 他の公的資金を活用して研究開発を継続
4 独自資金で研究開発を継続
5 成果受け入れ先企業の探索中
6 その他

その他記述欄 □

他の公的資金を活用されている場合、所管する国・省庁・独法名、及び制度名・プロジェクト名をご記入下さい。

記述欄□

<上記で「2 継続実施していない」を選択した方は、その理由をお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 研究開発目的を達成 2 技術課題の克服が困難 3 研究開発資金が確保できなかったため
4 共同研究先が研究開発を中止したため 5 その他

その他記述欄 □

Q3. 研究開発データ（論文や特許として公開されない実験データやノウハウの記録）についてお伺いします。

<保管状況>

- 1 すべて保管している 2 一部保管している 3 破棄した

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管目的についてご教示ください。> 【複数選択可】

- 1 事業承継、譲渡、売却を想定して保管
- 2 他機関との共同研究で利用するために保管
- 3 ユーザーに開示するために保管
- 4 組織横断的に蓄積・分析する（次のアイデア発掘等）ために保管
- 5 組織内の別部門で利用するために保管
- 6 論文や特許の直接のエビデンスではないが、関連するため保管
- 7 研究を継続するために保管
- 8 目的・用途はないが保管

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管方法についてご教示ください。>

- 1 全組織的なサーバーに保管され、組織内で広く活用できる仕組みとなっている
- 2 所属部署・研究室ごとのサーバーに保管され、その範囲内で活用できる仕組みとなっている
- 3 専用サーバーに保管され、特定の者のみが活用できる仕組みとなっている
- 4 研究者(技術者)が個人で保管している
- 5 詳細は把握していない

<保管されたデータが組織内で活用された事例があれば具体的にご記入下さい。>

記述欄

<上記で「2 一部保管している」「3 破棄した」と回答した方に伺います。破棄理由についてご教示ください。>

- 1 契約で、終了時に委託元に全部、または、一部譲渡することになっていた
- 2 データ量が多かったため、重要なデータのみを残した
- 3 重要なデータがないため破棄した
- 4 活用されないまま一定期間を経過したため、破棄した。
- 5 所属機関内に保管方法に関するルールが無く、一部しか保管していない、または、全部破棄した
- 6 適助な引継ぎがなされなかったため、所在が不明である。
- 7 その他

<その他記述欄>

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q4. NEDO プロジェクトで目指した研究開発以外への波及効果について

<波及効果の有無>

- 1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先>【複数回答可】

- 1 NEDO プロジェクトとは異なる既存研究テーマへの展開
2 新規研究テーマの立ち上げ
3 人材育成 4 新たなネットワークの構築 5 公的資金獲得
6 企業とのコミュニケーション円滑化 7 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q5. NEDO や国への要望がございましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画

「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

おかげさまで、9年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントして纏めていきますので、是非、ご覧下さい。

また、NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について取り纏めた

「NEDO インサイド製品 2017 ～身近なところに NEDO 技術～」

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

も公開しておりますので、是非、ご覧ください。

平成 30 年度 簡易調査票（制度、大学、法人、研究機関版）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に承継もしくは譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入ください。

記述欄 _____

Q2. プロジェクトで得られた知見や成果を利用した継続的な研究開発を実施していますか。

- 1 継続実施している 2 継続実施していない

<上記で「1 継続実施している」を選択した方は、現在の研究開発状況をお答え下さい。> 【複数回答可】

- 1 独自で研究開発を継続
- 2 ベンチャー企業を設立して推進
- 3 NEDO プロジェクトメンバー（大学・公的研究機関）との共同開発を推進
- 4 NEDO プロジェクトメンバー（企業）との共同開発を推進
- 5 NEDO プロジェクトメンバー外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 6 海外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 7 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進
- 8 既設のコンソーシアムに参加して推進
- 9 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進
- 10 成果受け入れ先企業の探索中
- 11 その他 _____

<「7 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進」「8 既設のコンソーシアムに参加して推進」「9 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進」を選択した方は、コンソーシアム・プロジェクトの名称をご記入ください。>

記述欄 _____

<上記で「2 継続実施していない」を選択した場合、その理由をご回答ください。> 【複数回答可】

- 1 研究開発目的を達成
- 2 技術課題の克服が困難
- 3 研究開発資金が確保できなかったため。
- 4 共同研究先が研究開発を中止したため。
- 5 その他 _____

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q3. NEDO プロジェクトで目指した研究開発以外への波及効果について伺います。

＜波及効果の有無＞

- 1 あった 2 なかった

＜波及効果の適用先＞【複数回答可】

- 1 NEDO プロジェクトとは異なる既存研究テーマへの展開
2 新規研究テーマの立ち上げ
3 人材育成
4 新たなネットワークの構築
5 公的資金獲得
6 企業とのコミュニケーション円滑化
7 その他 _____

Q4. 当該プロジェクトに参加した研究員に対する人材育成効果について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 当該プロジェクトの成果をもとに博士号を取得した人材を輩出した。
2 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、新たな研究開発プロジェクト・テーマ（機関内外問わず）を企画した。
3 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト・テーマ（機関内外問わず）でリーダーを務めた。
4 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト・テーマ（機関内外問わず）で事業化を成し遂げた。
5 特になし
6 その他 _____

Q5. 本追跡アンケート調査及びNEDOにおける評価活動についてのご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2018」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

2019年度 簡易調査票（制度、大学、法人、研究機関版）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に承継もしくは譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入ください。

記述欄 _____

Q2. プロジェクトで得られた知見や成果を利用した継続的な研究開発を実施していますか。

- 1 継続実施している 2 継続実施していない

<上記で「1 継続実施している」を選択した方は、現在の研究開発状況をお答え下さい。> 【複数回答可】

- 1 独自で研究開発を継続
- 2 ベンチャー企業を設立して推進
- 3 NEDO プロジェクトメンバー（大学・公的研究機関）との共同開発を推進
- 4 NEDO プロジェクトメンバー（企業）との共同開発を推進
- 5 NEDO プロジェクトメンバー外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 6 海外の企業・大学・公的研究機関との共同開発を推進
- 7 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進
- 8 既設のコンソーシアムに参加して推進
- 9 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進
- 10 成果受け入れ先企業の探索中
- 11 その他 _____

<「7 NEDO プロジェクトメンバーでコンソーシアムを設立して推進」「8 既設のコンソーシアムに参加して推進」「9 公的研究開発プロジェクト（NEDO プロジェクト含む）に参加して推進」を選択した方は、コンソーシアム・プロジェクトの名称をご記入ください。>

記述欄 _____

<上記で「2 継続実施していない」を選択した場合、その理由をご回答ください。> 【複数回答可】

- 1 研究開発目的を達成
- 2 技術課題の克服が困難
- 3 研究開発資金が確保できなかったため。
- 4 共同研究先が研究開発を中止したため。
- 5 その他 _____

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q3. NEDO プロジェクトで目指した研究開発以外への波及効果について伺います。

<波及効果の有無>

- 1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 NEDO プロジェクトとは異なる既存研究テーマへの展開
2 新規研究テーマの立ち上げ
3 人材育成
4 新たなネットワークの構築
5 公的資金獲得
6 企業とのコミュニケーション円滑化
7 その他 _____

Q4. 当該プロジェクトに参加した研究員に対する人材育成効果について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、新たな研究開発プロジェクト・テーマ（機関内問わず）を企画した。
2 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト・テーマ（機関内外問わず）でリーダーを務めた。
3 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト・テーマ（機関内外問わず）で事業化を成し遂げた。
4 当該プロジェクトの成果をもとに博士号を取得した人材を輩出した。
5 特になし
6 その他 _____

Q5. 本追跡アンケート調査及びNEDOにおける評価活動についてのご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント（107 事例掲載）

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyokabu/index.html>

●NEDO インサイド製品（117 製品登録）

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2019」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成26年度 簡易上市調査票

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 □

Q2. 現時点における貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1)}の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2)}の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	-基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進捗性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3. 上記質問で「3 製品化段階」または「4 上市段階」を選択した方に伺います。具体的な現在の状況についてお答え下さい。

<現在の状況>

記述欄

<出荷数量>

記述欄

<売り上げの有無>

1 あり 2 なし

<売り上げの実績額（円）>

記述欄

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q4. NEDO プロジェクトで目指した技術分野以外への波及効果について

<波及効果の有無>

1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先>【複数回答可】

- 1 既存製品への組み込み 2 生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
3 品質管理 4 評価・解析技術の横展開 5 新規製品の開発 6 新規テーマの立ち上げ
7 社内人材育成 8 新たなネットワークの構築 9 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q5. NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

Q6. 実用化ドキュメント（※）への掲載に興味がございますか。

1 興味ある 2 興味ない 3 検討したい 4 掲載済み

（※）実用化ドキュメントとは

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 -NEDO プロジェクト実用化ドキュメント-

おかげさまで、6年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメン

トしていきますので、是非、ご覧下さい。また、皆様方の掲載もお待ちしております。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 27 年度 簡易上市調査票

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄

Q2. 現時点における貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1}）の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2}）の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3. 上記質問で「3 製品化段階」または「4 上市段階」を選択した方に伺います。具体的な現在の状況についてお答え下さい。

<現在の状況>

記述欄

<出荷数量>

記述欄

<売り上げの有無>

1 あり 2 なし

<売り上げの実績額（円）>

記述欄

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q4. NEDO プロジェクトで目指した技術分野以外への波及効果について

<波及効果の有無>

1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 既存製品への組み込み 2 生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
3 品質管理 4 評価・解析技術の横展開 5 新規製品の開発 6 新規テーマの立ち上げ
7 社内人材育成 8 新たなネットワークの構築 9 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q5. NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

(※) 実用化ドキュメントとは

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 -NEDO プロジェクト実用化ドキュメント-

おかげさまで、7年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyokabu/index.html>

平成 28 年度 簡易上市調査票

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1}）の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2}）の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3. 上記質問で「3 製品化段階」または「4 上市段階」を選択した方に伺います。具体的な現在の状況についてお答え下さい。

<現在の状況>

記述欄

<出荷数量>

記述欄

<売り上げの有無>

1 あり 2 なし

<売り上げの実績額（円）>

記述欄

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q4. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。

1 着手されなかった 2 人員や設備投資が縮小されていた 3 予定通りに実施されていた

Q5. NEDO プロジェクトで目指した技術分野以外への波及効果について

<波及効果の有無>

1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先>【複数回答可】

1 既存製品への組み込み 2 生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
3 品質管理 4 評価・解析技術の横展開 5 新規製品の開発 6 新規テーマの立ち上げ
7 社内人材育成 8 新たなネットワークの構築 9 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q6. NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 -NEDO プロジェクト実用化ドキュメント-

おかげさまで、8年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 29 年度 簡易上市調査票

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）のうち全てを第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1)}の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2)}の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3. 上記質問で「3 製品化段階」または「4 上市段階」を選択した方に伺います。具体的な現在の状況についてお答え下さい。

<現在の状況>

記述欄

<出荷数量>

記述欄

<売り上げの有無>

1 あり 2 なし

<売り上げの実績額（円）>

記述欄

<新たな雇用創出（含む関連会社）あるいは雇用維持の効果（例：○人／年）>

記述欄

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q4. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。

- 1 着手されなかった 2 中止・中断されていた 3 3年以上遅れて着手されていた
4 1年～2年程度遅れて着手されていた 5 人員や設備投資が縮小されていた
6 NEDO以外の外部研究開発資金で実施されていた 7 予定通りに実施されていた

Q5. NEDO プロジェクトで目指した技術分野以外への波及効果について

<波及効果の有無>

1 あった 2 なかった

<波及効果の適用先>【複数回答可】

- 1 既存製品への組み込み 2 生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
3 品質管理 4 評価・解析技術の横展開 5 新規製品の開発 6 新規テーマの立ち上げ
7 社内人材育成 8 新たなネットワークの構築 9 その他

<具体的な波及効果>

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q6. NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画

「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

おかげさまで、9年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントして纏めていきますので、是非、ご覧下さい。

また、NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について取り纏めた

「NEDO インサイド製品 2017 ～身近なところに NEDO 技術～」

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

も公開しておりますので、是非、ご覧ください。

平成 30 年度 簡易上市調査票（制度，企業版）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入ください。

記述欄 _____

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 (基礎的・要素的な基礎探索段階)
- 2 開発段階 (開発用サンプル^{*1)}の作製，実用化に向けた課題を把握，応用開発段階)
- 3 製品化段階 (顧客評価(認定用)サンプル^{*2)}の作製，量産化技術の確立，工業化開発段階)
- 4 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始，工場での運転を開始)
- 5 中止 (社内での研究開発活動は停止され，それ以上の開発は行われない。)
- 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが，将来再開する可能性がある。)

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究(現象の新規性や性能の進歩性等について把握)	社内レポート，特許，論文等
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発(開発用サンプルを作成し，ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握)	製品化/上市の判断材料となる結果等
製品化段階	製品化、量産化技術の確立(製品化への社内承認，試作機の製造，所管省庁/監督団体による販売承認/検査，製品を市場に投入するための設備投資の実施等)	顧客評価(認定用)サンプルの作成や量産試作の実施，製造ライン設置，原価計算等
上市段階	市場での取引	製品ラインアップ化(カタログ掲載)，継続的な売上発生等

Q3. 上記で「3 製品化段階」または「4 上市段階」を選択した方に伺います。具体的な現在の状況についてお答えください。

<現在の状況と今後の見込み>

記述欄 _____

<直近単年度の出荷数量>

記述欄 _____

<直近単年度の売上の有無>

- 1 あり 2 なし

<直近単年度の売上の実績額（円）>

記述欄 _____

<直近単年度の利益（粗利益ベース）の有無>

- 1 あり 2 なし

<今後5年間の累積売上見込み額（円）>

記述欄 _____

<新たな雇用創出（含む関連会社）あるいは雇用維持の効果（例：○人／年）>

記述欄 _____

<前回の追跡アンケート調査時点と現在を比較した場合の、国内における競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

<前回の追跡アンケート調査時点と現在を比較した場合の、世界における競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q4. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。【複数回答可】

- 1 着手されなかった。
- 2 中止・中断されていた。
- 3 3年以上遅れて着手されていた。
- 4 1年～2年程度遅れて着手されていた。
- 5 人員や設備投資が縮小されていた。
- 6 NEDO以外の外部研究開発資金で実施されていた。
- 7 予定通りに実施されていた。

Q5. 当該プロジェクト実施による波及効果について伺います。

<当初想定していなかった派生技術の有無>

- 1 あった 2 なかった

<上記で、「1 あった」を選択した方は、派生技術の内容及び適用先について具体的にご記入ください。>

記述欄 _____

<当該プロジェクトで目指した技術分野以外への技術転用の有無>

- 1 あった 2 なかった

<上記で、「1 あった」を選択した方は、技術転用先の分野・製品についてご記入ください。>

記述欄 _____

<当該プロジェクト実施による波及効果について、当てはまるものをご回答ください。> 【複数回答可】

- 1 新規事業の創出
- 2 新規製品・サービスの開発
- 3 新規顧客の獲得
- 4 新規共同研究先の獲得
- 5 新たな外部資金(融資、出資含む)の獲得
- 5 中長期(5年~10年で事業化)の新規開発テーマの立ち上げ
- 6 短期(3年以内で事業化)の新規開発テーマの立ち上げ
- 7 社内における中長期研究開発に対する理解増進
- 8 既存製品へのNEDOプロジェクト開発成果の組み込み
- 9 既存の生産プロセスへの適用による高効率化や低コスト化
- 10 品質管理方法の改善
- 11 評価・解析技術の横展開
- 12 企業ブランドの向上
- 13 特になし

Q6. 当該プロジェクトに参加した研究員に対する人材育成効果について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 当該プロジェクトの成果をもとに博士号を取得した人材を輩出した。
- 2 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、新たな研究開発プロジェクト(国・社内外問わず)を企画した。
- 3 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト(国・社内外問わず)でリーダーを務めた。
- 4 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト(国・社内外問わず)

で事業化を成し遂げた。

5 特になし

6 その他 _____

【プロジェクト終了後の活動について伺います】

Q7. 直近1年間におけるNEDO担当者との協議頻度及び内容について当てはまるものをご回答ください。

<協議頻度>

1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上

5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

<協議内容> 【複数回答可】

1 各種提出書類に係る対応

2 法規制に係る協議

3 事業化シナリオの方向性検討

4 研究開発の方向性検討

5 知的財産等の取り扱いに係る検討

6 戦略的な標準化取得に向けた検討

7 国内外の技術開発動向

8 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）

9 市場に関するアドバイス

10 宣伝・広報

11 ユーザー企業とのマッチングの場の提供

12 経営に関するアドバイス

13 その他（上記以外で重要な項目） _____

Q8. 本追跡アンケート調査及びNEDOにおける評価活動についてのご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2018」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

2019年度 簡易上市調査票（制度，企業版）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合には、「具体的な状況」、「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入ください。

記述欄 _____

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。【必須】

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1}）の作製，実用化に向けた課題を把握，応用開発段階）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2}）の作製，量産化技術の確立，工業化開発段階）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始，工場での運転を開始）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され，それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが，将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）	社内レポート，特許，論文等
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し，ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）	製品化/上市の判断材料となる結果等
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認，試作機の製造，所管省庁/監督団体による販売承認/検査，製品を市場に投入するための設備投資の実施等）	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施，製造ライン設置，原価計算等
上市段階	市場での取引	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等

Q3. 上記で「3 製品化段階」または「4 上市段階」を選択した方に伺います。具体的な現在の状況についてお答えください。

<現在の状況と今後の見込み>

記述欄 _____

<直近単年度の出荷数量>

記述欄 _____

<直近単年度の売上の有無>

- 1 あり 2 なし

<直近単年度の売上の実績額（円）>

記述欄 _____

<直近単年度の利益（粗利益ベース）の有無>

- 1 あり 2 なし

<今後5年間の累積売上見込み額（円）>

記述欄 _____

<新たな雇用創出（含む関連会社）あるいは雇用維持の効果（例：○人／年）>

記述欄 _____

<前回の追跡アンケート調査時点と現在を比較した場合の、国内における競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

<前回の追跡アンケート調査時点と現在を比較した場合の、世界における競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

Q4. 現段階で、NEDO のサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要 2 不要

<上記で、「1 必要」を選択した場合、その内容はどれですか。> 【複数回答可】

- 1 実用化（製品化・上市段階）への資金助成
- 2 標準化活動への支援
- 3 法規制に係る対応支援
- 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他 _____

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q5. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。【複数回答可】

- 1 着手されなかった。
- 2 中止・中断されていた。
- 3 3年以上遅れて着手されていた。
- 4 1年～2年程度遅れて着手されていた。
- 5 人員や設備投資が縮小されていた。
- 6 NEDO以外の外部研究開発資金で実施されていた。
- 7 予定通りに実施されていた。

Q6. 当該プロジェクト実施による波及効果について伺います。

<当初想定していなかった派生技術の有無>

- 1 あった
- 2 なかった

<上記で、「1 あった」を選択された方は、派生技術の内容及び適用先について具体的にご記入ください。>

記述欄 _____

<当該プロジェクトで目指した技術分野以外への技術転用の有無>

- 1 あった
- 2 なかった

<上記で、「1 あった」を選択された方は、技術転用先の分野・製品についてご記入ください。>

記述欄 _____

<当該プロジェクト実施による波及効果について、当てはまるものをご回答ください。> 【複数回答可】

- 1 新規事業の創出
- 2 新規製品・サービスの開発
- 3 新規顧客の獲得
- 4 新規共同研究先の獲得
- 5 新たな外部資金(融資、出資含む)の獲得
- 6 中長期(5年～10年で事業化)の新規開発テーマの立ち上げ
- 7 短期(3年以内で事業化)の新規開発テーマの立ち上げ
- 8 社内における中長期研究開発に対する理解増進
- 9 既存製品へのNEDOプロジェクト開発成果の組み込み
- 10 既存の生産プロセスへの適用による高効率化や低コスト化
- 11 品質管理方法の改善

- 12 評価・解析技術の横展開
- 13 企業ブランドの向上
- 14 特になし

Q7. 当該プロジェクトに参加した研究員に対する人材育成効果について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、新たな研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）を企画した。
- 2 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）でリーダーを務めた。
- 3 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト（国・社内外問わず）で事業化を成し遂げた。
- 4 当該プロジェクトの成果をもとに博士号を取得した人材を輩出した。
- 5 特になし
- 6 その他 _____

【プロジェクト終了後の活動について伺います】

Q8. 直近1年間におけるNEDO担当者との協議頻度及び内容について当てはまるものをご回答ください。

<協議頻度>

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

<協議内容> 【複数回答可】

- 1 各種提出書類に係る対応
- 2 法規制に係る協議
- 3 事業化シナリオの方向性検討
- 4 研究開発の方向性検討
- 5 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 6 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 7 国内外の技術開発動向
- 8 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 9 市場に関するアドバイス
- 10 宣伝・広報
- 11 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 12 経営に関するアドバイス
- 13 その他（上記以外で重要な項目） _____

Q9. 本追跡アンケート調査及びNEDOにおける評価活動についてのご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント（107 事例掲載）

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品（117 製品登録）

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2019」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

平成26年度 簡易中止調査票

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 □

Q2. 現時点における貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1)}の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2)}の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	-基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進捗性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3. 上記質問で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」または「4 上市段階」を選択した方に伺います。具体的な現在の状況についてお答え下さい。

<研究開発の活動主体>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

<想定される上市・製品化の時期>

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定はたっていない

<当該研究開発を再開された要因>【複数回答可】

- 1 技術開発課題を解決する手法の出現 2 コスト課題を解決する手法の出現
3 事業戦略の変化、4 競合他社の動向変化、5 顧客の出現、6 法規制・標準化の変化、
7 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向
8 NEDO プロジェクトメンバー以外からの共同開発の要請 9 その他

<その他記述欄>

【NEDO への要望について伺います】

Q4 現状で NEDO のサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要 2 不要

<「必要」を選択した場合、その内容はどれですか>【複数回答可】

- 1 実用化の際の資金助成
2 標準化活動への支援
3 法規制に係る対応支援
4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
5 マスコミを活用した広報活動支援
6 技術課題克服の支援
7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
8 国内外の市場動向の情報収集への支援
9 その他

<その他記述欄>

Q5 NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 -NEDO プロジェクト実用化ドキュメント-

おかげさまで、6年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 27 年度 簡易中止調査票

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 □

Q2. 現時点における貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 (基礎的・要素的な基礎探索段階。)
- 2 開発段階 (開発用サンプル*1) の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。)
- 3 製品化段階 (顧客評価 (認定用) サンプル*2) の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。)
- 4 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。)
- 5 中止 (社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。)
- 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。)

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究(現象の新規性や性能の進歩性等について把握)。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発(開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握)。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立(製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等)。	顧客評価(認定用)サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化(カタログ掲載)、継続的な売上発生等。

Q3. 上記質問で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」または「4 上市段階」を選択した方に伺います。具体的な現在の状況についてお答え下さい。

<研究開発の活動主体>

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

<想定される上市・製品化の時期>

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定はたっていない

<当該研究開発を再開された要因>【複数回答可】

- 1 技術開発課題を解決する手法の出現 2 コスト課題を解決する手法の出現
3 事業戦略の変化、4 競合他社の動向変化、5 顧客の出現、6 法規制・標準化の変化、
7 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向
8 NEDO プロジェクトメンバー以外からの共同開発の要請 9 その他

<その他記述欄>

Q4. Q3. <当該研究開発を再開された要因>で「1 技術開発課題を解決する手法の出現」または「2 コスト課題を解決する手法の出現」を選択した方に伺います。再開された要因は、NEDO プロジェクトにおいてに解決できるものでしたか。解決できる可能性があった場合は、想定された対処方針についてご教示下さい。

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q5 現状で NEDO のサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要 2 不要

<「必要」を選択した場合、その内容はどれですか>【複数回答可】

- 1 実用化の際の資金助成
2 標準化活動への支援
3 法規制に係る対応支援
4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
5 マスコミを活用した広報活動支援
6 技術課題克服の支援
7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
8 国内外の市場動向の情報収集への支援
9 その他

<その他記述欄>

Q6 NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 -NEDO プロジェクト実用化ドキュメント-

おかげさまで、7年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 28 年度 簡易中止調査票

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果を第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）を第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 □

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1}）の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2}）の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3. 研究開発データ（論文や特許として公開されない実験データやノウハウの記録）についてお伺いします。

<保管状況>

- 1 すべて保管している 2 一部保管している 3 破棄した

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管方法についてご教示ください。>

- 1 全社的なサーバーに保管され、自社内で広く活用できる仕組みとなっている
- 2 部門ごとのサーバーに保管され、自部門内で活用できる仕組みとなっている
- 3 専用サーバーに保管され、特定の者のみが活用できる仕組みとなっている
- 4 研究者(技術者)が個人で保管している
- 5 詳細は把握していない
- 6 その他

<その他記述欄>

<上記で「2 一部保管している」「3 破棄した」と回答した方に伺います。破棄理由についてご教示ください。>

- 1 契約で、終了時に委託元に全部、または、一部譲渡することになっていた
- 2 データ量が多かったため、重要なデータのみを残した
- 3 重要なデータがないため破棄した
- 4 活用されないまま一定期間を経過したため、破棄した。
- 5 自社内に保管方法に関するルールが無く、一部しか保管していない、または、全部破棄した
- 6 適当な引継ぎがなされなかったため、所在が不明である。
- 7 その他

<その他記述欄>

Q4. Q2 で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」または「4 上市段階」を選択した方に伺います。具体的な現在の状況についてお答え下さい。

<研究開発の活動主体>

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

<想定される上市・製品化の時期>

- 1 3年以内
- 2 3~5年
- 3 5~10年
- 4 10年以上
- 5 予定はたっていない

<当該研究開発を再開された要因> 【複数回答可】

- 1 技術開発課題を解決する手法の出現
- 2 コスト課題を解決する手法の出現
- 3 社内他用途(製品)への横展開、
- 4 顧客の出現、
- 5 事業戦略の変化、
- 6 新規市場の形成、
- 7 法規制・標準化の変化、
- 8 NEDOプロジェクトでの共同研究先の意向、
- 9 NEDOプロジェクトメンバー以外からの共同開発の要請、
- 10 社内キーパーソンの参画、
- 11 その他

<その他記述欄>

<上記で選択した再開要因の具体的な経緯>

記述欄

Q5. Q4. <当該研究開発を再開された要因>で「1 技術開発課題を解決する手法の出現」、「2 コスト課題を解決する手法の出現」、「3 社内他用途（製品）への横展開」、「4 顧客の出現」の何れかを選択した方に伺います。再開された要因は、NEDO プロジェクトにおいてに解決できるものでしたか。解決できる可能性があった場合は、想定された対処方針についてご教示下さい。

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q6 現状で NEDO のサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要 2 不要

<「必要」を選択した場合、その内容はどれですか> **【複数回答可】**

- 1 実用化の際の資金助成
- 2 標準化活動への支援
- 3 法規制に係る対応支援
- 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他

<その他記述欄>

Q7 NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、

開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 -NEDO プロジェクト実用化ドキュメント-

おかげさまで、8年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 29 年度 簡易中止調査票

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合、または、当該プロジェクトで取得した知的財産（知的財産は、特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等を含みます）のうち全てを第三者に譲渡している場合には、「具体的な状況」「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入下さい。

記述欄 □

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階。）
- 2 開発段階 （開発用サンプル*1) の作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル*2) の作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q3. 研究開発データ（論文や特許として公開されない実験データやノウハウの記録）についてお伺いします。

<保管状況>

- 1 すべて保管している
- 2 一部保管している
- 3 破棄した

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管目的についてご教示ください。> 【複数選択可】

- 1 事業承継、譲渡、売却を想定して保管
- 2 他機関との共同研究で利用するために保管
- 3 ユーザーに開示するために保管
- 4 自社横断的に蓄積・分析する（次のアイデア発掘等）ために保管
- 5 自社内の別部門で利用するために保管
- 6 論文や特許の直接のエビデンスではないが、関連するため保管
- 7 研究を継続するために保管
- 8 目的・用途はないが保管

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管方法についてご教示ください。>

- 1 全社的なサーバーに保管され、自社内で広く活用できる仕組みとなっている
- 2 部門ごとのサーバーに保管され、自部門内で活用できる仕組みとなっている
- 3 専用サーバーに保管され、特定の者のみが活用できる仕組みとなっている
- 4 研究者(技術者)が個人で保管している
- 5 詳細は把握していない

<保管されたデータが社内で活用された事例があれば具体的にご記入下さい。>

記述欄

<上記で「2 一部保管している」「3 破棄した」と回答した方に伺います。破棄理由についてご教示ください。>

- 1 契約で、終了時に委託元に全部、または、一部譲渡することになっていた
- 2 データ量が多かったため、重要なデータのみを残した
- 3 重要なデータがないため破棄した
- 4 活用されないまま一定期間を経過したため、破棄した。
- 5 自社内に保管方法に関するルールが無く、一部しか保管していない、または、全部破棄した
- 6 適当な引継ぎがなされなかったため、所在が不明である。
- 7 その他

<その他記述欄>

Q4. Q2 で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」または「4 上市段階」を選択した方に伺います。具体的な現在の状況についてお答え下さい。

<研究開発の活動主体>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

<想定される上市・製品化の時期>

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定はたっていない

<当該研究開発を再開された要因>【複数回答可】

- 1 技術開発課題を解決する手法の出現 2 コスト課題を解決する手法の出現
3 社内他用途（製品）への横展開、4 顧客の出現、5 事業戦略の変化、6 新規市場の形成、
7 法規制・標準化の変化、8 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向、
9 NEDO プロジェクトメンバー以外からの共同開発の要請、10 社内キーパーソンの参画、
11 その他

<その他記述欄>

<上記で選択した再開要因の具体的な経緯>

記述欄

Q5. Q4. <当該研究開発を再開された要因>で「1 技術開発課題を解決する手法の出現」、「2 コスト課題を解決する手法の出現」、「3 社内他用途（製品）への横展開」、「4 顧客の出現」のどれかを選択した方に伺います。再開された要因は、NEDO プロジェクトにおいてに解決できるものでしたか。解決できる可能性があった場合は、想定された対処方針についてご教示下さい。

記述欄

【NEDO への要望について伺います】

Q6 現状で NEDO のサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要 2 不要

<「必要」を選択した場合、その内容はどれですか>【複数回答可】

- 1 実用化の際の資金助成
2 標準化活動への支援
3 法規制に係る対応支援
4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
5 マスコミを活用した広報活動支援
6 技術課題克服の支援
7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援

- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他

<その他記述欄>

Q7 NEDO や国への要望がありましたら具体的にご記入下さい。

記述欄

【NEDO からのお知らせ】

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画

「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

おかげさまで、9年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントして纏めていきますので、是非、ご覧下さい。

また、NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について取り纏めた

「NEDO インサイド製品 2017 ～身近なところに NEDO 技術～」

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

も公開しておりますので、是非、ご覧ください。

平成 30 年度 簡易中止調査票（制度，企業）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合には、「具体的な状況」、「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入ください。

記述欄 _____

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階）
- 2 開発段階 （開発用サンプル^{*1}）の作製，実用化に向けた課題を把握，応用開発段階）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル^{*2}）の作製，量産化技術の確立，工業化開発段階）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始，工場での運転を開始）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され，それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが，将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）	社内レポート，特許，論文等
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し，ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）	製品化/上市の判断材料となる結果等
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認，試作機の製造，所管省庁/監督団体による販売承認/検査，製品を市場に投入するための設備投資の実施等）	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施，製造ライン設置，原価計算等
上市段階	市場での取引	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等

Q3. Q2 で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」または「4 上市段階」を選択した方に伺います。具体的な現在の状況についてお答え下さい。

<研究開発の活動主体>

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

<想定される上市・製品化の時期>

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定はたっていない

<当該研究開発を再開された要因>【複数回答可】

- 1 技術開発課題を解決する手法の出現
- 2 コスト課題を解決する手法の出現
- 3 社内他用途（製品）への横展開
- 4 顧客の出現
- 5 事業戦略の変化
- 6 新規市場の形成、
- 7 法規制・標準化の変化
- 8 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向
- 9 NEDO プロジェクトメンバー以外からの共同開発の要請
- 10 社内キーパーソンの参画
- 11 その他 _____

<上記で選択した再開要因の具体的な経緯>

記述欄 _____

Q4. Q3. <当該研究開発を再開された要因>で「1 技術開発課題を解決する手法の出現」、「2 コスト課題を解決する手法の出現」、「3 社内他用途（製品）への横展開」、「4 顧客の出現」のどれかを選択した方に伺います。再開された要因は、NEDO プロジェクトにおいてに解決できるものでしたか。解決できる可能性があった場合は、想定された対処方針についてご教示ください。

記述欄 _____

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q5. 当該プロジェクト実施による波及効果について伺います。

<当初想定していなかった派生技術の有無>

- 1 あった 2 なかった

<上記で、「1 あった」を選択された方は、派生技術の内容及び適用先について具体的にご記入ください。>

記述欄 _____

<当該プロジェクトで目指した技術分野以外への技術転用の有無>

- 1 あった 2 なかった

<上記で、「1 あった」を選択された方は、技術転用先の分野・製品についてご記入ください。>
記述欄 _____

<当該プロジェクト実施による波及効果について、当てはまるものをご回答ください>【複数回答可】

- 1 新規事業の創出
- 2 新規製品・サービスの開発
- 3 新規顧客の獲得
- 4 新規共同研究先の獲得
- 5 新たな外部資金(融資、出資含む)の獲得
- 6 中長期(5年~10年で事業化)の新規開発テーマの立ち上げ
- 7 短期(3年以内で事業化)の新規開発テーマの立ち上げ
- 8 社内における中長期研究開発に対する理解増進
- 9 既存製品へのNEDOプロジェクト開発成果の組み込み
- 10 既存の生産プロセスへの適用による高効率化や低コスト化
- 11 品質管理方法の改善
- 12 評価・解析技術の横展開
- 13 企業ブランドの向上
- 14 特になし

Q6. 当該プロジェクトに参加した研究員に対する人材育成効果について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 当該プロジェクトの成果をもとに博士号を取得した人材を輩出した。
- 2 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、新たな研究開発プロジェクト(国・社内外問わず)を企画した。
- 3 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト(国・社内外問わず)でリーダーを務めた。
- 4 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト(国・社内外問わず)で事業化を成し遂げた。
- 5 特になし
- 6 その他 _____

【プロジェクト終了後の活動について伺います】

Q7. 直近1年間におけるNEDO担当者との協議頻度及び内容について当てはまるものをご回答ください。
<協議頻度>

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

<協議内容>【複数回答可】

- 1 各種提出書類に係る対応
- 2 法規制に係る協議
- 3 事業化シナリオの方向性検討
- 4 研究開発の方向性検討
- 5 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 6 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 7 国内外の技術開発動向
- 8 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 9 市場に関するアドバイス
- 10 宣伝・広報
- 11 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 12 経営に関するアドバイス
- 13 その他（上記以外で重要な項目） _____

Q8. 現状でNEDOのサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要 2 不要

<上記で、「1 必要」を選択した場合、その内容はどれですか>【複数回答可】

- 1 実用化の際の資金助成
- 2 標準化活動への支援
- 3 法規制に係る対応支援
- 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他 _____

Q9. 本追跡アンケート調査及びNEDOにおける評価活動についてのご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2018」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

2019 年度 簡易中止調査票（制度，企業）

【当該プロジェクトに関連する現在の状況について伺います】

Q1. 研究開発成果のうち全てを第三者に事業承継もしくは事業譲渡している場合には、「具体的な状況」、「相手先の組織名称」、「相手先で連絡先となる者の氏名、部署、役職、電話番号、E-mail」をご記入ください。

記述欄 _____

Q2. 現時点における貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 （基礎的・要素的な基礎探索段階）
- 2 開発段階 （開発用サンプル*1) の作製，実用化に向けた課題を把握，応用開発段階）
- 3 製品化段階 （顧客評価（認定用）サンプル*2) の作製，量産化技術の確立，工業化開発段階）
- 4 上市段階 （カタログ掲載など市場での取引を開始，工場での運転を開始）
- 5 中止 （社内での研究開発活動は停止され，それ以上の開発は行われない。）
- 6 中断 （社内での研究開発活動は一時的に停止しているが，将来再開する可能性がある。）

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）	社内レポート，特許，論文等
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）	製品化/上市の判断材料となる結果等
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認，試作機の製造，所管省庁/監督団体による販売承認/検査，製品を市場に投入するための設備投資の実施等）	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施，製造ライン設置，原価計算等
上市段階	市場での取引	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等

Q3. Q2 で「1 研究段階」「2 開発段階」「3 製品化段階」または「4 上市段階」を選択した方に伺います。具体的な現在の状況についてお答え下さい。

<研究開発の活動主体>

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

<想定される上市・製品化の時期>

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定はたっていない

<当該研究開発を再開された要因>【複数回答可】

- 1 技術開発課題を解決する手法の出現
- 2 コスト課題を解決する手法の出現
- 3 社内他用途（製品）への横展開
- 4 顧客の出現
- 5 事業戦略の変化
- 6 新規市場の形成、
- 7 法規制・標準化の変化
- 8 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向
- 9 NEDO プロジェクトメンバー以外からの共同開発の要請
- 10 社内キーパーソンの参画
- 11 その他 _____

<上記で選択した再開要因の具体的な経緯>

記述欄 _____

Q4. Q3. <当該研究開発を再開された要因>で「1 技術開発課題を解決する手法の出現」、「2 コスト課題を解決する手法の出現」、「3 社内他用途（製品）への横展開」、「4 顧客の出現」のどれかを選択した方に伺います。再開された要因は、NEDO プロジェクトにおいてに解決できるものでしたか。解決できる可能性があった場合は、想定された対処方針についてご教示ください。

記述欄 _____

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q5. 当該プロジェクト実施による波及効果について伺います。

<当初想定していなかった派生技術の有無>

- 1 あった 2 なかった

<上記で、「1 あった」を選択された方は、派生技術の内容及び適用先について具体的にご記入ください。>

記述欄 _____

<当該プロジェクトで目指した技術分野以外への技術転用の有無>

- 1 あった 2 なかった

<上記で、「1 あった」を選択された方は、技術転用先の分野・製品についてご記入ください。>
記述欄 _____

<当該プロジェクト実施による波及効果について、当てはまるものをご回答ください>【複数回答可】

- 1 新規事業の創出
- 2 新規製品・サービスの開発
- 3 新規顧客の獲得
- 4 新規共同研究先の獲得
- 5 新たな外部資金(融資、出資含む)の獲得
- 6 中長期(5年~10年で事業化)の新規開発テーマの立ち上げ
- 7 短期(3年以内で事業化)の新規開発テーマの立ち上げ
- 8 社内における中長期研究開発に対する理解増進
- 9 既存製品へのNEDOプロジェクト開発成果の組み込み
- 10 既存の生産プロセスへの適用による高効率化や低コスト化
- 11 品質管理方法の改善
- 12 評価・解析技術の横展開
- 13 企業ブランドの向上
- 14 特になし

Q6. 当該プロジェクトに参加した研究員に対する人材育成効果について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答可】

- 1 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、新たな研究開発プロジェクト(国・社内外問わず)を企画した。
- 2 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト(国・社内外問わず)でリーダーを務めた。
- 3 当該プロジェクトで得た経験や知見をもとに、別の研究開発プロジェクト(国・社内外問わず)で事業化を成し遂げた。
- 4 当該プロジェクトの成果をもとに博士号を取得した人材を輩出した。
- 5 特になし
- 6 その他 _____

【プロジェクト終了後の活動について伺います】

Q7. 直近1年間におけるNEDO担当者との協議頻度及び内容について当てはまるものをご回答ください。

<協議頻度>

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

<協議内容>【複数回答可】

- 1 各種提出書類に係る対応
- 2 法規制に係る協議
- 3 事業化シナリオの方向性検討
- 4 研究開発の方向性検討
- 5 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 6 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 7 国内外の技術開発動向
- 8 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 9 市場に関するアドバイス
- 10 宣伝・広報
- 11 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 12 経営に関するアドバイス
- 13 その他（上記以外で重要な項目） _____

Q8. 現状でNEDOのサポートを必要とお考えですか。

- 1 必要
- 2 不要

<上記で、「1 必要」を選択した場合、その内容はどれですか>【複数回答可】

- 1 実用化の際の資金助成
- 2 標準化活動への支援
- 3 法規制に係る対応支援
- 4 ユーザー企業とのマッチングの場の提供
- 5 マスコミを活用した広報活動支援
- 6 技術課題克服の支援
- 7 パイロット規模の生産技術開発に関する支援
- 8 国内外の市場動向の情報収集への支援
- 9 その他 _____

Q9. 本追跡アンケート調査及びNEDOにおける評価活動についてのご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDOからのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、

電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント（107 事例掲載）

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品（117 製品登録）

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2019」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

平成26年度 詳細上市調査票（終了直後）

【上市・製品化段階に至った当該製品について伺います】

Q1. 現在の具体的な状況について教えてください。

<製品名>

記述欄

<現在の状況と今後の見込み>

記述欄

<出荷数量>

記述欄

<売り上げの有無>

1 あり 2 なし

<売り上げの実績額（円）>

記述欄

<利益の有無>

1 あり 2 なし

Q2. NEDO プロジェクトへの参加は、当該製品に関する下記項目に対してどのような効果を与えましたか。

<上市・製品化時期の早期化>

1 著しく早まった 2 早まった 3 変わらない 4 遅れた 5 著しく遅れた

<性能の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<品質の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<コスト削減>

1 著しく削減された 2 削減された 3 変わらない 4 増加した 5 著しく増加した

<新規事業の創出>

1 新規事業が創出された 2 既存事業が強化された 3 変わらない

<新規顧客の獲得>

1 新規顧客が獲得できた 2 変わらない

<その他の影響>

記述欄

Q3. 当該製品の市場や性質は、どのようなものですか。【複数回答可】

- 1 新規市場（新たな市場を切り開いたもの）
- 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの）
- 3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの）
- 4 他社製品に追随するもの
- 5 他社製品を引き離すもの
- 6 自社の既存製品を置き換えるもの
- 7 他社の既存製品のシェアを奪うもの
- 8 ソリューションを提供するもの
- 9 コスト削減や低価格を実現させたもの（プロセスイノベーション）
- 10 環境負荷を低減させるもの
- 11 その他

その他記述欄

Q4. プロジェクトでの研究開発成果が上市・製品化にまで至った要因として特に重要だったと考えられる取組みや出来事は何かですか。

<プロジェクト実施期間中>

記述欄

<プロジェクト終了後>

記述欄

Q5. 貴社内において、研究開発の主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングや切っ掛けは何ですか。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）

記述欄

Q6. 貴社の研究開発において、他社や大学等との連携を行う場合、特に重視している点がありますか。

<他企業との連携について>

記述欄

<大学等（公的研究機関も含む）との連携について>

記述欄

Q7. 実用化ドキュメント（※）への掲載に興味がありますか。

- 1 興味ある 2 興味ない 3 検討したい 4 掲載済み

（※）実用化ドキュメントとは

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 [「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」](#)

おかげさまで、6年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。また、皆様方の掲載もお待ちしております。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 27 年度 詳細上市調査 (終了直後)

【上市・製品化段階に至った当該製品について伺います】

Q1. 現在の具体的な状況について教えてください。

<製品名> **【必須】**

<現在の状況と今後の見込み> **【必須】**

<出荷数量>

記述欄

<売上げの有無>

1 あり 2 なし

<今年度の売上げ見込み (円) >

記述欄

<利益の有無>

1 あり 2 なし

Q2. NEDO プロジェクトへの参加は、当該製品に関する下記項目に対してどのような効果を与えましたか。

<上市・製品化時期の早期化>

1 著しく早まった 2 早まった 3 変わらない 4 遅れた 5 著しく遅れた

<性能の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<品質の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<コスト削減>

1 著しく削減された 2 削減された 3 変わらない 4 増加した 5 著しく増加した

<新規事業の創出>

1 新規事業が創出された 2 既存事業が強化された 3 変わらない

<新規顧客の獲得>

1 新規顧客が獲得できた 2 変わらない

<その他の影響>

Q3. 当該製品の市場や性質は、どのようなものですか。【複数回答可】

- | | |
|---------------------------------|-------------------|
| 1 新規市場（新たな市場を切り開いたもの） | |
| 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの） | |
| 3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの） | 4 他社製品に追随するもの |
| 5 他社製品を引き離すもの | 6 自社の既存製品を置き換えるもの |
| 7 他社の既存製品のシェアを奪うもの | 8 ソリューションを提供するもの |
| 9 コスト削減や低価格化を実現させたもの | 10 環境負荷を低減させるもの |
| 11 その他 <input type="checkbox"/> | |

その他記述欄

Q4. プロジェクトでの研究開発成果が上市・製品化にまで至った要因として特に重要だったと考えられる取組みや出来事は何ですか。

<プロジェクト実施期間中>

記述欄

<プロジェクト終了後>

記述欄

Q5. 貴社内において、研究開発の主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングや切っ掛けは何ですか。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）

記述欄

Q6. 貴社の研究開発において、他社や大学等との連携を行う場合、特に重視している点がありますか。

<他企業との連携について>

記述欄

<大学等（公的研究機関も含む）との連携について>

記述欄

平成 28 年度 詳細上市調査票（終了直後）

【上市・製品化段階に至った当該製品について伺います】

Q1. 現在の具体的な状況について教えてください。

<製品名> 【必須】

記述欄 _____

<現在の状況と今後の見込み> 【必須】

記述欄 _____

<出荷数量>

記述欄 _____

<売り上げの有無>

1 あり 2 なし

<今年度の売り上げ見込み（円）>

記述欄 _____

<利益の有無>

1 あり 2 なし

Q2. NEDO プロジェクトへの参加は、当該製品に関する下記項目に対してどのような効果を与えましたか。

<上市・製品化時期の早期化>

1 著しく早まった 2 早まった 3 変わらない 4 遅れた 5 著しく遅れた

<性能の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<品質の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<コスト削減>

1 著しく削減された 2 削減された 3 変わらない 4 増加した 5 著しく増加した

<新規事業の創出>

1 新規事業が創出された 2 既存事業が強化された 3 変わらない

<新規顧客の獲得>

1 新規顧客が獲得できた 2 変わらない

<その他の影響>

記述欄 _____

Q3. 当該製品の市場や性質は、どのようなものですか。【複数回答可】

- 1 新規市場（新たな市場を切り開いたもの）
- 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの）
- 3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの）
- 4 他社製品に追随するもの
- 5 他社製品を引き離すもの
- 6 自社の既存製品を置き換えるもの

- | | |
|----------------------|------------------|
| 7 他社の既存製品のシェアを奪うもの | 8 ソリューションを提供するもの |
| 9 コスト削減や低価格化を実現させたもの | 10 環境負荷を低減させるもの |
| 11 その他 | |

その他記述欄 _____

Q4. プロジェクトでの研究開発成果が上市・製品化にまで至った要因として特に重要だったと考えられる取組みや出来事は何ですか。

<プロジェクト実施期間中>

記述欄 _____

<プロジェクト終了後>

記述欄 _____

Q5. 貴社内において、研究開発の主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングや切っ掛けは何ですか。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）

記述欄 _____

Q6. 貴社の研究開発において、他社や大学等との連携を行う場合、特に重視している点がありますか。

<他企業との連携について>

記述欄 _____

<大学等（公的研究機関も含む）との連携について>

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 29 年度 詳細上市調査票 (終了直後)

【上市・製品化段階に至った当該製品について伺います】

Q1. 現在の具体的な状況について教えてください。

<製品名> **【必須】**

記述欄 _____

<現在の状況と今後の見込み> **【必須】**

記述欄 _____

<出荷数量>

記述欄 _____

<売り上げの有無>

1 あり 2 なし

<今年度の売り上げ見込み (円) >

記述欄 _____

<利益の有無>

1 あり 2 なし

<新たな雇用創出 (含む関連会社) あるいは雇用維持の効果 (例: ○人) >

記述欄 _____

Q2. NEDO プロジェクトへの参加・実施は、当該製品に関する下記項目に対してどのような効果を与えましたか。

<上市・製品化時期の早期化>

1 著しく早まった 2 早まった 3 変わらない 4 遅れた 5 著しく遅れた

上記で「1 著しく早まった」「2 早まった」を選択した場合、プロジェクト参加前に想定されていた当該製品の製品化または上市の時期 (年度) をご記入ください。

記述欄 _____

<性能の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<品質の向上>

- 1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<コスト削減>

- 1 著しく削減された 2 削減された 3 変わらない 4 増加した 5 著しく増加した

<新規事業の創出>

- 1 新規事業が創出された 2 既存事業が強化された 3 変わらない

<新規顧客の獲得>

- 1 新規顧客が獲得できた 2 変わらない

上記で「1 新規顧客が獲得できた」を選択した場合、新規顧客件数をご記入ください（例：〇件）。

記述欄 _____

<新規調達先の獲得>

- 1 新規調達先が獲得できた 2 変わらない

上記で「1 新規調達先が獲得できた」を選択した場合、新規調達先件数をご記入ください（例：〇件）。

記述欄 _____

<新規共同研究先の獲得> 【複数選択可】

- 1 新規共同研究先（NEDO プロジェクト連携先企業）の獲得
- 2 新規共同研究先（NEDO プロジェクト連携先大学・公的研究機関）の獲得
- 3 新規共同研究先（NEDO プロジェクトに参加していなかった国内機関）の獲得
- 4 新規共同研究先（海外機関）の獲得
- 5 新たに国内コンソーシアムへ参加
- 6 新たに海外コンソーシアムへ参加
- 7 変わらない

<その他の影響>

記述欄 _____

Q3. 当該製品のターゲット市場やもたらす価値は、どのようなものですか。【複数回答可】

- 1 新規市場（新たな市場を切り開いたもの）
- 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの）
- 3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの）
- 4 他社製品に追随するもの
- 5 他社製品を引き離すもの
- 6 自社の既存製品を置き換えるもの

- | | |
|----------------------|------------------|
| 7 他社の既存製品のシェアを奪うもの | 8 ソリューションを提供するもの |
| 9 コスト削減や低価格化を実現させたもの | 10 環境負荷を低減させるもの |
| 11 その他 | |

その他記述欄 _____

Q4. プロジェクトでの研究開発成果が上市・製品化にまで至った要因として特に重要だったと考えられる取組みや出来事は何ですか。

<プロジェクト実施期間中>

記述欄 _____

<プロジェクト終了後>

記述欄 _____

Q5. 貴社内において、研究開発の主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングや切っ掛けは何ですか。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）

記述欄 _____

Q6. 貴社の研究開発において、他社や大学等との連携を行う場合、特に重視している点がありますか。

<他企業との連携について>

記述欄 _____

<大学等（公的研究機関も含む）との連携について>

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 30 年度 詳細上市調査票（プロジェクト（終了直後企業）・及び制度）

【上市・製品化段階に至った当該製品について伺います】

Q1. 現在の具体的な状況について教えてください。

<製品名>

記述欄 _____

<現在の状況と今後の見込み>

記述欄 _____

<直近単年度の出荷数量>

記述欄 _____

<直近単年度の売上げの有無>

1 あり 2 なし

<（上記で「1 あり」を選択された方）直近単年度の売上の実績額（円）>

記述欄 _____

<（上記で「1 あり」を選択された方）直近単年度の利益の有無>

1 あり 2 なし

<今後 5 年間の累積売上見込み額（円）>

記述欄 _____

<新たな雇用創出（含む関連会社）あるいは雇用維持の効果（例：○人）>

記述欄 _____

Q2. NEDO プロジェクトへの参加・実施は、当該製品に関する下記項目に対してどのような効果を与えましたか。

<上市・製品化時期の早期化>

1 著しく早まった（3年以上） 2 早まった（1～2年） 3 変わらない
4 遅れた（1～2年） 5 著しく遅れた（3年以上）

<性能の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<品質の向上>

- 1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<コスト削減>

- 1 著しく削減された 2 削減された 3 変わらない 4 増加した 5 著しく増加した

<新規事業の創出>

- 1 新規事業が創出された 2 既存事業が強化された 3 変わらない

<新規顧客の獲得>

- 1 新規顧客が獲得できた 2 変わらない

<新規調達先の獲得>

- 1 新規調達先が獲得できた 2 変わらない

<新規共同研究先の獲得>【複数選択可】

- 1 新規共同研究先（NEDO プロジェクト連携先企業）の獲得
- 2 新規共同研究先（NEDO プロジェクト連携先大学・公的研究機関）の獲得
- 3 新規共同研究先（NEDO プロジェクトに参加していなかった国内機関）の獲得
- 4 新規共同研究先（海外機関）の獲得
- 5 新たに国内コンソーシアムへ参加
- 6 新たに海外コンソーシアムへ参加
- 7 変わらない

<その他の影響>

記述欄 _____

Q3. プロジェクトでの研究開発成果が上市・製品化にまで至った要因として特に重要だったと考えられる取り組みや出来事は何ですか。

<プロジェクト実施期間中>

記述欄 _____

<プロジェクト終了後>

記述欄 _____

Q4. 貴社内において、研究開発の主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングや切っ掛けは何ですか。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）

記述欄 _____

Q5. 貴社の研究開発において、他社や大学等との連携を行う場合、特に重視している点がありますか。

<他企業との連携について>

記述欄 _____

<大学等（公的研究機関も含む）との連携について>

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント（100 事例掲載）

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品（115 製品登録）

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2018」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

2019年度 詳細上市調査票（制度）

【上市・製品化段階に至った当該製品について伺います】

Q1. 現在の具体的な状況について教えてください。

<製品名>

記述欄 _____

<現在の状況と今後の見込み>

記述欄 _____

<直近単年度の出荷数量>

記述欄 _____

<直近単年度の売上の有無>

1 あり 2 なし

<（上記で「1 あり」を選択された方）直近単年度の売上の実績額（円）>

記述欄 _____

<（上記で「1 あり」を選択された方）直近単年度の利益の有無>

1 あり 2 なし

<今後5年間の累積売上見込み額（円）>

記述欄 _____

<新たな雇用創出（含む関連会社）あるいは雇用維持の効果（例：○人）>

記述欄 _____

Q2. NEDO プロジェクトへの参加・実施は、当該製品に関する下記項目に対してどのような効果を与えましたか。

<上市・製品化時期の早期化>

1 著しく早まった（3年以上） 2 早まった（1～2年） 3 変わらない
4 遅れた（1～2年） 5 著しく遅れた（3年以上）

<性能の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<品質の向上>

- 1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<コスト削減>

- 1 著しく削減された 2 削減された 3 変わらない 4 増加した 5 著しく増加した

<新規事業の創出>

- 1 新規事業が創出された 2 既存事業が強化された 3 変わらない

<新規顧客の獲得>

- 1 新規顧客が獲得できた 2 変わらない

<新規調達先の獲得>

- 1 新規調達先が獲得できた 2 変わらない

<新規共同研究先の獲得>【複数選択可】

- 1 新規共同研究先（NEDO プロジェクト連携先企業）の獲得
- 2 新規共同研究先（NEDO プロジェクト連携先大学・公的研究機関）の獲得
- 3 新規共同研究先（NEDO プロジェクトに参加していなかった国内機関）の獲得
- 4 新規共同研究先（海外機関）の獲得
- 5 新たに国内コンソーシアムへ参加
- 6 新たに海外コンソーシアムへ参加
- 7 変わらない

<その他の影響>

記述欄 _____

Q3. プロジェクトでの研究開発成果が上市・製品化にまで至った要因として特に重要だったと考えられる取組みや出来事は何ですか。

<プロジェクト実施期間中>

記述欄 _____

<プロジェクト終了後>

記述欄 _____

Q4. 貴社内において、研究開発の主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングや切っ掛けは何ですか。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）

記述欄 _____

Q5. 貴社の研究開発において、他社や大学等との連携を行う場合、特に重視している点がありますか。

<他企業との連携について>

記述欄 _____

<大学等（公的研究機関も含む）との連携について>

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント（107 事例掲載）

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品（117 製品登録）

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2019」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

Q1. 上市・製品化に至った当該製品について、現在の具体的な状況について教えてください。【必須】

<製品名>

記述欄 _____

<現在の状況と今後の見込み>

記述欄 _____

<出荷数量>

記述欄 _____

<売上げの有無>

1 あり 2 なし

<売上げの実績額（円）>

記述欄 _____

<利益の有無>

1 あり 2 なし

Q2. プロジェクトへの参加によって、上市・製品化の時期は早まりましたか。【必須】

1 著しく早まった 2 早まった 3 変わらない 4 遅れた 5 著しく遅れた

Q3. プロジェクトへの参加は、当該製品の性能や品質、コスト、市場創出、顧客開拓等にどのような影響がありましたか。【必須】

<性能の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<品質の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<コスト削減>

1 著しく削減された 2 削減された 3 変わらない 4 増加した 5 著しく増加した

<新規事業の創出>

1 新規事業が創出された 2 既存事業が強化された 3 変わらない

<新規顧客の獲得>

1 新規顧客が獲得できた 2 変わらない

<その他の影響>

記述欄 _____

Q4. 当該研究開発において、上市・製品化を狙っていた製品の市場や性質は、どのようなものですか。【複数回答可】【必須】

- 1 新規市場（新たな市場を切り開いたもの）
- 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの）
- 3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの）
- 4 他社製品に追随するもの
- 5 他社製品を引き離すもの
- 6 自社の既存製品を置き換えるもの
- 7 他社の既存製品のシェアを奪うもの
- 8 ソリューションを提供するもの
- 9 コスト削減や低価格を実現させたもの（プロセスイノベーション）

Q5. プロジェクトでの研究開発成果が上市・製品化にまで至った要因として重要だったと考えられる取り組みや出来事は何ですか。【必須】

<プロジェクト実施期間中>

記述欄 _____

<プロジェクト終了後>

記述欄 _____

Q6. 社内において、主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングや切っ掛けは何ですか。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）【必須】

記述欄 _____

Q7. プロジェクトに参加する判断基準として特に重視している点は何ですか。また、参加したいと思えるプロジェクトの条件とは何ですか。【必須】

<参加する判断基準として特に重視している点>

記述欄 _____

<参加したいと思えるプロジェクトの条件>

記述欄 _____

Q8. 他社や大学等との連携において特に重視している点がありますか。【必須】

<他社との連携について>

記述欄 _____

<大学等（公的研究機関も含む）との連携について>

記述欄 _____

Q9. 実用化ドキュメントへの掲載に興味がありますか。

1 興味ある 2 興味ない 3 検討したい

【ファクトシート】ファクトシートに記載されている質問項目は、より効果的な NEDO プロジェクトの業務運営改善を図ることを目的として、平成 23 年度に新設された項目でございます。その後、回答特性を分析しながら平成 24 年度、25 年度に一部の質問項目が改編されました。

そこで、大変お手数をお掛けしますが、データ間の補正を行う為にもアンケートに御協力を頂けますと幸いです。なお、貴社がプロジェクトに参加する直前・直後の状況に関する質問項目も含まれておりますので、わかる範囲でご回答頂ければと思います。 よろしくお願い致します。

【全般について】

Q1. どのような体制のプロジェクトでしたか。

<プロジェクト体制>

- 1 集中研（特定の場所に複数の実施者が集まって研究開発を実施）
- 2 分散研（それぞれの場所で、それぞれが研究開発を実施）
- 3 集中研と分散研の複合型
- 4 単独で実施（コンソーシアムを組んだプロジェクトではない）
- 5 体制の全体像は把握していない

<連携のタイプ>

- 1 垂直連携
- 2 水平連携
- 3 垂直・水平連携

<参加企業のタイプ>

- 1 同業種が多い
- 2 異業種が多い
- 3 競合する企業が含まれている
- 4 取引関係がある企業が含まれている
- 5 利害関係が複雑である

<貴社が担った役割> 【複数回答可】

- 1 川上（材料など）
- 2 川中（部材・部品など）
- 3 川下（最終製品）
- 4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など）
- 5 標準化や知的基盤整備
- 6 その他 _____

Q2. 貴社の研究開発の分野と、最終的な研究開発の出口は、次のうちどれですか。

<研究開発の分野>

- 1 ナノテク・材料
- 2 バイオ・医療
- 3 機械
- 4 電子・情報
- 5 環境
- 6 エネルギー（新エネ、省エネ）
- 7 その他 _____

<最終的な研究開発の出口>

- 1 プロセス開発
- 2 システム開発
- 3 材料開発
- 4 部材・部品開発
- 5 機械装置開発
- 6 分析・評価
- 7 特に限定していない
- 8 その他 _____

Q3. 大学や企業との連携は役立ちましたか。

<大学との連携>

- 1 大いに役立った
- 2 役立った
- 3 やや役立った
- 4 役立たなかった

<企業との連携>

- 1 大いに役立った
- 2 役立った
- 3 やや役立った
- 4 役立たなかった

Q4. 大学や企業との連携において役立ったのは、次のうちどれですか。【複数回答可】

<大学との連携>

- 1 研究方針・方向性
- 2 データ取得や解析方法
- 3 メカニズム解明・分析
- 4 文献などの情報収集
- 5 生産プロセス
- 6 原料転換
- 7 コスト課題の解決
- 8 社内への説明・説得
- 9 顧客への説明・説得
- 10 その他 _____

<企業との連携>

- 1 研究方針・方向性
- 2 データ取得や解析方法
- 3 メカニズム解明・分析
- 4 文献などの情報収集
- 5 生産プロセス
- 6 原料転換
- 7 コスト課題の解決
- 8 社内への説明・説得
- 9 顧客への説明・説得
- 10 その他 _____

Q5. あなたから見て、連携先の大学や企業など、プロジェクト全体としての士気（情熱・熱意・意欲）の高さはどうでしたか。

- 1 非常に高い 2 高い 3 やや高い 4 やや低い 5 低い 6 非常に低い

Q6. プロジェクト開始時点と終了時点において、研究開発・実用化活動等における貴社の主体部門は、次のどちらですか。

<開始時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

<終了時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

Q7. プロジェクト提案時点と終了時点において、貴社の研究開発フェーズは、次のうちどれですか。

<開始時点>

- 1 純粋科学研究 (真理の追究)
2 目的基礎研究 (出口を見据えた基礎探索研究)
3 実用化開発 (実用化をめざした開発研究)
4 実証 (顧客評価を含む実用性の検証)

<終了時点>

- 1 純粋科学研究 (真理の追究)
2 目的基礎研究 (出口を見据えた基礎探索研究)
3 実用化開発 (実用化をめざした開発研究)
4 実証 (顧客評価を含む実用性の検証)

Q8. プロジェクトに参加した目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認） 2 技術・ノウハウの獲得
3 実用化の可能性の見極め 4 終了後5年以内の上市・製品化
5 終了後10年以内の上市・製品化 6 その他 _____

Q9. プロジェクトで設定した目標値に対する終了時点の達成度は何点になりますか。

- 1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q10. 終了時点における実用化までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度でしたか。残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮して、以下の選択肢よりお選びください。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q11. 目標値の達成度と実用化目標の達成度との点差の理由は、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 技術的課題 2 コスト的課題 3 組織的問題 4 時間的問題 5 その他 _____

Q12. 設定したプロジェクトの目標値は適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった（ズレていた）

<具体的に>

記述欄 _____

Q13. 設定したプロジェクトの研究テーマは適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

<具体的に>

記述欄 _____

Q14. プロジェクト実施期間中に取得できた実験データの量は、次のうちどれですか。

- 1 非常に多くのデータを取得できた 2 多くのデータを取得できた
3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた 4 少なめのデータしか取得できなかった

Q15. データ取得の目的は、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る 2 機能発現に関するメカニズム解明 3 性能・機能向上
4 安全性の検証 5 再現性の検証 6 スケールアップに必要な設計基礎データ
7 コスト課題の解決 8 社内への説明・説得
9 営業活動や顧客への説得のための信頼性確保 10 その他 _____

Q16. プロジェクト実施期間中に NEDO から貴社に供給された資金 (間接費含む) は、総額でどの程度でしたか。

- 1 3,000 万円未満 2 3,000 万円～5,000 万円 3 5,000 万円～1 億円 4 1 億円～2 億円
5 2 億円～3 億円 6 3 億円～5 億円 7 5 億円～10 億円 8 10 億円以上

Q17. プロジェクト実施期間中に要した研究開発費 (自己負担分も含む総額) のうち、NEDO から供給された資金は概ね何%程度でしたか。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q18. プロジェクト終了時点までにほぼ完成している項目と、今後、明らかにすべき項目は、次のうちどれですか。【複数回答可】

<ほぼ完成している項目>

- 1 要素技術の深耕 2 開発技術のパッケージ化 3 応用開発段階での検討
4 工業化開発・製品化開発段階での検討 5 既存事業の強化
6 既存事業周辺での新製品開発 7 新規事業開発 8 法規制への対応
9 戦略的な標準化への取組み 10 知財の取得 11 共同研究先の意向
12 事業部門の積極的な関与 13 市場性を見極め 14 コスト競争力
15 生産技術 (収率・設備等) 16 技術競争力 17 ユーザー評価
18 グローバルな展開を進めうる製造・販売体制の構築
19 長期信頼性に関わる実績づくり 20 その他 _____

<今後、明らかにすべき項目>

- 1 要素技術の深耕 2 開発技術のパッケージ化 3 応用開発段階での検討
4 工業化開発・製品化開発段階での検討 5 既存事業の強化
6 既存事業周辺での新製品開発 7 新規事業開発 8 法規制への対応
9 戦略的な標準化への取組み 10 知財の取得 11 共同研究先の意向

- 12 事業部門の積極的な関与 13 市場性を見極め 14 コスト競争力
 15 生産技術（収率・設備等） 16 技術競争力 17 ユーザー評価
 18 グローバルな展開を進めうる製造・販売体制の構築
 19 長期信頼性に関わる実績づくり 20 その他 _____

Q19. プロジェクトにより得た成果は、貴社の資源投入にどのような影響を与えましたか。プロジェクト参加前と終了後とを比較してお答え下さい。

<R&Dの規模（予算や人員）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<R&D規模が拡大した要因>【複数回答】

- 1 技術開発目標の達成 2 コスト目標の達成
 3 事業戦略の強化方針（事業部門の積極的な関与） 4 新規事業開発の強化方針
 5 法規制への変化 6 競合他社の台頭 7 強力な知財の取得
 8 共同研究先の意向 9 プロジェクトメンバー以外からの共同開発の要請
 10 生産技術（収率・設備等）の蓄積 11 ユーザー評価の結果
 12 顧客の出現 13 その他 _____

<上市・製品化の可能性－Ⅰ（プロジェクトで目指した技術分野）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅱ（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性について拡大を判断する要素>

- 1 品質競争力（性能・機能が競合品もしくは既存技術よりも優れている）
 2 コスト競争力（コストが競合品もしくは既存技術よりも優れている）
 3 市場が確実に存在し、且つ成長が見込める（生産能力強化やコストダウンで市場成長が見込める）
 4 技術競争力（海外も含めて、開発状況が先頭もしくは先頭グループに位置している）
 5 知財競争力（一定期間、独占実施権が確保できている）
 6 その他 _____

<想定される上市・製品化の時期>

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定なし

Q20. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。

- 1 着手されなかった 2 人員や設備投資が縮小されていた 3 予定通りに実施されていた

Q21. 当該研究開発は、社内の組織戦略上どのような位置づけのものでしたか。プロジェクトに参加する前の位置づけについてお答え下さい。【複数選択可】

- 1 現有事業の競争力強化（生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他）
 2 現有事業周辺（生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能）で会社として新規な市場への参入
 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入

4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

Q22. 経営層が関与したタイミングは、次のうちどれですか。

<関与のタイミング>

- 1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応 3 開発成果が見え始めてから
4 実用化の可能性が見え始めてから 5 ほとんど関与していない

<関与の内容>

記述欄 _____

Q23. 事業部門（新規事業開発部門含む）が関与したタイミングは、次のうちどれですか。

<関与のタイミング>

- 1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応 3 開発成果が見え始めてから
4 実用化の可能性が見え始めてから 5 ほとんど関与していない

<関与の内容>

記述欄 _____

Q24. プロジェクト参加時の状況について伺います。

<経営層（技術系役員を除く）からのトップマネジメント>

- 1 あった 2 なかった

<外部(大学、経済産業省等)からの勧めによるプロジェクト参加>

- 1 あった 2 なかった

<ご自身の参加の意思>

- 1 大いにあった 2 仕方なく参加した 3 どちらともいえない

<提案前の事前準備について>

- 1 参加前から綿密に準備 2 有識者等の情報のみ 3 ほとんどなし
4 その他 _____

Q25. 貴社の競争力ポジションは、プロジェクトに参加して変化しましたか。プロジェクト開始時点と終了時点とを比較してお答え下さい。

	上がった	変わらない	下がった	不明
<技術競争力・品質競争力ポジションの変化>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<製造コストと製造技術・量産性の競争力ポジションの変化>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<ユーザー獲得、市場獲得の競争力ポジションの変化>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<技術開発の進展段階におけるポジションの変化>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<特許競争力ポジションの変化>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q26. 上記質問でお答えになった内容を総合的に判断すると、競争力ポジションはどのように変化しました。

<総合的に判断した競争力ポジション>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明および理由 _____

<世界における現在の競争力ポジション>

- 1 世界で1位 2 世界で2~3位 3 世界で4位以下 4 不明および理由 _____

<国内における現在の競争力ポジション>

- 1 日本で1位 2 日本で2~3位 3 日本で4位以下 4 不明および理由 _____

<プロジェクト開始時点の競争力ポジション（世界）>

- 1 世界で1位 2 世界で2~3位 3 世界で4位以下 4 不明および理由 _____

<プロジェクト開始時点の競争力ポジション（国内）>

- 1 日本で1位 2 日本で2~3位 3 日本で4位以下 4 不明および理由 _____

Q27. 競争力のポジショニング調査は実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 中国 5 韓国 6 その他 _____

<主に、何について調査をしましたか>

記述欄 _____

Q28. プロジェクト参加時に、下記の項目に対する期待度はどれくらいでしたか。

	100%~	80%~	60%~	40%~	20%~
<技術課題の克服>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<コスト課題の克服>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<他機関との連携による有用技術の獲得(キャッチアップ)>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<異分野、異業種、他機関との連携/融合によるシナジー効果>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<技術開発・製品開発のスピードアップ>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<他機関との人的・組織的ネットワークの形成>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<研究開発リスクの分散・回避>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<研究開発資金の確保>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<人材育成（研究者の質的向上）>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<社内・外でのプレゼンス向上>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q29. 上記質問での期待度を基準に、実際に得られたメリットは何点になりますか。また、その要因や内容などについてもお答えください。

Q29-1. 技術課題の克服について

<実際に得られたメリット>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<技術的課題の克服に寄与した要因> 【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 新規設備の導入 3 社内他部門のサポート
4 メカニズムの解明 5 連携先からのアイデア 6 連携先の先端技術
7 別テーマの保有技術 8 共通基盤技術の共有化 9 大規模フィールド試験

10 システム設計の見直し 11 社内資源の拡大 12 その他 _____

<終了後に克服しなければいけなかった技術的課題の内容> 【複数回答可】

- 1 要素技術 (プロジェクト目標)
- 2 性能の信頼性
- 3 コスト低減化技術
- 4 組立て技術
- 5 製品加工技術
- 6 量産化に対する生産プロセス技術
- 7 法規制に対応する技術
- 8 競合他社技術を上回る技術
- 9 障害 (問題) となる知財を回避する技術
- 10 評価技術
- 11 データ解析技術
- 12 分析技術
- 13 その他 _____

<技術的課題が残った要因> 【複数回答可】

- 1 開発対象技術の難易度
- 2 コストの壁
- 3 スケジュールに無理
- 4 要員不足
- 5 メカニズム解明の知識不足
- 6 連携による成果が予想以下
- 7 その他 _____

Q29-2. コスト課題の克服について

<実際に得られたメリット>

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

<ボトルネックとなっていたコスト課題>

- 1 原料費
- 2 製造加工費
- 3 組立て費 (開発要素含む)
- 4 付加的設備費 (既存の本体設備に付与する設備費)
- 5 生産・加工速度
- 6 流通・営業費
- 7 為替変動
- 8 その他 _____

<コスト課題の克服に寄与した要因> 【複数回答可】

- 1 キー技術の進展
- 2 製造プロセスの改良・変更
- 3 量産化技術の構築
- 4 原料転換
- 5 新規機能の付与
- 6 仕様のスペックダウン
- 7 市場の拡大
- 8 連携先からの技術提供 (デバイス、ツール等)
- 9 競合材料の市況高騰
- 10 為替変動
- 11 その他 _____

Q29-3. 他機関との連携による有用技術の獲得 (キャッチアップ) について

<実際に得られたメリット>

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

<技術獲得の対象となった技術> 【複数回答可】

- 1 探索技術
- 2 製造技術
- 3 分離・精製技術
- 4 製品化技術
- 5 生産プロセス技術
- 6 分析技術
- 7 データ解析技術
- 8 評価技術
- 9 品質管理技術
- 10 その他 _____

Q29-4. 異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果について

<実際に得られたメリット>

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

<シナジー効果に寄与した要因> 【複数回答可】

- 1 連携先との情報交換
- 2 連携先との協働
- 3 異分野・異業種との情報交換
- 4 異分野・異業種との協働
- 5 その他 _____

Q29-5. 技術開発・製品開発のスピードアップについて

<実際に得られたメリット>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<技術開発・製品開発のスピードアップに寄与した要因>【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 新規設備の導入 3 社内他部門のサポート 4 メカニズムの解明
5 分析技術 6 データ解析技術 7 評価技術 8 連携先の先端技術 9 その他 _____

Q29-6. 他機関との人的・組織的ネットワークの形成について

<実際に得られたメリット>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<ネットワークの形成に寄与した要因>【複数回答可】

- 1 日常的なプロジェクト内での交流 2 定期的な内部検討会 3 日常的なNEDOとの交流
4 NEDO主催の委員会など 5 ユーザー企業との交流 6 プレス発表 7 学会発表
8 経済産業省、NEDO以外の公的機関の協力 9 その他 _____

Q29-7. 研究開発リスクの分散・回避について

<実際に得られたメリット>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<当該項目をより高い評価にするためには何が必要でしたか>

記述欄 _____

Q29-8. 研究開発資金の確保について

<実際に得られたメリット>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<当該項目をより高い評価にするためには何が必要でしたか>

記述欄 _____

Q29-9. 人材育成（研究者の質的向上）について

<実際に得られたメリット>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<当該項目をより高い評価にするためには何が必要でしたか>

記述欄 _____

Q29-10. 社内・外でのプレゼンス向上について

<実際に得られたメリット>

Q34. 論文や技報などによる技術動向調査は実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

1 日本 2 米国 3 欧州 4 中国 5 韓国 6 その他 _____

Q35. 特許動向調査は実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

1 日本 2 米国 3 欧州 4 中国 5 韓国 6 その他 _____

Q36. 市場動向調査は実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

1 日本 2 米国 3 欧州 4 中国 5 韓国 6 その他 _____

Q37. コスト目標は設定しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<コスト目標設定のベンチマーク先> 【複数回答可】

1 自社製品 2 日本企業 3 米国企業 4 欧州企業 5 中国企業
6 韓国企業 7 その他 _____

Q38. リスク検討は行いましたか。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

<リスク検討の内容> 【複数回答可】

1 研究開発リスク 2 製品リスク（原料等の調達先確保、市場優位性など）
3 情報リスク（情報漏洩など） 4 自然災害リスク
5 カントリーリスク（輸出入先など対象国の政治・法律などの変化）
6 財務リスク（為替レートの変化など） 7 経営リスク（買収・事業承継など）
8 法務リスク（規格・規制変更、関連法令等の改廃など） 9 市場動向の変化
10 その他 _____

<実際に発生したリスクは何ですか> 【複数回答可】

1 予定していた技術課題の解決が未達成 2 予定していた技術獲得が不調
3 予想外の課題が発生 4 原料調達が困難 5 情報漏洩 6 自然災害
7 カントリーリスク 8 為替変動 9 財務状況の悪化 10 経営方針の転換
11 法令、規制の壁 12 競合他社の出現 13 市場価格の下落 14 景気変動

- 15 マーケットの縮小 16 ユーザーニーズの変化 17 ユーザーニーズが存在しなかった
18 NEDO 予算の縮小 19 キーパーソンの離脱
20 リスクは発生しなかった 21 その他 _____

Q39. NEDO プロジェクトを開始する前に先導研究※は必要だと思いますか。

(※プロジェクト前段階の予備的、基礎的な内容の精査、研究等を行うもの。)

<先導研究の要否>

- 1 必ず必要 2 必要 3 不要 4 どちらとも言えない

<必要な先導研究の内容>

- 1 予備調査（技術、市場動向など） 2 基礎データの取得
3 基本設計（装置、プロセスなど） 4 課題の探索、絞り込み
5 目標値の設定 6 開発戦略の策定 7 適切なプロジェクトメンバーの検討
8 その他 _____

Q40. 連携した他機関と知的財産等の取り扱いに関するルール策定や検討は行いましたか。

<ルール策定や検討の有無>

- 1 行った 2 行っていない

<知的財産等の取り扱い内容>【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP（プロジェクトに参加する前から保有していた特許）の取り扱い
2 フォアグラウンド IP（プロジェクトの成果により得られた特許）の取り扱い
3 研究ノートの管理方法 4 発明（ノウハウも含む）等の報告方法
5 権利者の決定方法 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法
7 秘密保持契約 8 知財規程の整備や知財委員会の設置
9 外部有識者の参加 10 その他 _____

<検討したタイミング（見直し含む）>【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

Q41. プロジェクトに参加する際の秘密情報の取扱いについてお答え下さい。

<提供する秘密情報について>

- 1 営業秘密として高度の管理をすることを期待 2 一般的な秘密管理を期待
3 極めて重要な秘密情報の提供は行わない 4 秘密情報の提供は原則していない
5 提供した秘密情報は極力早期に特許出願している 6 その他（具体的に） _____

<受領する秘密情報について>

- 1 営業秘密として高度の管理を行っている 2 一般的な秘密管理を行っている
3 極めて重要な秘密情報の受領は行わない
4 秘密情報の受領は原則していない 5 その他（具体的に） _____

<プロジェクト内の情報交換について>

- 1 秘密にすべき技術情報が漏洩しないことを重視
2 どちらかといえば、秘密にすべき技術情報が漏洩しないことを重視
3 どちらかといえば、技術情報管理よりもオープンな情報交換が行われることを重視

4 技術情報管理よりもオープンな情報交換が行われることを重視

Q42. プロジェクトにおける知的財産の取り扱いやバイ・ドール制度について、良かった点、悪かった点、問題と思われること、困っていることなどはありますか。

記述欄 _____

【プロジェクトやNEDOのマネジメントに対する評価と改善点】

Q43. プロジェクトに対する満足度はどれくらいでしたか。

1 100点 2 80点 3 60点 4 40点 5 20点以下

<具体的な理由>

記述欄 _____

Q44. NEDOからの加速資金についてお答え下さい。

<加速資金獲得の有無>

1 獲得した 2 なし

<加速資金の用途>【複数回答可】

1 人員増加 2 新規設備の導入 3 ユーザーテスト用のサンプル供給
4 分析・評価 5 連携強化 6 追加課題の実行 7 その他 _____

<加速資金の効果>【複数回答可】

1 品質（機能・性能）の向上 2 生産技術の向上 3 分析・評価技術の向上
4 開発期間の短縮 5 その他 _____

<具体的な内容>（例：〇〇装置を導入することができた結果、飛躍的に研究効率がアップし、事業計画が〇年前倒しされた。）

記述欄 _____

Q45. NEDOの採択審査について伺います。

<採択審査時の指摘事項や提言内容>

1 有益であった 2 勘違いがあった 3 不適切な意見があった
4 役立つ提言はなかった

<上記の提言を反映することで、どのような効果がありましたか>【複数回答可】

1 技術課題の解決 2 コスト削減 3 社内プレゼンスの向上
4 標準化やその活動 5 効果なし 6 その他 _____

<効果なしの具体的な理由>

記述欄 _____

Q46. NEDOの技術推進委員会（有識者委員会）について伺います。

<プロジェクトの推進に関して有効な提言や意見はありましたか>

1 的確な提言がもたらえた 2 満足のいく討議ができた
3 不適切な意見があった 4 役立つ提言はなかった

<上記の提言を反映することで、どのような効果がありましたか>【複数回答可】

- 1 技術課題の解決 2 コスト削減 3 特許取得 4 法規制の緩和
5 成果のPR 6 標準化取得やその活動 7 効果なし 8 その他 _____

<効果なしの具体的な理由>

記述欄 _____

<技術推進委員会の満足度はどれぐらいでしたか>

- 1 100点 2 80点 3 60点 4 40点 5 20点以下

Q47. 中間評価に対する満足度はどれぐらいでしたか。委員選定や評価軸、評価のタイミング、評価資料の準備作業等の観点を踏まえ、具体的な理由とともにお答え下さい。

<中間評価の満足度>

- 1 100点 2 80点 3 60点 4 40点 5 20点以下 6 中間評価を受けていない

<具体的な理由>

記述欄 _____

<中間評価での指摘事項が及ぼすその後のプロジェクトへの影響>【複数回答可】

- 1 目標達成度の向上 2 予期せぬ成果が得られた 3 競争優位性の強化
4 ほとんどなかった 5 その他 _____

<中間評価で欲しかった指摘や提言>【複数回答可】

- 1 技術の進展予想 2 計画の変更・追加
3 技術・コスト課題克服のアイデア 4 メカニズム解明のアイデア・ヒント
5 周辺技術動向の情報 6 中止の勧告 7 その他 _____

Q48. 事後評価に対する満足度はどれぐらいでしたか。委員選定や評価軸、評価のタイミング、評価資料の準備作業等の観点を踏まえ、具体的な理由とともにお答え下さい。

<事後評価の満足度>

- 1 100点 2 80点 3 60点 4 40点 5 20点以下

<具体的な理由>

記述欄 _____

<事後評価での指摘事項が及ぼすその後への影響>【複数回答可】

- 1 目標達成度の向上 2 予期せぬ成果が得られた 3 競争優位性の強化
4 ほとんどなかった 5 その他 _____

<事後評価で欲しかった指摘や提言>【複数回答可】

- 1 技術の進展予想 2 計画の変更・追加 3 技術・コスト課題克服のアイデア
4 メカニズム解明のアイデア・ヒント 5 周辺技術動向の情報 6 その他 _____

Q49. NEDOの担当者のマネジメントに対する満足度はどれぐらいでしたか。

- 1 100点 2 80点 3 60点 4 40点 5 20点以下

<具体的な理由>

記述欄 _____

Q50. NEDO の担当者とは、普段、どのような協議をされていましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容>【複数回答可】

- 1 実施計画書の内容精査（契約手続きに係る対応）
- 2 予算要求または予算配分に係る対応 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 検査に係る対応 5 資産処分に係る対応 6 成果報告書の内容精査
- 7 各種提出書類に係る対応 8 他機関との利害調整 9 法規制に係る協議
- 10 事業化シナリオの方向性検討 11 研究開発の方向性検討
- 12 知的財産等の取り扱いに係る検討 13 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 14 技術的なアドバイス（データ解析・解釈） 15 市場に関するアドバイス
- 16 委員会準備（データ・資料整理 プレゼン方法等） 17 宣伝・広報
- 18 その他 _____

<やって欲しかったこと>【複数回答可】

- 1 実施計画書の内容精査（契約手続きに係る対応）
- 2 予算要求または予算配分に係る対応 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 検査に係る対応 5 資産処分に係る対応 6 成果報告書の内容精査
- 7 各種提出書類に係る対応 8 他機関との利害調整 9 法規制に係る協議
- 10 事業化シナリオの方向性検討 11 研究開発の方向性検討
- 12 知的財産等の取り扱いに係る検討 13 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 14 技術的なアドバイス（データ解析・解釈） 15 市場に関するアドバイス
- 16 委員会準備（データ・資料整理 プレゼン方法等） 17 宣伝・広報
- 18 その他 _____

<特に“やって欲しかったこと”の具体例>

記述欄 _____

Q51. NEDO プロジェクトへの参加を、同僚や知人などにお勧めしたいと思いますか。

- 1 大変お勧めしたい 2 やや勧めたい 3 どちらとも言えない
- 4 やや勧めたくない 5 全くお勧めできない

<その理由は何ですか>

記述欄 _____

Q52. 本調査票は、ご担当者以外の方のご意見も含まれていますか。

- 1 はい 2 いいえ

平成26年度 詳細上市調査票 (2, 4, 6年目)

【上市・製品化段階に至った当該製品について伺います】

Q1. 現在の具体的な状況について教えてください。

<製品名>

記述欄

<現在の状況と今後の見込み>

記述欄

<出荷数量>

記述欄

<売り上げの有無>

1 あり 2 なし

<売り上げの実績額(円)>

記述欄

<利益の有無>

1 あり 2 なし

Q2. NEDO プロジェクトへの参加は、当該製品に関する下記項目に対してどのような効果を与えましたか。

<上市・製品化時期の早期化>

1 著しく早まった 2 早まった 3 変わらない 4 遅れた 5 著しく遅れた

<性能の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<品質の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<コスト削減>

1 著しく削減された 2 削減された 3 変わらない 4 増加した 5 著しく増加した

<新規事業の創出>

1 新規事業が創出された 2 既存事業が強化された 3 変わらない

<新規顧客の獲得>

1 新規顧客が獲得できた 2 変わらない

<その他の影響>

記述欄

Q3. 当該製品の市場や性質は、どのようなものですか。【複数回答可】

- 1 新規市場（新たな市場を切り開いたもの）
- 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの）
- 3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの）
- 4 他社製品に追随するもの
- 5 他社製品を引き離すもの
- 6 自社の既存製品を置き換えるもの
- 7 他社の既存製品のシェアを奪うもの
- 8 ソリューションを提供するもの
- 9 コスト削減や低価格を実現させたもの（プロセスイノベーション）
- 10 環境負荷を低減させるもの
- 11 その他

Q4. プロジェクトでの研究開発成果が上市・製品化にまで至った要因として特に重要だったと考えられる取組みや出来事は何か。

<プロジェクト実施期間中>

記述欄

<プロジェクト終了後>

記述欄

Q5. 貴社内において、研究開発の主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングや切っ掛けは何ですか。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）

記述欄

Q6. 貴社の研究開発において、他社や大学等との連携を行う場合、特に重視している点がありますか。【必須】

<他企業との連携について>

記述欄

<大学等（公的研究機関も含む）との連携について>

記述欄

以下の質問項目は、より効果的な NEDO プロジェクトの業務運営改善を図ることを目的として、平成 23 年度に新設された項目でございます。その後、回答特性を分析しながら平成 24 年度、25 年度、26 年度に一部の質問項目の改編を行ってまいりました。

そこで、大変お手数をお掛けしますが、データ間の補正を行う為にも以下アンケートにも御協力を頂きますと幸いです。なお、貴社がプロジェクトに参加する直前・直後の状況に関する質問項目も含まれ

ておりますので、わかる範囲でご回答頂ければと思います。よろしくお願い致します。

【プロジェクトに応募された時期の状況について伺います】

Q7. プロジェクトに参加した目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認） 2 技術・ノウハウの獲得
- 3 実用化の可能性の見極め 4 終了後5年以内の上市・製品化
- 5 終了後10年以内の上市・製品化 6 その他

その他記述欄

Q8. プロジェクト参加の経緯について伺います。

<経営層の指示によるプロジェクト参加>

- 1 あった 2 なかった

<外部(大学、経済産業省、他)からの勧めによるプロジェクト参加>

- 1 あった 2 なかった

Q9. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の本プロジェクトに係る主体はどちらの部門ですか。
次のどちらですか。

- 1 研究開発部門 2 事業部門

Q10. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 (基礎的・要素的な基礎探索段階。)
- 2 開発段階 (開発用サンプルの作製。実用化に向けた課題を把握。
 応用開発段階。)
- 3 製品化段階 (顧客評価(認定用)サンプルの作製。量産化技術の確立。
 工業化開発段階。)
- 4 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。)
- 5 中止 (社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。)
- 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。)

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	-基礎的/要素的な研究（現象の新規性や性能の進歩性等について把握）。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q11 貴社の開発・事業に係る戦略における当該プロジェクトの位置付けは、次のうちどちらでしたか。

【複数回答可】

- 1 現有事業の競争力強化（生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他）
- 2 現有事業周辺（生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能）で会社として新規な市場への参入
- 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入
- 4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

【プロジェクト期間中の活動について伺います】

Q12. 当該プロジェクトに対する、経営層の関与について伺います。

<関与のタイミングは、次のうちどれですか>

- 1 提案時から密接に対応
- 2 採択直後から対応
- 3 開発成果が見え始めてから
- 4 実用化の可能性が見え始めてから
- 5 ほとんど関与していない

<関与の内容>

記述欄

Q13. 当該プロジェクトに対する、事業部門（新規事業開発部門含む）の関与について伺います。

<関与のタイミングは、次のうちどれですか>

- 1 提案時から密接に対応
- 2 採択直後から対応
- 3 開発成果が見え始めてから
- 4 実用化の可能性が見え始めてから

5 ほとんど関与していない

<関与の内容>

記述欄

Q14 当該プロジェクトの成果を生かす製品化・上市の事業化シナリオ検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後
6 検討していない

<事業化シナリオの検討内容> 【複数回答可】

1. 企業戦略との整合性 2. 技術の発展性
3. 市場の魅力度のチェック 4. 目標仕様の確定
5. 市場性テストのスケジュール策定 6. 事業トライアルのための製品化レベルの確定
7. 事業開始時の販売先の特定 8. 事業化後の技術レベル向上のスケジュール策定
9. 採算性評価 10. その他

その他の記述欄

Q15. コスト目標の設定を行ったタイミング（見直し含む）は次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後
6 設定していない

Q16. リスク検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後
6 検討していない

<リスク検討の内容は何でしたか> 【複数回答可】

- 1 研究開発リスク
2 製品リスク（原料等の調達先確保、市場優位性など）
3 情報リスク（情報漏洩など）
4 自然災害リスク
5 カントリーリスク（輸出入先など対象国の政治・法律などの変化）
6 財務リスク（為替レートの変化など）
7 経営リスク（買収・事業承継など）
8 法務リスク（規格・規制変更、関連法令等の改廃など）

9 市場動向の変化

10 その他

その他の記述欄

<実際に発生したリスクは何ですか> 【複数回答可】

- 1 予定していた技術課題の解決が未達成
- 2 予定していた技術獲得が不調
- 3 予想外の課題が発生
- 4 原料調達が困難
- 5 情報漏洩
- 6 自然災害
- 7 カントリーリスク
- 8 為替変動
- 9 財務状況の悪化
- 10 経営方針の転換
- 11 法令、規制の壁
- 12 競合他社の出現
- 13 市場価格の下落
- 14 景気変動
- 15 マーケットの縮小
- 16 ユーザーニーズの変化
- 17 ユーザーニーズが存在しなかった
- 18 NEDO 予算の縮小
- 19 キーパーソンの離脱
- 20 リスクは発生しなかった
- 21 その他

その他の記述欄

Q17 調査の状況について伺います。

Q17-1. 競争力のポジショニング調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本
- 2 米国
- 3 欧州
- 4 その他

その他記述欄

<主に、何について調査をしましたか>

記述欄

Q17-2. 市場動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本
- 2 米国
- 3 欧州
- 4 その他

その他記述欄□

Q17-3. 特許動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本
- 2 米国
- 3 欧州
- 4 その他

その他記述欄□

Q17-4. 論文、雑誌、業界紙他による技術動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本
- 2 米国
- 3 欧州
- 4 その他

その他記述欄□

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q18. 当該プロジェクトで設定した目標値に対する達成度は何点になりますか。

- 1 100点～
- 2 80点～
- 3 60点～
- 4 40点～
- 5 20点～

Q19. 実用化（製品化・上市段階）までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度ですか。残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮してお選びください。

- 1 100%～
- 2 80%～
- 3 60%～
- 4 40%～
- 5 20%～

Q20. プロジェクト参加時に、下記の項目に対する期待度はどれくらいでしたか。

<技術課題の克服>

- 1 100%～
- 2 80%～
- 3 60%～
- 4 40%～
- 5 20%～

<コスト課題の克服>

- 1 100%～
- 2 80%～
- 3 60%～
- 4 40%～
- 5 20%～

<他機関との連携による有用技術の獲得（キャッチアップ）>

- 1 100%～
- 2 80%～
- 3 60%～
- 4 40%～
- 5 20%～

<異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果>

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<技術開発・製品開発のスピードアップ>

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<他機関との人的・組織的ネットワークの形成>

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<研究開発リスクの分散・回避>

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<研究開発資金の確保>

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<人材育成（研究者の質的向上）>

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<社内・外でのプレゼンス向上>

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q21. 上記質問での期待度に対して、以下の項目はどの程度達成されましたか。その要因や内容などについてもお答えください。

Q21-1-1. 技術課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）

3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）

5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-1-2. 技術課題の克服に寄与した要因

<新規アイデアの貢献度はどの程度でしたか>

1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）

3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）

5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<メカニズムの解明の貢献度はどの程度でしたか>

1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）

3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）

5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<連携先からのアイデアの貢献度はどの程度でしたか>

1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）

3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）

5 40点以下（遥かに期待を下回った） 6 自社単独で実施したため他機関との連携はなかった

<連携先の先端技術の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
5 40 点以下（遥かに期待を下回った） 6 自社単独で実施したため他機関との連携はなかった

<その他の技術課題の克服に寄与した要因について、ご記述下さい>

記述欄

Q21-2-1. コスト課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-2-2. コスト課題の克服に寄与した要因

<キー技術の進展の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<製造プロセスの改良・量産化技術構築の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<新規機能の付与の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<その他のコスト課題の克服に寄与した要因について、ご記述下さい>

記述欄

Q21-3. 他機関との連携による有用技術の獲得（キャッチアップ）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-4. 異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果についての達成度はどの程度でした

か

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-5-1. 技術開発・製品開発のスピードアップについての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q21-5-2. 技術開発・製品開発のスピードアップに寄与した要因

<新規アイデアの貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<分析・評価技術・解析技術の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<メカニズムの解明の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<連携先の先端技術の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）
- 6 自社単独で実施したため他機関との連携はなかった

<NEDO 加速資金の獲得の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）
- 6 NEDO 加速資金は利用していない

<その他のスピードアップに寄与した要因について、ご記述下さい>

記述欄

Q21-6. 他機関との人的・組織的ネットワークの形成についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q21-7. 研究開発リスクの分散・回避についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q21-8. 社内における研究開発資金の確保についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q21-9. 人材育成 (研究者の質的向上) についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q21-10-1. 社内・外でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

<実際に得られたメリット>

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q21-10-2. 社内外でのプレゼンス向上に寄与した要因

<技術力の向上の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

<プロジェクトを通じたユーザー企業との連携の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った) 6 ユーザー企業との連携はなかった

<プロジェクト参加企業との連携の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った） 6 自社単独で実施したため他機関との連携はなかった

<プロジェクトを通じた学（公的研究機関を含む）との連携の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った） 6 学との連携はなかった

<対外発表（学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表）の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<その他のプレゼンス向上に寄与した要因について、ご記述下さい>

記述欄

Q22. プロジェクト実施期間中に取得できた実験データについて伺います。

Q22-1. 取得できた実験データの量は、通常の企業における研究開発活動と比較するとどの程度でしたか

- 1 非常に多くのデータを取得できた
2 多くのデータを取得できた
3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた
4 少なめのデータしか取得できなかった

Q22-2. 以下のデータ取得目的に対して、データ取得の達成度はどの程度でしたか。

<技術の可能性を探る>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<機能発現に関するメカニズムの解明>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<品質（性能・機能）の向上>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<スケールアップに必要な設計基礎データの取得>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<コスト課題の解決>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<社内外（ユーザー企業を含む）への説得力の向上>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q23. 貴社の競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）は、当該プロジェクトへの参加により変化しましたか。プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答え下さい。

<競争力ポジション>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

不明の理由

<世界における現在の競争力ポジション>

- 1 世界で1位 2 世界で2～3位 3 世界で4～10位 4 世界で11位以下
5 不明

不明の理由

<国内における現在の競争力ポジション>

- 1 日本で1位 2 日本で2～3位 3 日本で4～10位 4 日本で11位以下
5 不明

不明の理由

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q24. どのような体制のプロジェクトでしたか。

<プロジェクト体制>

- 1 集中研（特定の場所に複数の実施者が集まって研究開発を実施）
2 分散研（それぞれの場所で、それぞれが研究開発を実施）
3 集中研と分散研の複合型
4 単独で実施（コンソーシアムを組んだプロジェクトではない）
5 体制の全体像は把握していない

<貴社が担った役割> 【複数回答可】

- 1 川上（材料など） 2 川中（部材・部品など） 3 川下（最終製品）
4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など） 5 標準化や知的基盤整備
6 その他

その他記述欄

Q25 最終的な貴社における研究開発の出口は次のうちどれですか。

- 1 プロセス開発 2 システム開発 3 材料開発 4 部材・部品開発
5 機械装置開発 6 分析・評価 7 特に限定していない 8 その他

その他記述欄

Q26. 当該プロジェクト実施期間中に要した研究開発費（自己負担分も含む総額）のうち、NEDO から供給された資金の占めた割合はどの程度でしたか。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q27. 当該プロジェクトにおける、知的財産及び秘密情報等の取扱いについて伺います。

<ルール策定や検討の有無>

1 取扱いに係るルール等があった。（協議による合意、あるいは、リーダー等からの指示のいずれかを問わず）

2 一般的なルールはなく、個別に対応した。

3 規則の必要性すら検討されなかった。

<知的財産等の取り扱い内容> 【複数回答可】

1 バックグラウンド IP（プロジェクトに参加する前から保有していた特許）の取り扱い

2 フォアグラウンド IP（プロジェクトの成果により得られた特許）の取り扱い

3 研究ノートの管理方法 4 発明（ノウハウも含む）等の報告方法

5 権利者の決定方法 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法

7 秘密保持契約 8 知財規程の整備や知財委員会の設置

9 外部有識者の参加 10 その他

その他記述欄

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q28. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマについて伺います。

Q28-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった（ズレていた）

不適切であった理由

Q28-2. プロジェクト期間中にテーマの見直しは行われましたか

1 見直しを行った 2 見直しの必要はなかった

3 見直しの必要はあったが、見直しは行わなかった

見直しを行わなかった理由

Q29. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマの目標値について伺います。

Q29-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由

Q29-2. プロジェクト期間中に目標値の見直しは行われましたか

- 1 見直しを行った 2 見直しの必要はなかった
3 見直しの必要はあったが、見直しは行わなかった

見直しを行わなかった理由

Q30. 大学や企業との連携は、貴社における当該プロジェクトの推進に役立ちましたか。

<大学との連携>

- 1 大いに役立った 2 役立った 3 やや役立った 4 役立たなかった
5 大学との連携はなかった

<企業との連携>

- 1 大いに役立った 2 役立った 3 やや役立った 4 役立たなかった
5 他企業との連携はなかった

Q31. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)
2 社内のリーダーやキーパーソン
3 外部有識者 (プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む)
4 NEDO 担当部署 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<参画機関間の意見調整> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)
2 社内のリーダーやキーパーソン
3 外部有識者 (プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む)
4 NEDO 担当部署 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<研究開発の工程管理や推進> 【複数回答可】

- 1 自ら自律的に管理した
- 2 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）が管理した
- 3 社内のリーダーやキーパーソン
- 4 NEDO 担当者
- 5 管理法人の担当者
- 6 進捗管理は行われなかった

<進捗管理の具体的な方法（評価ツール・指標等）があった場合は、以下に具体的な方法をご記述下さい>

記述欄 □

Q32. 協議等の頻度について伺います。

<当該プロジェクトで連携していた他機関との協議>

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

<プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）との協議>

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

<社内の他研究部門との協議>

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

<社内の事業部門との協議>

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

<顧客との協議>

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q33 NEDO 担当部署との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

Q34. NEDO 担当部署との協議について、普段どのような協議をされていましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応

- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 13 市場に関するアドバイス
- 14 宣伝・広報
- 15 その他（上記以外で主要な項目）

その他記述欄

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 13 市場に関するアドバイス
- 14 宣伝・広報
- 15 その他（上記以外で重要な項目）

その他記述欄

<「13 市場に関するアドバイス」を御回答頂いた方は、その具体的な理由をご記載下さい（例：新規事業であり社内（事業部門含む）での調査情報では不足であるため、セカンドオピニオンとして活用したいため等>

記述欄

Q35. 実用化ドキュメント（※）への掲載に興味がございますか。

- 1 興味ある
- 2 興味ない
- 3 検討したい
- 4 掲載済み

（※）実用化ドキュメントとは

NEDO プロジェクトを通じて開発された技術が、どのように製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画 「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」

おかげさまで、6年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。また、皆様方の掲載もお待ちしております。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 27 年度 詳細上市調査票 (2, 4, 6 年目)

【上市・製品化段階に至った当該製品について伺います】

Q1. 現在の具体的な状況について教えてください。

<製品名> **【必須】**

<現在の状況と今後の見込み> **【必須】**

<出荷数量>

<売り上げの有無>

1 あり 2 なし

<今年度の売り上げ見込み (円) >

<利益の有無>

1 あり 2 なし

Q2. NEDO プロジェクトへの参加は、当該製品に関する下記項目に対してどのような効果を与えましたか。

<上市・製品化時期の早期化>

1 著しく早まった 2 早まった 3 変わらない 4 遅れた 5 著しく遅れた

<性能の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<品質の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<コスト削減>

1 著しく削減された 2 削減された 3 変わらない 4 増加した 5 著しく増加した

<新規事業の創出>

1 新規事業が創出された 2 既存事業が強化された 3 変わらない

<新規顧客の獲得>

1 新規顧客が獲得できた 2 変わらない

<その他の影響>

Q3. 当該製品の市場や性質は、どのようなものですか。【複数回答可】

- | | |
|---------------------------------|-------------------|
| 1 新規市場（新たな市場を切り開いたもの） | 4 他社製品に追随するもの |
| 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの） | 5 他社製品を引き離すもの |
| 3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの） | 6 自社の既存製品を置き換えるもの |
| 7 他社の既存製品のシェアを奪うもの | 8 ソリューションを提供するもの |
| 9 コスト削減や低価格化を実現させたもの | 10 環境負荷を低減させるもの |
| 11 その他 <input type="checkbox"/> | |

その他記述欄

Q4. プロジェクトでの研究開発成果が上市・製品化にまで至った要因として特に重要だったと考えられる取組みや出来事は何ですか。

<プロジェクト実施期間中>

<プロジェクト終了後>

Q5. 貴社内において、研究開発の主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングや切っ掛けは何ですか。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）

Q6. 貴社の研究開発において、他社や大学等との連携を行う場合、特に重視している点がありますか。

<他企業との連携について>

<大学等（公的研究機関も含む）との連携について>

以下の質問項目は、より効果的な NEDO プロジェクトの業務運営改善を図ることを目的として、平成 23 年度に新設された項目でございます。その後、回答特性を分析しながら平成 24 年度、25 年度、26 年度、27 年度に一部の質問項目の改編を行ってまいりました。

そこで、大変お手数をお掛けしますが、データ間の補正を行う為にも以下アンケートにも御協力を頂きますと幸いです。なお、貴社がプロジェクトに参加する直前・直後の状況に関する質問項目も含まれておりますので、わかる範囲でご回答頂ければと思います。よろしくお願い致します。

【プロジェクトに応募された時期の状況について伺います】

Q7. プロジェクトに参加した目的は、次のうちどれですか。

- | | | |
|------------------|--------------|---------------|
| 1 情報収集（技術の可能性確認） | 2 技術・ノウハウの獲得 | 3 実用化の可能性の見極め |
|------------------|--------------|---------------|

- 4 終了後5年以内の上市・製品化 5 終了後10年以内の上市・製品化 6 その他

その他記述欄

Q8. プロジェクトにおいて貴社が担った役割はどれですか【複数回答可】

- 1 川上（材料など） 2 川中（部材・部品など） 3 川下（最終製品）
4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など） 5 標準化や知的基盤整備 6 その他

その他記述欄

Q9. 最終的な貴社における研究開発の出口は次のうちどれですか。

- 1 プロセス開発 2 システム開発 3 材料開発 4 部材・部品開発
5 機械装置開発 6 分析・評価 7 特に限定していない 8 その他

その他記述欄

Q10. プロジェクト参加の経緯は、次のうちどれでしたか。

- 1 経営層の指示（トップダウン）によりプロジェクトに参加した
2 外部(大学、経済産業省、他)からの勧めによりプロジェクトに参加した
3 研究者からの提案（ボトムアップ）によりプロジェクトに参加した
4 その他

その他記述欄

Q11. 当該プロジェクトの開始時点及び終了時点における、貴社の本プロジェクトに係る主体はどちらの部門ですか。

<開始時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

<終了時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

Q12. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 (基礎的・要素的な基礎探索段階。)
2 開発段階 (開発用サンプルの作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。)
3 製品化段階 (顧客評価(認定用)サンプルの作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。)
4 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。)
5 中止 (社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。)

6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。)

7 未着手

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究(現象の新規性や性能の進歩性等について把握)。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発(開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握)。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立(製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等)。	顧客評価(認定用)サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化(カタログ掲載)、継続的な売上発生等。

Q13. 貴社の開発・事業に係る戦略における当該プロジェクトの位置付けは、次のうちどちらでしたか。

【複数回答可】

- 1 現有事業の競争力強化(生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他)
- 2 現有事業周辺(生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能)で会社として新規な市場への参入
- 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入
- 4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

Q14. 当該プロジェクトに参加された際の技術シーズは、どのように開発されたものですか【複数回答可】

- 1 自社費用にて開発した
- 2 過去のNEDOプロジェクトで開発した
- 3 文部科学省プロジェクトにて開発した
- 4 大学・研究機関等の共同研究費にて開発した
- 5 当該NEDOプロジェクト実施期間中に初めて開発した
- 6 その他

その他記述欄

【プロジェクト期間中の活動について伺います】

Q15. 当該プロジェクト実施期間中に要した研究開発費(自己負担分も含む総額)のうち、NEDOから供給された資金の占める割合はどの程度でしたか。

- 1 100%~
- 2 80%~
- 3 60%~
- 4 40%~
- 5 20%~

Q16. 当該プロジェクトに対する、関与のタイミングについて伺います。

<経営層の関与>

- 1 提案時から密接に対応
- 2 採択直後から対応
- 3 開発成果が見え始めてから
- 4 実用化の可能性が見え始めてから
- 5 ほとんど関与していない

<事業部門（新規事業開発部門含む）の関与>

- 1 提案時から密接に対応
- 2 採択直後から対応
- 3 開発成果が見え始めてから
- 4 実用化の可能性が見え始めてから
- 5 ほとんど関与していない

Q17. 当該プロジェクトの成果を生かす製品化・上市の事業化シナリオ検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 検討していない

<事業化シナリオの検討内容> 【複数回答可】

- 1 企業戦略との整合性
- 2 技術の発展性
- 3 市場の魅力度のチェック
- 4 目標仕様の確定
- 5 市場性テストのスケジュール策定
- 6 事業トライアルのための製品化レベルの確定
- 7 事業開始時の販売先の特定
- 8 事業化後の技術レベル向上のスケジュール策定
- 9 採算性評価
- 10 その他

その他の記述欄

Q18. コスト目標の設定を行ったタイミング（見直し含む）は次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 設定していない

Q19. リスク検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 検討していない

<リスク検討の内容は何でしたか> 【複数回答可】

- 1 研究開発リスク
- 2 製品リスク（原料等の調達先確保、市場優位性など）
- 3 自然災害リスク
- 4 カントリーリスク（輸出入先など対象国の政治・法律などの変化）
- 5 経営リスク（買収・事業継承など）
- 6 法務リスク（規格・規制変更、関連法令等の改廃など）
- 7 市場動向の変化
- 8 その他

その他の記述欄

<実際に発生したリスクは何ですか> 【複数回答可】

- 1 予定していた技術課題の解決が未達成
- 2 他機関からの技術獲得が不調
- 3 予想外の課題が発生
- 4 原料調達が困難
- 5 自然災害
- 6 カントリーリスク
- 7 経営方針の転換
- 8 法令、規制の壁
- 9 競合他社の出現
- 10 市場価格の下落

- 11 景気変動 12 対象市場規模の縮小 13 ユーザーニーズの変化
14 ユーザーニーズが存在しなかった 15 キーパーソンの離脱
16 リスクは発生しなかった 17 その他

その他の記述欄

Q20. 調査の状況について伺います。

Q20-1. 競争力のポジショニング調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄

<主に、何について調査をしましたか>

Q20-2. 市場動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄

Q20-3. 特許動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄

Q20-4. 論文、雑誌、業界紙他による技術動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄□

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q21. 当該プロジェクトで設定した目標値に対する達成度は何点になりますか。

- 1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q22. 実用化（製品化・上市段階）までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度ですか。残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮してお選びください。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q23. プロジェクト参加時に、下記の項目に対する期待度はどれくらいでしたか。

	100%～	80%～	60%～	40%～	20%～
<技術課題の克服>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<コスト課題の克服>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との連携による有用技術の獲得(キャッチアップ)>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<異分野、異業種、他機関との連携/融合によるシナジー効果>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<技術開発・製品開発のスピードアップ>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との人的・組織的ネットワークの形成>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発リスクの分散・回避>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発資金の確保>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<人材育成（研究者の質的向上）>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内・外でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q24. 上記質問での期待度に対して、以下の項目はどの程度達成されましたか。その要因や内容などについてもお答えください。

Q24-1-1. 技術課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q24-1-2. 技術課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 メカニズムの解明 3 連携先からのアイデア

4 連携先の先端技術 5 新規設備の導入 6 その他

その他記述欄□

Q24-2-1. コスト課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q24-2-2. コスト課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 キー技術の進展 2 製造プロセスの改良・変更 3 量産化技術の構築
- 4 新規機能の付与 5 市場の拡大 6 連携先からの技術提供 7 その他

その他記述欄□

Q24-3. 他機関との連携による有用技術の獲得 (キャッチアップ) についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q24-4. 異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q24-5-1. 技術開発・製品開発のスピードアップについての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q24-5-2. 技術開発・製品開発のスピードアップに寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 分析・評価技術・解析技術 3 メカニズムの解明
- 4 連携先の先端技術 5 NEDO 加速資金の獲得 6 新規設備の導入 7 その他

その他記述欄□

Q24-6. 他機関との人的・組織的ネットワークの形成についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q24-7. 研究開発リスクの分散・回避についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q24-8. 社内における研究開発資金の確保についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q24-9. 人材育成 (研究者の質的向上) についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q24-10-1. 社内・外でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q24-10-2. 社内・外でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上
 - 2 プロジェクト参加企業との連携
 - 3 プロジェクトを通じた学 (公的研究機関を含む) との連携
 - 4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
 - 5 対外発表 (学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表)
 - 6 その他
- その他記述欄□

Q25. プロジェクト実施期間中に取得できた実験データについて伺います。

Q25-1. プロジェクト参加時には、どのような種類の実験データ取得を目的としましたか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る
- 2 機能発現に関するメカニズムの解明
- 3 品質 (性能・機能) の向上
- 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
- 5 コスト課題の解決
- 6 安全性の検証
- 7 再現性の検証
- 8 その他

その他記述欄□

Q25-2. 実際に取得できた実験データの量は、通常の企業における研究開発活動と比較するとどの程度でしたか

- 1 非常に多くのデータを取得できた 2 多くのデータを取得できた
3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた 4 少なめのデータしか取得できなかった

Q25-3. 上記で回答頂いた、実際に取得できた実験データの種類は次のうちどれですか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る 2 機能発現に関するメカニズムの解明
3 品質（性能・機能）の向上 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
5 コスト課題の解決 6 安全性の検証 7 再現性の検証 8 その他

その他記述欄 □

Q25-4. プロジェクトに参加している他機関との間でやり取りされた情報量（実験データ・結果）はどの程度でしたか

- 1 非常に多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした
2 多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした
3 情報（実験データ・結果）のやり取りはあったが、情報量は少なかった
4 単独で情報（実験データ・結果）を取得した

Q26. 貴社の競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）は、当該プロジェクトへの参加により変化しましたか。プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答え下さい。

<競争力ポジション>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

不明の理由 □

<世界における現在の競争力ポジション>

- 1 世界で1位 2 世界で2～3位 3 世界で4～10位 4 世界で11位以下 5 不明

不明の理由 □

<国内における現在の競争力ポジション>

- 1 日本で1位 2 日本で2～3位 3 日本で4～10位 4 日本で11位以下 5 不明

不明の理由 □

Q27. プロジェクト終了時点で想定されていた上市・製品化の時期はいつ頃でしたでしょうか。

- 1 3年以内 2 3～5年 3 5～10年 4 10年以上 5 予定は立っていない

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q28. 当該プロジェクトにおける、知的財産及び秘密情報等の取扱いについて伺います。

＜ルール策定や検討の有無＞

- 1 取扱いに係るルール等があった。(協議による合意、あるいは、リーダー等からの指示のいずれかを問わず)
- 2 一般的なルールはなく、個別に対応した。
- 3 規則の必要性すら検討されなかった。

＜知的財産等の取り扱い内容＞【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP (プロジェクトに参加する前から保有していた特許) の取り扱い
- 2 フォアグラウンド IP (プロジェクトの成果により得られた特許) の取り扱い
- 3 研究ノートの方法 4 発明 (ノウハウも含む) 等の報告方法 5 権利者の決定方法
- 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法 7 秘密保持契約
- 8 知財規程の整備や知財委員会の設置 9 外部有識者の参加 10 その他

その他記述欄

＜検討したタイミング (見直し含む) ＞【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q29. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマについて伺います。

Q29-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由

Q29-2. プロジェクト期間中にテーマの見直しは行われましたか

- 1 見直しを行った
- 2 見直しの必要はなかった
- 3 見直しの必要はあったが、見直しは行わなかった

見直しを行わなかった理由

Q30. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマの目標値について伺います。

Q30-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由

Q30-2. プロジェクト期間中に目標値の見直しは行われましたか

- 1 見直しを行った
- 2 見直しの必要はなかった
- 3 見直しの必要はあったが、見直しは行わなかった

見直しを行わなかった理由

Q31. 大学や企業との連携は、貴社における当該プロジェクトの推進に役立ちましたか。

<大学との連携>

- 1 大いに役立った
- 2 役立った
- 3 やや役立った
- 4 役立たなかった
- 5 大学との連携はなかった

<企業との連携>

- 1 大いに役立った
- 2 役立った
- 3 やや役立った
- 4 役立たなかった
- 5 他企業との連携はなかった

Q32. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
- 2 社内のリーダーやキーパーソン
- 3 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
- 4 NEDO 担当部署
- 5 管理法人の担当者
- 6 存在しなかった

<参画機関間の意見調整> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
- 2 社内のリーダーやキーパーソン
- 3 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
- 4 NEDO 担当部署
- 5 管理法人の担当者
- 6 存在しなかった

<研究開発の工程管理や推進> 【複数回答可】

- 1 自ら自律的に管理した
- 2 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）が管理した
- 3 社内のリーダーやキーパーソン
- 4 NEDO 担当者
- 5 管理法人の担当者
- 6 進捗管理は行われなかった

<進捗管理の具体的な方法（評価ツール・指標等）があった場合は、以下に具体的な方法をご記述下

さい>

Q33. 協議等の頻度について伺います。

	週1回以上	月1回以上	3ヶ月に1回以上	半年に1回以上	1年に1回以上	ほとんど無し
<当該プロジェクトで連携していた他機関>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テマリーダー）>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の他研究部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の事業部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<顧客>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q34. プロジェクト実施期間中の所属するプロジェクトグループの士気（情熱・意欲・積極性など）はどの程度でしたか

- 1 非常に士気が高かった 2 士気は高かった 3 やや士気は低かった 4 士気は低かった

<上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、どのような創発効果が得られたかお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 新たな研究課題、活動につながった 2 外部の研究集会への自発的な参加が増えた
3 文献などの情報収集活動が増えた 4 グループ内提案が増えた 5 その他

その他記述欄

<上記で「3 やや士気は低かった」「4 士気は低かった」を選択した方は、その理由についてご記述下さい>

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q35. NEDO 担当部署との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

Q36. NEDO 担当部署との協議について、普段どのような協議をされていましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応 5 各種提出書類に係る対応
6 他機関との利害調整 7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討

- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で主要な項目）

その他記述欄

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応 5 各種提出書類に係る対応
6 他機関との利害調整 7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で重要な項目）

その他記述欄

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 28 年度 詳細上市調査票 (2,4,6 年目)

【上市・製品化段階に至った当該製品について伺います】

Q1. 現在の具体的な状況について教えてください。

<製品名> 【必須】

記述欄 _____

<現在の状況と今後の見込み> 【必須】

記述欄 _____

<出荷数量>

記述欄 _____

<売り上げの有無>

1 あり 2 なし

<今年度の売り上げ見込み (円) >

記述欄 _____

<利益の有無>

1 あり 2 なし

Q2. NEDO プロジェクトへの参加は、当該製品に関する下記項目に対してどのような効果を与えましたか。

<上市・製品化時期の早期化>

1 著しく早まった 2 早まった 3 変わらない 4 遅れた 5 著しく遅れた

<性能の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<品質の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<コスト削減>

1 著しく削減された 2 削減された 3 変わらない 4 増加した 5 著しく増加した

<新規事業の創出>

1 新規事業が創出された 2 既存事業が強化された 3 変わらない

<新規顧客の獲得>

- 1 新規顧客が獲得できた 2 変わらない

<その他の影響>

記述欄 _____

Q3. 当該製品の市場や性質は、どのようなものですか。【複数回答可】

- 1 新規市場（新たな市場を切り開いたもの）
2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの）
3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの） 4 他社製品に追随するもの
5 他社製品を引き離すもの 6 自社の既存製品を置き換えるもの
7 他社の既存製品のシェアを奪うもの 8 ソリューションを提供するもの
9 コスト削減や低価格化を実現させたもの 10 環境負荷を低減させるもの
11 その他 _____

その他記述欄 _____

Q4. プロジェクトでの研究開発成果が上市・製品化にまで至った要因として特に重要だったと考えられる取組みや出来事は何か。

<プロジェクト実施期間中>

記述欄 _____

<プロジェクト終了後>

記述欄 _____

Q5. 貴社内において、研究開発の主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングや切っ掛けは何ですか。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）

記述欄 _____

Q6. 貴社の研究開発において、他社や大学等との連携を行う場合、特に重視している点がありますか。

<他企業との連携について>

記述欄 _____

<大学等（公的研究機関も含む）との連携について>

記述欄 _____

Q7. 研究開発データ（論文や特許として公開されない実験データやノウハウの記録）についてお伺いしま

す。

<保管状況>

- 1 すべて保管している 2 一部保管している 3 破棄した

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管方法についてご教示ください。>

- 1 全社的なサーバーに保管され、自社内で広く活用できる仕組みとなっている
- 2 部門ごとのサーバーに保管され、自部門内で活用できる仕組みとなっている
- 3 専用サーバーに保管され、特定の者のみが活用できる仕組みとなっている
- 4 研究者(技術者)が個人で保管している
- 5 詳細は把握していない
- 6 その他

その他記述欄 _____

<上記で「2 一部保管している」「3 破棄した」と回答した方に伺います。破棄理由についてご教示ください。>

- 1 契約で、終了時に委託元に全部、または、一部譲渡することになっていた
- 2 データ量が多かったため、重要なデータのみを残した
- 3 重要なデータがないため破棄した
- 4 活用されないまま一定期間を経過したため、破棄した。
- 5 自社内に保管方法に関するルールが無く、一部しか保管していない、または、全部破棄した
- 6 適当な引継ぎがなされなかったため、所在が不明である。
- 7 その他

その他記述欄 _____

Q8. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。

- 1 着手されなかった 2 人員や設備投資が縮小されていた 3 予定通りに実施されていた

以下の質問項目は、より効果的な NEDO プロジェクトの業務運営改善を図ることを目的として、平成 23 年度に新設された項目でございます。その後、回答特性を分析しながら平成 24～28 年度に一部の質問項目の改編を行ってまいりました。

そこで、大変お手数をお掛けしますが、データ間の補正を行う為にも以下アンケートにも御協力を頂きますと幸いです。なお、貴社がプロジェクトに参加する直前・直後の状況に関する質問項目も含まれておりますので、わかる範囲でご回答頂ければと思います。よろしくお願い致します。

【プロジェクトに応募された時期の状況について伺います】

Q9. プロジェクトに参加した目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認）
- 2 技術・ノウハウの獲得
- 3 実用化の可能性の見極め
- 4 終了後 5 年以内の上市・製品化
- 5 終了後 10 年以内の上市・製品化
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q10. プロジェクトにおいて貴社が担った役割はどれですか【複数回答可】

- 1 川上（材料など）
- 2 川中（部材・部品など）
- 3 川下（最終製品）
- 4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など）
- 5 標準化や知的基盤整備
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q11. 最終的な貴社における研究開発の出口は次のうちどれですか。

- 1 プロセス開発
- 2 システム開発
- 3 材料開発
- 4 部材・部品開発
- 5 機械装置開発
- 6 分析・評価
- 7 特に限定していない
- 8 その他

その他記述欄 _____

Q12. プロジェクト参加の経緯は、次のうちどれでしたか。

- 1 経営層の指示（トップダウン）によりプロジェクトに参加した
- 2 外部（大学、経済産業省、他）からの勧めによりプロジェクトに参加した
- 3 研究者からの提案（ボトムアップ）によりプロジェクトに参加した
- 4 その他

その他記述欄 _____

Q13. 当該プロジェクトの開始時点及び終了時点における、貴社の本プロジェクトに係る主体はどちらの部門ですか。

<開始時点>

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

<終了時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

Q14. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 (基礎的・要素的な基礎探索段階。)
 - 2 開発段階 (開発用サンプルの作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。)
 - 3 製品化段階 (顧客評価(認定用)サンプルの作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。)
 - 4 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。)
 - 5 中止 (社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。)
 - 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。)
 - 7 未着手
- *1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル
*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究(現象の新規性や性能の進歩性等について把握)。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発(開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握)。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立(製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等)。	顧客評価(認定用)サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化(カタログ掲載)、継続的な売上発生等。

Q15. 貴社の開発・事業に係る戦略における当該プロジェクトの位置付けは、次のうちどちらでしたか。

【複数回答可】

- 1 現有事業の競争力強化(生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他)
- 2 現有事業周辺(生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能)で会社として新規な市場への参入
- 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入
- 4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

Q16. 当該プロジェクトに参加された際の技術シーズは、どのように開発されたものですか【複数回答可】

- 1 自社費用にて開発した
- 2 過去のNEDOプロジェクトで開発した
- 3 文部科学省プロジェクトにて開発した
- 4 大学・研究機関等の共同研究費にて開発した

- 5 当該 NEDO プロジェクト実施期間中に初めて開発した 6 その他

その他記述欄 _____

Q17. プロジェクト参加時に、下記の項目に対する期待度はどれくらいでしたか。

	100%～	80%～	60%～	40%～	20%～
<技術課題の克服>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<コスト課題の克服>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との連携による有用技術の獲得(キャッチアップ)>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<異分野、異業種、他機関との連携/融合によるシナジー効果>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<技術開発・製品開発のスピードアップ>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との人的・組織的ネットワークの形成>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発リスクの分散・回避>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発資金の確保>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<人材育成（研究者の質的向上）>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社外でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【プロジェクト期間中の活動について伺います】

Q18. 当該プロジェクト実施期間中に要した研究開発費（自己負担分も含む総額）のうち、NEDO から供給された資金の占める割合はどの程度でしたか。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q19. 当該プロジェクトに対する、関与のタイミングについて伺います。

<経営層の関与>

- 1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応 3 開発成果が見え始めてから
4 実用化の可能性が見え始めてから 5 ほとんど関与していない

<事業部門（新規事業開発部門含む）の関与>

- 1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応 3 開発成果が見え始めてから
4 実用化の可能性が見え始めてから 5 ほとんど関与していない

Q20. 当該プロジェクトの成果を生かす製品化・上市の事業化シナリオ検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

<事業化シナリオの検討内容> 【複数回答可】

- 1 企業戦略との整合性
- 2 技術の発展性
- 3 市場の魅力度のチェック
- 4 目標仕様の確定
- 5 市場性テストのスケジュール策定
- 6 事業トライアルのための製品化レベルの確定
- 7 事業開始時の販売先の特定
- 8 事業化後の技術レベル向上のスケジュール策定
- 9 採算性評価
- 10 その他

その他の記述欄 _____

Q21. コスト目標の設定を行ったタイミング（見直し含む）は次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 設定していない

<上記で「6 検討していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q22. リスク検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 検討していない

<リスク検討の内容は何でしたか> 【複数回答可】

- 1 研究開発リスク
- 2 製品リスク（原料等の調達先確保、市場優位性など）
- 3 自然災害リスク
- 4 カントリーリスク（輸出入先など対象国の政治・法律などの変化）
- 5 経営リスク（買収・事業継承など）
- 6 法務リスク（規格・規制変更、関連法令等の改廃など）
- 7 市場動向の変化
- 8 その他

その他の記述欄 _____

<実際に発生したリスクは何ですか> 【複数回答可】

- 1 予定していた技術課題の解決が未達成
- 2 他機関からの技術獲得が不調
- 3 予想外の課題が発生
- 4 原料調達が困難
- 5 自然災害
- 6 カントリーリスク
- 7 経営方針の転換
- 8 法令、規制の壁
- 9 競合他社の出現
- 10 市場価格の下落
- 11 景気変動
- 12 対象市場規模の縮小
- 13 ユーザーニーズの変化
- 14 ユーザーニーズが存在しなかった
- 15 キーパーソンの離脱
- 16 リスクは発生しなかった
- 17 その他

その他の記述欄 _____

Q23. 調査の状況について伺います。

Q23-1. 競争力のポジショニング調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q23-2. 市場動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q23-3. 特許動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q23-4. 論文、雑誌、業界紙他による技術動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q24. 当該プロジェクトで設定した目標値に対する達成度は何点になりますか。

- 1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q25. 実用化（製品化・上市段階）までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度ですか。残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮してお選びください。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q26. 下記項目の達成度を伺います。

Q26-1-1. 技術課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）

- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-1-2. 技術課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 メカニズムの解明 3 連携先からのアイデア
- 4 連携先の先端技術 5 新規設備の導入 6 その他

その他記述欄 _____

Q26-2-1. コスト課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-2-2. コスト課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 キー技術の進展 2 製造プロセスの改良・変更 3 量産化技術の構築
- 4 新規機能の付与 5 市場の拡大 6 連携先からの技術提供 7 その他

その他記述欄 _____

Q26-3. 他機関との連携による有用技術の獲得（キャッチアップ）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-4. 異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-5-1. 技術開発・製品開発のスピードアップについての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-5-2. 技術開発・製品開発のスピードアップに寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア
- 2 分析・評価技術・解析技術
- 3 メカニズムの解明
- 4 連携先の先端技術
- 5 NEDO 加速資金の獲得
- 6 新規設備の導入
- 7 その他

その他記述欄 _____

Q26-6. 他機関との人的・組織的ネットワークの形成についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-7. 研究開発リスクの分散・回避についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-8. 社内における研究開発資金の確保についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-9. 人材育成（研究者の質的向上）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-10-1. 社内でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q26-10-2. 社内でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上
- 2 プロジェクト参加企業との連携
- 3 プロジェクトを通じた学（公的研究機関を含む）との連携
- 4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
- 5 対外発表（学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表）
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q26-11-1. 社外でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q26-11-2. 社外でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上
- 2 プロジェクト参加企業との連携
- 3 プロジェクトを通じた学 (公的研究機関を含む) との連携
- 4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
- 5 対外発表 (学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表)
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q27. プロジェクト実施期間中に取得できた実験データについて伺います。

Q27-1. プロジェクト参加時には、どのような種類の実験データ取得を目的としましたか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る
- 2 機能発現に関するメカニズムの解明
- 3 品質 (性能・機能) の向上
- 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
- 5 コスト課題の解決
- 6 安全性の検証
- 7 再現性の検証
- 8 その他

その他記述欄 _____

Q27-2. 実際に取得できた実験データの量は、通常の企業における研究開発活動と比較するとどの程度でしたか

- 1 非常に多くのデータを取得できた
- 2 多くのデータを取得できた
- 3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた
- 4 少なめのデータしか取得できなかった

Q27-3. 上記で回答頂いた、実際に取得できた実験データの種類は次のうちどれですか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る
- 2 機能発現に関するメカニズムの解明
- 3 品質 (性能・機能) の向上
- 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
- 5 コスト課題の解決
- 6 安全性の検証
- 7 再現性の検証
- 8 その他

その他記述欄 _____

Q27-4. プロジェクトに参加している他機関との間でやり取りされた情報量 (実験データ・結果) はどの程度でしたか

- 1 非常に多くの情報 (実験データ・結果) をやり取りした

- 2 多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした
- 3 情報（実験データ・結果）のやり取りはあったが、情報量は少なかった
- 4 単独で情報（実験データ・結果）を取得した

Q28. 下記項目について、プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答え下さい。

<R&Dの規模（予算や人員）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－I（プロジェクトで目指した技術分野）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－II（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した。

<競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった
- 2 変わらない
- 3 下がった
- 4 不明

不明の理由 _____

<世界における現在の競争力ポジション>

- 1 世界で1位
- 2 世界で2～3位
- 3 世界で4～10位
- 4 世界で11位以下
- 5 不明

不明の理由 _____

<国内における現在の競争力ポジション>

- 1 日本で1位
- 2 日本で2～3位
- 3 日本で4～10位
- 4 日本で11位以下
- 5 不明

不明の理由 _____

Q29. プロジェクト終了時点で想定されていた上市・製品化の時期はいつ頃でしたでしょうか。

- 1 3年以内
- 2 3～5年
- 3 5～10年
- 4 10年以上
- 5 予定は立っていない

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q30. 当該プロジェクトにおける、知的財産及び秘密情報等の取扱いについて伺います。

<ルール策定や検討の有無>

- 1 取扱いに係るルール等があった。（協議による合意、あるいは、リーダー等からの指示のいずれかを問わず）
- 2 一般的なルールはなく、個別に対応した。

3 規則の必要性すら検討されなかった。

<知的財産等の取り扱い内容>【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP (プロジェクトに参加する前から保有していた特許) の取り扱い
- 2 フォアグラウンド IP (プロジェクトの成果により得られた特許) の取り扱い
- 3 研究ノートの方法 4 発明 (ノウハウも含む) 等の報告方法 5 権利者の決定方法
- 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法 7 秘密保持契約
- 8 知財規程の整備や知財委員会の設置 9 外部有識者の参加 10 その他

その他記述欄 _____

<検討したタイミング (見直し含む) >【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q31. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマについて伺います。

Q31-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由 _____

Q31-2. プロジェクト期間中にテーマの見直しを行ったタイミングは次のうちどれですか。

- 1 前半 2 中盤 3 後半 4 見直しは行っていない

Q32. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマの目標値について伺います。

Q32-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由 _____

Q32-2. プロジェクト期間中に目標値の見直しを行ったタイミングは次のうちどれですか。

- 1 前半 2 中盤 3 後半 4 見直しは行っていない

Q33. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定>【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)
- 2 社内のリーダーやキーパーソン
- 3 外部有識者 (プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む)

- 4 NEDO 担当部署 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<参画機関間の意見調整> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
 2 社内のリーダーやキーパーソン
 3 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
 4 NEDO 担当部署 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<研究開発の工程管理や推進> 【複数回答可】

- 1 自ら自律的に管理した
 2 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）が管理した
 3 社内のリーダーやキーパーソン 4 NEDO 担当者
 5 管理法人の担当者 6 進捗管理は行われなかった

<進捗管理の具体的な方法（評価ツール・指標等）があった場合は、以下に具体的な方法をご記述下さい>

Q34. 協議等の頻度について伺います。

	週1回以上	月1回以上	3ヶ月に1回以上	半年に1回以上	1年に1回以上	ほとんど無し
<当該プロジェクトで連携していた他機関>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の他研究部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の事業部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<顧客>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<経営層>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q35. プロジェクト実施期間中の所属するプロジェクトグループの士気（情熱・意欲・積極性など）はどの程度でしたか

- 1 非常に士気が高かった 2 士気は高かった 3 やや士気は低かった 4 士気は低かった

<上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、その要因について当てはまるものをお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 プロジェクト開始前から既知の関係であったため
 2 各研究員の目的意識が明確であったため
 3 プロジェクト（グループ）リーダーによる働きかけ
 4 NEDO 担当者による働きかけ

- 5 成果が出てきたため
- 6 外部（委員会、プレス発表等）からの評価
- 7 その他

その他記述欄 _____

<上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、どのような創発効果が得られたかお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 新たな研究課題、活動につながった
- 2 外部の研究集会への自発的な参加が増えた
- 3 文献などの情報収集活動が増えた
- 4 グループ内提案が増えた
- 5 その他

その他記述欄 _____

<上記で「3 やや士気は低かった」「4 士気は低かった」を選択した方は、その理由についてご記述下さい>

記述欄 _____

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q36. NEDO 担当部署との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

Q37. NEDO 担当部署との協議について、普段どのような協議をされておりましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
- 13 市場に関するアドバイス
- 14 宣伝・広報
- 15 その他（上記以外で主要な項目）

その他記述欄 _____

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討

- 9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で重要な項目）

その他記述欄 _____

<上記「やって欲しかったこと」で、「13 市場に関するアドバイス」を選択された方は、具体的な内容をご記載下さい。>

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 29 年度 詳細上市調査票 (2,4,6 年目)

【上市・製品化段階に至った当該製品について伺います】

Q1 現在の具体的な状況について教えてください。

<製品名> **【必須】**

記述欄 _____

<現在の状況と今後の見込み> **【必須】**

記述欄 _____

<出荷数量>

記述欄 _____

<売り上げの有無>

1 あり 2 なし

<今年度の売り上げ見込み (円) >

記述欄 _____

<利益の有無>

1 あり 2 なし

Q2. NEDO プロジェクトへの参加は、当該製品に関する下記項目に対してどのような効果を与えましたか。

<上市・製品化時期の早期化>

1 著しく早まった 2 早まった 3 変わらない 4 遅れた 5 著しく遅れた

上記で「1 著しく早まった」「2 早まった」を選択した場合、プロジェクト参加前に想定されていた当該製品の製品化または上市の時期（年度）をご記入ください。

記述欄 _____

<性能の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<品質の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<コスト削減>

- 1 著しく削減された 2 削減された 3 変わらない 4 増加した 5 著しく増加した

<新規事業の創出>

- 1 新規事業が創出された 2 既存事業が強化された 3 変わらない

<新規顧客の獲得>

- 1 新規顧客が獲得できた 2 変わらない

上記で「1 新規顧客が獲得できた」を選択した場合、新規顧客件数をご記入ください（例：〇件）。

記述欄 _____

<新規調達先の獲得>

- 1 新規調達先が獲得できた 2 変わらない

上記で「1 新規調達先が獲得できた」を選択した場合、新規調達先件数をご記入ください（例：〇件）。

記述欄 _____

<新規共同研究先の獲得> 【複数選択可】

- 1 新規共同研究先（NEDO プロジェクト連携先企業）の獲得
- 2 新規共同研究先（NEDO プロジェクト連携先大学・公的研究機関）の獲得
- 3 新規共同研究先（NEDO プロジェクトに参加していなかった国内機関）の獲得
- 4 新規共同研究先（海外機関）の獲得
- 5 新たに国内コンソーシアムへ参加
- 6 新たに海外コンソーシアムへ参加
- 7 変わらない

<その他の影響>

記述欄 _____

Q3. 当該製品のターゲット市場やもたらす価値は、どのようなものですか。【複数回答可】

- 1 新規市場（新たな市場を切り開いたもの）
- 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの）
- 3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの）
- 4 他社製品に追随するもの
- 5 他社製品を引き離すもの
- 6 自社の既存製品を置き換えるもの
- 7 他社の既存製品のシェアを奪うもの
- 8 ソリューションを提供するもの
- 9 コスト削減や低価格化を実現させたもの
- 10 環境負荷を低減させるもの
- 11 その他 _____

その他記述欄 _____

Q4. プロジェクトでの研究開発成果が上市・製品化にまで至った要因として特に重要だったと考えられる取組みや出来事は何か。

<プロジェクト実施期間中>

記述欄 _____

<プロジェクト終了後>

記述欄 _____

Q5. 貴社内において、研究開発の主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングや切っ掛けは何か。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）

記述欄 _____

Q6. 貴社の研究開発において、他社や大学等との連携を行う場合、特に重視している点がありますか。

<他企業との連携について>

記述欄 _____

<大学等（公的研究機関も含む）との連携について>

記述欄 _____

以下の質問項目は、より効果的な NEDO プロジェクトの業務運営改善を図ることを目的として、平成 23 年度に新設された項目でございます。その後、回答特性を分析しながら平成 24～29 年度に一部の質問項目の改編を行ってまいりました。

そこで、大変お手数をお掛けしますが、データ間の補正を行う為にも以下アンケートにも御協力を頂けますと幸いです。なお、貴社がプロジェクトに参加する直前・直後の状況に関する質問項目も含まれておりますので、わかる範囲でご回答頂ければと思います。よろしくお願い致します。

【プロジェクトに応募された時期の状況について伺います】

Q7. プロジェクトに参加した目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認） 2 技術・ノウハウの獲得 3 実用化の可能性の見極め
- 4 終了後 10 年以内の上市・製品化 5 終了後 5 年以内の上市・製品化 6 その他

その他記述欄 _____

Q8. プロジェクトにおいて貴社が担った役割はどれですか【複数回答可】

- 1 川上（材料など） 2 川中（部材・部品など） 3 川下（最終製品）

- 4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など） 5 標準化や知的基盤整備 6 その他

その他記述欄 _____

Q9. 最終的な貴社における研究開発の出口は次のうちどれですか。

- 1 プロセス開発 2 システム開発 3 材料開発 4 部材・部品開発
5 機械装置開発 6 分析・評価 7 特に限定していない 8 その他

その他記述欄 _____

Q10. プロジェクト参加の経緯は、次のうちどれでしたか。

- 1 経営層の指示（トップダウン）によりプロジェクトに参加した
2 外部(大学、経済産業省、他)からの勧めによりプロジェクトに参加した
3 研究者からの提案（ボトムアップ）によりプロジェクトに参加した

Q11. 当該プロジェクトの開始時点及び終了時点における、貴社の本プロジェクトに係る主体はどちらの部門ですか。最もあてはまるものをご回答ください。

<開始時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

<終了時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

Q12. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 (基礎的・要素的な基礎探索段階。)
2 開発段階 (開発用サンプルの作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。)
3 製品化段階 (顧客評価(認定用)サンプルの作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。)
4 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。)
5 中止 (社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。)
6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。)
7 未着手

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究(現象の新規性や性能の進歩性等について把握)。	社内レポート、特許、論文等。

開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発（開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握）。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q13. 貴社の開発・事業に係る戦略における当該プロジェクトの位置付けは、次のうちどちらでしたか。

< 貴社事業との関係 >

- 1 現有事業の延長（生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他）
- 2 現有事業の周辺（生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能）で会社として新規な市場への参入
- 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入
- 4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

< 貴社戦略（経営戦略、事業戦略）との関係 >

- 1 貴社の戦略上、不可欠と判断された技術開発
- 2 貴社の戦略上、重要と判断された技術開発
- 3 貴社の戦略上、特に重要とは判断されていなかった技術開発
- 4 貴社の戦略上、ほとんど注目されていなかった技術開発
- 5 貴社の戦略上、不必要と判断されていた技術開発

Q14. 貴社から NEDO プロジェクトに参加した研究員は、社内でどのように選出されましたか。【複数回答可】

- 1 経営層による指名
- 2 事業部門による指名
- 3 研究部門長による指名
- 4 研究リーダーによる指名
- 5 社内公募などに基づく自主的参加
- 6 社内の開発チームがそのまま参加したため特に選出はない
- 7 その他

その他記述欄 _____

Q15. 当該プロジェクトに参加された際の技術シーズは、どのように開発されたものですか【複数回答可】

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1 自社費用にて開発した | 2 過去の NEDO プロジェクトで開発した |
| 3 文部科学省プロジェクトにて開発した | 4 大学・研究機関等の共同研究費にて開発した |

- 5 当該 NEDO プロジェクト実施期間中に初めて開発した 6 その他

その他記述欄 _____

Q16. プロジェクト参加時に、下記の項目に対する期待度はどれくらいでしたか。

	100%～	80%～	60%～	40%～	20%～
<技術課題の克服>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<コスト課題の克服>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との連携による有用技術の獲得(キャッチアップ)>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<異分野、異業種、他機関との連携/融合によるシナジー効果>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<技術開発・製品開発のスピードアップ>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との人的・組織的ネットワークの形成>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発リスクの分散・回避>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発資金の確保>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<人材育成（研究者の質的向上）>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社外でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【プロジェクト期間中の活動について伺います】

Q17. 当該プロジェクト実施期間中に要した研究開発費（自己負担分も含む総額）のうち、NEDO から供給された資金の占める割合はどの程度でしたか。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q18. 当該プロジェクトに対する、関与のタイミングについて伺います。

<経営層の関与>

- 1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応 3 開発成果が見え始めてから
4 実用化の可能性が見え始めてから 5 ほとんど関与していない

<事業部門（新規事業開発部門含む）の関与>

- 1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応 3 開発成果が見え始めてから
4 実用化の可能性が見え始めてから 5 ほとんど関与していない

Q19. 貴社の開発成果の受け手となる想定ユーザー・顧客は、当該 NEDO プロジェクトにどのように関与していましたか。【複数回答可】

- 1 全く関与していなかった
2 NEDO プロジェクトには関与していないが、NEDO プロジェクト開始前から自社と取引関係にあった。

- 3 NEDO プロジェクト実施体制に参加
- 4 NEDO プロジェクト内部に設置された有識者委員会（アドバイザーボード、ユーザー委員会等）に有識者として参加
- 5 NEDO が設置した採択審査委員会に審査委員として参加
- 6 NEDO が設置した技術推進委員会に委員として参加
- 7 NEDO が設置した中間・事後評価分科会に評価委員として参加
- 8 NEDO プロジェクト実施期間中にサンプル提供を実施し評価頂いた
- 9 NEDO プロジェクト実施期間中にマッチング会を開催し参加頂いた
- 10 その他

その他記述欄

Q20. 当該プロジェクトの成果を生かす製品化・上市の事業化シナリオ検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 検討していない

<事業化シナリオの検討内容> 【複数回答可】

- 1 企業戦略との整合性
- 2 技術の発展性
- 3 市場の魅力度のチェック
- 4 目標仕様の確定
- 5 市場性テストのスケジュール策定
- 6 事業トライアルのための製品化レベルの確定
- 7 事業開始時の販売先の特定
- 8 事業化後の技術レベル向上のスケジュール策定
- 9 採算性評価
- 10 その他

その他の記述欄 _____

Q21. コスト目標の設定を行ったタイミング（見直し含む）は次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 設定していない

<上記で「6 検討していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q22. リスク検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 検討していない

<リスク検討の内容は何でしたか> 【複数回答可】

- 1 研究開発リスク
- 2 製品リスク（原料等の調達先確保、市場優位性など）
- 3 自然災害リスク
- 4 カントリーリスク（輸出入先など対象国の政治・法律などの変化）
- 5 経営リスク（買収・事業継承など）
- 6 法務リスク（規格・規制変更、関連法令等の改廃など）

- 7 市場動向の変化 8 その他

その他の記述欄 _____

<実際に発生したリスクは何ですか> 【複数回答可】

- 1 予定していた技術課題の解決が未達成 2 他機関からの技術獲得が不調
3 予想外の課題が発生 4 原料調達が困難 5 自然災害 6 カントリーリスク
7 経営方針の転換 8 法令、規制の壁 9 競合他社の出現 10 市場価格の下落
11 景気変動 12 対象市場規模の縮小 13 ユーザーニーズの変化
14 ユーザーニーズが存在しなかった 15 キーパーソンの離脱
16 リスクは発生しなかった 17 その他

その他の記述欄 _____

Q23. 調査の状況について伺います。

Q23-1. 競争力のポジショニング調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q23-2. 市場動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q23-3. 特許動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q23-4. 論文、雑誌、業界紙他による技術動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q24. 当該プロジェクトで設定した目標値に対する達成度は何点になりますか。

- 1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q25. 実用化（製品化・上市段階）までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度ですか。残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮してお選びください。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q26. 目標値の達成度と実用化目標の達成度との点差の理由は、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 技術的課題 2 コスト的課題 4 組織的問題 4 時間的問題 5 法律・規制の問題
6 社会受容性の問題

Q27. 下記項目の達成度を伺います。

Q27-1-1. 技術課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-1-2. 技術課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 メカニズムの解明 3 連携先からのアイデア
4 連携先の先端技術 5 新規設備の導入 6 その他

その他記述欄 _____

Q27-2-1. コスト課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-2-2. コスト課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 キー技術の進展 2 製造プロセスの改良・変更 3 量産化技術の構築
4 新規機能の付与 5 市場の拡大 6 連携先からの技術提供 7 その他

その他記述欄 _____

Q27-3. 他機関との連携による有用技術の獲得（キャッチアップ）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-4. 異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-5-1. 技術開発・製品開発のスピードアップについての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-5-2. 技術開発・製品開発のスピードアップに寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア
- 2 分析・評価技術・解析技術
- 3 メカニズムの解明
- 4 連携先の先端技術
- 5 NEDO 加速資金の獲得
- 6 新規設備の導入
- 7 その他

その他記述欄 _____

Q27-6. 他機関との人的・組織的ネットワークの形成についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-7. 研究開発リスクの分散・回避についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-8. 社内における研究開発資金の確保についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）

- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-9. 人材育成（研究者の質的向上）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-10-1. 社内でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-10-2. 社内でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上 2 プロジェクト参加企業との連携
- 3 プロジェクトを通じた学（公的研究機関を含む）との連携
- 4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
- 5 対外発表（学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表）
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q27-11-1. 社外でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-11-2. 社外でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上 2 プロジェクト参加企業との連携
- 3 プロジェクトを通じた学（公的研究機関を含む）との連携
- 4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
- 5 対外発表（学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表）
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q28. プロジェクト実施期間中に取得できた実験データについて伺います。

Q28-1. プロジェクト参加時には、どのような種類の実験データ取得を目的としましたか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る
- 2 機能発現に関するメカニズムの解明
- 3 品質（性能・機能）の向上
- 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
- 5 コスト課題の解決
- 6 安全性の検証
- 7 再現性の検証
- 8 その他

その他記述欄 _____

Q28-2. 実際に取得できた実験データの量は、通常の企業における研究開発活動と比較するとどの程度でしたか

- 1 非常に多くのデータを取得できた
- 2 多くのデータを取得できた
- 3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた
- 4 少なめのデータしか取得できなかった

Q28-3. 上記で回答頂いた、実際に取得できた実験データの種類は次のうちどれですか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る
- 2 機能発現に関するメカニズムの解明
- 3 品質（性能・機能）の向上
- 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
- 5 コスト課題の解決
- 6 安全性の検証
- 7 再現性の検証
- 8 その他

その他記述欄 _____

Q28-4. プロジェクトに参加している他機関との間でやり取りされた情報量（実験データ・結果）はどの程度でしたか

- 1 非常に多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした
- 2 多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした
- 3 情報（実験データ・結果）のやり取りはあったが、情報量は少なかった
- 4 単独で情報（実験データ・結果）を取得した

Q29. 下記項目について、プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答え下さい。

<R&Dの規模（予算や人員）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅰ（プロジェクトで目指した技術分野）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅱ（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した。

<競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった
- 2 変わらない
- 3 下がった
- 4 不明

不明の理由 _____

<世界における現在の競争力ポジション>

- 1 世界で1位 2 世界で2~3位 3 世界で4~10位 4 世界で11位以下 5 不明

不明の理由 _____

<国内における現在の競争力ポジション>

- 1 日本で1位 2 日本で2~3位 3 日本で4~10位 4 日本で11位以下 5 不明

不明の理由 _____

Q30. プロジェクト終了時点で想定されていた上市・製品化の時期はいつ頃でしたでしょうか。

- 1 3年以内 2 3~5年 3 5~10年 4 10年以上 5 予定は立っていない

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q31. 当該プロジェクトにおける、参加機関間での知的財産及び秘密情報等の取扱いについて伺います。

<ルール策定や検討の有無>

- 1 取扱いに係るルール等があった。(協議による合意、あるいは、リーダー等からの指示のいずれかを問わず)
2 一般的なルールはなく、個別に対応した。
3 規則の必要性すら検討されなかった。

<知的財産等の取り扱い内容> 【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP (プロジェクトに参加する前から保有していた特許) の取り扱い
2 フォアグラウンド IP (プロジェクトの成果により得られた特許) の取り扱い
3 研究ノートの方法 4 発明 (ノウハウも含む) 等の報告方法 5 権利者の決定方法
6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法 7 秘密保持契約
8 知財規程の整備や知財委員会の設置 9 外部有識者の参加 10 その他

その他記述欄 _____

<検討したタイミング (見直し含む) > 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q32. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマについて伺います。

Q32-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由 _____

Q32-2. プロジェクト期間中にテーマの見直しを行ったタイミングは次のうちどれですか。

- 1 前半 2 中盤 3 後半 4 見直しは行っていない

Q33. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマの目標値について伺います。

Q33-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由 _____

Q33-2. プロジェクト期間中に目標値の見直しを行ったタイミングは次のうちどれですか。

- 1 前半 2 中盤 3 後半 4 見直しは行っていない

Q34. 当該プロジェクトにおける貴社の役割分担は明確でしたか。

- 1 明確であった 2 ある程度は明確であった 3 不明確であった

Q35. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)
2 社内のリーダーやキーパーソン
3 外部有識者 (プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む)
4 NEDO 担当者 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<参画機関間の意見調整> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)
2 社内のリーダーやキーパーソン
3 外部有識者 (プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む)
4 NEDO 担当者 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<研究開発の工程管理や推進> 【複数回答可】

- 1 自ら自律的に管理した
2 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー) が管理した
3 社内のリーダーやキーパーソン 4 NEDO 担当者
5 管理法人の担当者 6 進捗管理は行われなかった

<進捗管理の具体的な方法 (評価ツール・指標等) があつた場合は、以下に具体的な方法をご記述下

さい>

Q36. 当該 NEDO プロジェクト期間中における下記関係者との協議等の頻度について伺います。

	週 1 回以上	月 1 回以上	3 ヶ月に 1 回以上	半年に 1 回以上	1 年に 1 回以上	ほとんど無し
<当該プロジェクトで連携していた他機関>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テマリーダー）>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の他研究部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の事業部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<顧客>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<経営層>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q37. プロジェクト実施期間中の所属するプロジェクトグループの士気（情熱・意欲・積極性など）はどの程度でしたか。通常の社内プロジェクトと比較してお答えください。

- 1 非常に士気が高かった 2 士気は高かった 3 やや士気は低かった 4 士気は低かった

<上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、その要因について当てはまるものをお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 プロジェクト開始前から既知の関係であったため
- 2 各研究員の目的意識が明確であったため
- 3 プロジェクト（グループ）リーダーによる働きかけ
- 4 NEDO 担当者による働きかけ
- 5 成果が出てきたため
- 6 外部（委員会、プレス発表等）からの評価
- 7 その他

その他記述欄 _____

<上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、どのような創発効果が得られたかお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 新たな研究課題、活動につながった
- 2 外部の研究集会への自発的な参加が増えた
- 3 文献などの情報収集活動が増えた
- 4 グループ内提案が増えた
- 5 その他

その他記述欄 _____

<上記で「3 やや士気は低かった」「4 士気は低かった」を選択した方は、その理由についてご記述下さい>

記述欄 _____

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q38. NEDO 担当者のマネジメントに対する満足度はどれくらいでしたか。

- 1 100点 2 80点 3 60点 4 40点 5 20点以下

具体的な理由 _____

Q39. NEDO 担当者との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

Q40. NEDO 担当者との協議について、普段どのような協議をされておりましたか。また、何をやって欲しかったですか。

< 普段の協議内容 > 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応 5 各種提出書類に係る対応
6 他機関との利害調整 7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で主要な項目）

その他記述欄 _____

< 上記、協議のうち、特に有益であった事項について具体的にご記載ください。 >

記述欄 _____

< やって欲しかったこと > 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応 5 各種提出書類に係る対応
6 他機関との利害調整 7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で重要な項目）

その他記述欄 _____

【NEDO からのお知らせ】

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画

「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

おかげさまで、9年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

また、NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について取り纏めた

「NEDO インサイド製品 2017 ～身近なところに NEDO 技術～」

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

も公開しておりますので、是非、ご覧ください。

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 30 年度 詳細上市調査票（プロジェクト（終了直後企業）・及び制度）

【上市・製品化段階に至った当該製品について伺います】

Q1. 現在の具体的な状況について教えてください。

<製品名>

記述欄 _____

<現在の状況と今後の見込み>

記述欄 _____

<直近単年度の出荷数量>

記述欄 _____

<直近単年度の売上の有無>

1 あり 2 なし

<（上記で「1 あり」を選択された方）直近単年度の売上の実績額（円）>

記述欄 _____

<（上記で「1 あり」を選択された方）直近単年度の利益の有無>

1 あり 2 なし

<今後 5 年間の累積売上見込み額（円）>

記述欄 _____

<新たな雇用創出（含む関連会社）あるいは雇用維持の効果（例：○人）>

記述欄 _____

Q2. NEDO プロジェクトへの参加・実施は、当該製品に関する下記項目に対してどのような効果を与えましたか。

<上市・製品化時期の早期化>

1 著しく早まった（3年以上） 2 早まった（1～2年） 3 変わらない
4 遅れた（1～2年） 5 著しく遅れた（3年以上）

<性能の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<品質の向上>

- 1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<コスト削減>

- 1 著しく削減された 2 削減された 3 変わらない 4 増加した 5 著しく増加した

<新規事業の創出>

- 1 新規事業が創出された 2 既存事業が強化された 3 変わらない

<新規顧客の獲得>

- 1 新規顧客が獲得できた 2 変わらない

<新規調達先の獲得>

- 1 新規調達先が獲得できた 2 変わらない

<新規共同研究先の獲得>【複数選択可】

- 1 新規共同研究先（NEDO プロジェクト連携先企業）の獲得
- 2 新規共同研究先（NEDO プロジェクト連携先大学・公的研究機関）の獲得
- 3 新規共同研究先（NEDO プロジェクトに参加していなかった国内機関）の獲得
- 4 新規共同研究先（海外機関）の獲得
- 5 新たに国内コンソーシアムへ参加
- 6 新たに海外コンソーシアムへ参加
- 7 変わらない

<その他の影響>

記述欄 _____

Q3. プロジェクトでの研究開発成果が上市・製品化にまで至った要因として特に重要だったと考えられる取り組みや出来事は何か。

<プロジェクト実施期間中>

記述欄 _____

<プロジェクト終了後>

記述欄 _____

Q4. 貴社内において、研究開発の主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングや切っ掛けは何か。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）

記述欄 _____

Q5. 貴社の研究開発において、他社や大学等との連携を行う場合、特に重視している点がありますか。

<他企業との連携について>

記述欄 _____

<大学等（公的研究機関も含む）との連携について>

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント（100 事例掲載）

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品（115 製品登録）

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2018」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

2019年度 詳細上市調査票（制度）

【上市・製品化段階に至った当該製品について伺います】

Q1. 現在の具体的な状況について教えてください。

<製品名>

記述欄 _____

<現在の状況と今後の見込み>

記述欄 _____

<直近単年度の出荷数量>

記述欄 _____

<直近単年度の売上げの有無>

1 あり 2 なし

<（上記で「1 あり」を選択された方）直近単年度の売上の実績額（円）>

記述欄 _____

<（上記で「1 あり」を選択された方）直近単年度の利益の有無>

1 あり 2 なし

<今後5年間の累積売上見込み額（円）>

記述欄 _____

<新たな雇用創出（含む関連会社）あるいは雇用維持の効果（例：○人）>

記述欄 _____

Q2. NEDO プロジェクトへの参加・実施は、当該製品に関する下記項目に対してどのような効果を与えましたか。

<上市・製品化時期の早期化>

1 著しく早まった（3年以上） 2 早まった（1～2年） 3 変わらない
4 遅れた（1～2年） 5 著しく遅れた（3年以上）

<性能の向上>

1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<品質の向上>

- 1 著しく向上した 2 向上した 3 変わらない 4 低下した 5 著しく低下した

<コスト削減>

- 1 著しく削減された 2 削減された 3 変わらない 4 増加した 5 著しく増加した

<新規事業の創出>

- 1 新規事業が創出された 2 既存事業が強化された 3 変わらない

<新規顧客の獲得>

- 1 新規顧客が獲得できた 2 変わらない

<新規調達先の獲得>

- 1 新規調達先が獲得できた 2 変わらない

<新規共同研究先の獲得>【複数選択可】

- 1 新規共同研究先（NEDO プロジェクト連携先企業）の獲得
2 新規共同研究先（NEDO プロジェクト連携先大学・公的研究機関）の獲得
3 新規共同研究先（NEDO プロジェクトに参加していなかった国内機関）の獲得
4 新規共同研究先（海外機関）の獲得
5 新たに国内コンソーシアムへ参加
6 新たに海外コンソーシアムへ参加
7 変わらない

<その他の影響>

記述欄 _____

Q3. プロジェクトでの研究開発成果が上市・製品化にまで至った要因として特に重要だったと考えられる取組みや出来事は何ですか。

<プロジェクト実施期間中>

記述欄 _____

<プロジェクト終了後>

記述欄 _____

Q4. 貴社内において、研究開発の主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングや切っ掛けは何ですか。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）

記述欄 _____

Q5. 貴社の研究開発において、他社や大学等との連携を行う場合、特に重視している点がありますか。

<他企業との連携について>

記述欄 _____

<大学等（公的研究機関も含む）との連携について>

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント（107 事例掲載）

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品（117 製品登録）

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2019」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

平成26年度 詳細中止調査票（終了直後）

【当該研究開発が中止・中断に至った経緯・要因等について伺います】

Q1. NEDO プロジェクト参加当初の計画において上市・製品化を目指していましたか。

- 1 はい 2 いいえ

Q2. Q1 で「1 はい」と回答した方に伺います。当該研究開発において、上市・製品化を狙っていた製品の市場や性質は、どのようなものでしたか。【複数回答可】

- 1 新規市場（新たな市場を切り開くもの）
- 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの）
- 3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの）
- 4 他社製品に追随するもの
- 5 他社製品を引き離すもの
- 6 自社の既存製品を置き換えるもの
- 7 他社の既存製品のシェアを奪うもの
- 8 ソリューションを提供するもの
- 9 コスト削減や低価格を実現させたもの（プロセスイノベーション）
- 10 環境負荷を低減させるもの
- 11 その他

その他記述欄

Q3. 当該研究開発において、中止・中断の方針を決定した最終的な意思決定者は誰ですか。

- 1 経営陣（役員以上） 2 事業部門の長 3 研究部門の長 4 その他

その他記述欄

Q4. 中止・中断が顕在化した時期はいつ頃からですか。

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q5. 中止・中断となってしまった要因や具体的な理由や経緯は何ですか。プロジェクト実施期間中から現在までを振り返ってお答えください。

<中止・中断の要因> 【複数回答可】

- 1 技術課題の克服が困難（目標性能が未達成）
- 2 技術課題の克服が困難（差別化技術が未達成）
- 3 コスト課題の克服が困難
- 4 顧客ニーズとの不一致
- 5 顧客サイドの工程変更
- 6 市場の変化・見込み違い
- 7 経営戦略の変化
- 8 法規制対応が未解決
- 9 実用化を目指す企業のサポートとして参加したため
- 10 その他

その他記述欄

<具体的な理由や経緯>

記述欄

Q6. 中止・中断は、何が出来ていればリカバリーすることが可能だったと思われますか。

記述欄

Q7. 当該研究開発成果について、NEDO プロジェクト期間中に、製品化段階もしくは上市段階に達したことはありますか。

1 はい 2 いいえ

【参考】製品化段階・上市段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q8. Q7で「1 はい」を選択した場合、具体的な製品名、製品化時期及び活動の内容をお答え下さい。

記述欄

Q9. Q7で「1 はい」「2 いいえ」を選択した両者に伺います。NEDO プロジェクトで開発された成果（特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等の知的財産を含む）が、当初目指した技術分野以外で活用される等の波及効果はありましたか。

<波及効果の有無>

1 ある 2 ない

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 既存製品へのNEDOプロジェクト成果の組み込み
- 2 既存の生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
- 3 品質管理
- 4 新規製品の開発
- 5 新規テーマの立ち上げ
- 6 社内で埋蔵されている未利用資源（休眠技術など）の活用

7 NEDO プロジェクトで取得した特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用の出願・保有による事業防衛

8 その他

その他記述欄

<具体的な波及効果>

記述欄

Q10. 貴社内において、研究開発の主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングやきっかけは何ですか。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）【必須】

記述欄

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 27 年度 詳細中止調査票（終了直後）

【当該研究開発が中止・中断に至った経緯・要因等について伺います】

Q1. NEDO プロジェクト参加当初の計画において上市・製品化を目指していましたか。

- 1 はい 2 いいえ

Q2. Q1 で「1 はい」と回答した方に伺います。当該研究開発において、上市・製品化を狙っていた製品の市場や性質は、どのようなものでしたか。【複数回答可】

- 1 新規市場（新たな市場を切り開くもの） 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの）
3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの） 4 他社製品に追随するもの
5 他社製品を引き離すもの 6 自社の既存製品を置き換えるもの
7 他社の既存製品のシェアを奪うもの 8 ソリューションを提供するもの
9 コスト削減や低価格化を実現させたもの 10 環境負荷を低減させるもの
11 その他

その他記述欄

Q3. 当該研究開発において、中止・中断の方針を決定した最終的な意思決定者は誰ですか。

- 1 経営陣（役員以上） 2 事業部門の長 3 研究部門の長 4 その他

その他記述欄

Q4. 中止・中断が顕在化した時期はいつ頃からですか。

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q5. 中止・中断となってしまった要因や具体的な理由や経緯は何ですか。プロジェクト実施期間中から現在までを振り返ってお答えください。

<中止・中断の要因> 【複数回答可】

- 1 技術課題の克服が困難（目標性能が未達成） 2 技術課題の克服が困難（差別化技術が未達成）
3 コスト課題の克服が困難 4 顧客ニーズとの不一致 5 顧客サイドの工程変更
6 市場の変化・見込み違い 7 経営戦略の変化 8 法規制対応が未解決
9 実用化を目指す企業のサポートとして参加したため 10 キーパーソンの離脱
11 その他

その他記述欄

<具体的な理由や経緯>

記述欄

Q6. 中止・中断は、何が出来ていればリカバリーすることが可能だったと思われませんか。

記述欄

Q7. 当該研究開発成果について、NEDO プロジェクト期間中及び終了後から現在まで、製品化段階もしくは上市段階に達したことはありますか。

- 1 はい 2 いいえ

【参考】製品化段階・上市段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q8. Q7 で「1 はい」を選択した場合、具体的な製品名、製品化時期及び活動の内容をお答え下さい。

記述欄

Q9. Q7 で「1 はい」「2 いいえ」を選択した両者に伺います。NEDO プロジェクトで開発された成果（特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等の知的財産を含む）が、当初目指した技術分野以外で活用される等の波及効果はありましたか。

<波及効果の有無>

- 1 ある 2 ない

<波及効果の適用先>【複数回答可】

- 1 既存製品への NEDO プロジェクト成果の組み込み
- 2 既存の生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
- 3 品質管理 4 新規製品の開発 5 新規テーマの立ち上げ
- 6 社内で埋蔵されている未利用資源（休眠技術など）の活用
- 7 NEDO プロジェクトで取得した特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用の出願・保有による事業防衛
- 8 その他

その他記述欄

<具体的な波及効果>

記述欄

平成 28 年度 詳細中止調査票（終了直後）

【当該研究開発が中止・中断に至った経緯・要因等について伺います】

Q1. NEDO プロジェクト参加当初の計画において上市・製品化を目指していましたか。

- 1 はい 2 いいえ

Q2. Q1 で「1 はい」と回答した方に伺います。当該研究開発において、上市・製品化を狙っていた製品の市場や性質は、どのようなものでしたか。【複数回答可】

- 1 新規市場（新たな市場を切り開くもの） 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの）
3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの） 4 他社製品に追随するもの
5 他社製品を引き離すもの 6 自社の既存製品を置き換えるもの
7 他社の既存製品のシェアを奪うもの 8 ソリューションを提供するもの
9 コスト削減や低価格化を実現させたもの 10 環境負荷を低減させるもの
11 その他

その他記述欄 _____

Q3. 当該研究開発において、中止・中断の方針を決定した最終的な意思決定者は誰ですか。

- 1 経営陣（役員以上） 2 事業部門の長 3 研究部門の長 4 その他

その他記述欄 _____

Q4. 中止・中断が顕在化した時期はいつ頃からですか。

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q5. 中止・中断となってしまった要因や具体的な理由や経緯は何ですか。プロジェクト実施期間中から現在までを振り返ってお答えください。

<中止・中断の要因> 【複数回答可】

- 1 技術課題の克服が困難（目標性能が未達成） 2 技術課題の克服が困難（差別化技術が未達成）
3 コスト課題の克服が困難 4 顧客ニーズとの不一致 5 顧客サイドの工程変更
6 市場の変化・見込み違い 7 経営戦略の変化 8 法規制対応が未解決
9 実用化を目指す企業のサポートとして参加したため 10 社内キーパーソンの離脱
11 事業部門が取り組まなかったため 12 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向
13 その他

その他記述欄 _____

<具体的な理由や経緯>

記述欄 _____

Q6. 中止・中断は、何が出来ていればリカバリーすることが可能だったと思われますか。

記述欄 _____

Q7. 当該研究開発成果について、NEDO プロジェクト期間中及び終了後から現在まで、製品化段階もしくは上市段階に達したことはありますか。

- 1 はい 2 いいえ

【参考】製品化段階・上市段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q8. Q7 で「1 はい」を選択した場合、具体的な製品名、製品化時期及び活動の内容をお答え下さい。

記述欄 _____

Q9. Q7 で「1 はい」「2 いいえ」を選択した両者に伺います。NEDO プロジェクトで開発された成果（特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等の知的財産を含む）が、当初目指した技術分野以外で活用される等の波及効果はありましたか。

<波及効果の有無>

- 1 ある 2 ない

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 既存製品への NEDO プロジェクト成果の組み込み
- 2 既存の生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
- 3 品質管理
- 4 新規製品の開発
- 5 新規テーマの立ち上げ
- 6 社内で埋蔵されている未利用資源（休眠技術など）の活用
- 7 NEDO プロジェクトで取得した特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用の出願・保有による事業防衛
- 8 その他

その他記述欄 _____

<具体的な波及効果>

記述欄

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 29 年度 詳細中止調査票（終了直後）

【当該研究開発が中止・中断に至った経緯・要因等について伺います】

Q1. NEDO プロジェクト参加当初の計画において上市・製品化を目指していましたか。

- 1 はい 2 いいえ

Q2. Q1 で「1 はい」と回答した方に伺います。当該研究開発において、上市・製品化を狙っていた製品の市場や性質は、どのようなものでしたか。【複数回答可】

- 1 新規市場（新たな市場を切り開くもの） 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの）
3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの） 4 他社製品に追随するもの
5 他社製品を引き離すもの 6 自社の既存製品を置き換えるもの
7 他社の既存製品のシェアを奪うもの 8 ソリューションを提供するもの
9 コスト削減や低価格化を実現させたもの 10 環境負荷を低減させるもの
11 その他

その他記述欄 _____

Q3. 当該研究開発において、中止・中断の方針を決定した最終的な意思決定者は誰ですか。

- 1 経営陣（役員以上） 2 事業部門の長 3 研究部門の長 4 その他

その他記述欄 _____

Q4. 中止・中断が顕在化した時期はいつ頃からですか。

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q5. 中止・中断となってしまった要因や具体的な理由や経緯は何ですか。プロジェクト実施期間中から現在までを振り返ってお答えください。

<中止・中断の要因> 【複数回答可】

- 1 技術課題の克服が困難（目標性能が未達成） 2 技術課題の克服が困難（差別化技術が未達成）
3 コスト課題の克服が困難 4 顧客ニーズとの不一致 5 顧客サイドの工程変更
6 市場の変化・見込み違い 7 経営戦略の変化 8 法規制対応が未解決
9 実用化を目指す企業のサポートとして参加したため 10 社内キーパーソンの離脱
11 事業部門が取り組まなかったため 12 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向
13 その他

その他記述欄 _____

<具体的な理由や経緯>

<具体的な波及効果>

記述欄

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 30 年度 詳細中止調査票（プロジェクト（終了直後企業）・及び制度）

【当該研究開発が中止・中断に至った経緯・要因等について伺います】

Q1. NEDO プロジェクト参加当初の計画において上市・製品化を目指していましたか。

- 1 はい 2 いいえ

Q2. 当該研究開発において、中止・中断の方針を決定した最終的な意思決定者は誰ですか。

- 1 経営陣（役員以上） 2 事業部門の長 3 研究部門の長 4 その他

その他記述欄 _____

Q3. 中止・中断が顕在化した時期はいつ頃からですか。

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q4. 中止・中断となってしまった要因や具体的な理由や経緯は何ですか。プロジェクト実施期間中から現在までを振り返ってお答えください。

<中止・中断の要因> 【複数回答可】

- 1 技術課題の克服が困難（目標性能が未達成） 2 技術課題の克服が困難（差別化技術が未達成）
3 コスト課題の克服が困難 4 顧客ニーズとの不一致 5 顧客サイドの工程変更
6 市場の変化・見込み違い 7 経営戦略の変化 8 法規制対応が未解決
9 実用化を目指す企業のサポートとして参加したため 10 社内キーパーソンの離脱
11 事業部門が取り組まなかったため 12 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向
13 その他

その他記述欄 _____

<具体的な理由や経緯>

記述欄 _____

Q5. 中止・中断は、何が出来ていればリカバリーすることが可能だったと思われますか。

記述欄 _____

Q6. 当該研究開発成果について、NEDO プロジェクト期間中及び終了後から現在まで、製品化段階もしくは上市段階に達したことはありますか。

- 1 はい 2 いいえ

【参考】製品化段階・上市段階のイメージ

<活動の内容>

<アウトプットイメージ>

製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q7. Q6で「1 はい」を選択した場合、具体的な製品名、製品化時期及び活動の内容をお答え下さい。
記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント（100 事例掲載）

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧ください。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品（115 製品登録）

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2018」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

2019年度 詳細中止調査票（制度）

【当該研究開発が中止・中断に至った経緯・要因等について伺います】

Q1. NEDO プロジェクト参加当初の計画において上市・製品化を目指していましたか。

- 1 はい 2 いいえ

Q2. 当該研究開発において、中止・中断の方針を決定した最終的な意思決定者は誰ですか。

- 1 経営陣（役員以上） 2 事業部門の長 3 研究部門の長 4 その他

その他記述欄 _____

Q3. 中止・中断が顕在化した時期はいつ頃からですか。

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q4. 中止・中断となってしまった要因や具体的な理由や経緯は何ですか。プロジェクト実施期間中から現在までを振り返ってお答えください。

<中止・中断の要因> 【複数回答可】

- 1 技術課題の克服が困難（目標性能が未達成）
- 2 技術課題の克服が困難（差別化技術が未達成）
- 3 コスト課題の克服が困難
- 4 顧客ニーズとの不一致
- 5 顧客サイドの工程変更
- 6 市場の変化・見込み違い
- 7 経営戦略の変化
- 8 法規制対応が未解決
- 9 実用化を目指す企業のサポートとして参加したため
- 10 社内キーパーソンの離脱
- 11 事業部門が取り組まなかったため
- 12 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向
- 13 その他

その他記述欄 _____

<具体的な理由や経緯>

記述欄 _____

Q5. 中止・中断は、何が出来ていればリカバリーすることが可能だったと思われますか。

記述欄 _____

Q6. 当該研究開発成果について、NEDO プロジェクト期間中及び終了後から現在まで、製品化段階もしくは上市段階に達したことはありますか。

- 1 はい 2 いいえ

【参考】製品化段階・上市段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q7. Q6で「1 はい」を選択した場合、具体的な製品名、製品化時期及び活動の内容をお答え下さい。

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント（107 事例掲載）

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な

分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品（117 製品登録）

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2019」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

Q1. 当該研究開発において、上市・製品化を狙っていた製品の市場や性質は、どのようなものですか。

【複数回答可】【必須】

- 1 新規市場（新たな市場を切り開いたもの）
- 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの）
- 3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの）
- 4 他社製品に追随するもの
- 5 他社製品を引き離すもの
- 6 自社の既存製品を置き換えるもの
- 7 他社の既存製品のシェアを奪うもの
- 8 ソリューションを提供するもの
- 9 コスト削減や低価格を実現させたもの（プロセスイノベーション）
- 10 環境負荷を低減させるもの
- 11 その他 _____

Q2. 中止と中断のどちらですか。【必須】

- 1 中止
- 2 中断

Q3. 中止・中断の方針を決定するにあたり、最終的な意思決定者は誰ですか。【必須】

- 1 経営陣（役員以上）
- 2 事業部門の長
- 3 研究部門の長
- 4 その他 _____

Q4. 中止・中断の検討を始めた時期はいつ頃からですか。【必須】

検討を始めた時期（西暦） _____

Q5. 中止・中断となってしまった要因や具体的な理由や経緯は何ですか。プロジェクト実施期間中から現在までを振り返ってお答えください。【必須】

<中止・中断の要因> 【複数回答可】

- 1 技術課題の克服が困難（目標性能が未達成）
- 2 技術課題の克服が困難（差別化技術が未達成）
- 3 コスト課題の克服が困難
- 4 顧客ニーズとの不一致
- 5 顧客サイドの工程変更
- 6 市場の変化・見込み違い
- 7 経営戦略の変化
- 7 法規制対応が未解決
- 8 実用化を目指す企業のサポートとして参加したため
- 9 その他 _____

<具体的な理由や経緯>

記述欄 _____

Q6. 中止・中断は、何が出来ていればリカバリーすることが可能だったと思われませんか。【必須】

記述欄 _____

Q7. 社内において、主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングや切っ掛けは何ですか。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）【必須】

記述欄 _____

Q8. プロジェクトに参加する判断基準として特に重視している点は何ですか。また、参加したいと思えるプロジェクトの条件とは何ですか。【必須】

<参加する判断基準として特に重視している点>

記述欄 _____

<参加したいと思えるプロジェクトの条件>

記述欄 _____

Q9. 他社や大学等との連携において特に重視している点がありますか。【必須】

<他社との連携について>

記述欄 _____

<大学等（公的研究機関も含む）との連携について>

記述欄 _____

【ファクトシート】ファクトシートに記載されている質問項目は、より効果的なNEDOプロジェクトの業務運営改善を図ることを目的として、平成23年度に新設された項目でございます。その後、回答特性を分析しながら平成24年度、25年度に一部の質問項目が改編されました。

そこで、大変お手数をお掛けしますが、データ間の補正を行う為にもアンケートに御協力を頂けると幸いです。なお、貴社がプロジェクトに参加する直前・直後の状況に関する質問項目も含まれておりますので、わかる範囲でご回答頂ければと思います。 よろしくお願い致します。

【全般について】

Q1. どのような体制のプロジェクトでしたか。

<プロジェクト体制>

- 1 集中研（特定の場所に複数の実施者が集まって研究開発を実施）
- 2 分散研（それぞれの場所で、それぞれが研究開発を実施）
- 3 集中研と分散研の複合型
- 4 単独で実施（コンソーシアムを組んだプロジェクトではない）
- 5 体制の全体像は把握していない

<連携のタイプ>

- 1 垂直連携
- 2 水平連携
- 3 垂直・水平連携

<参加企業のタイプ>

- 1 同業種が多い
- 2 異業種が多い
- 3 競合する企業が含まれている
- 4 取引関係がある企業が含まれている
- 5 利害関係が複雑である

<貴社が担った役割> 【複数回答可】

- 1 川上（材料など）
- 2 川中（部材・部品など）
- 3 川下（最終製品）
- 4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など）
- 5 標準化や知的基盤整備
- 6 その他 _____

Q2. 貴社の研究開発の分野と、最終的な研究開発の出口は、次のうちどれですか。

<研究開発の分野>

- 1 ナノテク・材料
- 2 バイオ・医療
- 3 機械
- 4 電子・情報
- 5 環境
- 6 エネルギー（新エネ、省エネ）
- 7 その他 _____

<最終的な研究開発の出口>

- 1 プロセス開発
- 2 システム開発
- 3 材料開発
- 4 部材・部品開発

5 機械装置開発 6 分析・評価 7 特に限定していない 8 その他 _____

Q3. 大学や企業との連携は役立ちましたか。

<大学との連携>

1 大いに役立った 2 役立った 3 やや役立った 4 役立たなかった

<企業との連携>

1 大いに役立った 2 役立った 3 やや役立った 4 役立たなかった

Q4. 大学や企業との連携において役立ったのは、次のうちどれですか。【複数回答可】

<大学との連携>

1 研究方針・方向性 2 データ取得や解析方法 3 メカニズム解明・分析
4 文献などの情報収集 5 生産プロセス 6 原料転換 7 コスト課題の解決
8 社内への説明・説得 9 顧客への説明・説得 10 その他 _____

<企業との連携>

1 研究方針・方向性 2 データ取得や解析方法 3 メカニズム解明・分析
4 文献などの情報収集 5 生産プロセス 6 原料転換 7 コスト課題の解決
8 社内への説明・説得 9 顧客への説明・説得 10 その他 _____

Q5. あなたから見て、連携先の大学や企業など、プロジェクト全体としての士気（情熱・熱意・意欲）の高さはどうでしたか。

1 非常に高い 2 高い 3 やや高い 4 やや低い 5 低い 6 非常に低い

Q6. プロジェクト開始時点と終了時点において、研究開発・実用化活動等における貴社の主体部門は、次のどちらですか。

<開始時点>

1 研究開発部門 2 事業部門

<終了時点>

1 研究開発部門 2 事業部門

Q7. プロジェクト提案時点と終了時点において、貴社の研究開発フェーズは、次のうちどれですか。

<開始時点>

1 純粋科学研究 (真理の追究)
2 目的基礎研究 (出口を見据えた基礎探索研究)
3 実用化開発 (実用化をめざした開発研究)
4 実証 (顧客評価を含む実用性の検証)

<終了時点>

1 純粋科学研究 (真理の追究)
2 目的基礎研究 (出口を見据えた基礎探索研究)
3 実用化開発 (実用化をめざした開発研究)
4 実証 (顧客評価を含む実用性の検証)

Q8. プロジェクトに参加した目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認） 2 技術・ノウハウの獲得 3 実用化の可能性の見極め
4 終了後5年以内の上市・製品化 5 終了後10年以内の上市・製品化 6 その他 _____

Q9. プロジェクトで設定した目標値に対する終了時点の達成度は何点になりますか。

- 1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q10. 終了時点における実用化までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度でしたか。残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮して、以下の選択肢よりお選びください。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q11. 目標値の達成度と実用化目標の達成度との点差の理由は、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 技術的課題 2 コスト的課題 3 組織的問題 4 時間的問題 5 その他 _____

Q12. 設定したプロジェクトの目標値は適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった（ズレていた）

<具体的に>

記述欄 _____

Q13. 設定したプロジェクトの研究テーマは適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった（ズレていた）

<具体的に>

記述欄 _____

Q14. プロジェクト実施期間中に取得できた実験データの量は、次のうちどれですか。

- 1 非常に多くのデータを取得できた 2 多くのデータを取得できた
3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた 4 少なめのデータしか取得できなかった

Q15. データ取得の目的は、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る 2 機能発現に関するメカニズム解明 3 性能・機能向上
4 安全性の検証 5 再現性の検証 6 スケールアップに必要な設計基礎データ
7 コスト課題の解決 8 社内への説明・説得
9 営業活動や顧客への説得のための信頼性確保 10 その他 _____

Q16. プロジェクト実施期間中に NEDO から貴社に供給された資金（間接費含む）は、総額でどの程度でしたか。

- 1 3,000万円未満 2 3,000万円～5,000万円 3 5,000万円～1億円 4 1億円～2億円
5 2億円～3億円 6 3億円～5億円 7 5億円～10億円 8 10億円以上

Q17. プロジェクト実施期間中に要した研究開発費（自己負担分も含む総額）のうち、NEDO から供給された資金は概ね何%程度でしたか。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q18. プロジェクト終了時点までにはほぼ完成している項目と、今後、明らかにすべき項目は、次のうちどれですか。【複数回答可】

<ほぼ完成している項目>

- 1 要素技術の深耕 2 開発技術のパッケージ化 3 応用開発段階での検討
4 工業化開発・製品化開発段階での検討 5 既存事業の強化
6 既存事業周辺での新製品開発 7 新規事業開発 8 法規制への対応
9 戦略的な標準化への取組み 10 知財の取得 11 共同研究先の意向
12 事業部門の積極的な関与 13 市場性を見極め 14 コスト競争力
15 生産技術（収率・設備等） 16 技術競争力 17 ユーザー評価
18 グローバルな展開を進めうる製造・販売体制の構築
19 長期信頼性に関わる実績づくり 20 その他 _____

<今後、明らかにすべき項目>

- 1 要素技術の深耕 2 開発技術のパッケージ化 3 応用開発段階での検討
4 工業化開発・製品化開発段階での検討 5 既存事業の強化
6 既存事業周辺での新製品開発 7 新規事業開発 8 法規制への対応
9 戦略的な標準化への取組み 10 知財の取得 11 共同研究先の意向
12 事業部門の積極的な関与 13 市場性を見極め 14 コスト競争力
15 生産技術（収率・設備等） 16 技術競争力 17 ユーザー評価
18 グローバルな展開を進めうる製造・販売体制の構築
19 長期信頼性に関わる実績づくり 20 その他 _____

Q19. プロジェクトにより得た成果は、貴社の資源投入にどのような影響を与えましたか。プロジェクト参加前と終了後とを比較してお答え下さい。

<R&Dの規模（予算や人員）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<R&D規模が拡大した要因> 【複数回答】

- 1 技術開発目標の達成 2 コスト目標の達成
3 事業戦略の強化方針（事業部門の積極的な関与） 4 新規事業開発の強化方針
5 法規制への変化 6 競合他社の台頭 7 強力な知財の取得 8 共同研究先の意向
9 プロジェクトメンバー以外からの共同開発の要請 10 生産技術（収率・設備等）の蓄積
11 ユーザー評価の結果 12 顧客の出現 13 その他 _____

<上市・製品化の可能性－Ⅰ（プロジェクトで目指した技術分野）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－Ⅱ（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開）>

- 1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性について拡大を判断する要素>

- 1 品質競争力（性能・機能が競合品もしくは既存技術よりも優れている）
- 2 コスト競争力（コストが競合品もしくは既存技術よりも優れている）
- 3 市場が確実に存在し、且つ成長が見込める（生産能力強化やコストダウンで市場成長が見込める）
- 4 技術競争力（海外も含めて、開発状況が先頭もしくは先頭グループに位置している）
- 5 知財競争力（一定期間、独占実施権が確保できている）
- 6 その他 _____

<想定される上市・製品化の時期>

- 1 3年以内
- 2 3～5年
- 3 5～10年
- 4 10年以上
- 5 予定なし

Q20. もし、プロジェクトに参加していなかった場合、社内において、当該研究開発はどのような状況になっていたと思われますか。

- 1 着手されなかった
- 2 人員や設備投資が縮小されていた
- 3 予定通りに実施されていた

Q21. 当該研究開発は、社内の組織戦略上どのような位置づけのものでしたか。プロジェクトに参加する前の位置づけについてお答え下さい。【複数選択可】

- 1 現有事業の競争力強化（生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他）
- 2 現有事業周辺（生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能）で会社として新規な市場への参入
- 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入
- 4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

Q22. 経営層が関与したタイミングは、次のうちどれですか。

<関与のタイミング>

- 1 提案時から密接に対応
- 2 採択直後から対応
- 3 開発成果が見え始めてから
- 4 実用化の可能性が見え始めてから
- 5 ほとんど関与していない

<関与の内容>

記述欄 _____

Q23. 事業部門（新規事業開発部門含む）が関与したタイミングは、次のうちどれですか。

<関与のタイミング>

- 1 提案時から密接に対応
- 2 採択直後から対応
- 3 開発成果が見え始めてから
- 4 実用化の可能性が見え始めてから
- 5 ほとんど関与していない

<関与の内容>

記述欄 _____

Q24. プロジェクト参加時の状況について伺います。

<経営層（技術系役員を除く）からのトップマネジメント>

- 1 あった
- 2 なかった

<外部(大学、経済産業省等)からの勧めによるプロジェクト参加>

- 1 あった
- 2 なかった

<ご自身の参加の意思>

- 1 大いにあった 2 仕方なく参加した 3 どちらともいえない

<提案前の事前準備について>

- 1 参加前から綿密に準備 2 有識者等の情報のみ 3 ほとんどなし 4 その他 _____

Q25. 貴社の競争力ポジションは、プロジェクトに参加して変化しましたか。プロジェクト開始時点と終了時点とを比較してお答え下さい。

	上がった	変わらない	下がった	不明
<技術競争力・品質競争力ポジションの変化>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<製造コストと製造技術・量産性の競争力ポジションの変化>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<ユーザー獲得、市場獲得の競争力ポジションの変化>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<技術開発の進展段階におけるポジションの変化>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<特許競争力ポジションの変化>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q26. 上記質問でお答えになった内容を総合的に判断すると、競争力ポジションはどのように変化しました。

<総合的に判断した競争力ポジション>

- 1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明および理由 _____

<世界における現在の競争力ポジション>

- 1 世界で1位 2 世界で2~3位 3 世界で4位以下 4 不明および理由 _____

<国内における現在の競争力ポジション>

- 1 日本で1位 2 日本で2~3位 3 日本で4位以下 4 不明および理由 _____

<プロジェクト開始時点の競争力ポジション（世界）>

- 1 世界で1位 2 世界で2~3位 3 世界で4位以下 4 不明および理由 _____

<プロジェクト開始時点の競争力ポジション（国内）>

- 1 日本で1位 2 日本で2~3位 3 日本で4位以下 4 不明および理由 _____

Q27. 競争力のポジショニング調査は実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 中国 5 韓国 6 その他 _____

<主に、何について調査をしましたか>

記述欄 _____

Q28. プロジェクト参加時に、下記の項目に対する期待度はどれくらいでしたか。

	100%~	80%~	60%~	40%~	20%~
<技術課題の克服>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<コスト課題の克服>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

<他機関との連携による有用技術の獲得(キャッチアップ)>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<異分野、異業種、他機関との連携/融合によるシナジー効果>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<技術開発・製品開発のスピードアップ>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<他機関との人的・組織的ネットワークの形成>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<研究開発リスクの分散・回避>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<研究開発資金の確保>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<人材育成(研究者の質的向上)>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<社内・外でのプレゼンス向上>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q29. 上記質問での期待度を基準に、実際に得られたメリットは何点になりますか。また、その要因や内容などについてもお答えください。

Q29-1. 技術課題の克服について

<実際に得られたメリット>

- 1 150点以上(遥かに期待を上回った) 2 120点(期待を上回った)
 3 100点(当初の期待通り) 4 70点(期待を下回った) 5 40点以下(遥かに期待を下回った)

<技術的課題の克服に寄与した要因>【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 新規設備の導入 3 社内他部門のサポート
 4 メカニズムの解明 5 連携先からのアイデア 6 連携先の先端技術
 7 別テーマの保有技術 8 共通基盤技術の共有化 9 大規模フィールド試験
 10 システム設計の見直し 11 社内資源の拡大 12 その他 _____

<終了後に克服しなければいけなかった技術的課題の内容>【複数回答可】

- 1 要素技術(プロジェクト目標) 2 性能の信頼性 3 コスト低減化技術
 4 組立て技術 5 製品加工技術 6 量産化に対する生産プロセス技術
 7 法規制に対応する技術 8 競合他社技術を上回る技術
 9 障害(問題)となる知財を回避する技術 10 評価技術
 11 データ解析技術 12 分析技術 13 その他 _____

<技術的課題が残った要因>【複数回答可】

- 1 開発対象技術の難易度 2 コストの壁 3 スケジュールに無理 4 要員不足
 5 メカニズム解明の知識不足 6 連携による成果が予想以下 7 その他 _____

Q29-2. コスト課題の克服について

<実際に得られたメリット>

- 1 150点以上(遥かに期待を上回った) 2 120点(期待を上回った)
 3 100点(当初の期待通り) 4 70点(期待を下回った) 5 40点以下(遥かに期待を下回った)

<ボトルネックとなっていたコスト課題>

- 1 原料費 2 製造加工費 3 組立て費(開発要素含む)
 4 付加的設備費(既存の本体設備に付与する設備費) 5 生産・加工速度
 6 流通・営業費 7 為替変動 8 その他 _____

<コスト課題の克服に寄与した要因>【複数回答可】

- 1 キー技術の進展 2 製造プロセスの改良・変更 3 量産化技術の構築

- 4 原料転換 5 新規機能の付与 6 仕様のスペックダウン
7 市場の拡大 8 連携先からの技術提供（デバイス、ツール等）
9 競合材料の市況高騰 10 為替変動 11 その他 _____

Q29-3. 他機関との連携による有用技術の獲得（キャッチアップ）について

<実際に得られたメリット>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<技術獲得の対象となった技術> 【複数回答可】

- 1 探索技術 2 製造技術 3 分離・精製技術 4 製品化技術 5 生産プロセス技術
6 分析技術 7 データ解析技術 8 評価技術 9 品質管理技術 10 その他 _____

Q29-4. 異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果について

<実際に得られたメリット>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<シナジー効果に寄与した要因> 【複数回答可】

- 1 連携先との情報交換 2 連携先との協働 3 異分野・異業種との情報交換
4 異分野・異業種との協働 5 その他 _____

Q29-5. 技術開発・製品開発のスピードアップについて

<実際に得られたメリット>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<技術開発・製品開発のスピードアップに寄与した要因> 【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 新規設備の導入 3 社内他部門のサポート 4 メカニズムの解明
5 分析技術 6 データ解析技術 7 評価技術 8 連携先の先端技術 9 その他 _____

Q29-6. 他機関との人的・組織的ネットワークの形成について

<実際に得られたメリット>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った） 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<ネットワークの形成に寄与した要因> 【複数回答可】

- 1 日常的なプロジェクト内での交流 2 定期的な内部検討会 3 日常的な NEDO との交流
4 NEDO 主催の委員会など 5 ユーザー企業との交流 6 プレス発表 7 学会発表
8 経済産業省、NEDO 以外の公的機関の協力 9 その他 _____

Q29-7. 研究開発リスクの分散・回避について

<実際に得られたメリット>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）

3 100点(当初の期待通り) 4 70点(期待を下回った) 5 40点以下(遥かに期待を下回った)
<当該項目をより高い評価にするためには何が必要でしたか>
記述欄 _____

Q29-8. 研究開発資金の確保について

<実際に得られたメリット>

1 150点以上(遥かに期待を上回った) 2 120点(期待を上回った)

3 100点(当初の期待通り) 4 70点(期待を下回った) 5 40点以下(遥かに期待を下回った)

<当該項目をより高い評価にするためには何が必要でしたか>

記述欄 _____

Q29-9. 人材育成(研究者の質的向上)について

<実際に得られたメリット>

1 150点以上(遥かに期待を上回った) 2 120点(期待を上回った)

3 100点(当初の期待通り) 4 70点(期待を下回った) 5 40点以下(遥かに期待を下回った)

<当該項目をより高い評価にするためには何が必要でしたか>

記述欄 _____

Q29-10. 社内・外でのプレゼンス向上について

<実際に得られたメリット>

1 150点以上(遥かに期待を上回った) 2 120点(期待を上回った)

3 100点(当初の期待通り) 4 70点(期待を下回った) 5 40点以下(遥かに期待を下回った)

<プレゼンス向上に寄与した要因>【複数回答可】

1 技術力の向上 2 プロジェクトを通じたユーザー企業との出会い

3 プロジェクトを通じた大学の先生との出会い 4 NEDOプロジェクトに参加していること

5 学会発表 6 プレス発表 7 論文発表 8 特許出願 9 その他 _____

【プロジェクトの活動について】

Q30. 他社との関係において、連携によるシナジー効果を意識したタイミングはいつですか。

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 意識していない

Q31. 事業化シナリオの検討はいつ頃から行われましたか。

<検討したタイミング(見直し含む)>【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

<事業化シナリオの検討主体>【複数回答可】

1 研究開発部門 2 事業部門

<事業化シナリオの検討内容>【複数回答可】

1 企業戦略との整合性 2 技術の発展性 3 市場の魅力度のチェック

4 目標仕様の確定 5 市場性テストのスケジュール策定

6 事業トライアルのための製品化レベルの確定 7 事業開始時の販売先の特定

Q32. 強力なリーダーやキーパーソンは存在しましたか。

<研究開発の推進や方向づけ>

- 1 NEDO プロジェクトのリーダー 2 社内のリーダーやキーパーソン
 3 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
 4 NEDO の担当者 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった 7 その他 _____

<他機関との調整>

- 1 NEDO プロジェクトのリーダー 2 社内のリーダーやキーパーソン
 3 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
 4 NEDO の担当者 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった 7 その他 _____

Q33. 打ち合わせ等の頻度についてお答え下さい。

	週1回以上	月1回以上	3ヶ月に1回以上	半年に1回以上	1年に1回以上	ほとんど無し
<連携している他機関との協議>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<NEDO プロジェクトのリーダーとの協議>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<NEDO の担当者との協議>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<社内の他研究部門との協議>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<社内の事業部門との協議>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<顧客との協議>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q34. 論文や技報などによる技術動向調査は実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 中国 5 韓国 6 その他 _____

Q35. 特許動向調査は実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 中国 5 韓国 6 その他 _____

Q36. 市場動向調査は実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 中国 5 韓国 6 その他 _____

Q37. コスト目標は設定しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<コスト目標設定のベンチマーク先> 【複数回答可】

- 1 自社製品 2 日本企業 3 米国企業 4 欧州企業 5 中国企業
6 韓国企業 7 その他 _____

Q38. リスク検討は行いましたか。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

<リスク検討の内容> 【複数回答可】

- 1 研究開発リスク 2 製品リスク（原料等の調達先確保、市場優位性など）
3 情報リスク（情報漏洩など） 4 自然災害リスク
5 カントリーリスク（輸出入先など対象国の政治・法律などの変化）
6 財務リスク（為替レートの変化など） 7 経営リスク（買収・事業承継など）
8 法務リスク（規格・規制変更、関連法令等の改廃など） 9 市場動向の変化
10 その他 _____

<実際に発生したリスクは何ですか> 【複数回答可】

- 1 予定していた技術課題の解決が未達成 2 予定していた技術獲得が不調
3 予想外の課題が発生 4 原料調達が困難 5 情報漏洩 6 自然災害
7 カントリーリスク 8 為替変動 9 財務状況の悪化 10 経営方針の転換
11 法令、規制の壁 12 競合他社の出現 13 市場価格の下落 14 景気変動
15 マーケットの縮小 16 ユーザーニーズの変化 17 ユーザーニーズが存在しなかった
18 NEDO 予算の縮小 19 キーパーソンの離脱
20 リスクは発生しなかった 21 その他 _____

Q39. NEDO プロジェクトを開始する前に先導研究*は必要だと思いますか。

(※プロジェクト前段階の予備的、基礎的な内容の精査、研究等を行うもの。)

<先導研究の要否>

- 1 必ず必要 2 必要 3 不要 4 どちらとも言えない

<必要な先導研究の内容>

- 1 予備調査（技術、市場動向など） 2 基礎データの取得 3 基本設計（装置、プロセスなど）
4 課題の探索、絞り込み 5 目標値の設定 6 開発戦略の策定
7 適切なプロジェクトメンバーの検討 8 その他 _____

Q40. 連携した他機関と知的財産等の取り扱いに関するルール策定や検討は行いましたか。

<ルール策定や検討の有無>

- 1 行った 2 行っていない

<知的財産等の取り扱い内容> 【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP（プロジェクトに参加する前から保有していた特許）の取り扱い

- 2 フォアグラウンド IP（プロジェクトの成果により得られた特許）の取り扱い
- 3 研究ノートの管理方法 4 発明（ノウハウも含む）等の報告方法 5 権利者の決定方法
- 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法 7 秘密保持契約
- 8 知財規程の整備や知財委員会の設置 9 外部有識者の参加 10 その他 _____

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

Q41. プロジェクトに参加する際の秘密情報の取扱いについてお答え下さい。

<提供する秘密情報について>

- 1 営業秘密として高度の管理をすることを期待 2 一般的な秘密管理を期待
- 3 極めて重要な秘密情報の提供は行わない 4 秘密情報の提供は原則していない
- 5 提供した秘密情報は極力早期に特許出願している 6 その他（具体的に） _____

<受領する秘密情報について>

- 1 営業秘密として高度の管理を行っている 2 一般的な秘密管理を行っている
- 3 極めて重要な秘密情報の受領は行わない 4 秘密情報の受領は原則していない
- 5 その他（具体的に） _____

<プロジェクト内の情報交換について>

- 1 秘密にすべき技術情報が漏洩しないことを重視
- 2 どちらかといえば、秘密にすべき技術情報が漏洩しないことを重視
- 3 どちらかといえば、技術情報管理よりもオープンな情報交換が行われることを重視
- 4 技術情報管理よりもオープンな情報交換が行われることを重視

Q42. プロジェクトにおける知的財産の取り扱いやバイ・ドール制度について、良かった点、悪かった点、問題と思われること、困っていることなどはありますか。

記述欄 _____

【プロジェクトや NEDO のマネジメントに対する評価と改善点】

Q43. プロジェクトに対する満足度はどれくらいでしたか。

- 1 100点 2 80点 3 60点 4 40点 5 20点以下

<具体的な理由>

記述欄 _____

Q44. NEDO からの加速資金についてお答え下さい。

<加速資金獲得の有無>

- 1 獲得した 2 なし

<加速資金の用途> 【複数回答可】

- 1 人員増加 2 新規設備の導入 3 ユーザーテスト用のサンプル供給
- 4 分析・評価 5 連携強化 6 追加課題の実行 7 その他 _____

<加速資金の効果> 【複数回答可】

- 1 品質（機能・性能）の向上 2 生産技術の向上 3 分析・評価技術の向上

4 開発期間の短縮 5 その他 _____

<具体的な内容> (例：〇〇装置を導入することができた結果、飛躍的に研究効率がアップし、事業計画が〇年前倒しされた。)

記述欄 _____

Q45. NEDO の採択審査について伺います。

<採択審査時の指摘事項や提言内容>

- 1 有益であった 2 勘違いがあった 3 不適切な意見があった
4 役立つ提言はなかった

<上記の提言を反映することで、どのような効果がありましたか> 【複数回答可】

- 1 技術課題の解決 2 コスト削減 3 社内プレゼンスの向上
4 標準化やその活動 5 効果なし 6 その他 _____

<効果なしの具体的な理由>

記述欄 _____

Q46. NEDO の技術推進委員会（有識者委員会）について伺います。

<プロジェクトの推進に関して有効な提言や意見はありましたか>

- 1 的確な提言がもたらえた 2 満足のいく討議ができた
3 不適切な意見があった 4 役立つ提言はなかった

<上記の提言を反映することで、どのような効果がありましたか> 【複数回答可】

- 1 技術課題の解決 2 コスト削減 3 特許取得 4 法規制の緩和
5 成果の PR 6 標準化取得やその活動 7 効果なし 8 その他 _____

<効果なしの具体的な理由>

記述欄 _____

<技術推進委員会の満足度はどれぐらいでしたか>

- 1 100点 2 80点 3 60点 4 40点 5 20点以下

Q47. 中間評価に対する満足度はどれぐらいでしたか。委員選定や評価軸、評価のタイミング、評価資料の準備作業等の観点を踏まえ、具体的な理由とともにお答え下さい。

<中間評価の満足度>

- 1 100点 2 80点 3 60点 4 40点 5 20点以下 6 中間評価を受けていない

<具体的な理由>

記述欄 _____

<中間評価での指摘事項が及ぼすその後のプロジェクトへの影響> 【複数回答可】

- 1 目標達成度の向上 2 予期せぬ成果が得られた 3 競争優位性の強化
4 ほとんどなかった 5 その他 _____

<中間評価で欲しかった指摘や提言> 【複数回答可】

- 1 技術の進展予想 2 計画の変更・追加
3 技術・コスト課題克服のアイデア 4 メカニズム解明のアイデア・ヒント
5 周辺技術動向の情報 6 中止の勧告 7 その他 _____

Q48. 事後評価に対する満足度はどれくらいでしたか。委員選定や評価軸、評価のタイミング、評価資料の準備作業等の観点を踏まえ、具体的な理由とともにお答え下さい。

<事後評価の満足度>

- 1 100点 2 80点 3 60点 4 40点 5 20点以下

<具体的な理由>

記述欄 _____

<事後評価での指摘事項が及ぼすその後への影響> 【複数回答可】

- 1 目標達成度の向上 2 予期せぬ成果が得られた 3 競争優位性の強化
4 ほとんどなかった 5 その他 _____

<事後評価で欲しかった指摘や提言> 【複数回答可】

- 1 技術の進展予想 2 計画の変更・追加 3 技術・コスト課題克服のアイデア
4 メカニズム解明のアイデア・ヒント 5 周辺技術動向の情報 6 その他 _____

Q49. NEDO の担当者のマネジメントに対する満足度はどれくらいでしたか。

- 1 100点 2 80点 3 60点 4 40点 5 20点以下

<具体的な理由>

記述欄 _____

Q50. NEDO の担当者とは、普段、どのような協議をされておりましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 実施計画書の内容精査（契約手続きに係る対応）
2 予算要求または予算配分に係る対応 3 中間・事後評価に係る対応
4 検査に係る対応 5 資産処分に係る対応 6 成果報告書の内容精査
7 各種提出書類に係る対応 8 他機関との利害調整 9 法規制に係る協議
10 事業化シナリオの方向性検討 11 研究開発の方向性検討
12 知的財産等の取り扱いに係る検討 13 戦略的な標準化取得に向けた検討
14 技術的なアドバイス（データ解析・解釈） 15 市場に関するアドバイス
16 委員会準備（データ・資料整理 プレゼン方法等） 17 宣伝・広報 18 その他 _____

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 実施計画書の内容精査（契約手続きに係る対応）
2 予算要求または予算配分に係る対応 3 中間・事後評価に係る対応
4 検査に係る対応 5 資産処分に係る対応 6 成果報告書の内容精査
7 各種提出書類に係る対応 8 他機関との利害調整 9 法規制に係る協議
10 事業化シナリオの方向性検討 11 研究開発の方向性検討
12 知的財産等の取り扱いに係る検討 13 戦略的な標準化取得に向けた検討
14 技術的なアドバイス（データ解析・解釈） 15 市場に関するアドバイス
16 委員会準備（データ・資料整理 プレゼン方法等） 17 宣伝・広報 18 その他 _____

<特に“やって欲しかったこと”の具体例>

記述欄 _____

Q51. NEDOプロジェクトへの参加を、同僚や知人などにお勧めしたいと思いますか。

1 大変お勧めしたい 2 やや勧めたい 3 どちらとも言えない

4 やや勧めたくない 5 全くお勧めできない

<その理由は何ですか>

記述欄 _____

Q52. 本調査票は、ご担当者以外の方のご意見も含まれていますか。

1 はい 2 いいえ

平成26年度 詳細中止調査票（2,4,6年目）

【当該研究開発が中止・中断に至った経緯・要因等について伺います】

Q1. NEDO プロジェクト参加当初の計画において上市・製品化を目指していましたか。

- 1 はい 2 いいえ

Q2. 当該研究開発において、上市・製品化を狙っていた製品の市場や性質は、どのようなものでしたか。

【複数回答可】

- 1 新規市場（新たな市場を切り開くもの）
- 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの）
- 3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの）
- 4 他社製品に追随するもの
- 5 他社製品を引き離すもの
- 6 自社の既存製品を置き換えるもの
- 7 他社の既存製品のシェアを奪うもの
- 8 ソリューションを提供するもの
- 9 コスト削減や低価格を実現させたもの（プロセスイノベーション）
- 10 環境負荷を低減させるもの
- 11 その他

その他記述欄

Q3. 当該研究開発において、中止・中断の方針を決定した最終的な意思決定者は誰ですか。

- 1 経営陣（役員以上） 2 事業部門の長 3 研究部門の長 4 その他

その他記述欄

Q4. 中止・中断が顕在化した時期はいつ頃からですか。

検討を始めた時期（西暦） —プルダウン—

Q5. 中止・中断となってしまった要因や具体的な理由や経緯は何ですか。プロジェクト実施期間中から現在までを振り返ってお答えください。

<中止・中断の要因> 【複数回答可】

- 1 技術課題の克服が困難（目標性能が未達成）
- 2 技術課題の克服が困難（差別化技術が未達成）
- 3 コスト課題の克服が困難
- 4 顧客ニーズとの不一致
- 5 顧客サイドの工程変更
- 6 市場の変化・見込み違い
- 7 経営戦略の変化
- 8 法規制対応が未解決
- 9 実用化を目指す企業のサポートとして参加したため
- 10 その他

その他記述欄

<具体的な理由や経緯>

記述欄

Q6. 中止・中断は、何が出来ていればリカバリーすることが可能だったと思われますか。

記述欄

Q7. 当該研究開発成果について、NEDO プロジェクト期間中及び終了後から現在まで、製品化段階もしくは上市段階に達したことはありますか。

1 はい 2 いいえ

【参考】製品化段階・上市段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q8. Q7で「1 はい」を選択した場合、具体的な製品名、製品化時期及び活動の内容をお答え下さい。

記述欄

Q9. Q7で「1 はい」「2 いいえ」を選択した両者に伺います。NEDO プロジェクトで開発された成果（特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等の知的財産を含む）が、当初目指した技術分野以外で活用される等の波及効果はありましたか。

<波及効果の有無>

1 ある 2 ない

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 既存製品へのNEDOプロジェクト成果の組み込み
- 2 既存の生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
- 3 品質管理
- 4 新規製品の開発
- 5 新規テーマの立ち上げ

6 社内で埋蔵されている未利用資源（休眠技術など）の活用

7 NEDO プロジェクトで取得した特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用の出願・保有による事業防衛

8 その他

その他記述欄

<具体的な波及効果>

記述欄

Q10. 貴社内において、研究開発の主体部門が研究開発部門から事業部門に移る（または、連携をする）タイミングやきっかけは何ですか。（例えば、マーケットのニーズやターゲットが明確になった、技術の信頼性が担保された、顧客が現れた など）

記述欄

以下の質問項目は、より効果的な NEDO プロジェクトの業務運営改善を図ることを目的として、平成 23 年度に新設された項目でございます。その後、回答特性を分析しながら平成 24 年度、25 年度、26 年度に一部の質問項目の改編を行ってまいりました。

そこで、大変お手数をお掛けしますが、データ間の補正を行う為にも以下アンケートにも御協力を頂きますと幸いです。なお、貴社がプロジェクトに参加する直前・直後の状況に関する質問項目も含まれておりますので、わかる範囲でご回答頂ければと思います。よろしくお願い致します。

【プロジェクトに応募された時期の状況について伺います】

Q11. プロジェクトに参加した目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認）
- 2 技術・ノウハウの獲得
- 3 実用化の可能性の見極め
- 4 終了後 5 年以内の上市・製品化
- 5 終了後 10 年以内の上市・製品化
- 6 その他

その他記述欄

Q12. プロジェクト参加の経緯について伺います。

<経営層の指示によるプロジェクト参加>

- 1 あった
- 2 なかった

<外部(大学、経済産業省、他)からの勧めによるプロジェクト参加>

- 1 あった
- 2 なかった

Q13. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の本プロジェクトに係る主体はどちらの部門ですか。次のどちらですか。

- 1 研究開発部門 2 事業部門

Q14. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 (基礎的・要素的な基礎探索段階。)
 2 開発段階 (開発用サンプルの作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。)
 3 製品化段階 (顧客評価(認定用)サンプルの作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。)
 4 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。)
 5 中止 (社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。)
 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。)

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	-基礎的/要素的な研究(現象の新規性や性能の進歩性等について把握)。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発(開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握)。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立(製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等)。	顧客評価(認定用)サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化(カタログ掲載)、継続的な売上発生等。

Q15 貴社の開発・事業に係る戦略における当該プロジェクトの位置付けは、次のうちどちらでしたか。

【複数回答可】

- 1 現有事業の競争力強化(生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他)
 2 現有事業周辺(生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能)で会社として新規な市場への参入

- 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入
- 4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

【プロジェクト期間中の活動について伺います】

Q16. 当該プロジェクトに対する、経営層の関与について伺います。

< 関与のタイミングは、次のうちどれですか >

- 1 提案時から密接に対応
- 2 採択直後から対応
- 3 開発成果が見え始めてから
- 4 実用化の可能性が見え始めてから
- 5 ほとんど関与していない

< 関与の内容 >

記述欄

Q17. 当該プロジェクトに対する、事業部門（新規事業開発部門含む）の関与について伺います。

< 関与のタイミングは、次のうちどれですか >

- 1 提案時から密接に対応
- 2 採択直後から対応
- 3 開発成果が見え始めてから
- 4 実用化の可能性が見え始めてから
- 5 ほとんど関与していない

< 関与の内容 >

記述欄

Q18 当該プロジェクトの成果を生かす製品化・上市の事業化シナリオ検討について伺います。

< 検討したタイミング（見直し含む） > 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 検討していない

< 事業化シナリオの検討内容 > 【複数回答可】

1. 企業戦略との整合性
2. 技術の発展性
3. 市場の魅力度のチェック
4. 目標仕様の確定
5. 市場性テストのスケジュール策定
6. 事業トライアルのための製品化レベルの確定
7. 事業開始時の販売先の特定
8. 事業化後の技術レベル向上のスケジュール策定
9. 採算性評価
10. その他

その他の記述欄

Q19. コスト目標の設定を行ったタイミング（見直し含む）は次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 設定していない

Q20. リスク検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 検討していない

<リスク検討の内容は何でしたか> 【複数回答可】

- 1 研究開発リスク
- 2 製品リスク（原料等の調達先確保、市場優位性など）
- 3 情報リスク（情報漏洩など）
- 4 自然災害リスク
- 5 カントリーリスク（輸出入先など対象国の政治・法律などの変化）
- 6 財務リスク（為替レートの変化など）
- 7 経営リスク（買収・事業承継など）
- 8 法務リスク（規格・規制変更、関連法令等の改廃など）
- 9 市場動向の変化
- 10 その他

その他の記述欄

<実際に発生したリスクは何ですか> 【複数回答可】

- 1 予定していた技術課題の解決が未達成
- 2 予定していた技術獲得が不調
- 3 予想外の課題が発生
- 4 原料調達が困難
- 5 情報漏洩
- 6 自然災害
- 7 カントリーリスク
- 8 為替変動
- 9 財務状況の悪化
- 10 経営方針の転換
- 11 法令、規制の壁
- 12 競合他社の出現
- 13 市場価格の下落
- 14 景気変動
- 15 マーケットの縮小
- 16 ユーザーニーズの変化
- 17 ユーザーニーズが存在しなかった
- 18 NEDO 予算の縮小
- 19 キーパーソンの離脱
- 20 リスクは発生しなかった
- 21 その他

その他の記述欄

Q21 調査の状況について伺います。

Q21-1. 競争力のポジショニング調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後

6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄□

<主に、何について調査をしましたか>

記述欄 □

Q21-2. 市場動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後
6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄□

Q21-3. 特許動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後
6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄□

Q21-3. 論文、雑誌、業界紙他による技術動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後
6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄□

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q22. 当該プロジェクトで設定した目標値に対する達成度は何点になりますか。

- 1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q23. 実用化（製品化・上市段階）までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度ですか。残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮してお選びください。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q24. プロジェクト参加時に、下記の項目に対する期待度はどれくらいでしたか。

<技術課題の克服>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<コスト課題の克服>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<他機関との連携による有用技術の獲得（キャッチアップ）>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<技術開発・製品開発のスピードアップ>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<他機関との人的・組織的ネットワークの形成>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<研究開発リスクの分散・回避>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<研究開発資金の確保>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<人材育成（研究者の質的向上）>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

<社内・外でのプレゼンス向上>

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q25. 上記質問での期待度に対して、以下の項目はどの程度達成されましたか。その要因や内容などについてもお答えください。

Q25-1-1. 技術課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
1 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q25-1-2. 技術課題の克服に寄与した要因

<新規アイデアの貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<メカニズムの解明の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<連携先からのアイデアの貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
5 40 点以下（遥かに期待を下回った） 6 自社単独で実施したため他機関との連携はなかった

<連携先の先端技術の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
5 40 点以下（遥かに期待を下回った） 6 自社単独で実施したため他機関との連携はなかった

<その他の技術課題の克服に寄与した要因について、ご記述下さい>

記述欄

Q25-2-1. コスト課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q25-2-2. コスト課題の克服に寄与した要因

<キー技術の進展の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）
5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<製造プロセスの改良・量産化技術構築の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った） 2 120 点（期待を上回った）
3 100 点（当初の期待通り） 4 70 点（期待を下回った）

5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<新規機能の付与の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<その他のコスト課題の克服に寄与した要因について、ご記述下さい>

記述欄 □

Q25-3. 他機関との連携による有用技術の獲得（キャッチアップ）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q25-4. 異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q25-5-1. 技術開発・製品開発のスピードアップについての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q25-5-2. 技術開発・製品開発のスピードアップに寄与した要因

<新規アイデアの貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<分析・評価技術・解析技術の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
5 40点以下（遥かに期待を下回った）

<メカニズムの解明の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<連携先の先端技術の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）
- 6 自社単独で実施したため他機関との連携はなかった

<NEDO 加速資金の獲得の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）
- 6 NEDO 加速資金は利用していない

<その他のスピードアップに寄与した要因について、ご記述下さい>

記述欄

Q25-6. 他機関との人的・組織的ネットワークの形成についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q25-7. 研究開発リスクの分散・回避についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q25-8. 社内における研究開発資金の確保についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q25-9. 人材育成（研究者の質的向上）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q25-10-1. 社内・外でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

<実際に得られたメリット>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q25-10-2. 社内外でのプレゼンス向上に寄与した要因

<技術力の向上の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<プロジェクトを通じたユーザー企業との連携の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）
- 6 ユーザー企業との連携はなかった

<プロジェクト参加企業との連携の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）
- 6 自社単独で実施したため他機関との連携はなかった

<プロジェクトを通じた学（公的研究機関を含む）との連携の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）
- 6 学との連携はなかった

<対外発表（学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表）の貢献度はどの程度でしたか>

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

<その他のプレゼンス向上に寄与した要因について、ご記述下さい>

記述欄

Q26. プロジェクト実施期間中に取得できた実験データについて伺います。

Q26-1. 取得できた実験データの量は、通常の企業における研究開発活動と比較するとどの程度でしたか

- 1 非常に多くのデータを取得できた

- 2 多くのデータを取得できた
- 3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた
- 4 少なめのデータしか取得できなかった

Q26-2. 以下のデータ取得目的に対して、データ取得の達成度はどの程度でしたか。

<技術の可能性を探る>

- 1 100%～
- 2 80%～
- 3 60%～
- 4 40%～
- 5 20%～

<機能発現に関するメカニズムの解明>

- 1 100%～
- 2 80%～
- 3 60%～
- 4 40%～
- 5 20%～

<品質（性能・機能）の向上>

- 1 100%～
- 2 80%～
- 3 60%～
- 4 40%～
- 5 20%～

<スケールアップに必要な設計基礎データの取得>

- 1 100%～
- 2 80%～
- 3 60%～
- 4 40%～
- 5 20%～

<コスト課題の解決>

- 1 100%～
- 2 80%～
- 3 60%～
- 4 40%～
- 5 20%～

<社内外（ユーザー企業を含む）への説得力の向上>

- 1 100%～
- 2 80%～
- 3 60%～
- 4 40%～
- 5 20%～

Q27. 貴社の競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）は、当該プロジェクトへの参加により変化しましたか。プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答え下さい。

<競争力ポジション>

- 1 上がった
- 2 変わらない
- 3 下がった
- 4 不明

不明の理由

<世界における現在の競争力ポジション>

- 1 世界で1位
- 2 世界で2～3位
- 3 世界で4～10位
- 4 世界で11位以下
- 4 不明

不明の理由

<国内における現在の競争力ポジション>

- 1 日本で1位
- 2 日本で2～3位
- 3 日本で4～10位
- 4 日本で11位以下
- 4 不明

不明の理由

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q28. どのような体制のプロジェクトでしたか。

＜プロジェクト体制＞

- 1 集中研（特定の場所に複数の実施者が集まって研究開発を実施）
- 2 分散研（それぞれの場所で、それぞれが研究開発を実施）
- 3 集中研と分散研の複合型
- 4 単独で実施（コンソーシアムを組んだプロジェクトではない）
- 5 体制の全体像は把握していない

＜貴社が担った役割＞【複数回答可】

- 1 川上（材料など）
- 2 川中（部材・部品など）
- 3 川下（最終製品）
- 4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など）
- 5 標準化や知的基盤整備
- 6 その他

その他記述欄

Q29 最終的な貴社における研究開発の出口は次のうちどれですか。

- 1 プロセス開発
- 2 システム開発
- 3 材料開発
- 4 部材・部品開発
- 5 機械装置開発
- 6 分析・評価
- 7 特に限定していない
- 8 その他

その他記述欄

Q30. 当該プロジェクト実施期間中に要した研究開発費（自己負担分も含む総額）のうち、NEDO から供給された資金の占めた割合はどの程度でしたか。

- 1 100%～
- 2 80%～
- 3 60%～
- 4 40%～
- 5 20%～

Q31. 当該プロジェクトにおける、知的財産及び秘密情報等の取扱いについて伺います。

＜ルール策定や検討の有無＞

- 1 取扱いに係るルール等があった。（協議による合意、あるいは、リーダー等からの指示のいずれかを問わず）
- 2 一般的なルールはなく、個別に対応した。
- 3 規則の必要性すら検討されなかった。

＜知的財産等の取り扱い内容＞【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP（プロジェクトに参加する前から保有していた特許）の取り扱い
- 2 フォアグラウンド IP（プロジェクトの成果により得られた特許）の取り扱い
- 3 研究ノートの管理方法
- 4 発明（ノウハウも含む）等の報告方法
- 5 権利者の決定方法
- 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法

- 7 秘密保持契約 8 知財規程の整備や知財委員会の設置
9 外部有識者の参加 10 その他

その他記述欄

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q32. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマについて伺います。

Q32-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった（ズレていた）

不適切であった理由

Q32-2. プロジェクト期間中にテーマの見直しは行われましたか

- 1 見直しを行った 2 見直しの必要はなかった
3 見直しの必要はあったが、見直しは行わなかった

見直しを行わなかった理由

Q33. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマの目標値について伺います。

Q33-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった（ズレていた）

不適切であった理由

Q33-2. プロジェクト期間中に目標値の見直しは行われましたか

- 1 見直しを行った 2 見直しの必要はなかった
3 見直しの必要はあったが、見直しは行わなかった

見直しを行わなかった理由

Q34. 大学や企業との連携は、貴社における当該プロジェクトの推進に役立ちましたか。

<大学との連携>

- 1 大いに役立った 2 役立った 3 やや役立った 4 役立たなかった
5 大学との連携はなかった

<企業との連携>

- 1 大いに役立った
- 2 役立った
- 3 やや役立った
- 4 役立たなかった
- 5 他企業との連携はなかった

Q35. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定>【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
- 2 社内のリーダーやキーパーソン
- 3 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
- 4 NEDO 担当部署
- 5 管理法人の担当者
- 6 存在しなかった

<参画機関間の意見調整>【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
- 2 社内のリーダーやキーパーソン
- 3 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
- 4 NEDO 担当部署
- 5 管理法人の担当者
- 6 存在しなかった

<研究開発の工程管理や推進>【複数回答可】

- 1 自ら自律的に管理した
- 2 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）が管理した
- 3 社内のリーダーやキーパーソン
- 4 NEDO 担当者
- 5 管理法人の担当者
- 6 進捗管理は行われなかった

<進捗管理の具体的な方法（評価ツール・指標等）があった場合は、以下に具体的な方法をご記述下さい>

記述欄

Q36. 協議等の頻度について伺います。

<当該プロジェクトで連携していた他機関との協議>

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

<プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）との協議>

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

<社内の他研究部門との協議>

- 1 週1回以上
- 2 月1回以上
- 3 3ヶ月に1回以上
- 4 半年に1回以上
- 5 1年に1回以上
- 6 ほとんど無し

<社内の事業部門との協議>

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

<顧客との協議>

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q37 NEDO 担当部署との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

Q38. NEDO 担当部署との協議について、普段どのような協議をされておりましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応
5 各種提出書類に係る対応 6 他機関との利害調整
7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で主要な項目）

その他記述欄

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応
5 各種提出書類に係る対応 6 他機関との利害調整
7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で重要な項目）

その他記述欄

<「13 市場に関するアドバイス」を御回答頂いた方は、その具体的な理由をご記載下さい（例：新規事業であり社内（事業部門含む）での調査情報では不足であるため、セカンドオピニオンとして活用したいため等>

記述欄 □

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 27 年度 詳細中止調査票 (2, 4, 6 年目)

【当該研究開発が中止・中断に至った経緯・要因等について伺います】

Q1. NEDO プロジェクト参加当初の計画において上市・製品化を目指していましたか。

- 1 はい 2 いいえ

Q2. Q1 で「1 はい」と回答した方に伺います。当該研究開発において、上市・製品化を狙っていた製品の市場や性質は、どのようなものでしたか。【複数回答可】

- 1 新規市場 (新たな市場を切り開くもの) 2 既存市場 (既に存在している市場に展開するもの)
3 ニッチ市場 (隙間市場に展開するもの) 4 他社製品に追随するもの
5 他社製品を引き離すもの 6 自社の既存製品を置き換えるもの
7 他社の既存製品のシェアを奪うもの 8 ソリューションを提供するもの
9 コスト削減や低価格化を実現させたもの 10 環境負荷を低減させるもの
11 その他

その他記述欄

Q3. 当該研究開発において、中止・中断の方針を決定した最終的な意思決定者は誰ですか。

- 1 経営陣 (役員以上) 2 事業部門の長 3 研究部門の長 4 その他

その他記述欄

Q4. 中止・中断が顕在化した時期はいつ頃からですか。

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q5. 中止・中断となってしまった要因や具体的な理由や経緯は何ですか。プロジェクト実施期間中から現在までを振り返ってお答えください。

<中止・中断の要因> 【複数回答可】

- 1 技術課題の克服が困難 (目標性能が未達成) 2 技術課題の克服が困難 (差別化技術が未達成)
3 コスト課題の克服が困難 4 顧客ニーズとの不一致 5 顧客サイドの工程変更
6 市場の変化・見込み違い 7 経営戦略の変化 8 法規制対応が未解決
9 実用化を目指す企業のサポートとして参加したため 10 キーパーソンの離脱
11 その他

その他記述欄

<具体的な理由や経緯>

Q6. 中止・中断は、何が出来ていればリカバリーすることが可能だったと思われますか。

Q7. 当該研究開発成果について、NEDO プロジェクト期間中及び終了後から現在まで、製品化段階もしくは上市段階に達したことはありますか。

- 1 はい 2 いいえ

【参考】製品化段階・上市段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q8. Q7 で「1 はい」を選択した場合、具体的な製品名、製品化時期及び活動の内容をお答え下さい。

Q9. Q7 で「1 はい」「2 いいえ」を選択した両者に伺います。NEDO プロジェクトで開発された成果（特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等の知的財産を含む）が、当初目指した技術分野以外で活用される等の波及効果はありましたか。

<波及効果の有無>

- 1 ある 2 ない

<波及効果の適用先>【複数回答可】

- 1 既存製品への NEDO プロジェクト成果の組み込み
- 2 既存の生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
- 3 品質管理 4 新規製品の開発 5 新規テーマの立ち上げ
- 6 社内で埋蔵されている未利用資源（休眠技術など）の活用
- 7 NEDO プロジェクトで取得した特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用の出願・保有による事業防衛
- 8 その他

その他記述欄

<具体的な波及効果>

以下の質問項目は、より効果的な NEDO プロジェクトの業務運営改善を図ることを目的として、平成 23 年度に新設された項目でございます。その後、回答特性を分析しながら平成 24 年度、25 年度、26 年度、

27年度に一部の質問項目の改編を行ってまいりました。

そこで、大変お手数をお掛けしますが、データ間の補正を行う為にも以下アンケートにも御協力を頂きますと幸いです。なお、貴社がプロジェクトに参加する直前・直後の状況に関する質問項目も含まれておりますので、わかる範囲でご回答頂ければと思います。よろしくお願い致します。

【プロジェクトに応募された時期の状況について伺います】

Q10. プロジェクトに参加した目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認） 2 技術・ノウハウの獲得 3 実用化の可能性の見極め
4 終了後5年以内の上市・製品化 5 終了後10年以内の上市・製品化 6 その他

その他記述欄

Q11. プロジェクトにおいて貴社が担った役割はどれですか【複数回答可】

- 1 川上（材料など） 2 川中（部材・部品など） 3 川下（最終製品）
4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など） 5 標準化や知的基盤整備 6 その他

その他記述欄

Q12. 最終的な貴社における研究開発の出口は次のうちどれですか。

- 1 プロセス開発 2 システム開発 3 材料開発 4 部材・部品開発
5 機械装置開発 6 分析・評価 7 特に限定していない 8 その他

その他記述欄

Q13. プロジェクト参加の経緯は、次のうちどれでしたか。

- 1 経営層の指示（トップダウン）によりプロジェクトに参加した
2 外部(大学、経済産業省、他)からの勧めによりプロジェクトに参加した
3 研究者からの提案（ボトムアップ）によりプロジェクトに参加した
4 その他

その他記述欄

Q14. 当該プロジェクトの開始時点及び終了時点における、貴社の本プロジェクトに係る主体はどちらの部門ですか。

<開始時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

<終了時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

Q15. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の研究開発段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 (基礎的・要素的な基礎探索段階。)
- 2 開発段階 (開発用サンプルの作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。)
- 3 製品化段階 (顧客評価(認定用)サンプルの作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。)
- 4 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。)
- 5 中止 (社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。)
- 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。)
- 7 未着手

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究(現象の新規性や性能の進歩性等について把握)。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発(開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握)。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立(製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等)。	顧客評価(認定用)サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化(カタログ掲載)、継続的な売上発生等。

Q16. 貴社の開発・事業に係る戦略における当該プロジェクトの位置付けは、次のうちどちらでしたか。

【複数回答可】

- 1 現有事業の競争力強化(生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他)
- 2 現有事業周辺(生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能)で会社として新規な市場への参入
- 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入
- 4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

Q17. 当該プロジェクトに参加された際の技術シーズは、どのように開発されたものですか【複数回答可】

- 1 自社費用にて開発した
- 2 過去のNEDOプロジェクトで開発した
- 3 文部科学省プロジェクトにて開発した
- 4 大学・研究機関等の共同研究費にて開発した
- 5 当該NEDOプロジェクト実施期間中に初めて開発した
- 6 その他

その他記述欄 □

【プロジェクト期間中の活動について伺います】

Q18. 当該プロジェクト実施期間中に要した研究開発費（自己負担分も含む総額）のうち、NEDO から供給された資金の占める割合はどの程度でしたか。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q19. 当該プロジェクトに対する、関与のタイミングについて伺います。

<経営層の関与>

- 1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応 3 開発成果が見え始めてから
4 実用化の可能性が見え始めてから 5 ほとんど関与していない

<事業部門（新規事業開発部門含む）の関与>

- 1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応 3 開発成果が見え始めてから
4 実用化の可能性が見え始めてから 5 ほとんど関与していない

Q20. 当該プロジェクトの成果を生かす製品化・上市の事業化シナリオ検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

<事業化シナリオの検討内容> 【複数回答可】

- 1 企業戦略との整合性 2 技術の発展性 3 市場の魅力度のチェック 4 目標仕様の確定
5 市場性テストのスケジュール策定 6. 事業トライアルのための製品化レベルの確定
7 事業開始時の販売先の特定 8 事業化後の技術レベル向上のスケジュール策定
9 採算性評価 10 その他

その他の記述欄 □

Q21. コスト目標の設定を行ったタイミング（見直し含む）は次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 設定していない

Q22. リスク検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

<リスク検討の内容は何でしたか> 【複数回答可】

- 1 研究開発リスク 2 製品リスク（原料等の調達先確保、市場優位性など）
3 自然災害リスク 4 カントリーリスク（輸出入先など対象国の政治・法律などの変化）

- 5 経営リスク（買収・事業継承など） 6 法務リスク（規格・規制変更、関連法令等の改廃など）
7 市場動向の変化 8 その他

その他の記述欄

<実際に発生したリスクは何ですか> 【複数回答可】

- 1 予定していた技術課題の解決が未達成 2 他機関からの技術獲得が不調
3 予想外の課題が発生 4 原料調達が困難 5 自然災害 6 カントリーリスク
7 経営方針の転換 8 法令、規制の壁 9 競合他社の出現 10 市場価格の下落
11 景気変動 12 対象市場規模の縮小 13 ユーザーニーズの変化
14 ユーザーニーズが存在しなかった 15 キーパーソンの離脱
16 リスクは発生しなかった 17 その他

その他の記述欄

Q23. 調査の状況について伺います。

Q23-1. 競争力のポジショニング調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄

<主に、何について調査をしましたか>

Q23-2. 市場動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄

Q23-3. 特許動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄□

Q23-4. 論文、雑誌、業界紙他による技術動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<調査の範囲> 【複数回答可】

- 1 日本 2 米国 3 欧州 4 その他

その他記述欄□

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q24. 当該プロジェクトで設定した目標値に対する達成度は何点になりますか。

- 1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q25. 実用化（製品化・上市段階）までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度ですか。

残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮してお選びください。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q26. プロジェクト参加時に、下記の項目に対する期待度はどれくらいでしたか。

	100%～	80%～	60%～	40%～	20%～
<技術課題の克服>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<コスト課題の克服>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との連携による有用技術の獲得(キャッチアップ)>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<異分野、異業種、他機関との連携/融合によるシナジー効果>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<技術開発・製品開発のスピードアップ>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との人的・組織的ネットワークの形成>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発リスクの分散・回避>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発資金の確保>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<人材育成（研究者の質的向上）>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内・外でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q27. 上記質問での期待度に対して、以下の項目はどの程度達成されましたか。その要因や内容などについてもお答えください。

Q27-1-1. 技術課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-1-2. 技術課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア
- 2 メカニズムの解明
- 3 連携先からのアイデア
- 4 連携先の先端技術
- 5 新規設備の導入
- 6 その他

その他記述欄□

Q27-2-1. コスト課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-2-2. コスト課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 キー技術の進展
- 2 製造プロセスの改良・変更
- 3 量産化技術の構築
- 4 新規機能の付与
- 5 市場の拡大
- 6 連携先からの技術提供
- 7 その他

その他記述欄□

Q27-3. 他機関との連携による有用技術の獲得（キャッチアップ）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-4. 異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-5-1. 技術開発・製品開発のスピードアップについての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）

- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-5-2. 技術開発・製品開発のスピードアップに寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 分析・評価技術・解析技術 3 メカニズムの解明
- 4 連携先の先端技術 5 NEDO加速資金の獲得 6 新規設備の導入 7 その他

その他記述欄□

Q27-6. 他機関との人的・組織的ネットワークの形成についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-7. 研究開発リスクの分散・回避についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-8. 社内における研究開発資金の確保についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-9. 人材育成（研究者の質的向上）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-10-1. 社内・外でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）
- 3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）
- 5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q27-10-2. 社内外でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上 2 プロジェクト参加企業との連携
- 3 プロジェクトを通じた学（公的研究機関を含む）との連携
- 4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
- 5 対外発表（学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表）

6 その他

その他記述欄□

Q28. プロジェクト実施期間中に取得できた実験データについて伺います。

Q28-1. プロジェクト参加時には、どのような種類の実験データ取得を目的としましたか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る
- 2 機能発現に関するメカニズムの解明
- 3 品質（性能・機能）の向上
- 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
- 5 コスト課題の解決
- 6 安全性の検証
- 7 再現性の検証
- 8 その他

その他記述欄□

Q28-2. 実際に取得できた実験データの量は、通常の企業における研究開発活動と比較するとどの程度でしたか

- 1 非常に多くのデータを取得できた
- 2 多くのデータを取得できた
- 3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた
- 4 少なめのデータしか取得できなかった

Q28-3. 上記で回答頂いた、実際に取得できた実験データの種類は次のうちどれですか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る
- 2 機能発現に関するメカニズムの解明
- 3 品質（性能・機能）の向上
- 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
- 5 コスト課題の解決
- 6 安全性の検証
- 7 再現性の検証
8. その他

その他記述欄 □

Q28-4. プロジェクトに参加している他機関との間でやり取りされた情報量（実験データ・結果）はどの程度でしたか

- 1 非常に多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした
- 2 多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした
- 3 情報（実験データ・結果）のやり取りはあったが、情報量は少なかった
- 4 単独で情報（実験データ・結果）を取得した

Q29. 貴社の競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）は、当該プロジェクトへの参加により変化しましたか。プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答え下さい。

<競争力ポジション>

- 1 上がった
- 2 変わらない
- 3 下がった
- 4 不明

不明の理由 □

<世界における現在の競争力ポジション>

- 1 世界で1位 2 世界で2~3位 3 世界で4~10位 4 世界で11位以下 5 不明

不明の理由

<国内における現在の競争力ポジション>

- 1 日本で1位 2 日本で2~3位 3 日本で4~10位 4 日本で11位以下 5 不明

不明の理由

Q30. プロジェクト終了時点で想定されていた上市・製品化の時期はいつ頃でしたでしょうか。

- 1 3年以内 2 3~5年 3 5~10年 4 10年以上 5 予定は立っていない

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q31. 当該プロジェクトにおける、知的財産及び秘密情報等の取扱いについて伺います。

<ルール策定や検討の有無>

- 1 取扱いに係るルール等があった。(協議による合意、あるいは、リーダー等からの指示のいずれかを問わず)
2 一般的なルールはなく、個別に対応した
3 規則の必要性すら検討されなかった

<知的財産等の取り扱い内容> 【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP (プロジェクトに参加する前から保有していた特許) の取り扱い
2 フォアグラウンド IP (プロジェクトの成果により得られた特許) の取り扱い
3 研究ノートの管理方法 4 発明 (ノウハウも含む) 等の報告方法
5 権利者の決定方法 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法 7 秘密保持契約
8 知財規程の整備や知財委員会の設置 9 外部有識者の参加 10 その他

その他記述欄

<検討したタイミング (見直し含む) > 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q32. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマについて伺います。

Q32-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由

Q32-2. プロジェクト期間中にテーマの見直しは行われましたか

- 1 見直しを行った 2 見直しの必要はなかった
- 3 見直しの必要はあったが、見直しは行わなかった

見直しを行わなかった理由

Q33. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマの目標値について伺います。

Q33-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由

Q33-2. プロジェクト期間中に目標値の見直しは行われましたか

- 1 見直しを行った 2 見直しの必要はなかった
- 3 見直しの必要はあったが、見直しは行わなかった

見直しを行わなかった理由

Q34. 大学や企業との連携は、貴社における当該プロジェクトの推進に役立ちましたか。

<大学との連携>

- 1 大いに役立った 2 役立った 3 やや役立った 4 役立たなかった
- 5 大学との連携はなかった

<企業との連携>

- 1 大いに役立った 2 役立った 3 やや役立った 4 役立たなかった
- 5 他企業との連携はなかった

Q35. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)
- 2 社内のリーダーやキーパーソン
- 3 外部有識者 (プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む)
- 4 NEDO 担当部署 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<参画機関間の意見調整> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)
- 2 社内のリーダーやキーパーソン

外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）

4 NEDO 担当部署 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<研究開発の工程管理や推進> 【複数回答可】

- 1 自ら自律的に管理した
- 2 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）が管理した
- 3 社内のリーダーやキーパーソン 4 NEDO 担当者
- 5 管理法人の担当者 6 進捗管理は行われなかった

<進捗管理の具体的な方法（評価ツール・指標等）があった場合は、以下に具体的な方法をご記述下さい>

Q36. 協議等の頻度について伺います。

	週 1 回以上	月 1 回以上	3ヶ月に1回以上	半年に1回以上	1年に1回以上	ほとんど無し
<当該プロジェクトで連携していた他機関>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の他研究部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の事業部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<顧客>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q37. プロジェクト実施期間中の所属するプロジェクトグループの士気（情熱・意欲・積極性など）はどの程度でしたか

- 1 非常に士気が高かった
- 2 士気は高かった
- 3 やや士気は低かった
- 4 士気は低かった

<上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、どのような創発効果が得られたかお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 新たな研究課題、活動につながった
- 2 外部の研究集会への自発的な参加が増えた
- 3 文献などの情報収集活動が増えた
- 4 グループ内提案が増えた
- 5 その他

その他記述欄

<上記で「3 やや士気は低かった」「4 士気は低かった」を選択した方は、その理由についてご記述下さい>

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q38. NEDO 担当部署との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 半年に1回以上
5 1年に1回以上 6 ほとんど無し

Q39. NEDO 担当部署との協議について、普段どのような協議をされていましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応 5 各種提出書類に係る対応
6 他機関との利害調整 7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で主要な項目）

その他記述欄

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） 2 予算要求・予算配分の折衝
3 中間・事後評価に係る対応 4 資産処分に係る対応 5 各種提出書類に係る対応
6 他機関との利害調整 7 法規制に係る協議 8 事業化シナリオの方向性検討
9 研究開発の方向性検討 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
11 戦略的な標準化取得に向けた検討 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）
13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で重要な項目）

その他記述欄

平成 28 年度 詳細中止調査票 (2, 4, 6 年目)

【当該研究開発が中止・中断に至った経緯・要因等について伺います】

Q1. NEDO プロジェクト参加当初の計画において上市・製品化を目指していましたか。

- 1 はい 2 いいえ

Q2. Q1 で「1 はい」と回答した方に伺います。当該研究開発において、上市・製品化を狙っていた製品の市場や性質は、どのようなものでしたか。【複数回答可】

- 1 新規市場（新たな市場を切り開くもの） 2 既存市場（既に存在している市場に展開するもの）
3 ニッチ市場（隙間市場に展開するもの） 4 他社製品に追随するもの
5 他社製品を引き離すもの 6 自社の既存製品を置き換えるもの
7 他社の既存製品のシェアを奪うもの 8 ソリューションを提供するもの
9 コスト削減や低価格化を実現させたもの 10 環境負荷を低減させるもの
11 その他

その他記述欄 _____

Q3. 当該研究開発において、中止・中断の方針を決定した最終的な意思決定者は誰ですか。

- 1 経営陣（役員以上） 2 事業部門の長 3 研究部門の長 4 その他

その他記述欄 _____

Q4. 中止・中断が顕在化した時期はいつ頃からですか。

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q5. 中止・中断となってしまった要因や具体的な理由や経緯は何ですか。プロジェクト実施期間中から現在までを振り返ってお答えください。

＜中止・中断の要因＞【複数回答可】

- 1 技術課題の克服が困難（目標性能が未達成） 2 技術課題の克服が困難（差別化技術が未達成）
3 コスト課題の克服が困難 4 顧客ニーズとの不一致 5 顧客サイドの工程変更
6 市場の変化・見込み違い 7 経営戦略の変化 8 法規制対応が未解決
9 実用化を目指す企業のサポートとして参加したため 10 社内キーパーソンの離脱
11 事業部門が取り組まなかったため 12 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向
13 その他

その他記述欄 _____

<具体的な波及効果>

記述欄 _____

Q10. 研究開発データ(論文や特許として公開されない実験データやノウハウの記録)についてお伺いします。

<保管状況>

- 1 すべて保管している 2 一部保管している 3 破棄した

<上記で「1 すべて保管している」「2 一部保管している」と回答した方に伺います。保管方法についてご教示ください。>

- 1 全社的なサーバーに保管され、自社内で広く活用できる仕組みとなっている
- 2 部門ごとのサーバーに保管され、自部門内で活用できる仕組みとなっている
- 3 専用サーバーに保管され、特定の者のみが活用できる仕組みとなっている
- 4 研究者(技術者)が個人で保管している
- 5 詳細は把握していない
- 6 その他

その他記述欄 _____

<上記で「2 一部保管している」「3 破棄した」と回答した方に伺います。破棄理由についてご教示ください。>

- 1 契約で、終了時に委託元に全部、または、一部譲渡することになっていた
- 2 データ量が多かったため、重要なデータのみを残した
- 3 重要なデータがないため破棄した
- 4 活用されないまま一定期間を経過したため、破棄した。
- 5 自社内に保管方法に関するルールが無く、一部しか保管していない、または、全部破棄した
- 6 適切な引継ぎがなされなかったため、所在が不明である。
- 7 その他

その他記述欄 _____

以下の質問項目は、より効果的な NEDO プロジェクトの業務運営改善を図ることを目的として、平成 23 年度に新設された項目でございます。その後、回答特性を分析しながら平成 24～28 年度に一部の質問項目の改編を行ってまいりました。

そこで、大変お手数をお掛けしますが、データ間の補正を行う為にも以下アンケートにも御協力を頂きますと幸いです。なお、貴社がプロジェクトに参加する直前・直後の状況に関する質問項目も含まれておりますので、わかる範囲でご回答頂ければと思います。よろしくお願い致します。

【プロジェクトに応募された時期の状況について伺います】

Q11. プロジェクトに参加した目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認）
- 2 技術・ノウハウの獲得
- 3 実用化の可能性の見極め
- 4 終了後5年以内の上市・製品化
- 5 終了後10年以内の上市・製品化
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q12. プロジェクトにおいて貴社が担った役割はどれですか【複数回答可】

- 1 川上（材料など）
- 2 川中（部材・部品など）
- 3 川下（最終製品）
- 4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など）
- 5 標準化や知的基盤整備
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q13. 最終的な貴社における研究開発の出口は次のうちどれですか。

- 1 プロセス開発
- 2 システム開発
- 3 材料開発
- 4 部材・部品開発
- 5 機械装置開発
- 6 分析・評価
- 7 特に限定していない
- 8 その他

その他記述欄 _____

Q14. プロジェクト参加の経緯は、次のうちどれでしたか。

- 1 経営層の指示（トップダウン）によりプロジェクトに参加した
- 2 外部（大学、経済産業省、他）からの勧めによりプロジェクトに参加した
- 3 研究者からの提案（ボトムアップ）によりプロジェクトに参加した
- 4 その他

その他記述欄 _____

Q15. 当該プロジェクトの開始時点及び終了時点における、貴社の本プロジェクトに係る主体はどちらの部門ですか。

<開始時点>

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

<終了時点>

- 1 研究開発部門
- 2 事業部門

Q16. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 (基礎的・要素的な基礎探索段階。)
- 2 開発段階 (開発用サンプルの作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。)
- 3 製品化段階 (顧客評価(認定用)サンプルの作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。)
- 4 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。)
- 5 中止 (社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。)
- 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。)
- 7 未着手

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究(現象の新規性や性能の進歩性等について把握)。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発(開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握)。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立(製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等)。	顧客評価(認定用)サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化(カタログ掲載)、継続的な売上発生等。

Q17. 貴社の開発・事業に係る戦略における当該プロジェクトの位置付けは、次のうちどちらでしたか。

【複数回答可】

- 1 現有事業の競争力強化(生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他)
- 2 現有事業周辺(生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能)で会社として新規な市場への参入
- 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入
- 4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

Q18. 当該プロジェクトに参加された際の技術シーズは、どのように開発されたものですか【複数回答可】

- 1 自社費用にて開発した
- 2 過去のNEDOプロジェクトで開発した
- 3 文部科学省プロジェクトにて開発した
- 4 大学・研究機関等の共同研究費にて開発した
- 5 当該NEDOプロジェクト実施期間中に初めて開発した
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q19. プロジェクト参加時に、下記の項目に対する期待度はどれくらいでしたか。

	100%～	80%～	60%～	40%～	20%～
<技術課題の克服>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<コスト課題の克服>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との連携による有用技術の獲得(キャッチアップ)>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<異分野、異業種、他機関との連携/融合によるシナジー効果>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<技術開発・製品開発のスピードアップ>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との人的・組織的ネットワークの形成>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発リスクの分散・回避>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発資金の確保>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<人材育成(研究者の質的向上)>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社外でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【プロジェクト期間中の活動について伺います】

Q20. 当該プロジェクト実施期間中に要した研究開発費(自己負担分も含む総額)のうち、NEDOから供給された資金の占める割合はどの程度でしたか。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q21. 当該プロジェクトに対する、関与のタイミングについて伺います。

<経営層の関与>

- 1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応 3 開発成果が見え始めてから
4 実用化の可能性が見え始めてから 5 ほとんど関与していない

<事業部門(新規事業開発部門含む)の関与>

- 1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応 3 開発成果が見え始めてから
4 実用化の可能性が見え始めてから 5 ほとんど関与していない

Q22. 当該プロジェクトの成果を生かす製品化・上市の事業化シナリオ検討について伺います。

<検討したタイミング(見直し含む)>【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

<事業化シナリオの検討内容>【複数回答可】

- 1 企業戦略との整合性 2 技術の発展性 3 市場の魅力度のチェック 4 目標仕様の確定
5 市場性テストのスケジュール策定 6. 事業トライアルのための製品化レベルの確定

- 7 事業開始時の販売先の特定
- 8 事業化後の技術レベル向上のスケジュール策定
- 9 採算性評価
- 10 その他

その他記述欄 _____

Q23. コスト目標の設定を行ったタイミング（見直し含む）は次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 設定していない

<上記で「6 検討していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q24. リスク検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 検討していない

<リスク検討の内容は何でしたか> 【複数回答可】

- 1 研究開発リスク
- 2 製品リスク（原料等の調達先確保、市場優位性など）
- 3 自然災害リスク
- 4 カントリーリスク（輸出入先など対象国の政治・法律などの変化）
- 5 経営リスク（買収・事業継承など）
- 6 法務リスク（規格・規制変更、関連法令等の改廃など）
- 7 市場動向の変化
- 8 その他

その他記述欄 _____

<実際に発生したリスクは何ですか> 【複数回答可】

- 1 予定していた技術課題の解決が未達成
- 2 他機関からの技術獲得が不調
- 3 予想外の課題が発生
- 4 原料調達が困難
- 5 自然災害
- 6 カントリーリスク
- 7 経営方針の転換
- 8 法令、規制の壁
- 9 競合他社の出現
- 10 市場価格の下落
- 11 景気変動
- 12 対象市場規模の縮小
- 13 ユーザーニーズの変化
- 14 ユーザーニーズが存在しなかった
- 15 キーパーソンの離脱
- 16 リスクは発生しなかった
- 17 その他

その他記述欄 _____

Q25. 調査の状況について伺います。

Q25-1. 競争力のポジショニング調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前
- 2 採択直後
- 3 中盤
- 4 後半
- 5 終了後
- 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q25-2. 市場動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q25-3. 特許動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q25-4. 論文、雑誌、業界紙他による技術動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q26. 当該プロジェクトで設定した目標値に対する達成度は何点になりますか。

1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q27. 実用化（製品化・上市段階）までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度ですか。

残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮してお選びください。

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q28. 下記項目の達成度を伺います。

Q28-1-1. 技術課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

1 150点以上（遥かに期待を上回った） 2 120点（期待を上回った）

3 100点（当初の期待通り） 4 70点（期待を下回った）

5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q28-1-2. 技術課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

1 新規アイデア 2 メカニズムの解明 3 連携先からのアイデア

4 連携先の先端技術 5 新規設備の導入

6 その他

その他記述欄 _____

Q28-2-1. コスト課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q28-2-2. コスト課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 キー技術の進展 2 製造プロセスの改良・変更 3 量産化技術の構築
- 4 新規機能の付与 5 市場の拡大 6 連携先からの技術提供
- 7 その他

その他記述欄 _____

Q28-3. 他機関との連携による有用技術の獲得 (キャッチアップ) についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q28-4. 異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q28-5-1. 技術開発・製品開発のスピードアップについての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q28-5-2. 技術開発・製品開発のスピードアップに寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア 2 分析・評価技術・解析技術 3 メカニズムの解明
- 4 連携先の先端技術 5 NEDO 加速資金の獲得 6 新規設備の導入
- 7 その他

その他記述欄 _____

Q28-6. 他機関との人的・組織的ネットワークの形成についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q28-7. 研究開発リスクの分散・回避についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q28-8. 社内における研究開発資金の確保についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q28-9. 人材育成 (研究者の質的向上) についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q28-10-1. 社内でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q28-10-2. 社内でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上 2 プロジェクト参加企業との連携
- 3 プロジェクトを通じた学 (公的研究機関を含む) との連携
- 4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
- 5 対外発表 (学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表)
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q28-11-1. 社外でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った) 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り) 4 70 点 (期待を下回った)

5 40点以下（遥かに期待を下回った）

Q28-11-2. 社外でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上 2 プロジェクト参加企業との連携
- 3 プロジェクトを通じた学（公的研究機関を含む）との連携
- 4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
- 5 対外発表（学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表）
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q29. プロジェクト実施期間中に取得できた実験データについて伺います。

Q29-1. プロジェクト参加時には、どのような種類の実験データ取得を目的としましたか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る 2 機能発現に関するメカニズムの解明
- 3 品質（性能・機能）の向上 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
- 5 コスト課題の解決 6 安全性の検証 7 再現性の検証
- 8 その他

その他記述欄 _____

Q29-2. 実際に取得できた実験データの量は、通常の企業における研究開発活動と比較するとどの程度で
したか

- 1 非常に多くのデータを取得できた 2 多くのデータを取得できた
- 3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた 4 少なめのデータしか取得できなかった

Q29-3. 上記で回答頂いた、実際に取得できた実験データの種類は次のうちどれですか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る 2 機能発現に関するメカニズムの解明
- 3 品質（性能・機能）の向上 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
- 5 コスト課題の解決 6 安全性の検証 7 再現性の検証 8. その他

その他記述欄 _____

Q29-4. プロジェクトに参加している他機関との間でやり取りされた情報量（実験データ・結果）はどの程度でしたか

- 1 非常に多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした
- 2 多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした
- 3 情報（実験データ・結果）のやり取りはあったが、情報量は少なかった

4 単独で情報（実験データ・結果）を取得した

Q30. 下記項目について、プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答え下さい。

<R&Dの規模（予算や人員）>

1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性-I（プロジェクトで目指した技術分野）>

1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した

<上市・製品化の可能性-II（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開）>

1 拡大した 2 やや拡大した 3 変化なし 4 やや縮小した 5 縮小した。

<競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

1 上がった 2 変わらない 3 下がった 4 不明

不明の理由 _____

<世界における現在の競争力ポジション>

1 世界で1位 2 世界で2~3位 3 世界で4~10位 4 世界で11位以下 5 不明

不明の理由 _____

<国内における現在の競争力ポジション>

1 日本で1位 2 日本で2~3位 3 日本で4~10位 4 日本で11位以下 5 不明

不明の理由 _____

Q31. プロジェクト終了時点で想定されていた上市・製品化の時期はいつ頃でしたでしょうか。

1 3年以内 2 3~5年 3 5~10年 4 10年以上 5 予定は立っていない

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q32. 当該プロジェクトにおける、知的財産及び秘密情報等の取扱いについて伺います。

<ルール策定や検討の有無>

- 1 取扱いに係るルール等があった。（協議による合意、あるいは、リーダー等からの指示のいずれかを問わず）
- 2 一般的なルールはなく、個別に対応した
- 3 規則の必要性すら検討されなかった

<知的財産等の取り扱い内容> 【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP（プロジェクトに参加する前から保有していた特許）の取り扱い

- 2 フォアグラウンド IP (プロジェクトの成果により得られた特許) の取り扱い
- 3 研究ノートの管理方法 4 発明 (ノウハウも含む) 等の報告方法
- 5 権利者の決定方法 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法 7 秘密保持契約
- 8 知財規程の整備や知財委員会の設置 9 外部有識者の参加
- 10 その他

その他記述欄 _____

<検討したタイミング (見直し含む) > 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q33. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマについて伺います。

Q33-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由 _____

Q33-2. プロジェクト期間中にテーマの見直しを行ったタイミングは次のうちどれですか。

- 1 前半 2 中盤 3 後半 4 見直しは行っていない

Q34. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマの目標値について伺います。

Q34-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由 _____

Q34-2. プロジェクト期間中に目標値の見直しを行ったタイミングは次のうちどれですか。

- 1 前半 2 中盤 3 後半 4 見直しは行っていない

Q35. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー (含むサブリーダー、テーマリーダー)
- 2 社内のリーダーやキーパーソン
- 3 外部有識者 (プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む)
- 4 NEDO 担当部署 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<参画機関間の意見調整> 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
- 2 社内のリーダーやキーパーソン
- 3 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
- 4 NEDO 担当部署 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

<研究開発の工程管理や推進> 【複数回答可】

- 1 自ら自律的に管理した
- 2 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）が管理した
- 3 社内のリーダーやキーパーソン 4 NEDO 担当者
- 5 管理法人の担当者 6 進捗管理は行われなかった

<進捗管理の具体的な方法（評価ツール・指標等）があった場合は、以下に具体的な方法をご記述下さい>

記述欄 _____

Q36. 協議等の頻度について伺います。

	週1回以上	月1回以上	3ヶ月に1回以上	半年に1回以上	1年に1回以上	ほとんど無し
<当該プロジェクトで連携していた他機関>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の他研究部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内の事業部門>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<顧客>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<経営層>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q37. プロジェクト実施期間中の所属するプロジェクトグループの士気（情熱・意欲・積極性など）はどの程度でしたか

- 1 非常に士気が高かった
- 2 士気は高かった
- 3 やや士気は低かった
- 4 士気は低かった

<上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、その要因について当てはまるものをお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 プロジェクト開始前から既知の関係であったため
- 2 各研究員の目的意識が明確であったため
- 3 プロジェクト（グループ）リーダーによる働きかけ
- 4 NEDO 担当者による働きかけ
- 5 成果が出てきたため
- 6 外部（委員会、プレス発表等）からの評価
- 7 その他

その他記述欄 _____

<上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、どのような創発効果が得られたかお答え下さい> 【複数選択可】

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1 新たな研究課題、活動につながった | 2 外部の研究集会への自発的な参加が増えた |
| 3 文献などの情報収集活動が増えた | 4 グループ内提案が増えた |
| 5 その他 | |

その他記述欄 _____

<上記で「3 やや士気は低かった」「4 士気は低かった」を選択した方は、その理由についてご記述下さい>

記述欄 _____

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q38. NEDO 担当部署との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- | | | | |
|-----------|----------|------------|-----------|
| 1 週1回以上 | 2 月1回以上 | 3 3ヶ月に1回以上 | 4 半年に1回以上 |
| 5 1年に1回以上 | 6 ほとんど無し | | |

Q39. NEDO 担当部署との協議について、普段どのような協議をされていましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- | | | |
|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） | 2 予算要求・予算配分の折衝 | |
| 3 中間・事後評価に係る対応 | 4 資産処分に係る対応 | 5 各種提出書類に係る対応 |
| 6 他機関との利害調整 | 7 法規制に係る協議 | 8 事業化シナリオの方向性検討 |
| 9 研究開発の方向性検討 | 10 知的財産等の取り扱いに係る検討 | |
| 11 戦略的な標準化取得に向けた検討 | 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈） | |
| 13 市場に関するアドバイス | 14 宣伝・広報 | 15 その他（上記以外で主要な項目） |

その他記述欄 _____

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- | | | |
|----------------------|------------------------|-----------------|
| 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） | 2 予算要求・予算配分の折衝 | |
| 3 中間・事後評価に係る対応 | 4 資産処分に係る対応 | 5 各種提出書類に係る対応 |
| 6 他機関との利害調整 | 7 法規制に係る協議 | 8 事業化シナリオの方向性検討 |
| 9 研究開発の方向性検討 | 10 知的財産等の取り扱いに係る検討 | |
| 11 戦略的な標準化取得に向けた検討 | 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈） | |

13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で重要な項目）

その他記述欄 _____

<上記「やって欲しかったこと」で、「13 市場に関するアドバイス」を選択された方は、具体的な内容をご記載下さい。>

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 29年度 詳細中止調査票 (2, 4, 6年目)

【当該研究開発が中止・中断に至った経緯・要因等について伺います】

Q1. NEDO プロジェクト参加当初の計画において上市・製品化を目指していましたか。

- 1 はい 2 いいえ

Q2. Q1 で「1 はい」と回答した方に伺います。当該研究開発において、上市・製品化を狙っていた製品の市場や性質は、どのようなものでしたか。【複数回答可】

- 1 新規市場 (新たな市場を切り開くもの) 2 既存市場 (既に存在している市場に展開するもの)
3 ニッチ市場 (隙間市場に展開するもの) 4 他社製品に追随するもの
5 他社製品を引き離すもの 6 自社の既存製品を置き換えるもの
7 他社の既存製品のシェアを奪うもの 8 ソリューションを提供するもの
9 コスト削減や低価格化を実現させたもの 10 環境負荷を低減させるもの
11 その他

その他記述欄 _____

Q3. 当該研究開発において、中止・中断の方針を決定した最終的な意思決定者は誰ですか。

- 1 経営陣 (役員以上) 2 事業部門の長 3 研究部門の長 4 その他

その他記述欄 _____

Q4. 中止・中断が顕在化した時期はいつ頃からですか。

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q5. 中止・中断となってしまった要因や具体的な理由や経緯は何ですか。プロジェクト実施期間中から現在までを振り返ってお答えください。

<中止・中断の要因> 【複数回答可】

- 1 技術課題の克服が困難 (目標性能が未達成) 2 技術課題の克服が困難 (差別化技術が未達成)
3 コスト課題の克服が困難 4 顧客ニーズとの不一致 5 顧客サイドの工程変更
6 市場の変化・見込み違い 7 経営戦略の変化 8 法規制対応が未解決
9 実用化を目指す企業のサポートとして参加したため 10 社内キーパーソンの離脱
11 事業部門が取り組まなかったため 12 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向
13 その他

その他記述欄 _____

<具体的な理由や経緯>

記述欄 _____

Q6. 中止・中断は、何が出来ていればリカバリーすることが可能だったと思われますか。

記述欄 _____

Q7. 当該研究開発成果について、NEDO プロジェクト期間中及び終了後から現在まで、製品化段階もしくは上市段階に達したことはありますか。

- 1 はい 2 いいえ

【参考】製品化段階・上市段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q8. Q7 で「1 はい」を選択した場合、具体的な製品名、製品化時期及び活動の内容をお答え下さい。

記述欄 _____

Q9. Q7 で「1 はい」「2 いいえ」を選択した両者に伺います。NEDO プロジェクトで開発された成果（特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用、ノウハウ等の知的財産を含む）が、当初目指した技術分野以外で活用される等の波及効果はありましたか。

<波及効果の有無>

- 1 ある 2 ない

<波及効果の適用先> 【複数回答可】

- 1 既存製品への NEDO プロジェクト成果の組み込み
- 2 既存の生産プロセスにおける高効率化や低コスト化
- 3 品質管理 4 新規製品の開発 5 新規テーマの立ち上げ
- 6 社内で埋蔵されている未利用資源（休眠技術など）の活用
- 7 NEDO プロジェクトで取得した特許、実用新案、意匠、商標、回路配置利用の出願・保有による事業防衛
- 8 その他

その他記述欄 _____

<具体的な波及効果>

記述欄 _____

以下の質問項目は、より効果的な NEDO プロジェクトの業務運営改善を図ることを目的として、平成 23 年度に新設された項目でございます。その後、回答特性を分析しながら平成 24～29 年度に一部の質問項目の改編を行ってまいりました。

そこで、大変お手数をお掛けしますが、データ間の補正を行う為にも以下アンケートにも御協力を頂きますと幸いです。なお、貴社がプロジェクトに参加する直前・直後の状況に関する質問項目も含まれておりますので、わかる範囲でご回答頂ければと思います。よろしくお願い致します。

【プロジェクトに応募された時期の状況について伺います】

Q10. プロジェクトに参加した目的は、次のうちどれですか。

- 1 情報収集（技術の可能性確認） 2 技術・ノウハウの獲得 3 実用化の可能性の見極め
4 終了後 10 年以内の上市・製品化 5 終了後 5 年以内の上市・製品化 6 その他

その他記述欄 _____

Q11. プロジェクトにおいて貴社が担った役割はどれですか【複数回答可】

- 1 川上（材料など） 2 川中（部材・部品など） 3 川下（最終製品）
4 実用化を目指す企業のサポート（性能評価など） 5 標準化や知的基盤整備 6 その他

その他記述欄 _____

Q12. 最終的な貴社における研究開発の出口は次のうちどれですか。

- 1 プロセス開発 2 システム開発 3 材料開発 4 部材・部品開発
5 機械装置開発 6 分析・評価 7 特に限定していない 8 その他

その他記述欄 _____

Q13. プロジェクト参加の経緯は、次のうちどれでしたか。

- 1 経営層の指示（トップダウン）によりプロジェクトに参加した
2 外部(大学、経済産業省、他)からの勧めによりプロジェクトに参加した
3 研究者からの提案（ボトムアップ）によりプロジェクトに参加した

Q14. 当該プロジェクトの開始時点及び終了時点における、貴社の本プロジェクトに係る主体はどちらの部門ですか。最もあてはまるものをご回答ください。

<開始時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

<終了時点>

- 1 研究開発部門 2 事業部門

Q15. 当該プロジェクトの開始時点における、貴社の研究開発成果の段階は、次のうちどれですか。

- 1 研究段階 (基礎的・要素的な基礎探索段階。)
- 2 開発段階 (開発用サンプルの作製。実用化に向けた課題を把握。応用開発段階。)
- 3 製品化段階 (顧客評価(認定用)サンプルの作製。量産化技術の確立。工業化開発段階。)
- 4 上市段階 (カタログ掲載など市場での取引を開始。工場での運転を開始。)
- 5 中止 (社内での研究開発活動は停止され、それ以上の開発は行われない。)
- 6 中断 (社内での研究開発活動は一時的に停止しているが、将来再開する可能性がある。)
- 7 未着手

*1) ユーザーニーズを把握するためのサンプル

*2) 顧客が製品を導入するための判断材料となるサンプル

【参考】研究開発段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
研究段階	基礎的/要素的な研究(現象の新規性や性能の進歩性等について把握)。	社内レポート、特許、論文等。
開発段階	製品化/上市を視野に入れた開発(開発用サンプルを作成し、ユーザーへのマーケティング調査を行うとともに技術やコストの優位性および量産化技術等の課題を把握)。	製品化/上市の判断材料となる結果等。
製品化段階	製品化、量産化技術の確立(製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等)。	顧客評価(認定用)サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化(カタログ掲載)、継続的な売上発生等。

Q16. 貴社の開発・事業に係る戦略における当該プロジェクトの位置付けは、次のうちどちらでしたか。

<貴社事業との関係>

- 1 現有事業の延長(生産技術、品質改良、コスト改良、新グレード開発、グレードアップ 他)
- 2 現有事業の周辺(生産技術や評価技術、商流、人材などの経営資源の活用が可能)で会社として新規な市場への参入
- 3 現有事業とは全く異なる新規な市場への参入
- 4 世界的に価値が未確定の新規技術・製品の開発

<貴社戦略(経営戦略、事業戦略)との関係>

- 1 貴社の戦略上、不可欠と判断された技術開発
- 2 貴社の戦略上、重要と判断された技術開発
- 3 貴社の戦略上、特に重要とは判断されていなかった技術開発
- 4 貴社の戦略上、ほとんど注目されていなかった技術開発
- 5 貴社の戦略上、不必要と判断されていた技術開発

Q17. 貴社から NEDO プロジェクトに参加した研究員は、社内でどのように選出されましたか。【複数回答可】

- 1 経営層による指名
- 2 事業部門による指名
- 3 研究部門長による指名
- 4 研究リーダーによる指名
- 5 社内公募などに基づく自主的参加
- 6 社内の開発チームがそのまま参加したため特に選出はない
- 7 その他

その他記述欄 _____

Q18. 当該プロジェクトに参加された際の技術シーズは、どのように開発されたものですか【複数回答可】

- 1 自社費用にて開発した
- 2 過去の NEDO プロジェクトで開発した
- 3 文部科学省プロジェクトにて開発した
- 4 大学・研究機関等の共同研究費にて開発した
- 5 当該 NEDO プロジェクト実施期間中に初めて開発した
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q19. プロジェクト参加時に、下記の項目に対する期待度はどれくらいでしたか。

	100%~	80%~	60%~	40%~	20%~
		~	~	~	
<技術課題の克服>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<コスト課題の克服>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との連携による有用技術の獲得(キャッチアップ)>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<異分野、異業種、他機関との連携/融合によるシナジー効果>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<技術開発・製品開発のスピードアップ>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<他機関との人的・組織的ネットワークの形成>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発リスクの分散・回避>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<研究開発資金の確保>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<人材育成(研究者の質的向上)>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社内でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<社外でのプレゼンス向上>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【プロジェクト期間中の活動について伺います】

Q20. 当該プロジェクト実施期間中に要した研究開発費（自己負担分も含む総額）のうち、NEDO から供給された資金の占める割合はどの程度でしたか。

- 1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q21. 当該プロジェクトに対する、関与のタイミングについて伺います。

<経営層の関与>

- 1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応 3 開発成果が見え始めてから
4 実用化の可能性が見え始めてから 5 ほとんど関与していない

<事業部門（新規事業開発部門含む）の関与>

- 1 提案時から密接に対応 2 採択直後から対応 3 開発成果が見え始めてから
4 実用化の可能性が見え始めてから 5 ほとんど関与していない

Q22. 貴社の開発成果の受け手となる想定ユーザー・顧客は、当該 NEDO プロジェクトにどのように関与していましたか。【複数回答可】

1 全く関与していなかった
2 NEDO プロジェクトには関与していないが、NEDO プロジェクト開始前から自社と取引関係にあった。

- 3 NEDO プロジェクト実施体制に参加
4 NEDO プロジェクト内部に設置された有識者委員会（アドバイザリーボード、ユーザー委員会等）に有識者として参加
5 NEDO が設置した採択審査委員会に審査委員として参加
6 NEDO が設置した技術推進委員会に委員として参加
7 NEDO が設置した中間・事後評価分科会に評価委員として参加
8 NEDO プロジェクト実施期間中にサンプル提供を実施し評価頂いた
9 NEDO プロジェクト実施期間中にマッチング会を開催し参加頂いた
10 その他

その他記述欄

Q23. 当該プロジェクトの成果を生かす製品化・上市の事業化シナリオ検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

<事業化シナリオの検討内容> 【複数回答可】

- 1 企業戦略との整合性 2 技術の発展性 3 市場の魅力度のチェック 4 目標仕様の確定
5 市場性テストのスケジュール策定 6 事業トライアルのための製品化レベルの確定

- 7 事業開始時の販売先の特定 8 事業化後の技術レベル向上のスケジュール策定
9 採算性評価 10 その他

その他の記述欄 _____

Q24. コスト目標の設定を行ったタイミング（見直し含む）は次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 設定していない

<上記で「6 検討していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q25. リスク検討について伺います。

<検討したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 検討していない

<リスク検討の内容は何でしたか> 【複数回答可】

- 1 研究開発リスク 2 製品リスク（原料等の調達先確保、市場優位性など）
3 自然災害リスク 4 カントリーリスク（輸出入先など対象国の政治・法律などの変化）
5 経営リスク（買収・事業継承など） 6 法務リスク（規格・規制変更、関連法令等の改廃など）
7 市場動向の変化 8 その他

その他の記述欄 _____

<実際に発生したリスクは何ですか> 【複数回答可】

- 1 予定していた技術課題の解決が未達成 2 他機関からの技術獲得が不調
3 予想外の課題が発生 4 原料調達が困難 5 自然災害 6 カントリーリスク
7 経営方針の転換 8 法令、規制の壁 9 競合他社の出現 10 市場価格の下落
11 景気変動 12 対象市場規模の縮小 13 ユーザーニーズの変化
14 ユーザーニーズが存在しなかった 15 キーパーソンの離脱
16 リスクは発生しなかった 17 その他

その他の記述欄 _____

Q26. 調査の状況について伺います。

Q26-1. 競争力のポジショニング調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q26-2. 市場動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q26-3. 特許動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

Q26-4. 論文、雑誌、業界紙他による技術動向調査を実施しましたか。

<実施したタイミング（見直し含む）> 【複数回答可】

1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後 6 実施していない

<上記で「6 実施していない」を選択された方は、その理由を教えてください。>

記述欄 _____

【プロジェクト実施の効果に関連して伺います】

Q27. 当該プロジェクトで設定した目標値に対する達成度は何点になりますか。

1 100点～ 2 80点～ 3 60点～ 4 40点～ 5 20点～

Q28. 実用化（製品化・上市段階）までの達成度（実用化に向けた進捗率）は何%程度ですか。残された課題（品質、生産技術、コスト、特許、市場競争力 他）を考慮してお選びください。

1 100%～ 2 80%～ 3 60%～ 4 40%～ 5 20%～

Q29. 目標値の達成度と実用化目標の達成度との点差の理由は、次のうちどれですか。【複数回答可】

1 技術的課題 2 コスト的課題 4 組織的問題 4 時間的問題 5 法律・規制の問題
6 社会受容性の問題

Q30. 下記項目の達成度を伺います。

Q30-1-1. 技術課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q30-1-2. 技術課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア
- 2 メカニズムの解明
- 3 連携先からのアイデア
- 4 連携先の先端技術
- 5 新規設備の導入
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q30-2-1. コスト課題の克服についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q30-2-2. コスト課題の克服に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 キー技術の進展
- 2 製造プロセスの改良・変更
- 3 量産化技術の構築
- 4 新規機能の付与
- 5 市場の拡大
- 6 連携先からの技術提供
- 7 その他

その他記述欄 _____

Q30-3. 他機関との連携による有用技術の獲得 (キャッチアップ) についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q30-4. 異分野、異業種、他機関との連携・融合によるシナジー効果についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q30-5-1. 技術開発・製品開発のスピードアップについての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q30-5-2. 技術開発・製品開発のスピードアップに寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 新規アイデア
- 2 分析・評価技術・解析技術
- 3 メカニズムの解明
- 4 連携先の先端技術
- 5 NEDO 加速資金の獲得
- 6 新規設備の導入
- 7 その他

その他記述欄 _____

Q30-6. 他機関との人的・組織的ネットワークの形成についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q30-7. 研究開発リスクの分散・回避についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q30-8. 社内における研究開発資金の確保についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q30-9. 人材育成（研究者の質的向上）についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q30-10-1. 社内でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上（遥かに期待を上回った）
- 2 120 点（期待を上回った）
- 3 100 点（当初の期待通り）
- 4 70 点（期待を下回った）
- 5 40 点以下（遥かに期待を下回った）

Q30-10-2. 社内でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上
- 2 プロジェクト参加企業との連携
- 3 プロジェクトを通じた学（公的研究機関を含む）との連携
- 4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
- 5 対外発表（学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表）
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q30-11-1. 社外でのプレゼンス向上についての達成度はどの程度でしたか

- 1 150 点以上 (遥かに期待を上回った)
- 2 120 点 (期待を上回った)
- 3 100 点 (当初の期待通り)
- 4 70 点 (期待を下回った)
- 5 40 点以下 (遥かに期待を下回った)

Q30-11-2. 社外でのプレゼンス向上に寄与した要因は何ですか【複数回答可】

- 1 技術力の向上
- 2 プロジェクト参加企業との連携
- 3 プロジェクトを通じた学 (公的研究機関を含む) との連携
- 4 プロジェクトを通じたユーザー企業との連携
- 5 対外発表 (学会発表、新聞・テレビ等のマスコミ発表、展示会等での展示・発表)
- 6 その他

その他記述欄 _____

Q31. プロジェクト実施期間中に取得できた実験データについて伺います。

Q31-1. プロジェクト参加時には、どのような種類の実験データ取得を目的としましたか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る
- 2 機能発現に関するメカニズムの解明
- 3 品質 (性能・機能) の向上
- 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
- 5 コスト課題の解決
- 6 安全性の検証
- 7 再現性の検証
- 8 その他

その他記述欄 _____

Q31-2. 実際に取得できた実験データの量は、通常の企業における研究開発活動と比較するとどの程度でしたか

- 1 非常に多くのデータを取得できた
- 2 多くのデータを取得できた
- 3 通常の企業活動と同程度のデータを取得できた
- 4 少なめのデータしか取得できなかった

Q31-3. 上記で回答頂いた、実際に取得できた実験データの種類は次のうちどれですか【複数回答可】

- 1 技術の可能性を探る
- 2 機能発現に関するメカニズムの解明
- 3 品質 (性能・機能) の向上
- 4 スケールアップに必要な設計基礎データ
- 5 コスト課題の解決
- 6 安全性の検証
- 7 再現性の検証
- 8 その他

その他記述欄 _____

Q31-4. プロジェクトに参加している他機関との間でやり取りされた情報量 (実験データ・結果) はどの程度でしたか

- 1 非常に多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした
- 2 多くの情報（実験データ・結果）をやり取りした
- 3 情報（実験データ・結果）のやり取りはあったが、情報量は少なかった
- 4 単独で情報（実験データ・結果）を取得した

Q32. 下記項目について、プロジェクト開始時と終了後とを比較してお答え下さい。

<R&Dの規模（予算や人員）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－I（プロジェクトで目指した技術分野）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した

<上市・製品化の可能性－II（プロジェクトで目指した技術分野以外への応用展開）>

- 1 拡大した
- 2 やや拡大した
- 3 変化なし
- 4 やや縮小した
- 5 縮小した。

<競争力ポジション（技術・コスト・特許・市場等を総合的に判断したポジション）>

- 1 上がった
- 2 変わらない
- 3 下がった
- 4 不明

不明の理由 _____

<世界における現在の競争力ポジション>

- 1 世界で1位
- 2 世界で2～3位
- 3 世界で4～10位
- 4 世界で11位以下
- 5 不明

不明の理由 _____

<国内における現在の競争力ポジション>

- 1 日本で1位
- 2 日本で2～3位
- 3 日本で4～10位
- 4 日本で11位以下
- 5 不明

不明の理由 _____

Q33. プロジェクト終了時点で想定されていた上市・製品化の時期はいつ頃でしたでしょうか。

- 1 3年以内
- 2 3～5年
- 3 5～10年
- 4 10年以上
- 5 予定は立っていない

【プロジェクトのマネジメントについて伺います】

Q34. 当該プロジェクトにおける、参加機関間での知的財産及び秘密情報等の取扱いについて伺います。

<ルール策定や検討の有無>

- 1 取扱いに係るルール等があった。（協議による合意、あるいは、リーダー等からの指示のいずれかを問わず）

- 2 一般的なルールはなく、個別に対応した。
- 3 規則の必要性すら検討されなかった。

<知的財産等の取り扱い内容>【複数回答可】

- 1 バックグラウンド IP (プロジェクトに参加する前から保有していた特許) の取り扱い
- 2 フォアグラウンド IP (プロジェクトの成果により得られた特許) の取り扱い
- 3 研究ノートの方法 4 発明 (ノウハウも含む) 等の報告方法 5 権利者の決定方法
- 6 第三者に対する知的財産の実施許諾方法 7 秘密保持契約
- 8 知財規程の整備や知財委員会の設置 9 外部有識者の参加 10 その他

その他記述欄 _____

<検討したタイミング (見直し含む) >【複数回答可】

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q35. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマについて伺います。

Q35-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由 _____

Q35-2. プロジェクト期間中にテーマの見直しを行ったタイミングは次のうちどれですか。

- 1 前半 2 中盤 3 後半 4 見直しは行っていない

Q36. 当該プロジェクトにおける貴社の研究テーマの目標値について伺います。

Q36-1. 貴社の実用化目的に照らして適切でしたか。

- 1 最適であった 2 適切であった 3 不適切であった (ズレていた)

不適切であった理由 _____

Q36-2. プロジェクト期間中に目標値の見直しを行ったタイミングは次のうちどれですか。

- 1 前半 2 中盤 3 後半 4 見直しは行っていない

Q37. 当該プロジェクトにおける貴社の役割分担は明確でしたか。

- 1 明確であった 2 ある程度は明確であった 3 不明確であった

Q38. 下記の項目について、重要な役割を果たしたのは誰でしたか。

<研究開発の方針決定>【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
- 2 社内のリーダーやキーパーソン
- 3 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
- 4 NEDO 担当者 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

< 参画機関間の意見調整 > 【複数回答可】

- 1 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）
- 2 社内のリーダーやキーパーソン
- 3 外部有識者（プロジェクト運営委員会や技術委員会等も含む）
- 4 NEDO 担当者 5 管理法人の担当者 6 存在しなかった

< 研究開発の工程管理や推進 > 【複数回答可】

- 1 自ら自律的に管理した
- 2 プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー）が管理した
- 3 社内のリーダーやキーパーソン 4 NEDO 担当者
- 5 管理法人の担当者 6 進捗管理は行われなかった

< 進捗管理の具体的な方法（評価ツール・指標等）があった場合は、以下に具体的な方法をご記述下さい >

Q39. 当該 NEDO プロジェクト期間中における下記関係者との協議等の頻度について伺います。

	週 1 回以上	月 1 回以上	3ヶ月に1回以上	半年に1回以上	1年に1回以上	ほとんど無し
< 当該プロジェクトで連携していた他機関 >	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
< プロジェクトリーダー（含むサブリーダー、テーマリーダー） >	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
< 社内の他研究部門 >	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
< 社内の事業部門 >	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
< 顧客 >	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
< 経営層 >	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q40. プロジェクト実施期間中の所属するプロジェクトグループの士気（情熱・意欲・積極性など）はどの程度でしたか。通常の社内プロジェクトと比較してお答えください。

- 1 非常に士気が高かった
- 2 士気は高かった
- 3 やや士気は低かった
- 4 士気は低かった

< 上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、その要因について当てはまるものをお答え下さい > 【複数選択可】

- 1 プロジェクト開始前から既知の関係であったため

- 2 各研究員の目的意識が明確であったため
- 3 プロジェクト（グループ）リーダーによる働きかけ
- 4 NEDO 担当者による働きかけ
- 5 成果が出てきたため
- 6 外部（委員会、プレス発表等）からの評価
- 7 その他

その他記述欄 _____

<上記で「1 非常に士気が高かった」「2 士気は高かった」を選択した方は、どのような創発効果が得られたかお答え下さい> 【複数選択可】

- 1 新たな研究課題、活動につながった
- 2 外部の研究集会への自発的な参加が増えた
- 3 文献などの情報収集活動が増えた
- 4 グループ内提案が増えた
- 5 その他

その他記述欄 _____

<上記で「3 やや士気は低かった」「4 士気は低かった」を選択した方は、その理由についてご記述下さい>

記述欄 _____

【NEDO 担当者のマネジメントについて伺います】

Q41. NEDO 担当者のマネジメントに対する満足度はどれくらいでしたか。

- 1 100 点
- 2 80 点
- 3 60 点
- 4 40 点
- 5 20 点以下

具体的な理由 _____

Q42. NEDO 担当者との打合せ頻度はどの程度でしたか。

- 1 週 1 回以上
- 2 月 1 回以上
- 3 3 ヶ月に 1 回以上
- 4 半年に 1 回以上
- 5 1 年に 1 回以上
- 6 ほとんど無し

Q43. NEDO 担当者との協議について、普段どのような協議をされておりましたか。また、何をやって欲しかったですか。

<普段の協議内容> 【複数回答可】

- 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等）
- 2 予算要求・予算配分の折衝
- 3 中間・事後評価に係る対応
- 4 資産処分に係る対応
- 5 各種提出書類に係る対応
- 6 他機関との利害調整
- 7 法規制に係る協議
- 8 事業化シナリオの方向性検討
- 9 研究開発の方向性検討
- 10 知的財産等の取り扱いに係る検討
- 11 戦略的な標準化取得に向けた検討
- 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈）

13 市場に関するアドバイス 14 宣伝・広報 15 その他（上記以外で主要な項目）

その他記述欄 _____

<上記、協議のうち、特に有益であった事項について具体的にご記載ください。>

記述欄 _____

<やって欲しかったこと> 【複数回答可】

- | | | |
|----------------------|------------------------|--------------------|
| 1 契約手続き（実施計画書の内容精査等） | 2 予算要求・予算配分の折衝 | |
| 3 中間・事後評価に係る対応 | 4 資産処分に係る対応 | 5 各種提出書類に係る対応 |
| 6 他機関との利害調整 | 7 法規制に係る協議 | 8 事業化シナリオの方向性検討 |
| 9 研究開発の方向性検討 | 10 知的財産等の取り扱いに係る検討 | |
| 11 戦略的な標準化取得に向けた検討 | 12 技術的なアドバイス（データ解析・解釈） | |
| 13 市場に関するアドバイス | 14 宣伝・広報 | 15 その他（上記以外で重要な項目） |

その他記述欄 _____

【NEDO からのお知らせ】

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画

「NEDO プロジェクト実用化ドキュメント」

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

おかげさまで、9年目を迎えることができました。今年も、様々な分野の開発ストーリーをドキュメントしていきますので、是非、ご覧下さい。

また、NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について取り纏めた

「NEDO インサイド製品 2017 ～身近なところに NEDO 技術～」

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

も公開しておりますので、是非、ご覧ください。

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

平成 30 年度 詳細中止調査票（プロジェクト（終了直後企業）・及び制度）

【当該研究開発が中止・中断に至った経緯・要因等について伺います】

Q1. NEDO プロジェクト参加当初の計画において上市・製品化を目指していましたか。

- 1 はい 2 いいえ

Q2. 当該研究開発において、中止・中断の方針を決定した最終的な意思決定者は誰ですか。

- 1 経営陣（役員以上） 2 事業部門の長 3 研究部門の長 4 その他

その他記述欄 _____

Q3. 中止・中断が顕在化した時期はいつ頃からですか。

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q4. 中止・中断となってしまった要因や具体的な理由や経緯は何ですか。プロジェクト実施期間中から現在までを振り返ってお答えください。

<中止・中断の要因> 【複数回答可】

- 1 技術課題の克服が困難（目標性能が未達成） 2 技術課題の克服が困難（差別化技術が未達成）
3 コスト課題の克服が困難 4 顧客ニーズとの不一致 5 顧客サイドの工程変更
6 市場の変化・見込み違い 7 経営戦略の変化 8 法規制対応が未解決
9 実用化を目指す企業のサポートとして参加したため 10 社内キーパーソンの離脱
11 事業部門が取り組まなかったため 12 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向
13 その他

その他記述欄 _____

<具体的な理由や経緯>

記述欄 _____

Q5. 中止・中断は、何が出来ていればリカバリーすることが可能だったと思われますか。

記述欄 _____

Q6. 当該研究開発成果について、NEDO プロジェクト期間中及び終了後から現在まで、製品化段階もしくは上市段階に達したことはありますか。

- 1 はい 2 いいえ

【参考】製品化段階・上市段階のイメージ

<活動の内容>

<アウトプットイメージ>

製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q7. Q6で「1 はい」を選択した場合、具体的な製品名、製品化時期及び活動の内容をお答え下さい。
記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント（100 事例掲載）

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧ください。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品（115 製品登録）

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2018」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html

2019年度 詳細中止調査票（制度）

【当該研究開発が中止・中断に至った経緯・要因等について伺います】

Q1. NEDO プロジェクト参加当初の計画において上市・製品化を目指していましたか。

- 1 はい 2 いいえ

Q2. 当該研究開発において、中止・中断の方針を決定した最終的な意思決定者は誰ですか。

- 1 経営陣（役員以上） 2 事業部門の長 3 研究部門の長 4 その他

その他記述欄 _____

Q3. 中止・中断が顕在化した時期はいつ頃からですか。

- 1 提案前 2 採択直後 3 中盤 4 後半 5 終了後

Q4. 中止・中断となってしまった要因や具体的な理由や経緯は何ですか。プロジェクト実施期間中から現在までを振り返ってお答えください。

<中止・中断の要因> 【複数回答可】

- 1 技術課題の克服が困難（目標性能が未達成）
- 2 技術課題の克服が困難（差別化技術が未達成）
- 3 コスト課題の克服が困難
- 4 顧客ニーズとの不一致
- 5 顧客サイドの工程変更
- 6 市場の変化・見込み違い
- 7 経営戦略の変化
- 8 法規制対応が未解決
- 9 実用化を目指す企業のサポートとして参加したため
- 10 社内キーパーソンの離脱
- 11 事業部門が取り組まなかったため
- 12 NEDO プロジェクトでの共同研究先の意向
- 13 その他

その他記述欄 _____

<具体的な理由や経緯>

記述欄 _____

Q5. 中止・中断は、何が出来ていればリカバリーすることが可能だったと思われますか。

記述欄 _____

Q6. 当該研究開発成果について、NEDO プロジェクト期間中及び終了後から現在まで、製品化段階もしくは上市段階に達したことはありますか。

- 1 はい 2 いいえ

【参考】製品化段階・上市段階のイメージ

	<活動の内容>	<アウトプットイメージ>
製品化段階	製品化、量産化技術の確立（製品化への社内承認、試作機の製造、所管省庁/監督団体による販売承認/検査、製品を市場に投入するための設備投資の実施等）。	顧客評価（認定用）サンプルの作成や量産試作の実施、製造ライン設置、原価計算等。
上市段階	市場での取引。	製品ラインアップ化（カタログ掲載）、継続的な売上発生等。

Q7. Q6で「1 はい」を選択した場合、具体的な製品名、製品化時期及び活動の内容をお答え下さい。

記述欄 _____

以上、ご協力、誠にありがとうございました。

【NEDO からのお知らせ】

●メール配信サービス

NEDO ホームページに掲載された最新の情報（ニュースリリース、公募情報、イベント開催情報等）を、電子メールにて送付するサービス（毎日更新）です。

初めての利用にあたっては、下記 URL より配信を希望するメールアドレスの登録をお願いします。

<http://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

●研究開発型ベンチャー・中小企業向け支援メニュー

ベンチャー、中小・中堅企業向けのテーマ公募型事業の紹介や、「事業会社と研究開発型ベンチャー企業の連携のための手引き（初版）」を紹介したページです。

http://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100063.html?from=key

●マッチング スペース

ベンチャー、中小・中堅企業向け支援メニューの1つとして、NEDO 成果を活用した製品開発・技術開発、成果物の販売、サンプル提供、技術提携等、幅広く企業等（ユーザー）との“マッチングの場”となることを目的としたコンテンツです。

<http://www.nedo.go.jp/library/matching/index.html>

●NEDO プロジェクト実用化ドキュメント（107 事例掲載）

追跡アンケート調査において、製品化段階もしくは上市段階に至った開発成果について、現在、どのような製品やサービスとなって活用されているか、開発現場を訪ねて紹介するシリーズ企画です。様々な

分野の開発ストーリーを掲載しておりますので、是非、ご覧下さい。

<http://www.nedo.go.jp/hyoukabu/index.html>

●NEDO インサイド製品（117 製品登録）

NEDO プロジェクト開発成果が社会にもたらす経済効果や社会的便益について「NEDO インサイド製品 2019」として取り纏めました。是非、ご覧ください。

http://www.nedo.go.jp/nedo_inside.html